

平成 29 年度  
市民意識調査結果報告書

平成 30 年 1 月





# 目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2
(1)	回答者属性	2
問 1	性別	2
問 2	年齢	2
問 3	居住地区	2
(2)	住みごこちや愛着等について	3
問 4	東近江市の住みごこちは	3
問 5	東近江市への愛着	5
問 6	東近江市を自慢できるか	7
問 7	東近江市の知名度アップへの取組	9
問 8	名神高速道路八日市 I C や J R 能登川駅名の変更	11
問 9	「鈴鹿 10 座」の認知度	13
(3)	健康や福祉について	15
問 10	かかりつけ医の有無	15
問 11	医療体制への満足度	17
問 12	健康づくりのために取り組んでいること	19
問 13	朝食を食べているか	26
問 14	運動の実施率	28
問 15	心配ごとや悩みの相談相手の有無	30
問 16	東近江市民の障害者に対する理解	32
問 17	障害者に対する理解に向けて今後特に力を入れるべきこと	34
(4)	環境や暮らしについて	37
問 18	市の自然環境保全への取組の満足度	37
問 19	自然環境との関わりの実感度	39
問 20	低炭素・資源循環型の取組の実践	41
問 21	ごみと資源の分別の実施	45
問 22	市内産木材の活用	47
問 23	「男は仕事、女は家事・育児」という考え方への共感度	51
問 24	消費生活センターの認知度	53
問 25	市民生活相談室の認知度	55
問 26	市内の公共交通への満足度	57
問 27	J R 琵琶湖線の利用頻度	59
問 28	近江鉄道について	65
問 29	近江鉄道の利用頻度	67
問 30	近江鉄道を利用する場合の希望	71

問 31	地域の災害に対する安全度	73
問 32	災害への備え	75
問 33	大規模な災害時の住民同士の助け合いについて	78
(5)	教育関連の取組について	81
問 34	通学路の安全確保について	81
問 35	人権が尊重されるまちになっているか	83
問 36	人権に関する講座等への参加	85
問 37	オレンジリボンの認知度	87
問 38	児童虐待の通報先	89
問 39	音楽・美術等や文学・歴史等の活動への参加	91
問 40	青少年健全育成の取組について	93
(6)	都市整備について	97
問 41	市内の都市基盤整備に対する満足度	97
(7)	購買状況等について	104
問 42	食品や日用雑貨、衣料品等の購入先	104
問 43	お米の主な購入先	109
問 44	野菜等を購入する際の基準	111
問 45	市内の農産物直売所の利用状況	114
(8)	協働のまちづくりについて	116
問 46	協働のまちづくりができていますか	116
問 47	地域での住民同士の助け合いができていますか	118
問 48	地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加状況	120
問 49	協働のまちづくりを進めるために必要なこと	127
(9)	広報等の情報について	129
問 50	「広報ひがしおうみ」を読んでいるか	129
問 51	「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度	135
問 52	市の情報（お知らせ）の取得方法	141
問 53	「東近江市議会だより」を読んでいるか	144
(10)	市役所のサービスに関して	146
問 54	市役所職員の対応の印象	146
(11)	まちづくりに対する意見等について	148
問 55	まちづくりに対する意見や提案（自由記述）	148
<b>3</b>	<b>総括</b>	<b>151</b>
<b>4</b>	<b>調査票</b>	<b>154</b>

# 1 調査の概要

## (1)調査の目的

東近江市では、平成28年度策定した「第2次東近江市総合計画」に基づき、「うるおいとにぎわいのまち東近江市」を目指してまちづくりを進めています。住みよいまちを実現するために、市民の意識や生活スタイルなど、まちづくりに関する意見を聞くことを目的に、市民意識調査を実施しました。

## (2)調査対象

平成29年8月1日現在、東近江市在住の満18歳以上の市民3,055人を対象としました。  
(住民基本台帳から無作為抽出)

## (3)調査期間

平成29年8月21日から平成29年9月4日まで

## (4)調査方法

郵送による配布・回収、無記名

## (5)回収状況

調査票の配布数3,055件に対し、宛先不明として返送されてきた調査票が11件あり、到達した配布数は3,044件でした。回収した調査票数1,418件に対し、白紙で無効の調査票数はなく、有効回収調査票数は1,418件、回収率は46.6%でした。

配 布			回 収			到達配布数に対する回収率
配布数	不到達数	到達配布数	回収調査票数	無効調査票数	有効回収調査票数	
3,055	11	3,044	1,418	0	1,418	46.6%

## (6)調査結果の表示方法

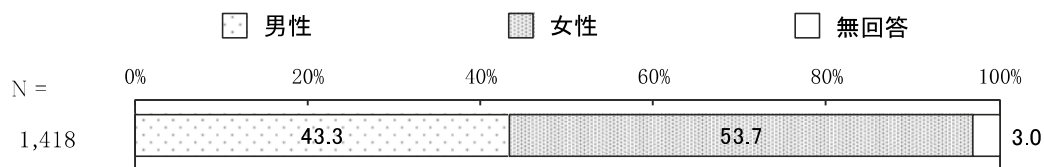
- ・ 回答は、各設問の有効回答数（N）を母数とした百分率（%）で示しています。また、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答の設問については、回答者が全体（N=1,418）に対してどのくらいの比率であるかという表記になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 調査結果を図表で表示していますが、グラフ以外の表（複数選択の設問）は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く。）  
なお、選択数を限定している設問は、選択数の分だけ次に多くあげられているものも薄く網かけしています。
- ・ 指定の回答数以上の回答や分岐設問等での誤った回答などは、すべて「無回答」として集計しています。
- ・ 性別や年代別、居住地区別の集計の場合、無回答を排除しているため、その有効回答数の合計と全体の有効回答数が合致しないことがあります。

## 2 調査結果

### (1) 回答者属性

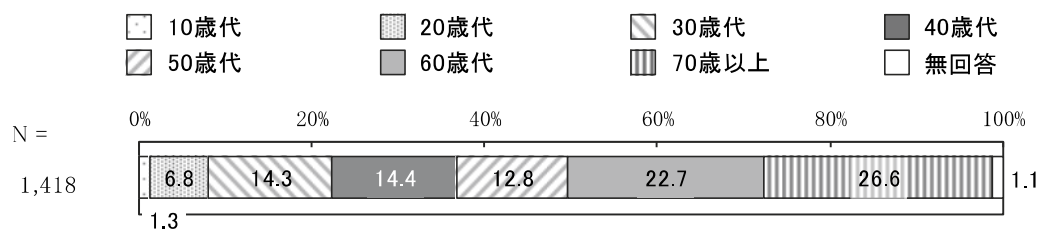
#### 問1 性別

- 「男性」が43.3%、「女性」が53.7%で、男女比は約2:3となっています。



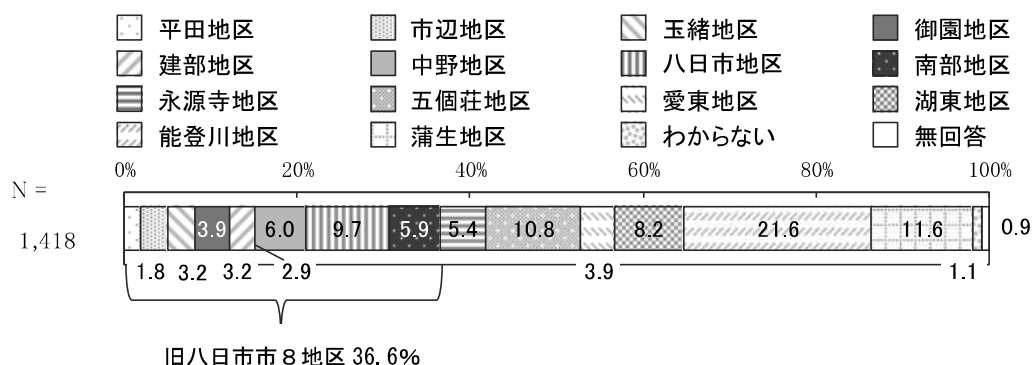
#### 問2 年齢

- 年齢については、「70歳以上」が26.6%と最も多く、次いで「60歳代」が22.7%、「40歳代」が14.4%、「30歳代」が14.3%の順となっています。
- 60歳以上が49.3%とほぼ半数を占めております。



#### 問3 居住地区

- 居住地区については、「能登川地区」が21.6%と最も多く、次いで「蒲生地区」が11.6%、「五個荘地区」が10.8%、「八日市地区」が9.7%となっています。
- また、旧八日市市の8地区を合計すると、36.6%となっています。

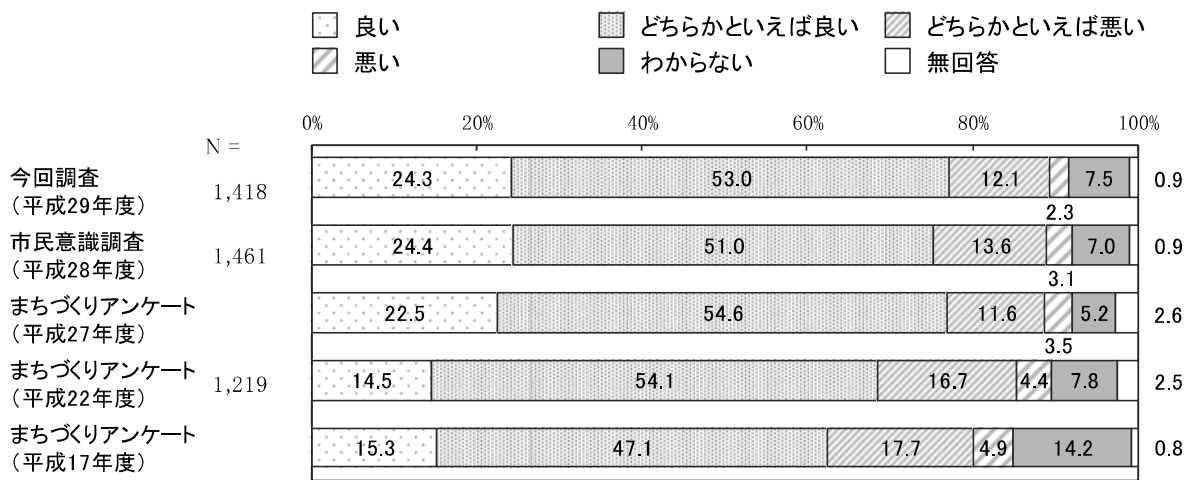


(2) 住みごこちや愛着等について

問4 あなたは、東近江市の住みごこちをどう思いますか。《○1つ》

**8割近くが住みごこちが良い**

- ・ 東近江市の住みごこちについては、「良い」が24.3%、「どちらかといえば良い」が53.0%で、これらを合わせると77.3%となり、8割近くの人が住みごこちが良いと感じています。一方、「どちらかといえば悪い」と「悪い」を合わせると14.4%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、住みごこちが良い（「良い」と「どちらかといえば良い」の合計）の割合は増加傾向を示しています。
- ・ 年代別では、10～20歳代と70歳以上で「良い」とする人が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、住みごこちが良い（前述）の割合が、建部地区、能登川地区、南部地区で高く、愛東地区、市辺地区、平田地区で低くなっています。



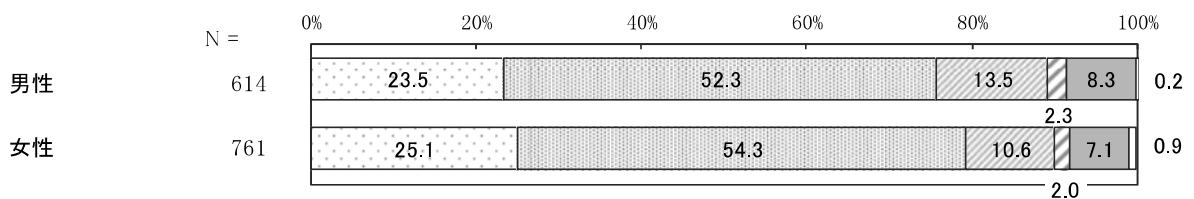
単位：%

	良い	悪い	差
①今回調査(平成29年度)	77.3	14.4	62.9
②市民意識調査(平成28年度)	75.4	16.7	58.7
③まちづくりアンケート(平成27年度)	77.1	15.1	62.0
④まちづくりアンケート(平成22年度)	68.6	21.1	47.5
⑤まちづくりアンケート(平成17年度)	62.4	22.6	39.8
①-⑤	14.9	-8.2	23.1

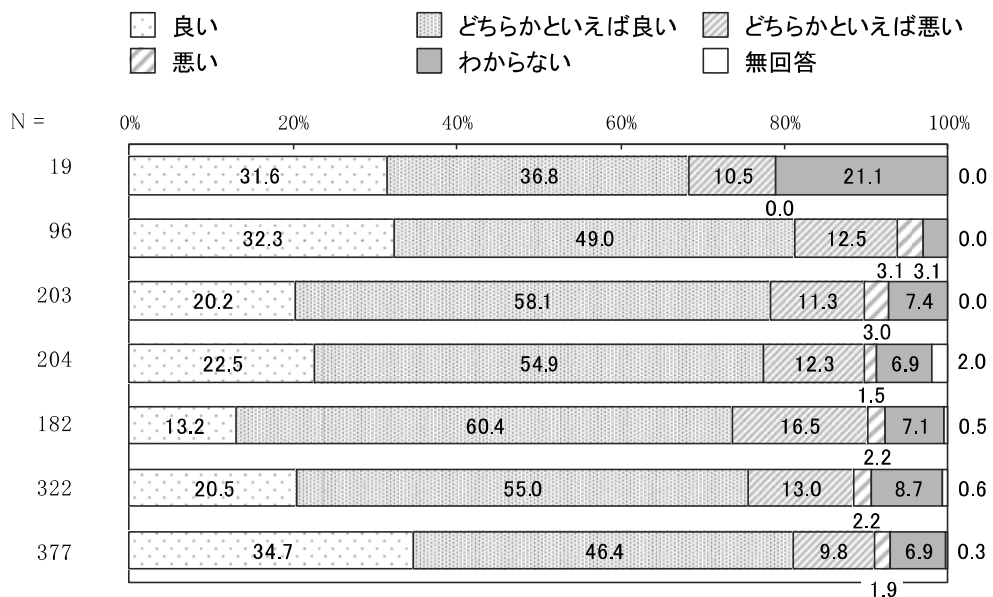
\* 良い:「良い」と「どちらかといえば良い」の合計

\* 悪い:「どちらかといえば悪い」と「悪い」の合計

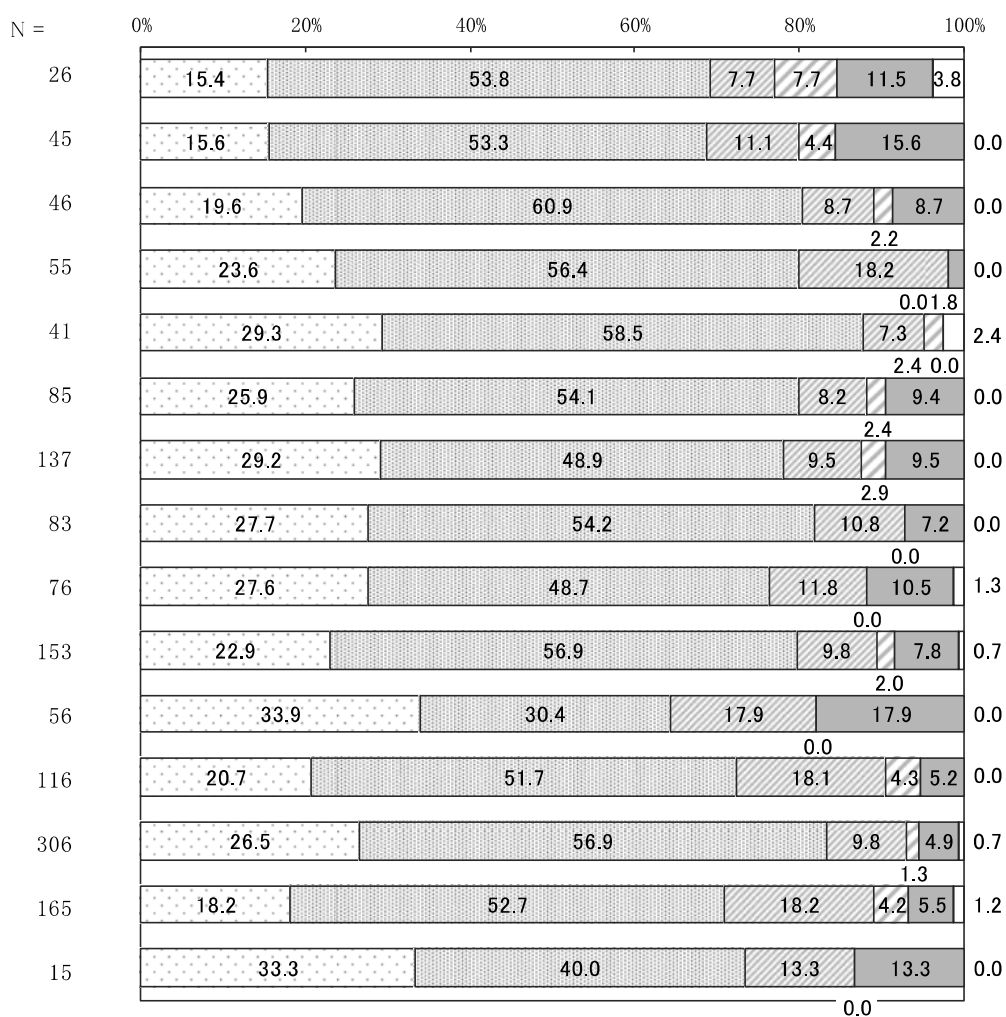
**【性別】**



【年代別】



【居住地区別】

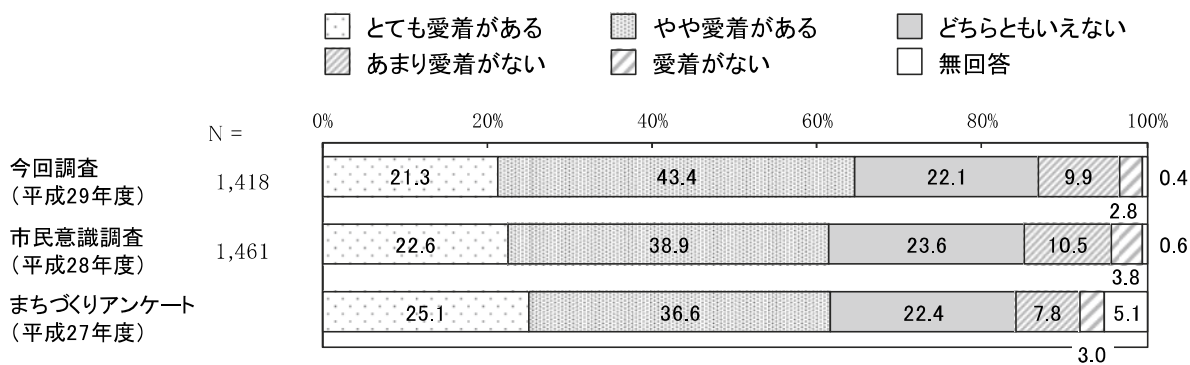




問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

6割が東近江市に対して愛着がある

- ・ 東近江市に対する愛着については、「とても愛着がある」が21.3%、「やや愛着がある」が43.4%で、これらを合わせると64.7%となり、6割の人が東近江市に何らかの愛着があると回答しています。一方、「あまり愛着がない」と「愛着がない」を合わせると12.7%となっています。また、「どちらともいえない」とする人も22.1%と2割います。
- ・ 過去の調査と比較すると、愛着がある（「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計）の割合は、増加傾向を示している一方、「とても愛着がある」の割合は減少傾向を示しています。
- ・ 年代別では、年齢があがるほど、東近江市に対して愛着がある（前述）の割合が高くなる傾向がみられます。また、10歳代だけが6割近くが「どちらともいえない」としています。
- ・ 居住地区別では、愛着がある（前述）の割合が、建部地区、能登川地区、南部地区で高く、愛東地区、市辺地区、平田地区で低くなっています。



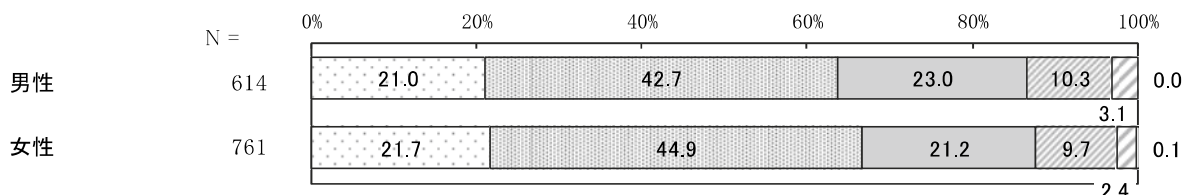
単位：%

	愛着がある	愛着がない	差
①今回調査(平成29年度)	64.7	12.7	52.0
②市民意識調査(平成28年度)	61.5	14.3	47.2
③まちづくりアンケート(平成27年度)	61.7	10.8	50.9
①-③	3.0	1.9	1.1

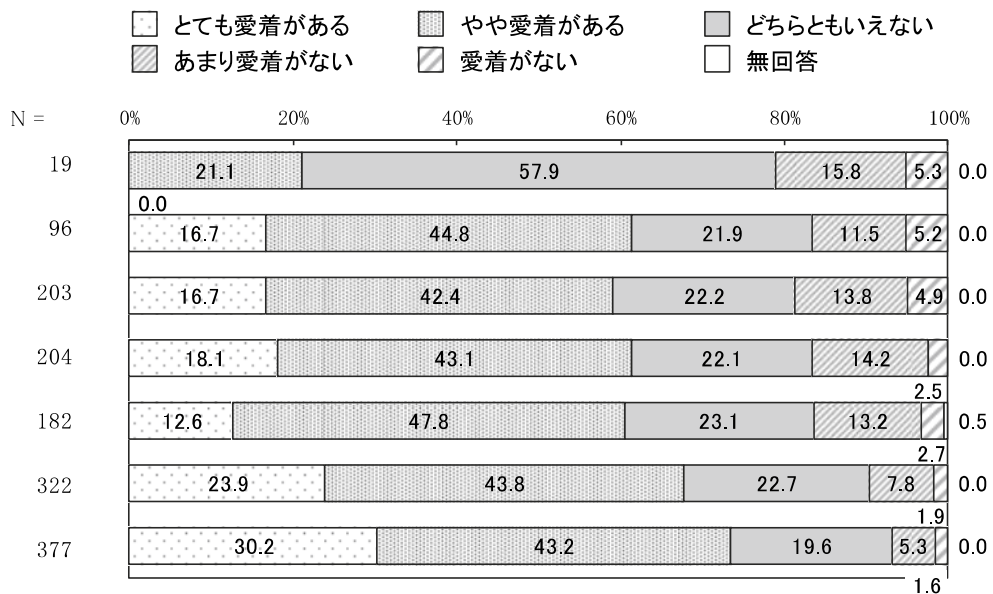
\* 愛着がある:「とても愛着がある」と「やや愛着がある」の合計

\* 愛着がない:「あまり愛着がない」と「愛着がない」の合計

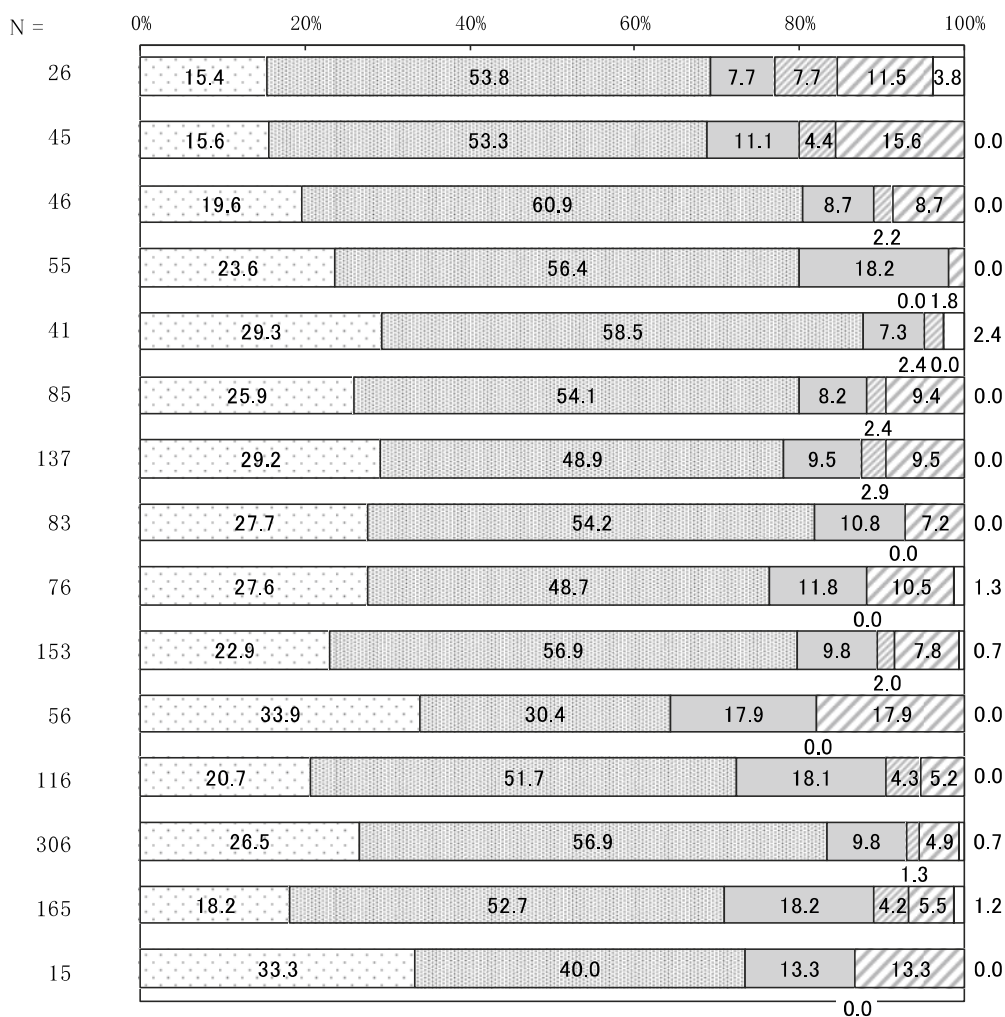
【性別】



【年代別】



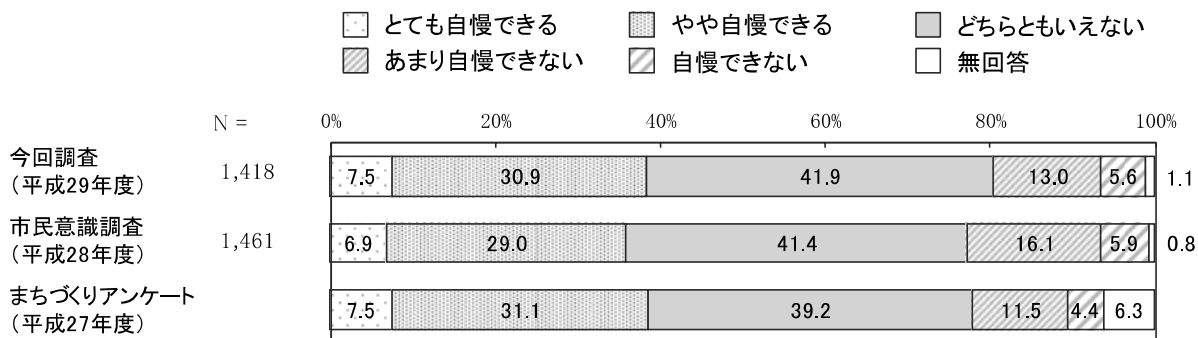
【居住地区別】



問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

**4割近くが自慢できる、4割が「どちらともいえない」**

- ・ 東近江市を自慢できるかについては、「どちらともいえない」が41.9%と最も多くなっています。また、「とても自慢できる」が7.5%、「やや自慢できる」が30.9%で、これらを合わせると38.4%となり、4割近くの人は何らか自慢できるとしています。一方、「あまり自慢できない」と「自慢できない」を合わせると18.6%となっています。
- ・ 過去の調査と比較すると、年度によって変動はありますが、平成28年度の調査より自慢できる（「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計）の割合が増加し、自慢できない（「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計）の割合が減少しており、評価はあがっています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では20歳代から年齢があがるほど、自慢できる（前述）の割合が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、自慢できる（前述）の割合が、建部地区、御園地区、永源寺地区で高く、平田地区で低くなっています。



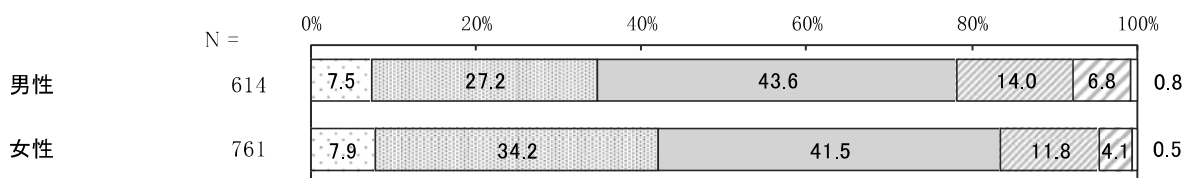
単位：%

	自慢できる	自慢できない	差
①今回調査(平成29年度)	38.4	18.6	19.8
②市民意識調査(平成28年度)	35.9	22.0	13.9
③まちづくりアンケート(平成27年度)	38.6	15.9	22.7
①-③	-0.2	2.7	-2.9

\* 自慢できる:「とても自慢できる」と「やや自慢できる」の合計

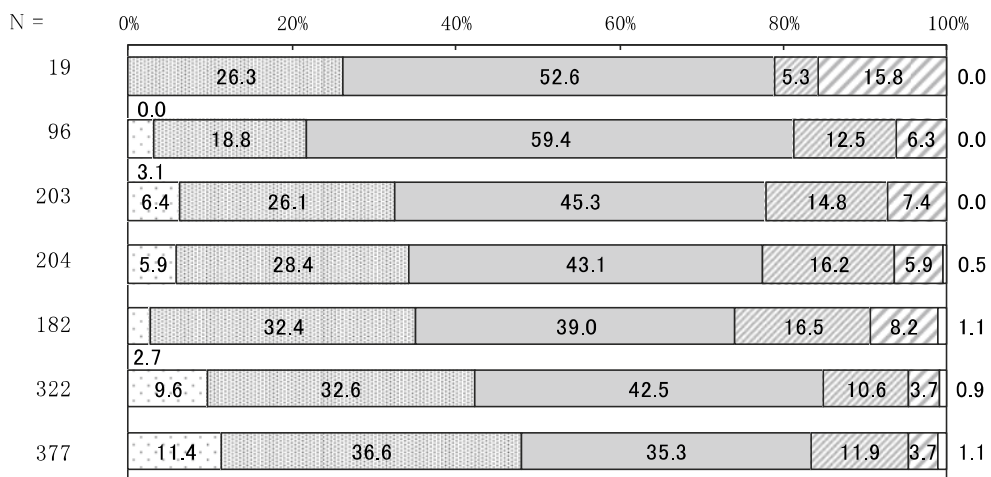
\* 自慢できない:「あまり自慢できない」と「自慢できない」の合計

**【性別】**

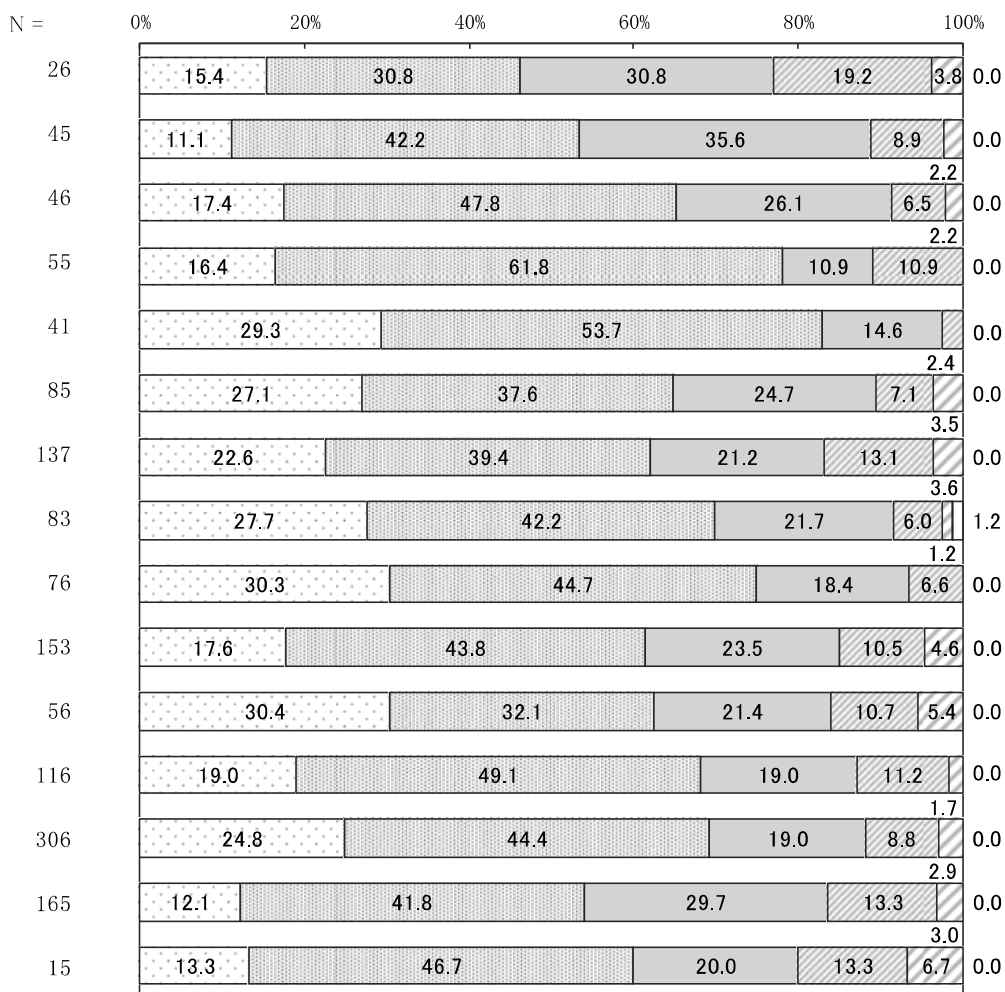


【年代別】

とても自慢できる
  やや自慢できる
  どちらともいえない  
 あまり自慢できない
  自慢できない
  無回答



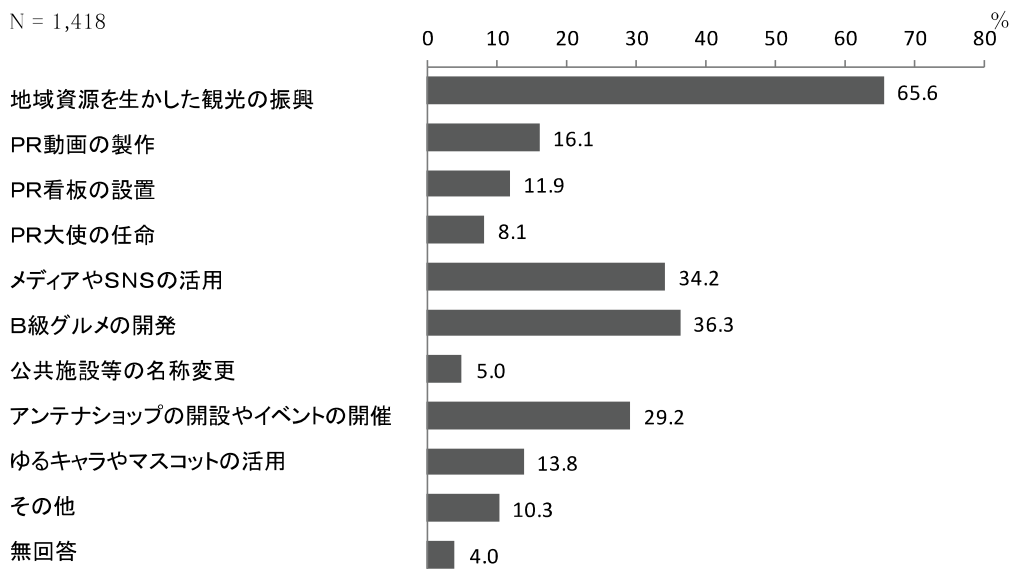
【居住地区別】



問7 東近江市では、合併から12年目を迎え、知名度アップに取り組んでいきたいと考えています。あなたは、どのような取組をすれば、東近江市の知名度がアップすると思いますか。《○3つ》

**知名度アップの取組としては「地域資源を生かした観光の振興」が第1位**

- ・ 東近江市の知名度アップの取組として3つあげてもらったところ、「地域資源を生かした観光の振興」が65.6%と最も多く、7割近くの方があげています。
- ・ 次いで「B級グルメの開発」(36.3%)、「メディアやSNSの活用」(34.2%)、「アンテナショップの開設やイベントの開催」(29.2%)が多くあげられています。
- ・ 年代別では、年齢があがるほど「地域資源を生かした観光の振興」をあげる人が多くみられます。また、「B級グルメの開発」は10～30歳代で、「メディアやSNSの活用」は10～20歳代で、「アンテナショップの開設やイベントの開催」は40歳代で、「ゆるキャラやマスコットの活用」は10～20歳代で多くあげられています。



**【性別】**

単位: %

区分	有効回答数(件)	地域資源を生かした観光の振興	PR動画の製作	PR看板の設置	PR大使の任命	メディアやSNSの活用	B級グルメの開発	公共施設等の名称変更	アンテナショップの開設やイベントの開催	ゆるキャラやマスコットの活用	その他	無回答
男性	614	64.0	15.8	10.6	10.4	35.3	37.5	5.7	29.6	13.2	13.0	2.6
女性	761	67.4	17.0	13.0	6.3	34.3	36.8	4.5	29.4	14.3	8.1	4.1

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	地域資源を生かした観光の振興	PR動画の製作	PR看板の設置	PR大使の任命	メディアやSNSの活用	B級グルメの開発	公共施設等の名称変更	設やイベントの開催	アンテナショップの開設	ゆるキャラやマスコットの活用	その他	無回答
10歳代	19	52.6	21.1	21.1	21.1	52.6	47.4	0.0	21.1	36.8	5.3	0.0	
20歳代	96	59.4	22.9	6.3	14.6	58.3	52.1	3.1	24.0	28.1	2.1	0.0	
30歳代	203	57.6	17.2	6.4	11.8	44.3	51.2	2.5	32.5	19.2	13.3	0.0	
40歳代	204	64.2	10.8	5.9	6.4	37.7	41.7	3.4	41.7	19.1	11.8	1.5	
50歳代	182	62.6	17.0	9.3	8.8	39.0	40.1	6.0	31.3	15.4	11.5	2.7	
60歳代	322	69.3	21.1	15.2	6.2	35.1	29.8	3.4	30.1	10.6	10.2	4.0	
70歳以上	377	72.1	12.5	17.5	6.4	18.0	25.2	9.0	21.8	5.8	9.3	8.0	

【居住地区別】

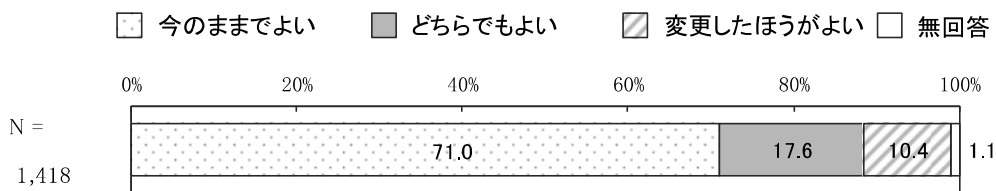
単位:%

区分	有効回答数(件)	地域資源を生かした観光の振興	PR動画の製作	PR看板の設置	PR大使の任命	メディアやSNSの活用	B級グルメの開発	公共施設等の名称変更	設やイベントの開催	アンテナショップの開設	ゆるキャラやマスコットの活用	その他	無回答
平田地区	26	53.8	11.5	11.5	11.5	26.9	42.3	3.8	30.8	11.5	11.5	7.7	
市辺地区	45	57.8	8.9	15.6	6.7	37.8	33.3	6.7	37.8	11.1	6.7	2.2	
玉緒地区	46	71.7	10.9	13.0	13.0	30.4	39.1	8.7	28.3	6.5	8.7	2.2	
御園地区	55	72.7	20.0	7.3	5.5	27.3	41.8	9.1	30.9	12.7	10.9	3.6	
建部地区	41	63.4	26.8	4.9	7.3	31.7	34.1	7.3	24.4	12.2	12.2	7.3	
中野地区	85	67.1	20.0	8.2	4.7	32.9	42.4	0.0	31.8	15.3	9.4	3.5	
八日市地区	137	62.8	13.1	9.5	4.4	35.8	38.7	5.1	32.1	15.3	13.9	2.9	
南部地区	83	63.9	18.1	13.3	9.6	33.7	38.6	7.2	25.3	16.9	9.6	3.6	
永源寺地区	76	73.7	15.8	19.7	7.9	32.9	35.5	6.6	23.7	11.8	5.3	1.3	
五箇荘地区	153	71.9	20.3	12.4	9.8	37.3	34.6	3.9	24.2	21.6	7.2	3.3	
愛東地区	56	66.1	17.9	16.1	3.6	42.9	30.4	0.0	26.8	5.4	12.5	3.6	
湖東地区	116	59.5	17.2	12.1	6.9	35.3	32.8	5.2	31.9	15.5	12.9	5.2	
能登川地区	306	67.3	16.3	12.7	11.1	35.6	36.3	4.2	29.7	12.1	10.5	3.3	
蒲生地区	165	64.8	13.3	10.3	6.7	31.5	35.2	7.3	32.1	12.7	10.3	3.6	
わからない	15	40.0	0.0	13.3	13.3	26.7	53.3	0.0	26.7	13.3	13.3	13.3	

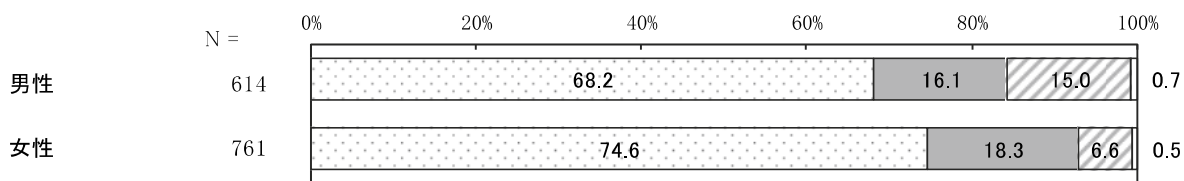
問8 東近江市の認知度アップを図る方法の1つとして、名神高速道路八日市インターチェンジやJR能登川駅等の名称を「東近江」に変更することについてどう思われますか。《○1つ》

**7割が「今のままでよい」**

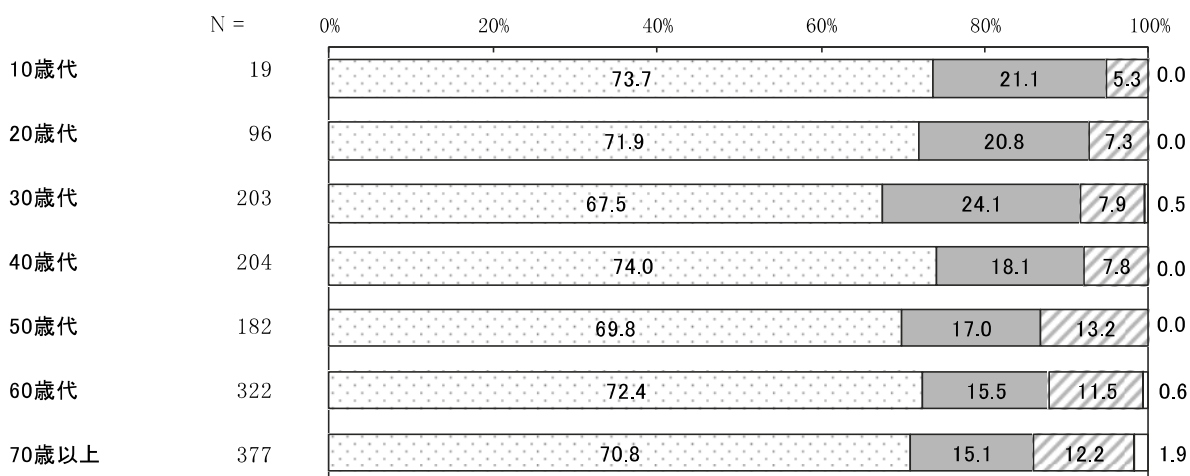
- ・ 名神高速道路八日市インターチェンジやJR能登川駅等の名称を「東近江」に変更することについては、「今のままでよい」が71.0%と、7割の人が変更しなくてよいと回答しています。一方、「変更したほうがよい」は10.4%で、「どちらでもよい」が17.6%となっています。
- ・ 性別では男性より女性が、居住地区別では御園地区、南部地区、能登川地区で、「今のままでよい」とする人が多くみられます。



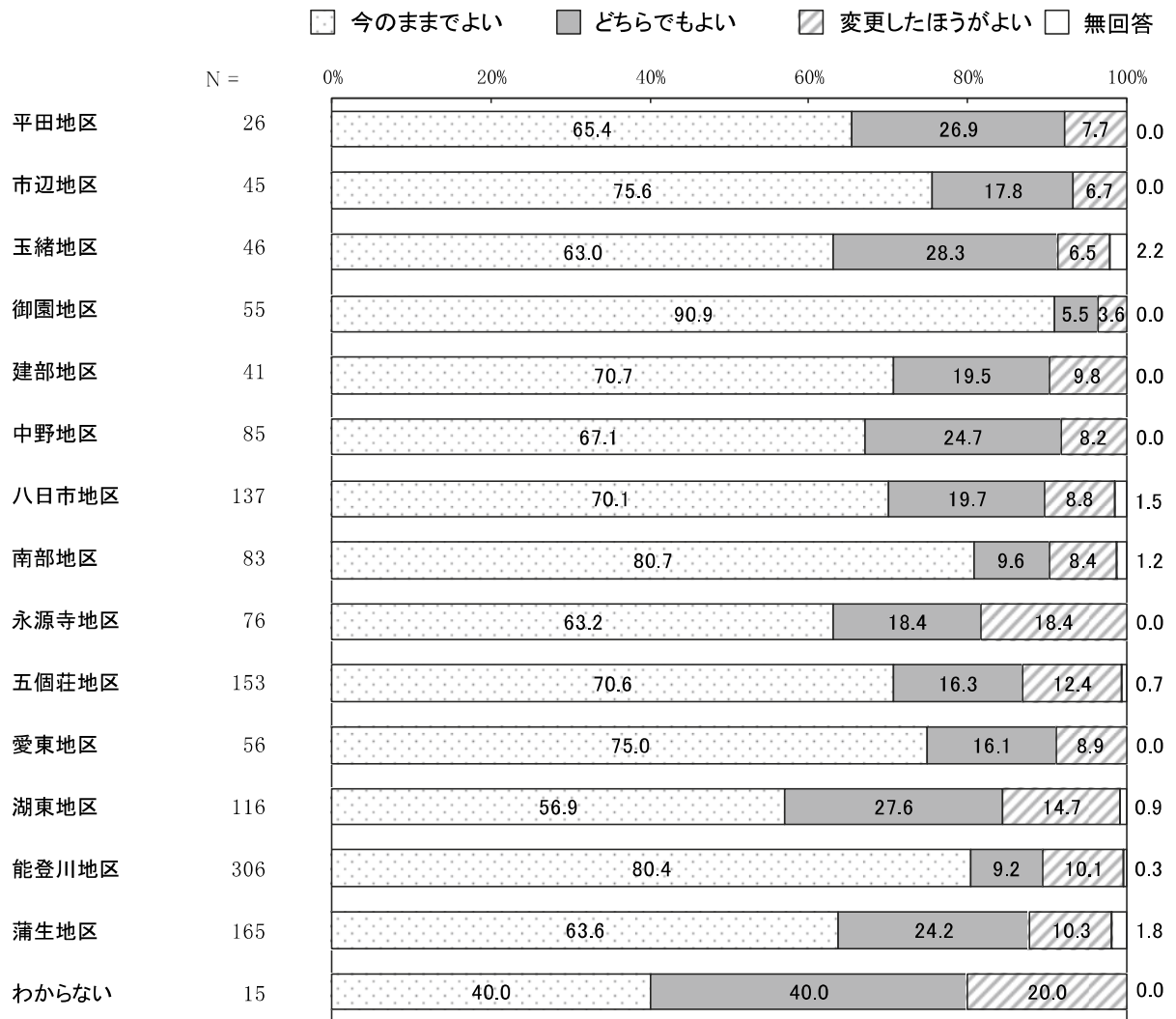
**【性別】**



**【年代別】**



【居住地区別】

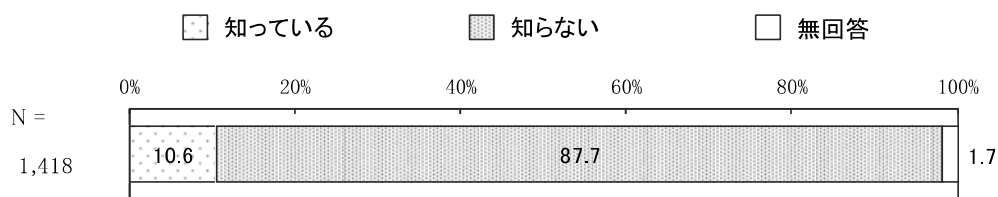




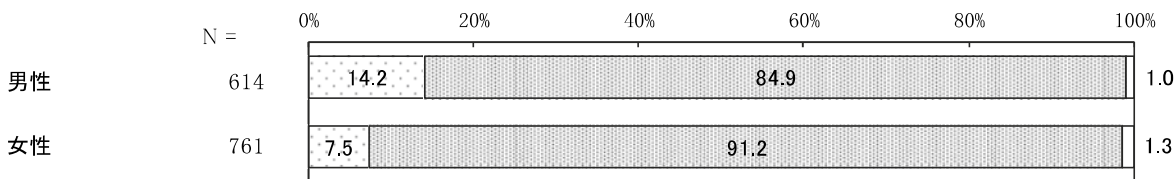
問9 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を認定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、東近江市の知名度アップにもつなげていきたいと考えています。あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

**9割近くが「知らない」**

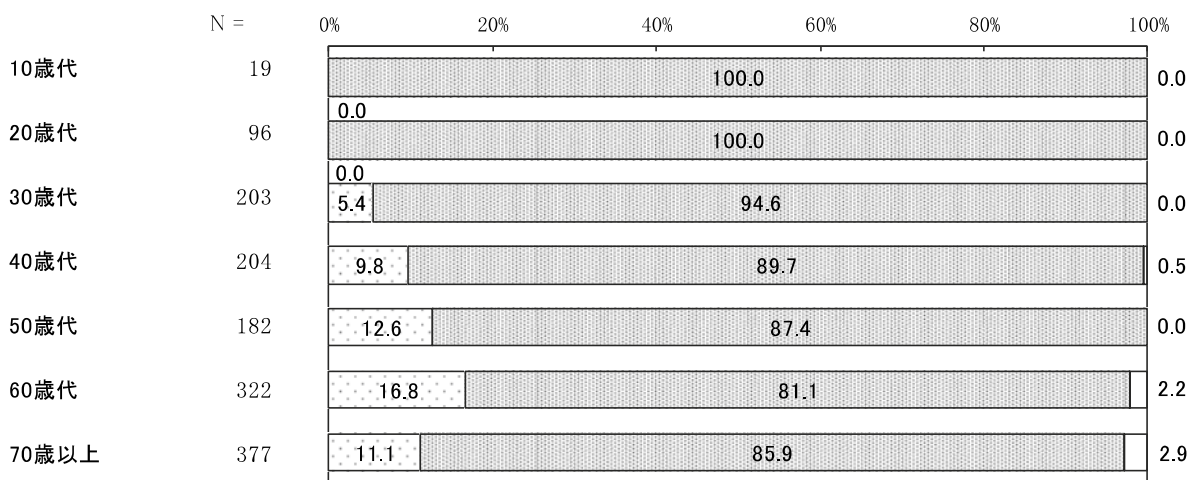
- ・ 「鈴鹿10座」の認知度については、「知らない」が87.7%と9割近くになっています。一方、「知っている」は10.6%と1割でした。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では60歳以上を除き年齢があがるほど、居住地区別では永源寺地区、御園地区、愛東地区で、「鈴鹿10座」の認知度が高くなっています。



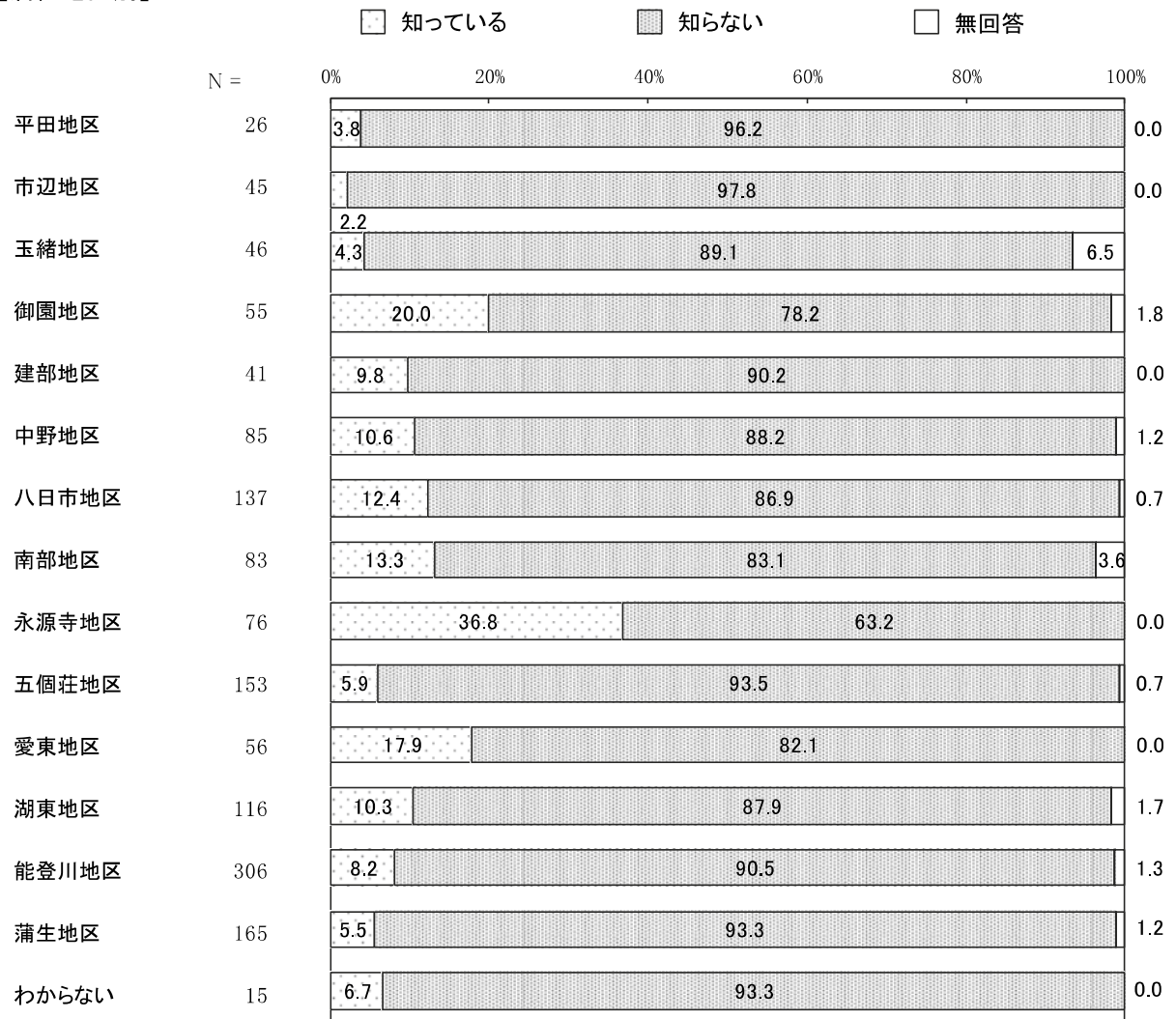
**【性別】**



**【年代別】**



【居住地区別】

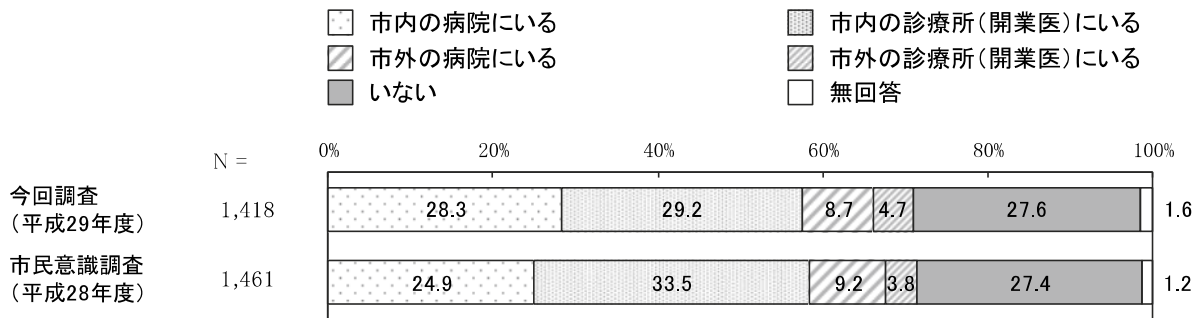


### (3) 健康や福祉について

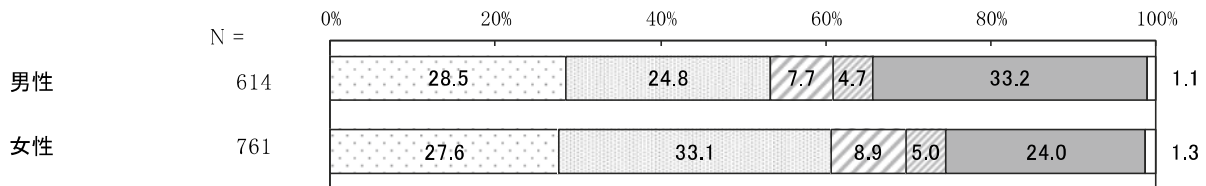
問 10 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん（かかりつけ医）はいますか。《○1つ》

#### 6 割近くが市内の病院や診療所にかかりつけ医がいる

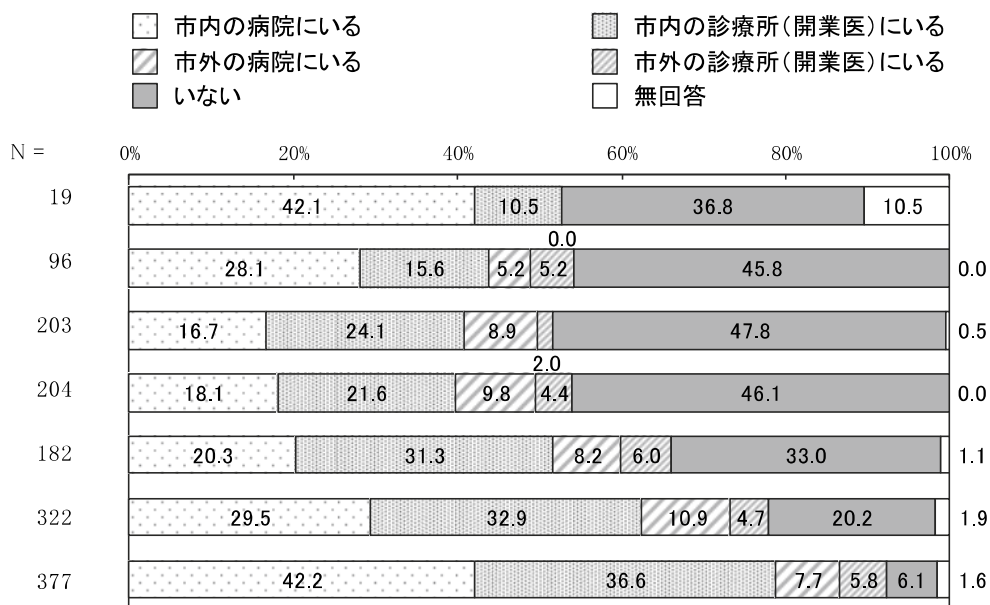
- ・ かかりつけ医がいるかどうかについては、「市内の診療所（開業医）にいる」が29.2%と最も多く、「市内の病院にいる」（28.3%）と合わせると57.5%が市内にいると回答しています。一方、「いない」と回答した人も27.6%と3割近くいます。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「市内の病院にいる」の割合が3.4ポイント増加し、「市内の診療所にいる」の割合が4.3ポイント減少しています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では20～40歳代で、居住地区別では湖東地区と建部地区で、かかりつけ医が「いない」人が多くみられます。また、平田地区、蒲生地区、玉緒地区でかかりつけ医が市外にいる人が多くみられます。



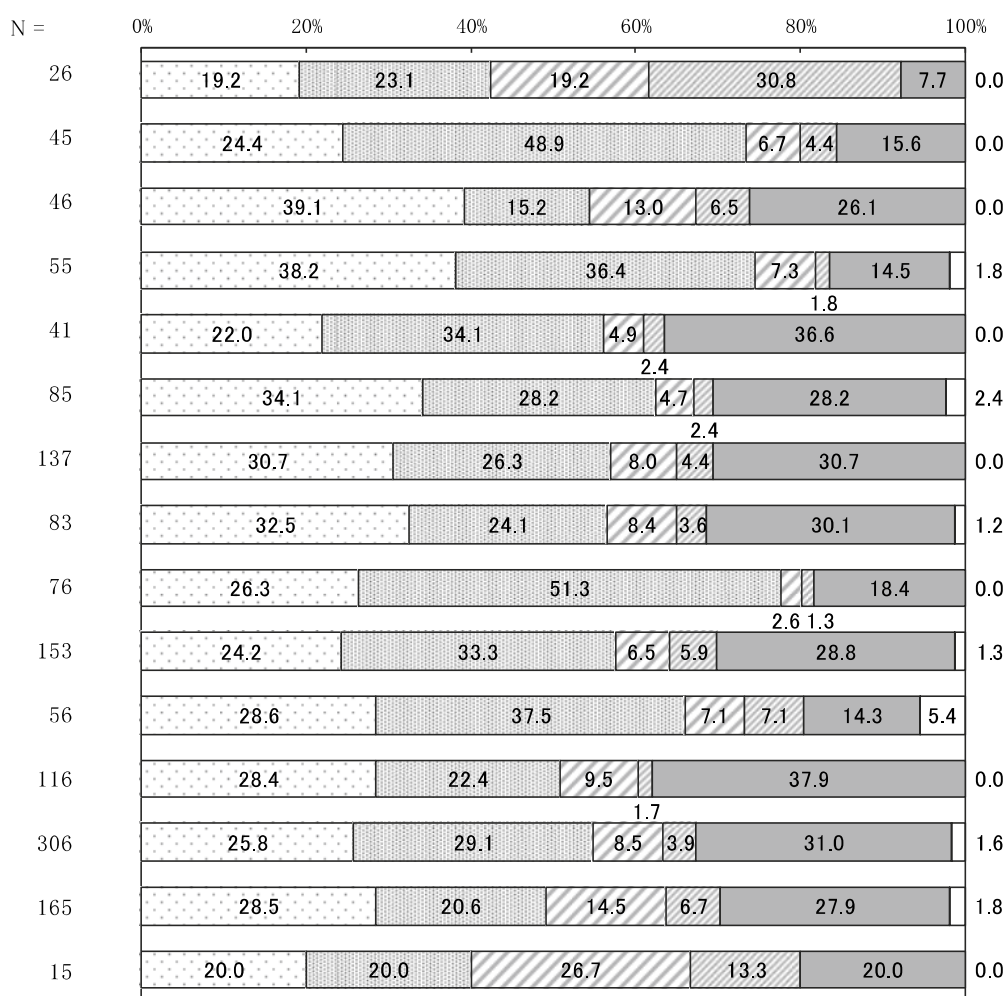
#### 【性別】



【年代別】



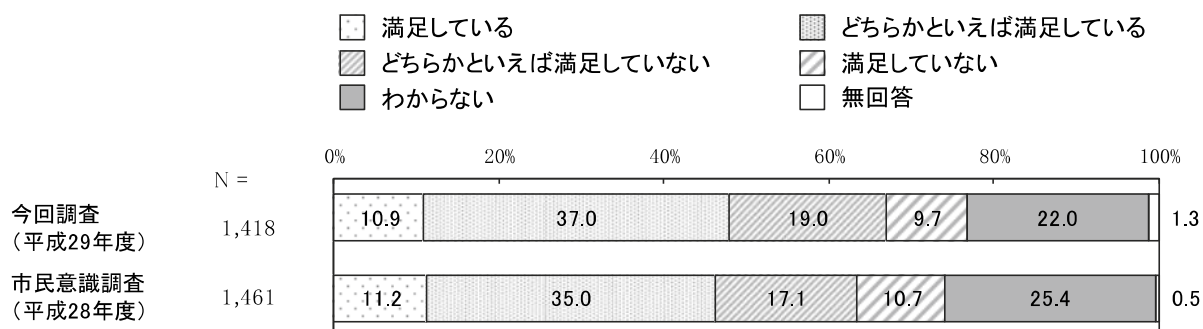
【居住地区別】



問 11 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

**半数近くが満足、3割近くは満足していない**

- ・ 病院や緊急時の医療体制についての満足度については、「満足している」が10.9%、「どちらかといえば満足している」が37.0%で、これらを合わせると47.9%となり、半数近くの人が満足していると回答しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると28.7%で、3割近くとなっています。また、「わからない」と回答した人も22.0%と2割います。
- ・ 年代別では、60歳以上で満足度が高く、30～50歳代で満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、御園地区、永源寺地区で満足度が高く、蒲生地区で満足度が低くなっています。



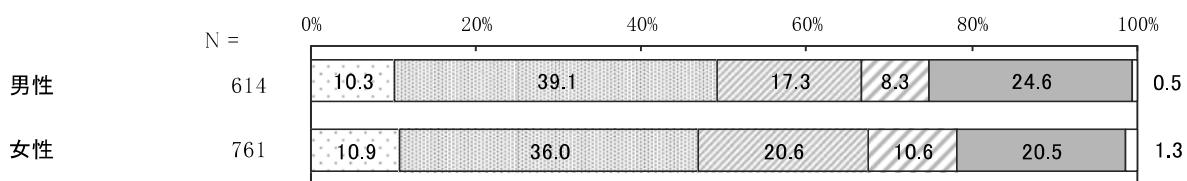
単位：%

	満足	不満	差
①今回調査(平成29年度)	47.9	28.7	19.2
②市民意識調査(平成28年度)	46.2	27.8	18.4
①－②	1.7	0.9	0.8

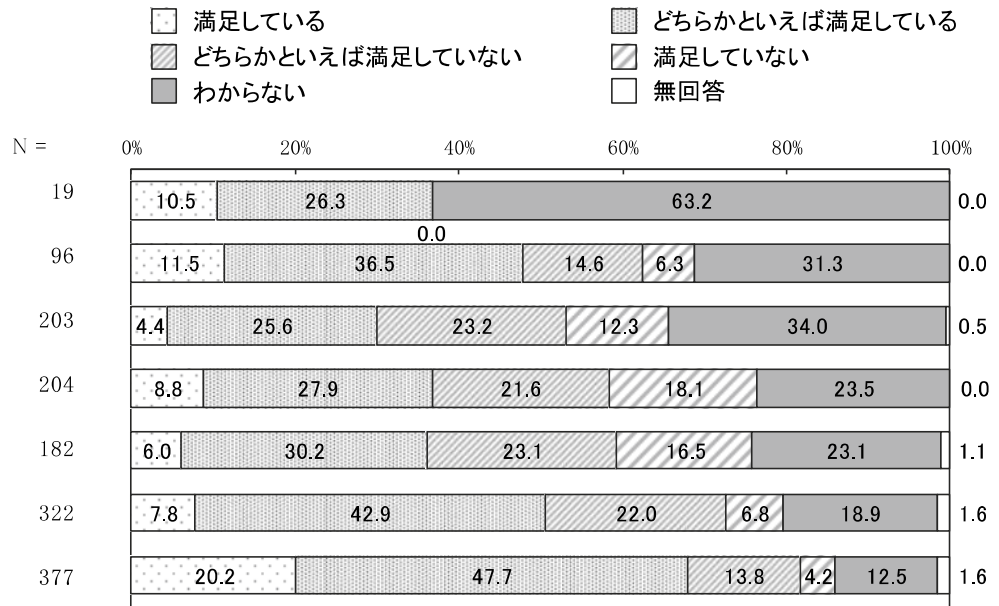
\* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

\* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

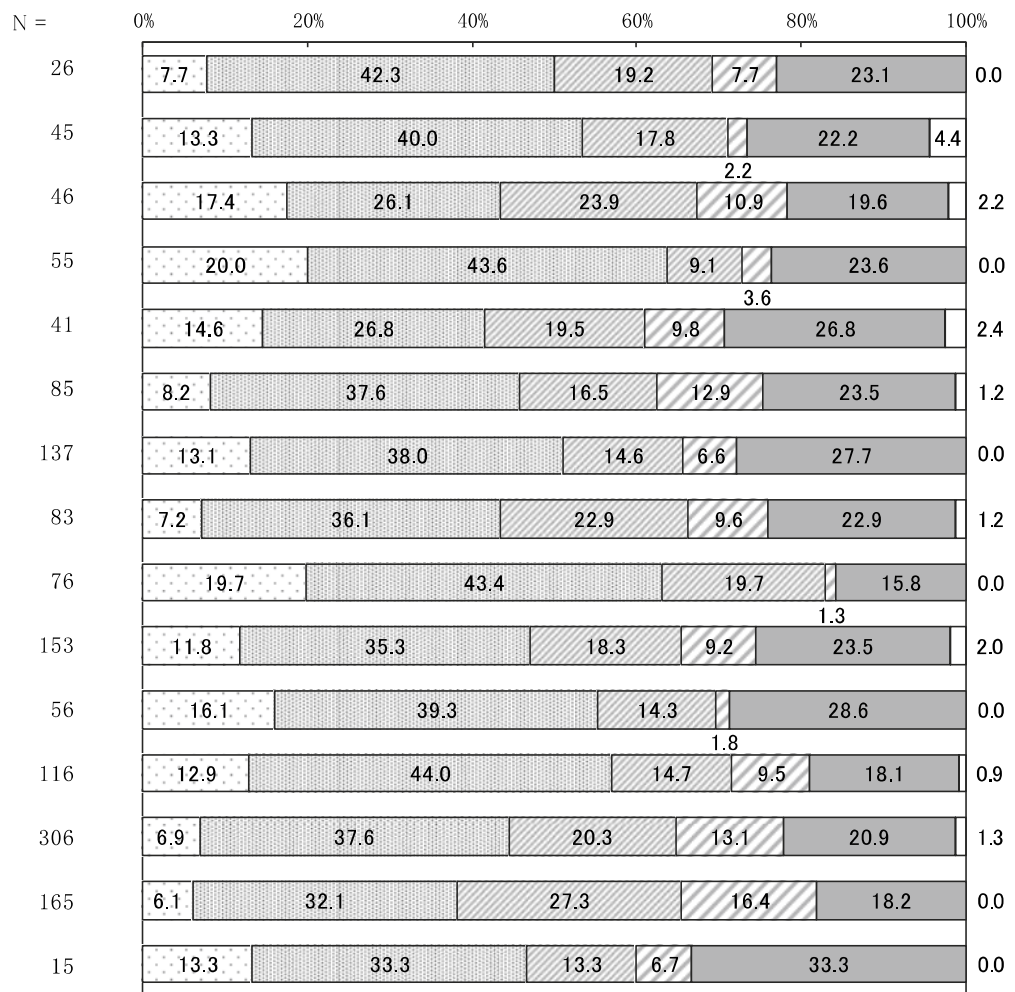
**【性別】**



【年代別】



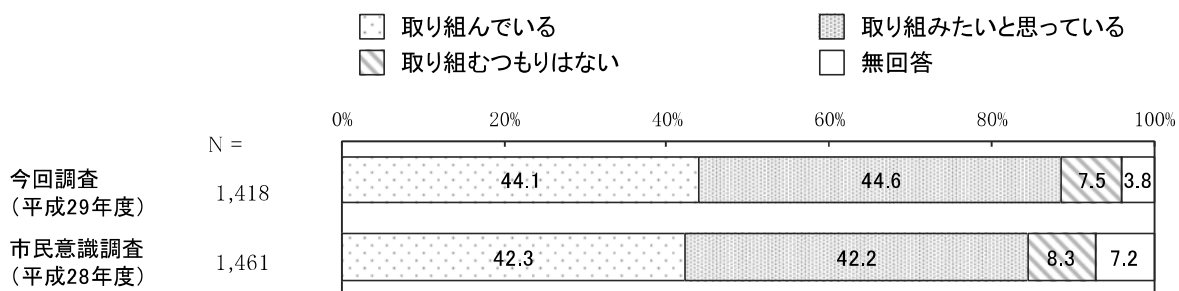
【居住地区別】



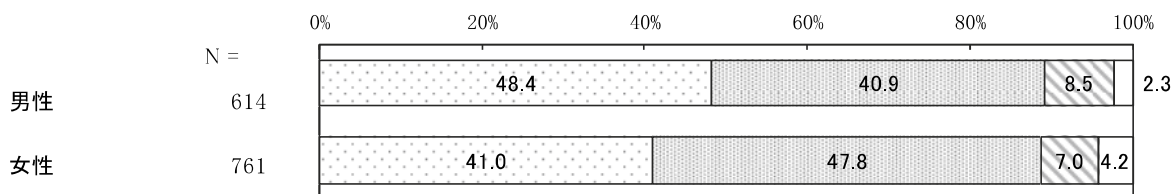
問 12 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

**4割以上が健康づくりを実践、取り組みたいを合わせると9割近くに**

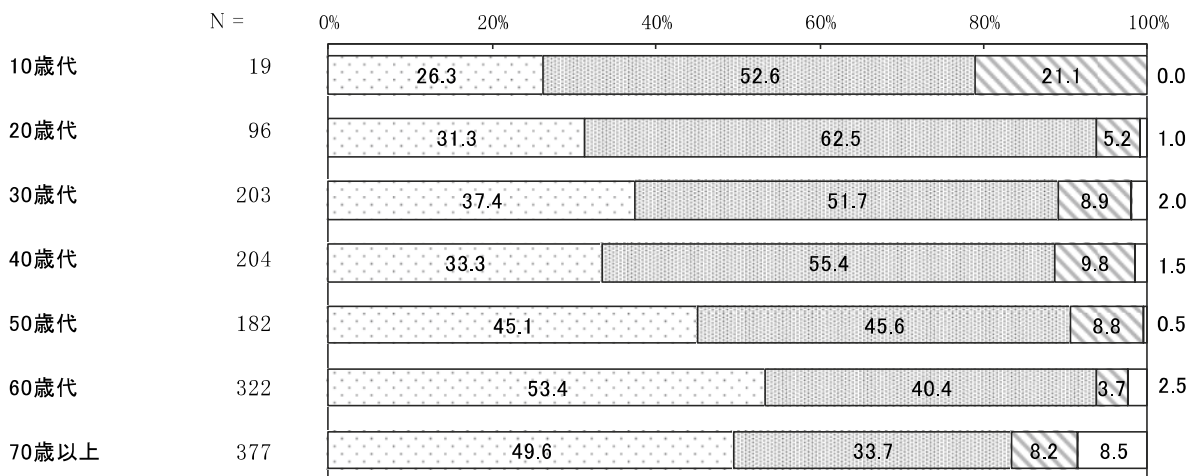
- ・ 自分の健康づくりのために何か取り組んでいるかについては、「取り組みたいと思っている」が44.6%と最も多く、次の「取り組んでいる」(44.1%)を合わせると88.7%となり、9割近くの人が関心を持っていることが分かります。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、自分の健康づくりのために何か「取り組んでいる」又は「取り組みたいと思っている」と回答した人の割合が4.2ポイント増加しています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では60歳以上で、居住地区別では玉緒地区、建部地区で、自分の健康づくりのために何か取り組んでいる人が多くみられます。



【性別】

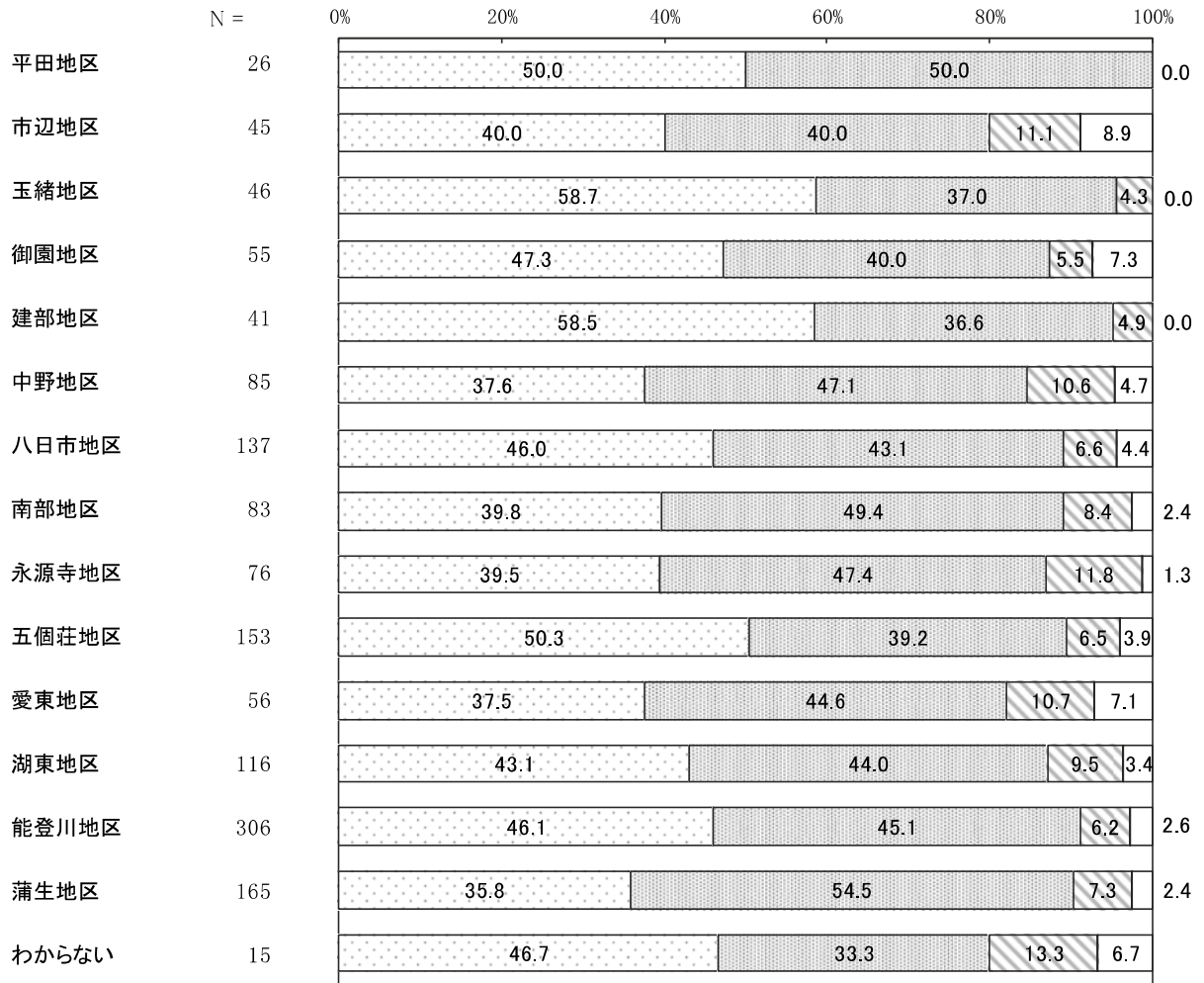


【年代別】



【居住地区別】

- 取り組んでいる
- 取り組みたいと思っている
- 取り組むつもりはない
- 無回答



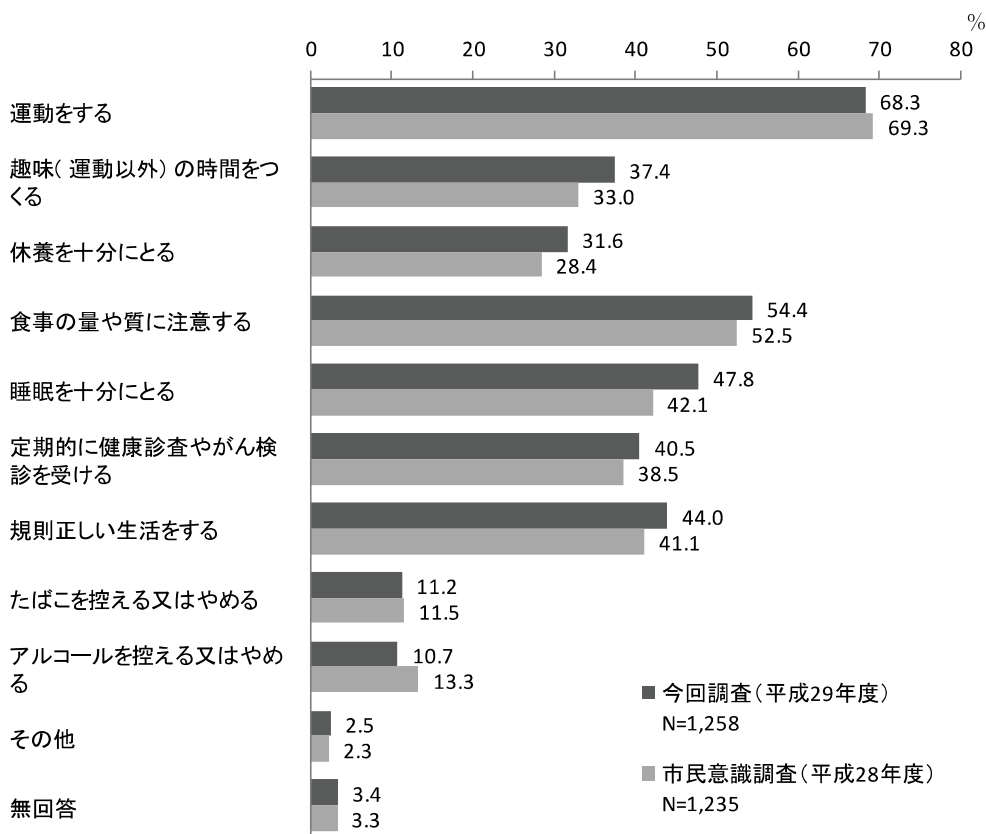


問 12-1 問 12 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方にお聞きします。

具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

**「運動をする」、「食事の量や質に注意する」、「睡眠を十分にとる」が上位**

- ・ 実際に取り組んでいる（取り組みたい）こととしては、「運動をする」が 68.3%と最も多く、次いで「食事の量や質に注意する」（54.4%）、「睡眠を十分にとる」（47.8%）、「規則正しい生活をする」（44.0%）、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」（40.5%）と続きます。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、「睡眠を十分にとる」、「趣味（運動以外）の時間をつくる」、「休養を十分にとる」、「規則正しい生活をする」などをあげる人の割合が増えています。
- ・ 性別では、男女ともに「運動をする」が最も多くなっていますが、女性が「規則正しい生活をする」、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」、「睡眠を十分にとる」、「食事の量や質に注意する」、「趣味（運動以外）の時間をつくる」などを実践している人が男性より多く、男性は禁煙や禁酒などが女性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、すべての年齢で「運動をする」が最も多くなっていますが、「運動をする」、「睡眠を十分にとる」、「休養を十分にとる」は 10～20 歳代で、「定期的に健康診査やがん検診を受ける」は 50 歳以上でほかの年代より多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
男性	548	67.0	33.8	30.8	50.0	42.7	33.0	34.9	18.1	15.7	2.7	5.1
女性	676	70.0	39.8	32.8	58.4	51.9	45.9	51.3	5.6	6.4	2.2	2.1

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
10歳代	15	80.0	66.7	66.7	46.7	80.0	13.3	60.0	13.3	13.3	0.0	0.0
20歳代	90	84.4	46.7	36.7	52.2	52.2	22.2	33.3	11.1	12.2	0.0	0.0
30歳代	181	73.5	31.5	32.0	45.9	46.4	38.1	43.6	13.3	15.5	1.1	2.8
40歳代	181	64.6	26.5	32.6	49.7	48.6	36.5	29.8	11.6	7.7	1.7	2.2
50歳代	165	61.2	35.8	27.9	55.8	47.3	40.0	37.6	12.1	9.1	2.4	3.6
60歳代	302	66.6	38.4	29.8	61.9	47.4	43.7	49.3	11.3	10.6	3.0	4.3
70歳以上	314	67.8	43.0	32.2	55.1	45.9	47.5	53.2	9.2	10.2	4.1	4.8

【居住地区別】

単位:%

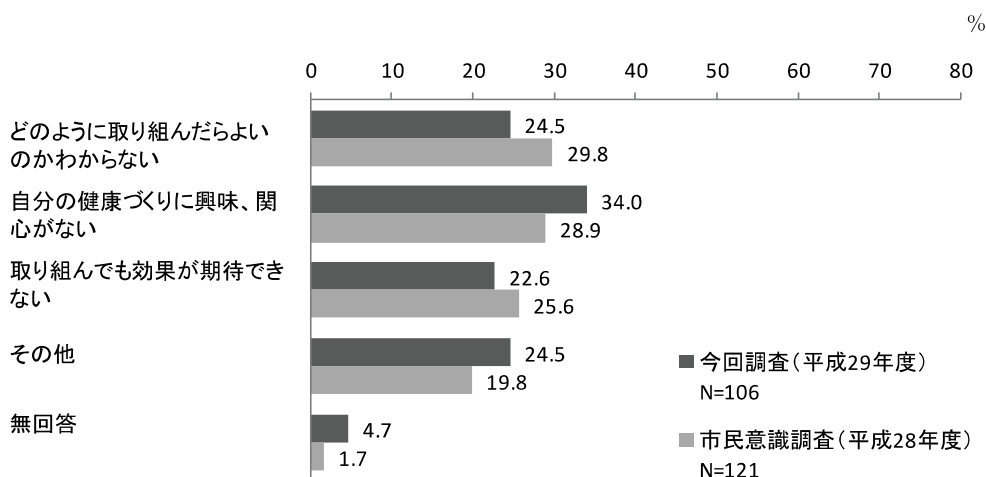
区 分	有効回答数(件)	運動をする	趣味(運動以外の時間をつくる)	休養を十分にとる	食事の量や質に注意する	睡眠を十分にとる	定期的に健康診査やがん検診を受ける	規則正しい生活をする	たばこを控える又はやめる	アルコールを控える又はやめる	その他	無回答
平田地区	26	65.4	26.9	34.6	53.8	42.3	50.0	53.8	11.5	7.7	3.8	3.8
市辺地区	36	61.1	36.1	44.4	58.3	50.0	47.2	41.7	2.8	0.0	2.8	2.8
玉緒地区	44	63.6	50.0	29.5	63.6	54.5	54.5	50.0	15.9	18.2	6.8	0.0
御園地区	48	68.8	39.6	29.2	68.8	58.3	33.3	43.8	12.5	12.5	2.1	0.0
建部地区	39	59.0	28.2	28.2	48.7	48.7	43.6	53.8	10.3	10.3	0.0	5.1
中野地区	72	65.3	30.6	33.3	51.4	50.0	47.2	40.3	8.3	2.8	2.8	1.4
八日市地区	122	70.5	45.1	27.0	58.2	40.2	32.0	36.1	13.1	12.3	1.6	2.5
南部地区	74	73.0	41.9	28.4	52.7	51.4	43.2	48.6	10.8	10.8	1.4	0.0
永源寺地区	66	62.1	40.9	37.9	48.5	50.0	47.0	48.5	7.6	9.1	1.5	6.1
五個荘地区	137	70.8	35.0	34.3	60.6	46.7	35.0	48.9	13.1	10.2	1.5	5.1
愛東地区	46	73.9	43.5	37.0	54.3	45.7	32.6	45.7	8.7	8.7	2.2	4.3
湖東地区	101	73.3	34.7	29.7	44.6	45.5	37.6	40.6	16.8	10.9	1.0	3.0
能登川地区	279	72.0	34.4	29.4	51.3	47.7	41.6	43.7	9.7	10.8	3.6	5.0
蒲生地区	149	60.4	38.9	36.2	54.4	45.6	43.6	39.6	12.1	14.8	2.7	3.4
わからない	12	66.7	16.7	0.0	75.0	66.7	16.7	50.0	0.0	8.3	0.0	0.0

問 12-2 問 12 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方にお聞きします。

その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

**取り組むつもりがない理由は、「自分の健康づくりに興味・関心がない」が第1位**

- ・ 自分の健康づくりに取り組むつもりはない人の理由としては、「自分の健康づくりに興味、関心がない」が 34.0%と最も高く、次いで「どのように取り組んだらよいかわからない」(24.5%)、「その他」(24.5%)、「取り組んでも効果が期待できない」(22.6%)の順となっています。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、「どのように取り組んだらよいかわからない」の割合が 5.3 ポイント減少し、「自分の健康づくりに興味、関心がない」の割合が 5.1 ポイント増加し、順序が逆転しています。
- ・ 性別では、男性は「自分の健康づくりに興味、関心がない」を理由にあげる人が女性より多くなっています。
- ・ 年代別では、30～40 歳代で「どのように取り組んだらよいかわからない」を、70 歳以上で「取り組んでも効果が期待できない」をあげる人が多くみられます。



**【性別】**

単位:%

区分	有効回答数(件)	どのように取り組んだらよいかわからない	自分の健康づくりに興味、関心がない	取り組んでも効果が期待できない	その他	無回答
男性	52	25.0	51.9	19.2	17.3	1.9
女性	53	24.5	17.0	24.5	32.1	7.5

【年代別】

単位：%

区 分	有効回答数（件）	どのようなかわかり組んだ	味、自分の健康づくりに興	待取組んでも効果が期	その他	無回答
10歳代	4	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0
20歳代	5	20.0	40.0	0.0	0.0	60.0
30歳代	18	38.9	61.1	11.1	0.0	5.6
40歳代	20	35.0	35.0	30.0	0.0	10.0
50歳代	16	25.0	37.5	12.5	0.0	37.5
60歳代	12	16.7	41.7	33.3	0.0	16.7
70歳以上	31	12.9	9.7	29.0	12.9	38.7

【居住地区別】

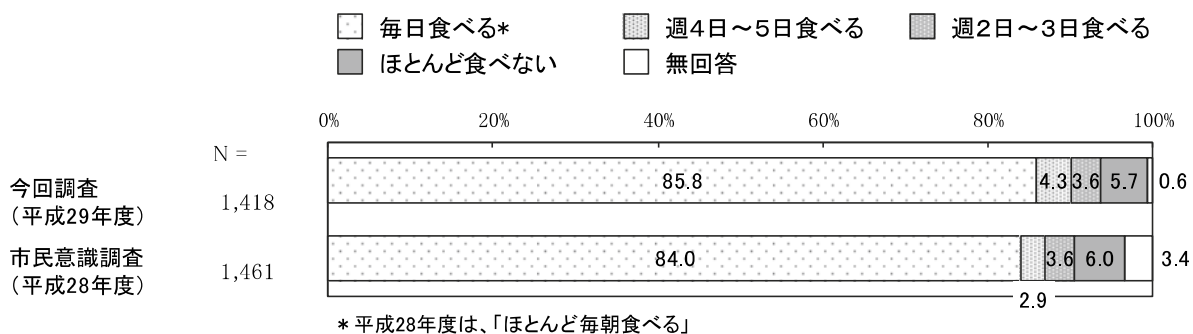
単位：%

区 分	有効回答数（件）	どのようなかわかり組んだ	味、自分の健康づくりに興	待取組んでも効果が期	その他	無回答
平田地区	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
市辺地区	5	40.0	20.0	0.0	0.0	40.0
玉緒地区	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
御園地区	3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0
建部地区	2	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
中野地区	9	22.2	11.1	55.6	22.2	11.1
八日市地区	9	33.3	77.8	0.0	0.0	0.0
南部地区	7	42.9	42.9	14.3	14.3	0.0
永源寺地区	9	11.1	55.6	11.1	11.1	11.1
五個荘地区	10	20.0	30.0	30.0	30.0	0.0
愛東地区	6	0.0	16.7	33.3	50.0	0.0
湖東地区	11	54.5	18.2	18.2	36.4	0.0
能登川地区	19	15.8	26.3	15.8	36.8	5.3
蒲生地区	12	8.3	50.0	41.7	16.7	0.0
わからない	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

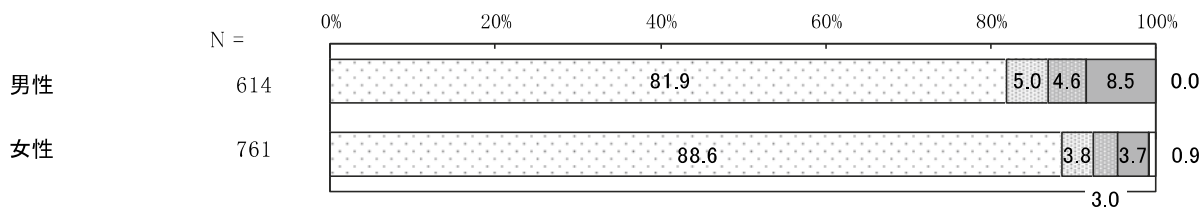
問 13 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

**9割近くが朝食は「毎日食べる」**

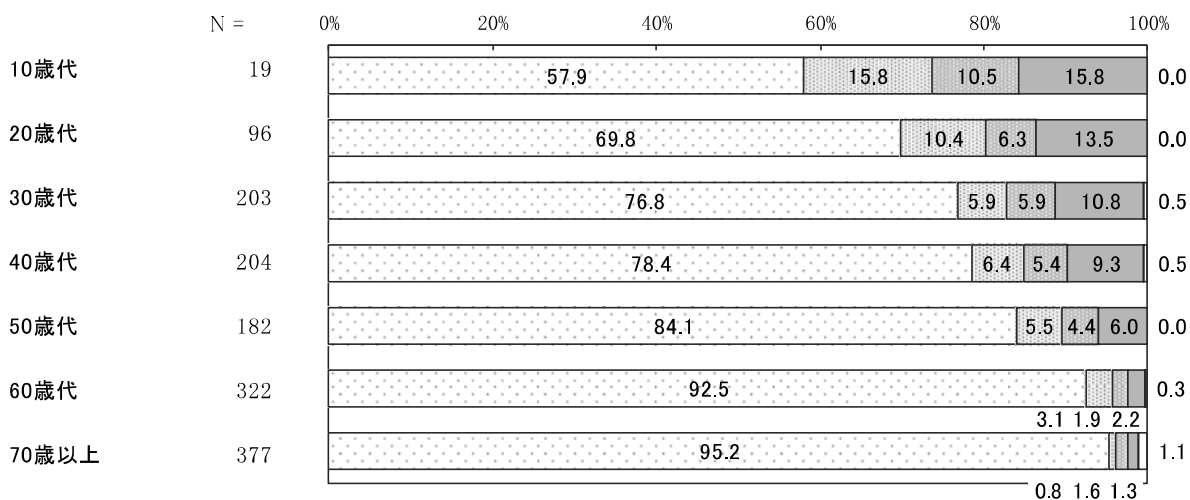
- ・ 朝食を食べているかについては、「毎日食べる」と回答した人が85.8%と、9割近くになっています。次いで、「ほとんど食べない」5.7%、「週4日～5日食べる」4.3%、「週2日～3日食べる」3.6%と続きます。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では年齢が上がるほど、居住地区別では市辺地区、愛東地区で、朝食を毎日食べている人が多くみられます。



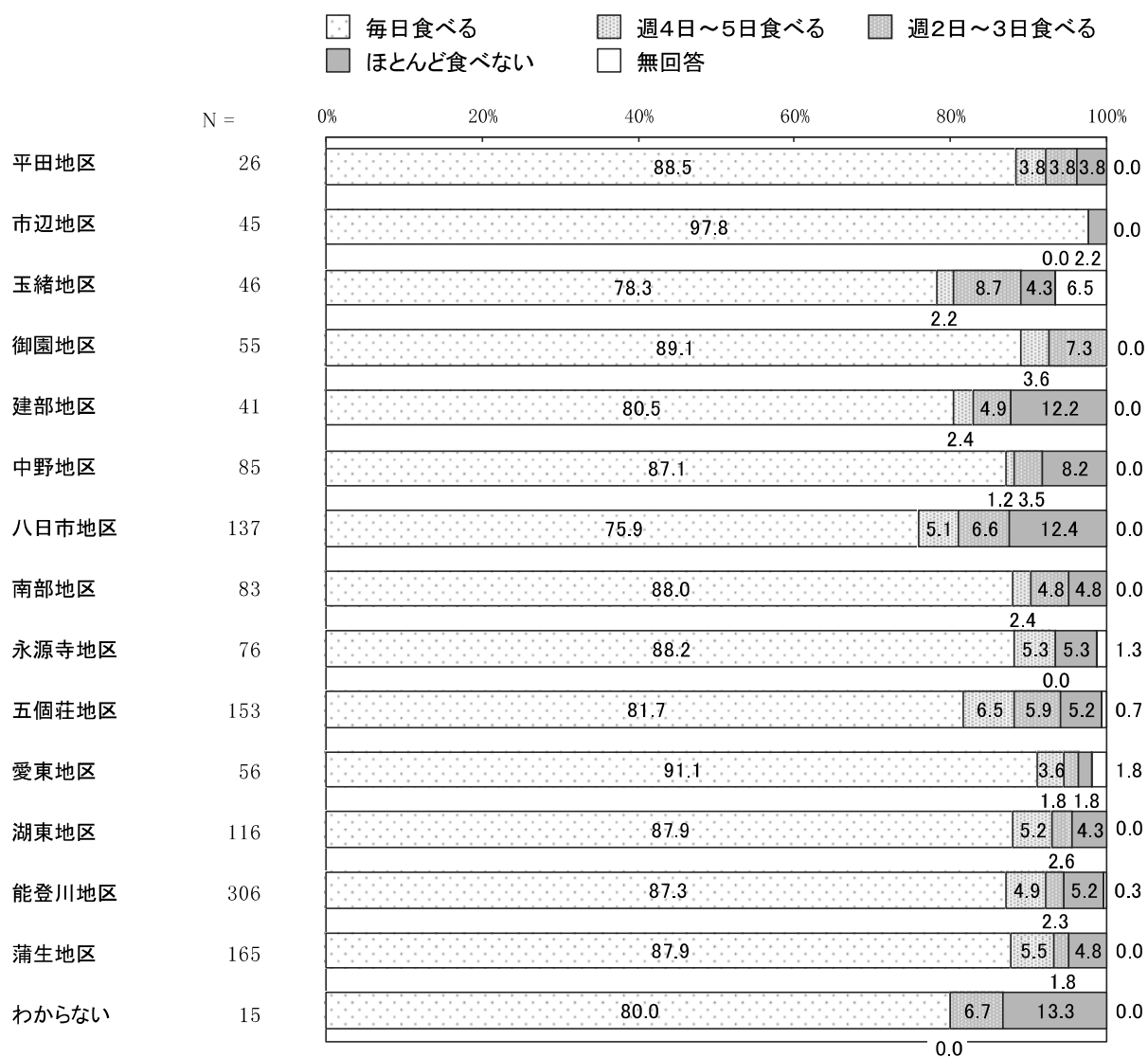
**【性別】**



**【年代別】**



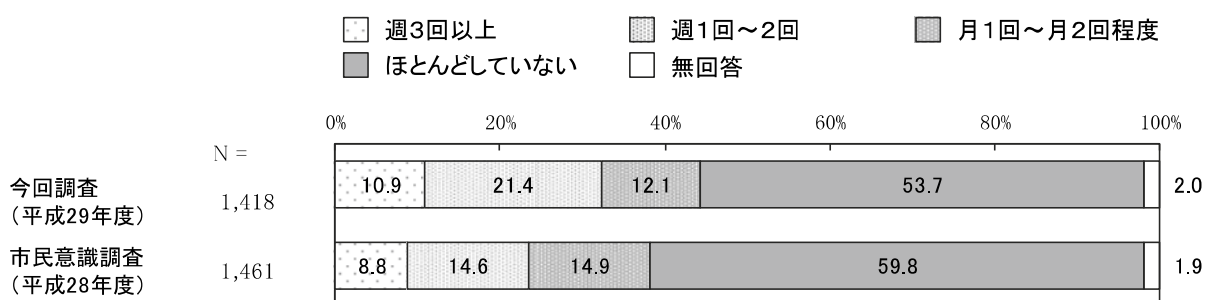
【居住地区別】



問 14 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか。《○1つ》

**3割が週1回以上運動をしている、半数以上が「ほとんどしていない」**

- ・ スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っているかについては、「ほとんどしていない」が最も多く 53.7%と、半数以上を占めています。次いで、「週1回～2回」が 21.4%、「月1回～月2回程度」が 12.1%、「週3回以上」が 10.9%と続きます。週1回以上運動を行っている人は 32.3%となっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「ほとんどしていない」の割合が 6.1ポイント減少し、「週1回～2回」の割合が 6.8ポイント増加し、週1回以上運動をしている人の割合も 23.4%から 8.9ポイント増加しています。
- ・ 週1回以上運動をしている人の割合は、性別では女性より男性が、年代別では60歳代で、居住地区別では八日市地区、建部地区で高くなっています。



単位：%

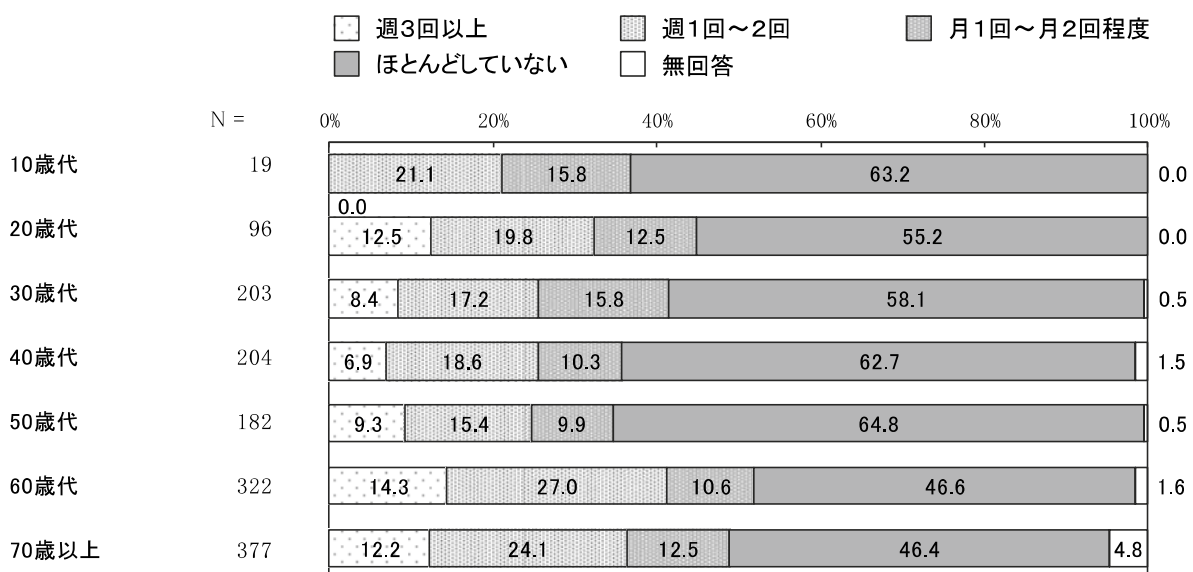
	週1回以上運動をしている	ほとんどしていない
①今回調査(平成29年度)	32.3	53.7
②市民意識調査(平成28年度)	23.4	59.8
①-②	8.9	-6.1

**【性別】**

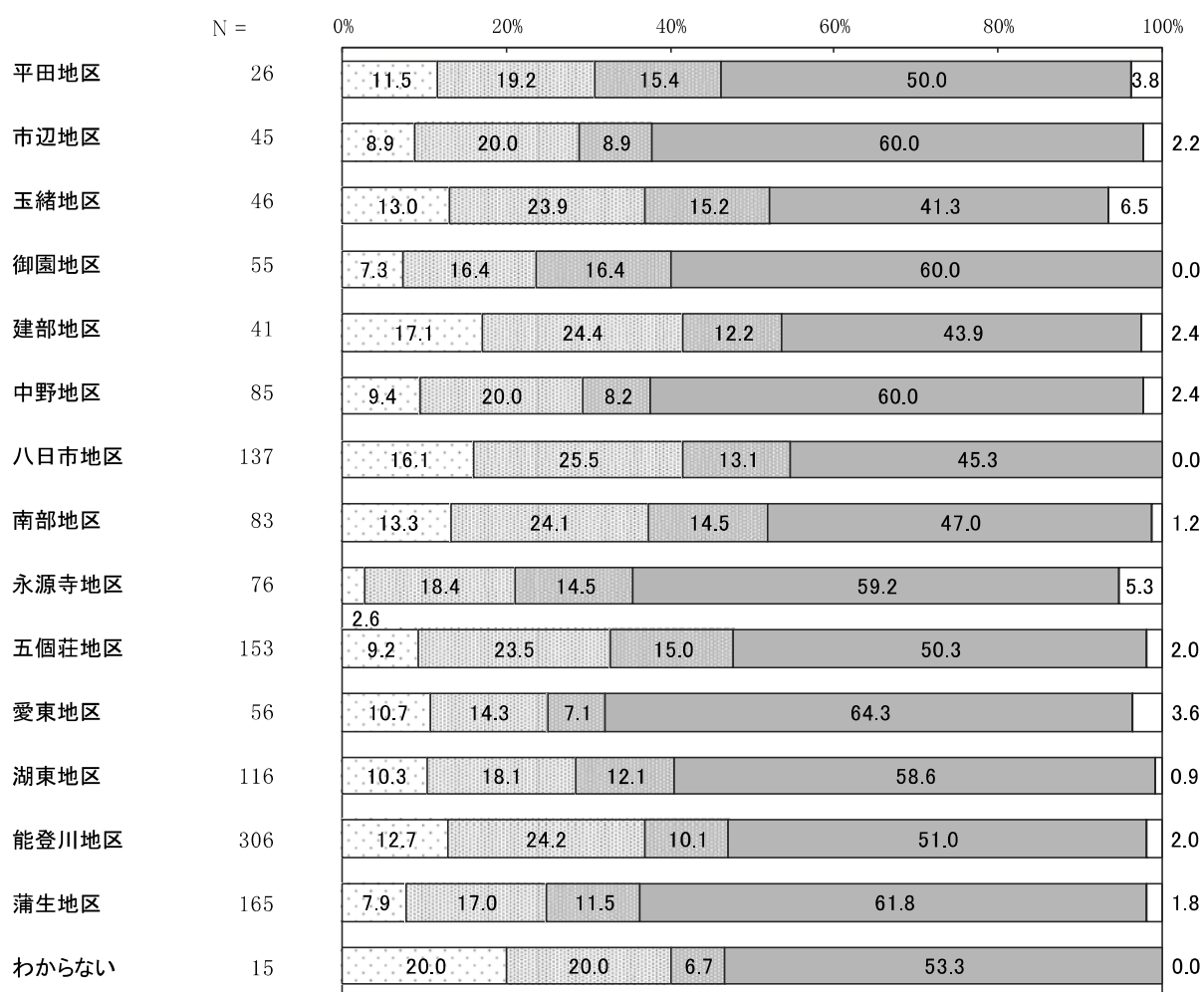




【年代別】



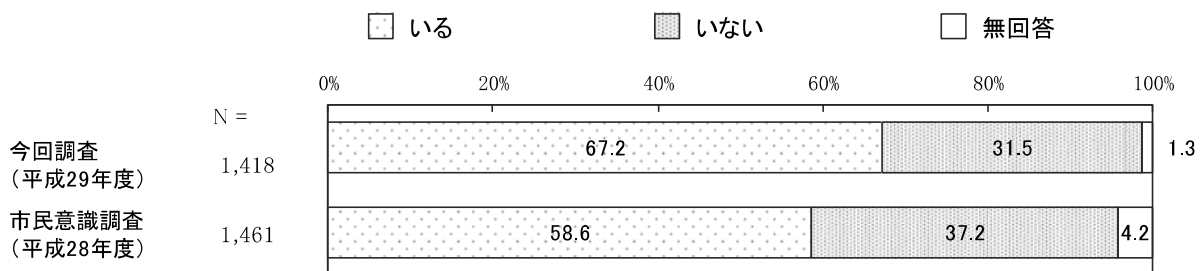
【居住地区別】



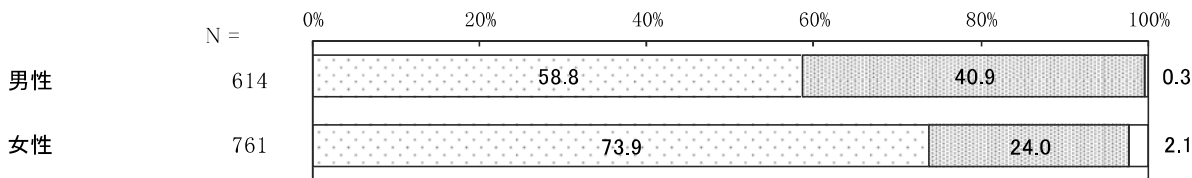
問 15 あなたは、身近な地域で日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人がいますか。  
《○1つ》

**7割が悩み等を相談できる人が「いる」**

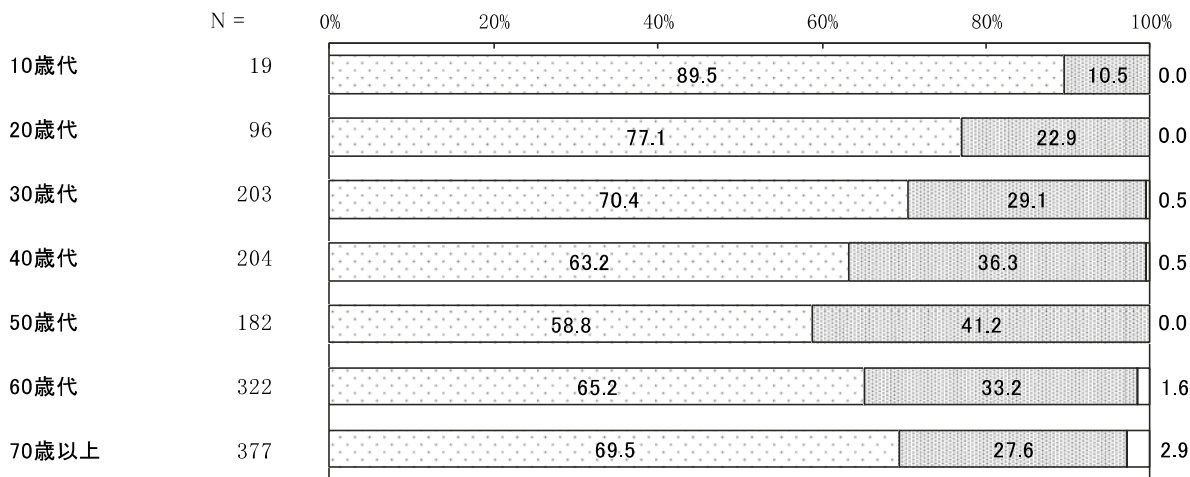
- ・ 身近な地域で日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人がいるかどうかについては、「いる」と回答した人が67.2%と7割近くとなっています。一方、「いない」と回答した人は31.5%と3割います。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人が「いる」の割合が8.6ポイント増加し、「いない」の割合が5.7ポイント減少しています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では60歳以上を除き年齢が若いほど、悩み等を相談できる人がいる人が多くみられます。



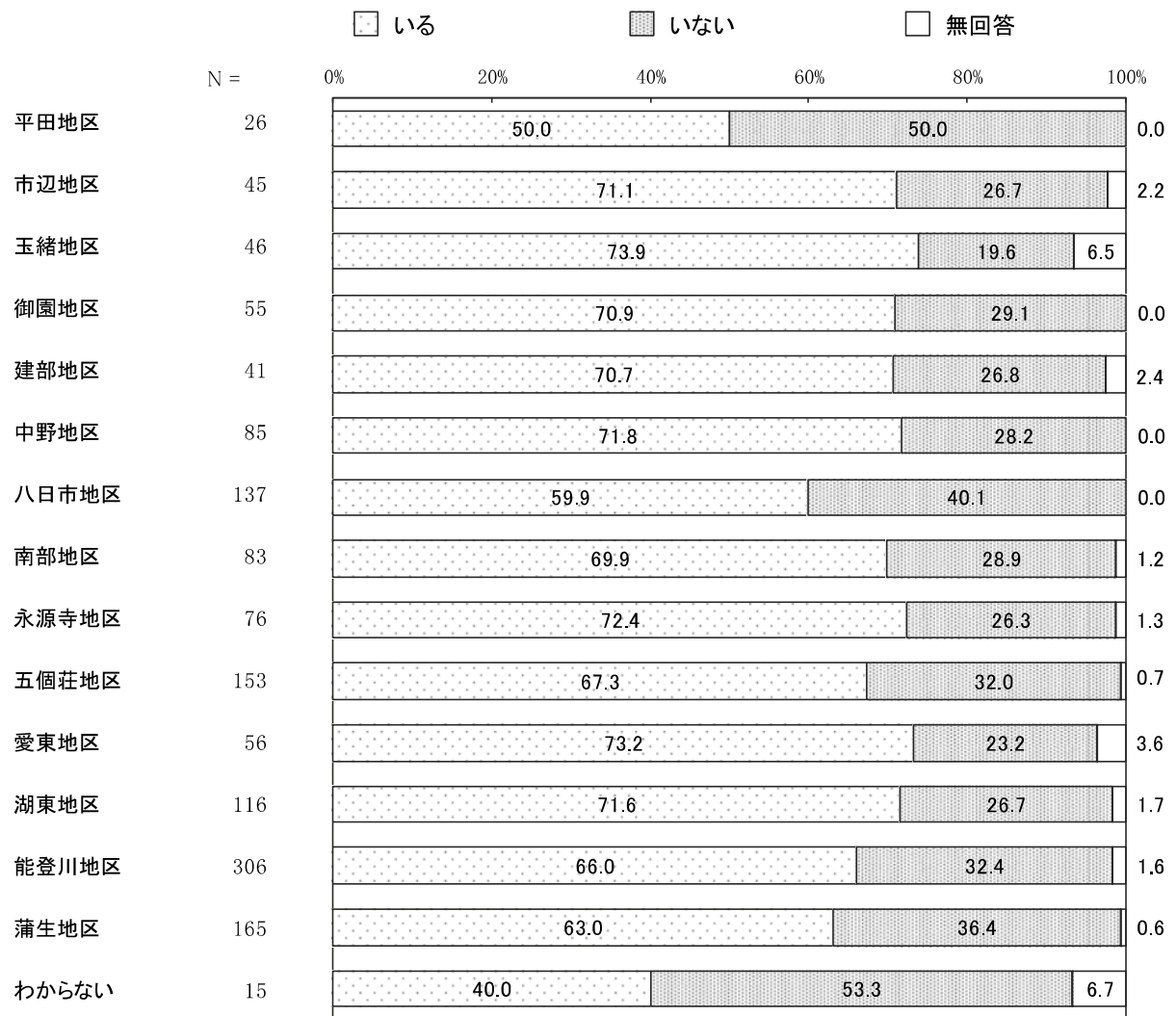
**【性別】**



**【年代別】**



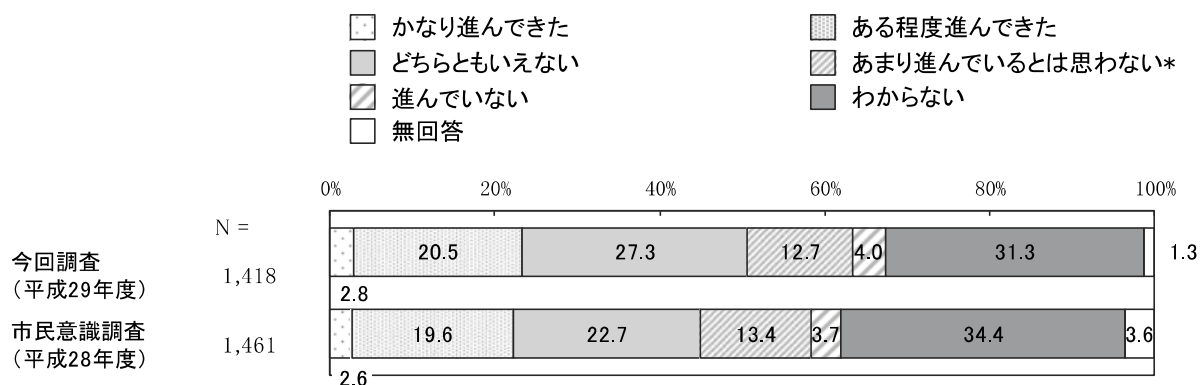
【居住地区別】



問 16 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

**理解が進んできたと思う人が微増、3割が「わからない」**

- ・ 東近江市民の障害者に対する理解が進んできたと思うかについては、「かなり進んできた」が2.8%、「ある程度進んできた」が20.5%で、これらを合わせると23.3%となり、2割の人が「ある程度進んできた」と考えています。一方、「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」を合わせると16.7%となっています。なお、「わからない」と回答した人が31.3%となっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、障害者に対する理解が進んできたと思う人（「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計）が1.1ポイント増加しています。
- ・ 年代別では60歳以上で、居住地区別では湖東地区、蒲生地区を除いたすべての地区で、障害者に対する理解が進んできたと思う人（前述）が、進んでいないと思う人（「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」の合計）より多くなっています。



\*平成28年度は「あまり進んできているとは思えない」

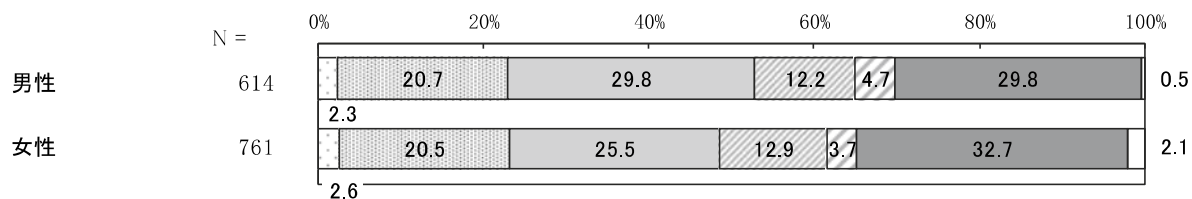
単位：%

	進んでいる	進んでいない	差
①今回調査(平成29年度)	23.3	16.7	6.6
②市民意識調査(平成28年度)	22.2	17.1	5.1
①-②	1.1	-0.4	1.5

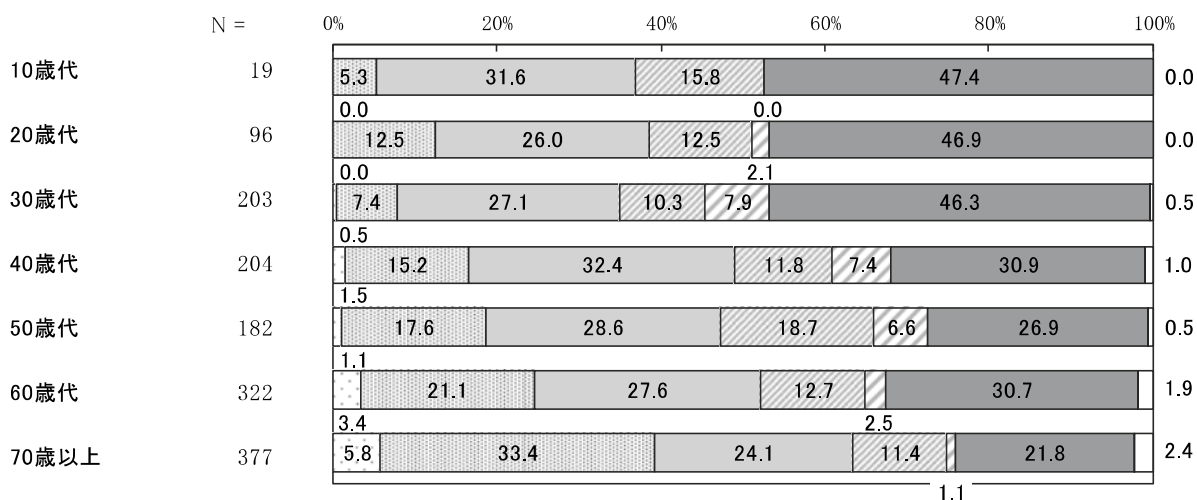
\* 進んでいる:「かなり進んできた」と「ある程度進んできた」の合計

\* 進んでいない:「あまり進んでいるとは思わない」と「進んでいない」の合計

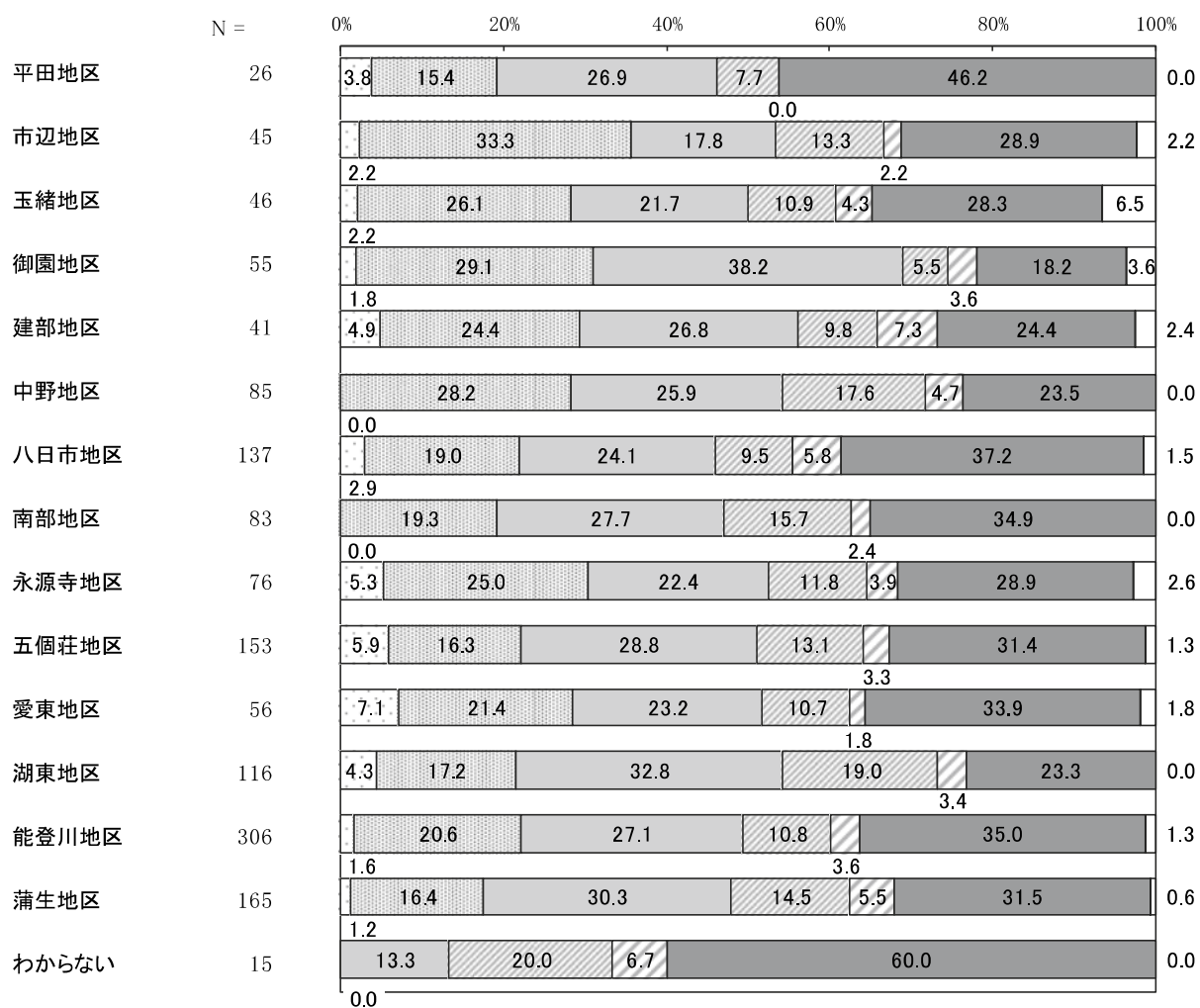
**【性別】**



【年代別】



【居住地区別】

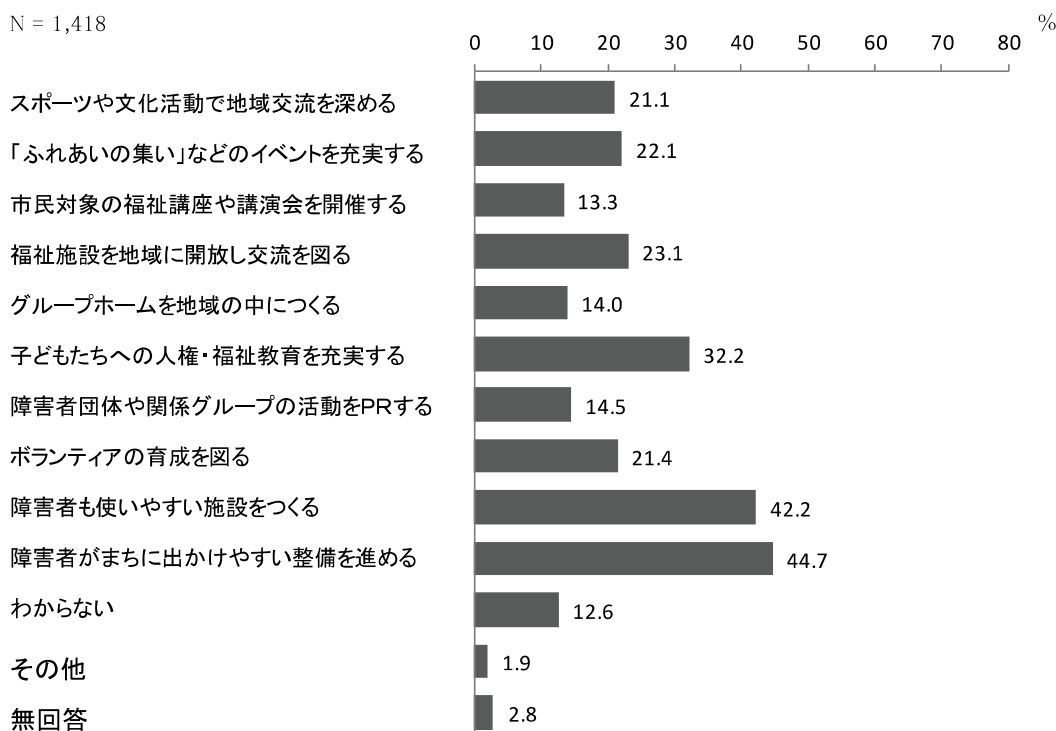


問 17 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

**特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備**

- ・ 障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきかについては、「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多く 44.7%、次いで「障害者も使いやすい施設をつくる」が 42.2%と、バリアフリーやユニバーサルデザインのまちづくりや施設整備をあげる人が多くなっています。
- ・ そのほか、「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」が 32.2%、「福祉施設を地域に開放し交流を図る」23.1%、「「ふれあいの集い」などのイベントを充実する」22.1%、「ボランティアの育成を図る」21.4%、「スポーツや文化活動で地域交流を深める」21.1%など、教育、交流等を通じたノーマライゼーションの実現をあげる人も多くなっています。
- ・ 年代別では、10～30 歳代の若い世代では「障害者も使いやすい施設をつくる」が、40 歳以上では「障害者がまちに出かけやすい整備を進める」が最も多くあげられています。また、10～20 歳代で「子どもたちへの人権・福祉教育を充実する」が、60 歳以上で「福祉施設を地域に開放し交流を図る」が、ほかの年代より多くあげられています。

N = 1,418



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
男性	614	22.3	20.8	13.0	23.5	12.4	31.4	14.0	21.2	42.3	44.8	13.2	2.9	1.0
女性	761	20.2	23.3	13.3	22.9	15.4	33.4	15.5	21.9	42.7	44.8	11.8	1.2	3.8

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちな出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
10歳代	19	15.8	26.3	21.1	15.8	10.5	47.4	5.3	15.8	63.2	31.6	10.5	0.0	0.0
20歳代	96	20.8	22.9	9.4	15.6	13.5	46.9	9.4	15.6	53.1	49.0	5.2	2.1	0.0
30歳代	203	18.7	21.7	7.9	21.7	10.8	35.5	9.4	16.7	52.2	47.3	12.8	3.9	0.5
40歳代	204	22.1	18.1	9.8	19.6	12.3	32.8	12.3	20.6	38.7	45.1	12.7	2.5	2.0
50歳代	182	19.8	20.9	12.1	19.8	11.5	33.0	16.5	26.9	36.8	50.5	9.3	1.6	0.0
60歳代	322	19.6	18.6	11.2	26.1	12.1	32.6	18.6	22.0	41.6	44.4	13.0	1.2	2.2
70歳以上	377	24.1	27.6	21.0	27.3	19.4	25.5	15.9	23.1	38.2	40.1	15.6	1.3	7.2

【居住地区別】

単位：%

区 分	有効回答数（件）	スポーツや文化交流を深める	「ふれあいの集い」などのイベントを充実する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	福祉施設を地域に開放し交流を図る	グループホームを地域の中につくる	子どもたちへの人権・福祉教育を充実する	障害者団体や関係グループの活動をPRする	ボランティアの育成を図る	障害者も使いやすい施設をつくる	障害者がまちに出かけやすい整備を進める	わからない	その他	無回答
平田地区	26	23.1	11.5	3.8	19.2	19.2	23.1	0.0	11.5	38.5	53.8	7.7	0.0	3.8
市辺地区	45	22.2	24.4	11.1	24.4	13.3	26.7	15.6	22.2	40.0	35.6	15.6	4.4	6.7
玉緒地区	46	23.9	17.4	13.0	19.6	13.0	17.4	13.0	21.7	34.8	30.4	15.2	4.3	10.9
御園地区	55	25.5	29.1	20.0	30.9	20.0	41.8	21.8	23.6	38.2	49.1	12.7	5.5	1.8
建部地区	41	29.3	39.0	14.6	36.6	26.8	39.0	19.5	17.1	34.1	41.5	4.9	2.4	0.0
中野地区	85	24.7	30.6	12.9	27.1	15.3	35.3	15.3	16.5	44.7	48.2	12.9	0.0	1.2
八日市地区	137	22.6	18.2	9.5	19.7	11.7	26.3	7.3	20.4	38.7	43.1	17.5	2.2	1.5
南部地区	83	16.9	18.1	15.7	21.7	7.2	36.1	13.3	14.5	50.6	42.2	9.6	1.2	1.2
永源寺地区	76	18.4	21.1	14.5	17.1	11.8	31.6	13.2	26.3	39.5	39.5	14.5	2.6	3.9
五個荘地区	153	20.9	22.9	7.8	20.9	10.5	32.0	14.4	17.6	39.2	42.5	15.7	1.3	3.9
愛東地区	56	26.8	19.6	21.4	26.8	19.6	32.1	12.5	21.4	48.2	46.4	5.4	1.8	5.4
湖東地区	116	13.8	23.3	13.8	19.0	10.3	34.5	12.9	22.4	42.2	47.4	10.3	2.6	3.4
能登川地区	306	21.2	18.0	14.4	23.9	15.0	35.9	17.3	22.9	46.1	47.4	11.8	1.3	2.0
蒲生地区	165	20.6	28.5	14.5	25.5	17.0	30.3	17.6	29.1	41.2	46.7	13.3	1.8	1.2
わからない	15	0.0	6.7	13.3	26.7	0.0	13.3	6.7	13.3	46.7	20.0	13.3	0.0	13.3

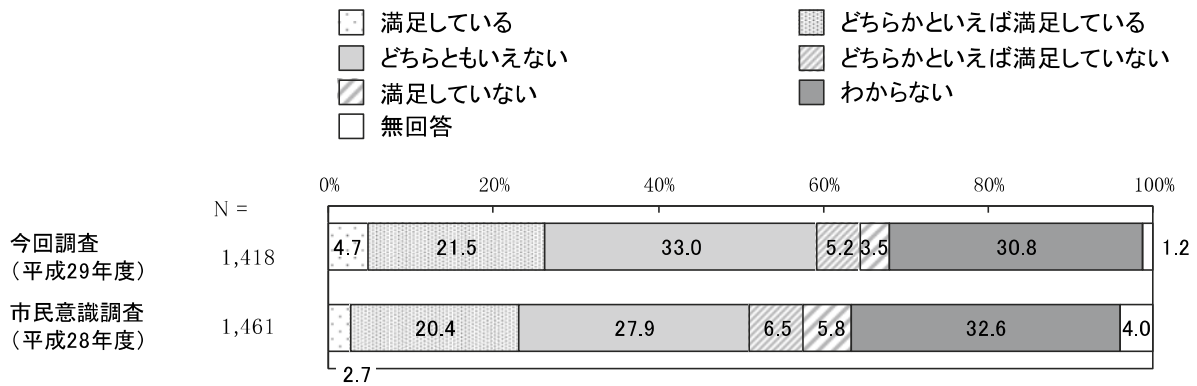


(4) 環境や暮らしについて

問 18 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

**3割近くが満足、6割が「どちらともいえない」又は「わからない」**

- ・ 東近江市の自然環境保全の取組についての満足度は、「どちらともいえない」が最も多く 33.0%、次いで「わからない」が 30.8%、これらを合わせると 63.8%となっています。
- ・ 「満足している」が 4.7%、「どちらかといえば満足している」が 21.5%、これらを合わせると 26.2%となり、3割近くの人が満足しています。一方、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせると 8.7%で、1割未満となっています。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が 3.1 ポイント増加し、不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が 3.6 ポイント減少し、評価はあがっています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では 20 歳代と 60 歳以上で、居住地区別では愛東地区、永源寺地区、平田地区で、自然環境の取組についての満足度が高くなっています。



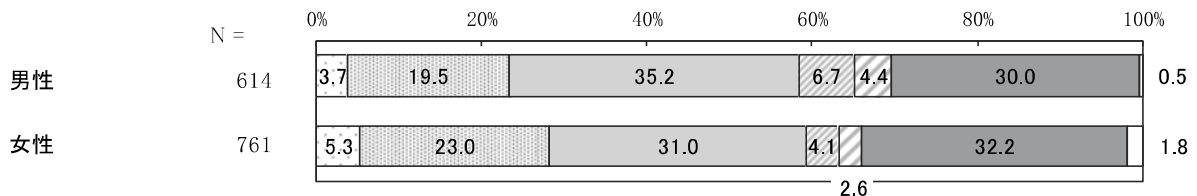
単位：%

	満足	不満	差
①今回調査(平成 29 年度)	26.2	8.7	17.5
②市民意識調査(平成 28 年度)	23.1	12.3	10.8
①－②	3.1	-3.6	6.7

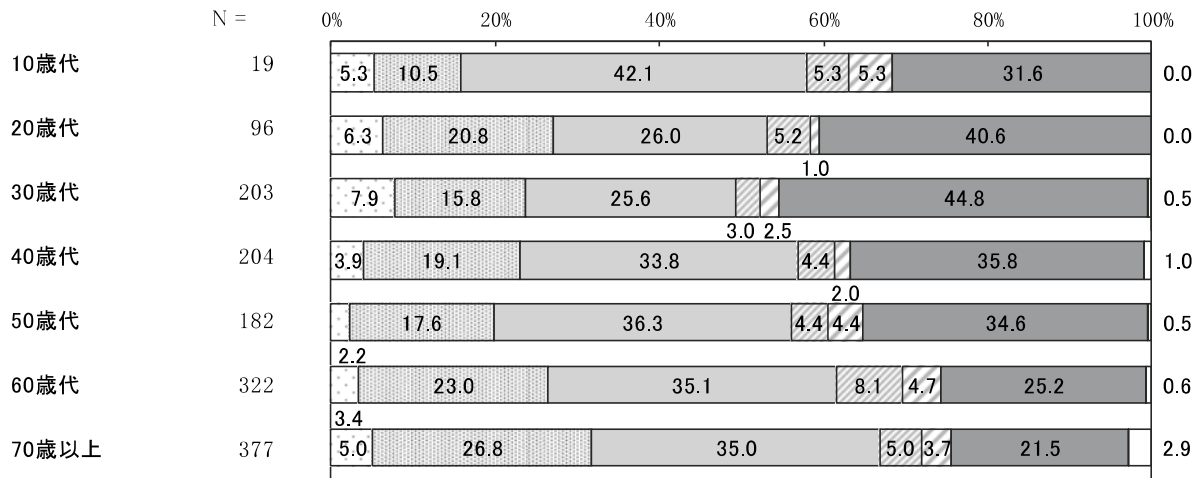
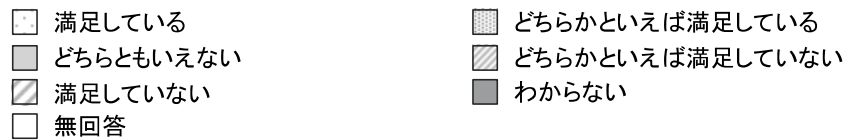
\* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

\* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

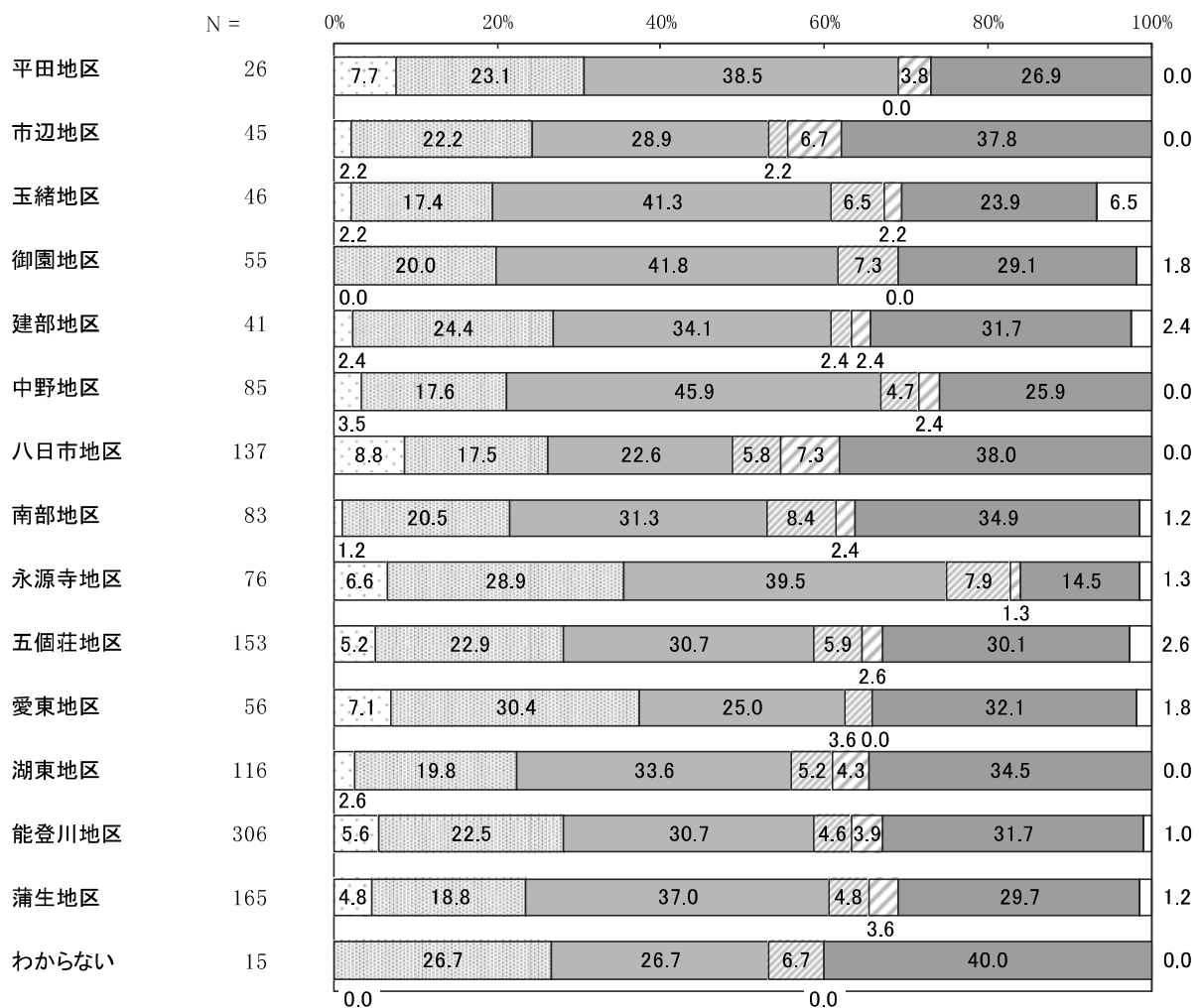
**【性別】**



【年代別】



【居住地区別】



問 19 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○1つ》

**半数以上が自然環境との関わりを感じている**

- ・ 日々の営みの中で自然環境との関わりを感じているかについては、「感じている」が17.7%、「どちらかといえば感じている」が32.5%で、これらを合わせると50.2%となり、半数以上の人が自然環境との関わりを感じています。一方、「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」を合わせると13.9%となっています。また、「どちらともえない」が25.1%、「わからない」が9.6%となっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「どちらともえない」の割合が6.3ポイント増加しています。また、感じている人（「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計）の割合が増加し、感じていない人（「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計）の割合が減少したことで、総合的な評価はあがっています。
- ・ 性別では60歳以上で、居住地区別では永源寺地区、愛東地区で、自然環境との関わりを感じている人（前述）が多くみられます。



単位：%

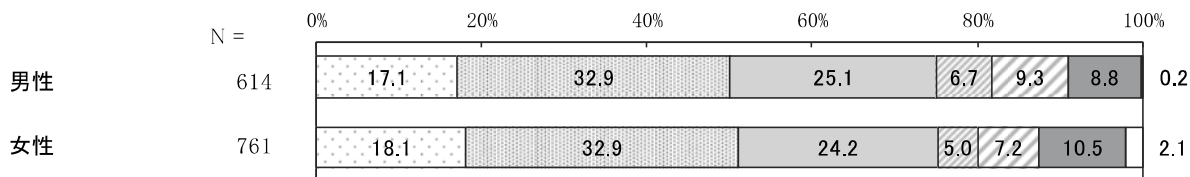
	感じている	感じていない	差
今回調査(平成 29 年度)	50.2	13.9	36.3
市民意識調査(平成 28 年度)	48.8	16.7	32.1
①－②	1.4	-2.8	4.2

\* 感じている:「感じている」と「どちらかといえば感じている」の合計

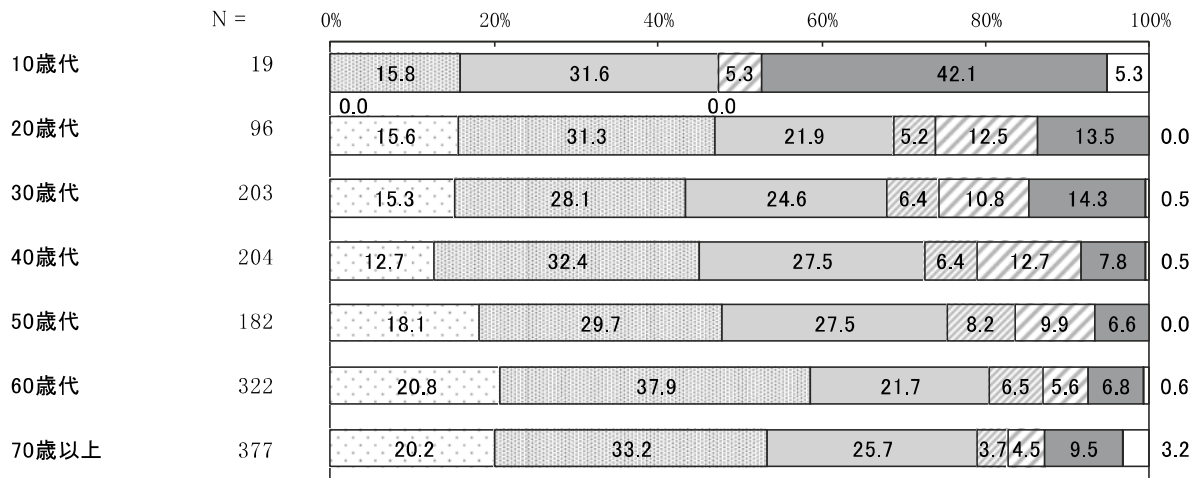
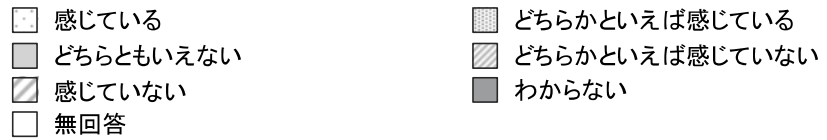
\* 感じていない:「どちらかといえば感じていない」と「感じていない」の合計

計

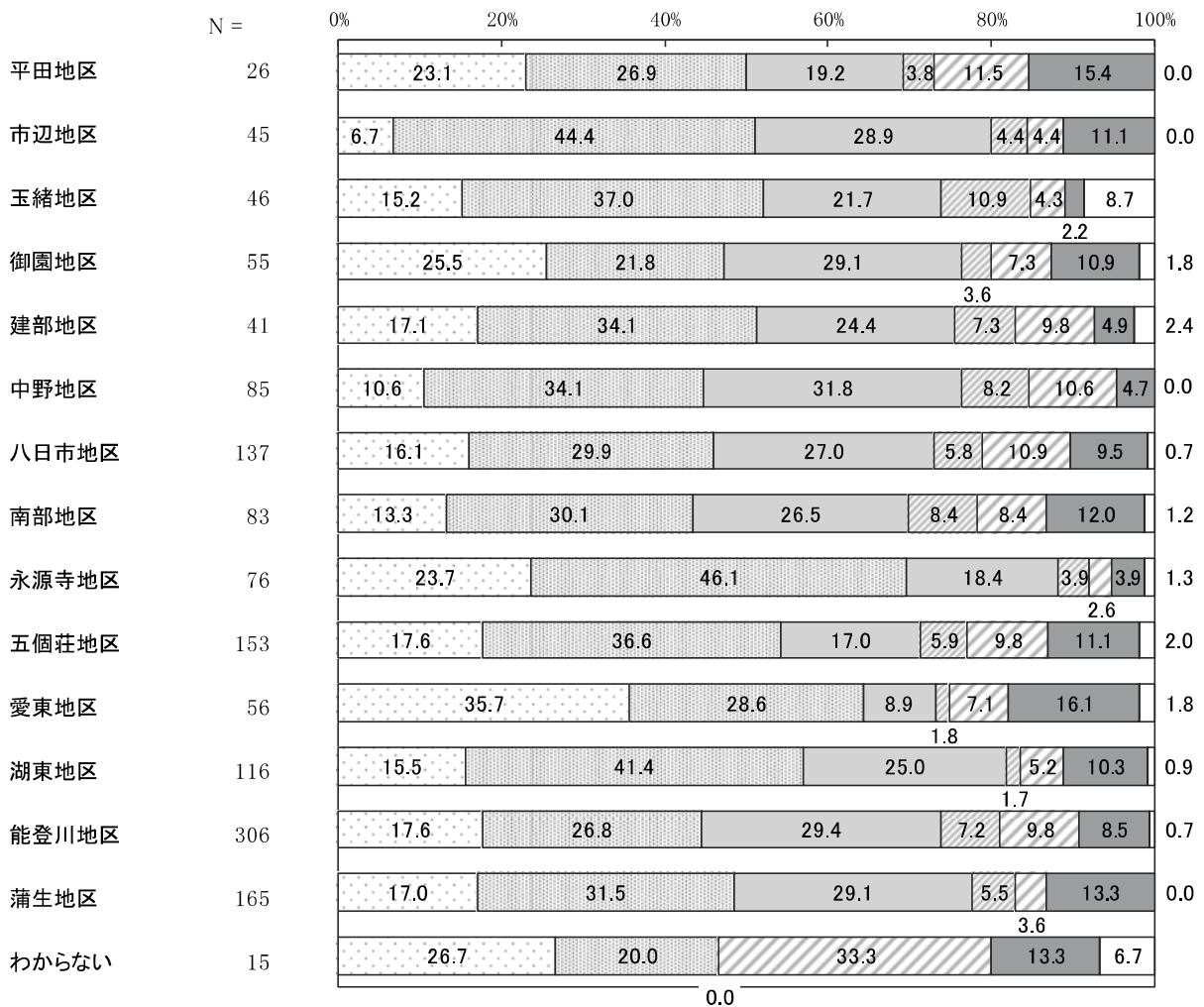
**【性別】**



【年代別】



【居住地区別】

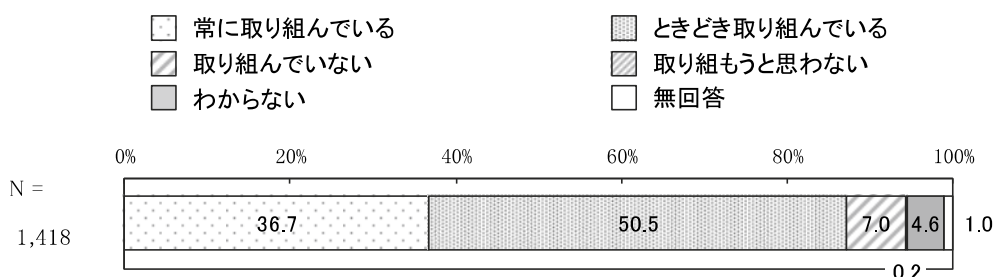


問 20 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

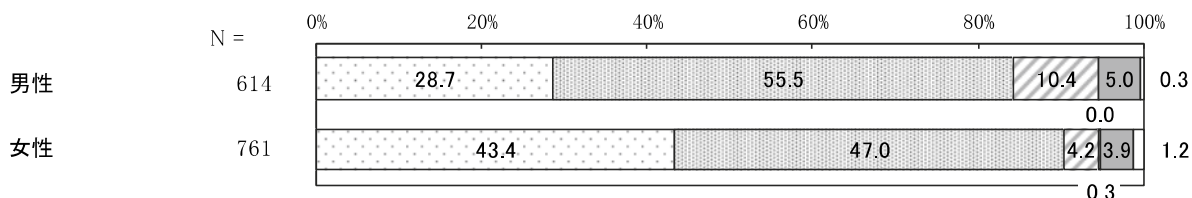
①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバックの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

**9割近くが環境にやさしい取組を行っている**

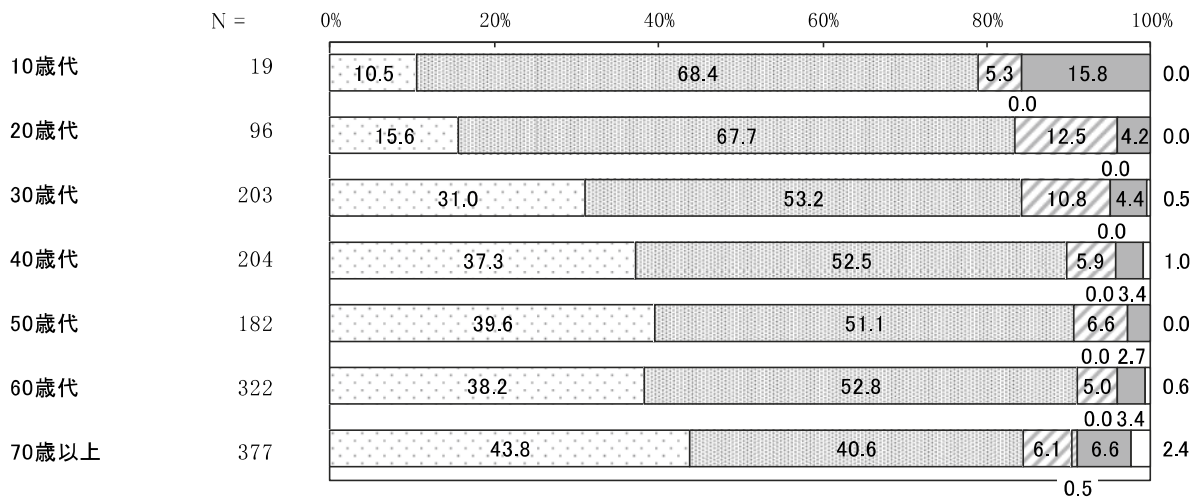
- ・ 環境にやさしい取組の実施状況については、「常に取り組んでいる」が36.7%、「ときどき取り組んでいる」が50.5%で、これらを合わせると87.2%となり、9割近くの人に取り組んでいると回答しています。一方、「取り組んでいない」は7.0%、「取り組もうと思わない」は0.2%とわずかでした。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では60歳代を除き年齢が上がるほど、居住地区別では建部地区、南部地区で、環境にやさしい取組を「常に取り組んでいる」人が多くみられます。



**【性別】**

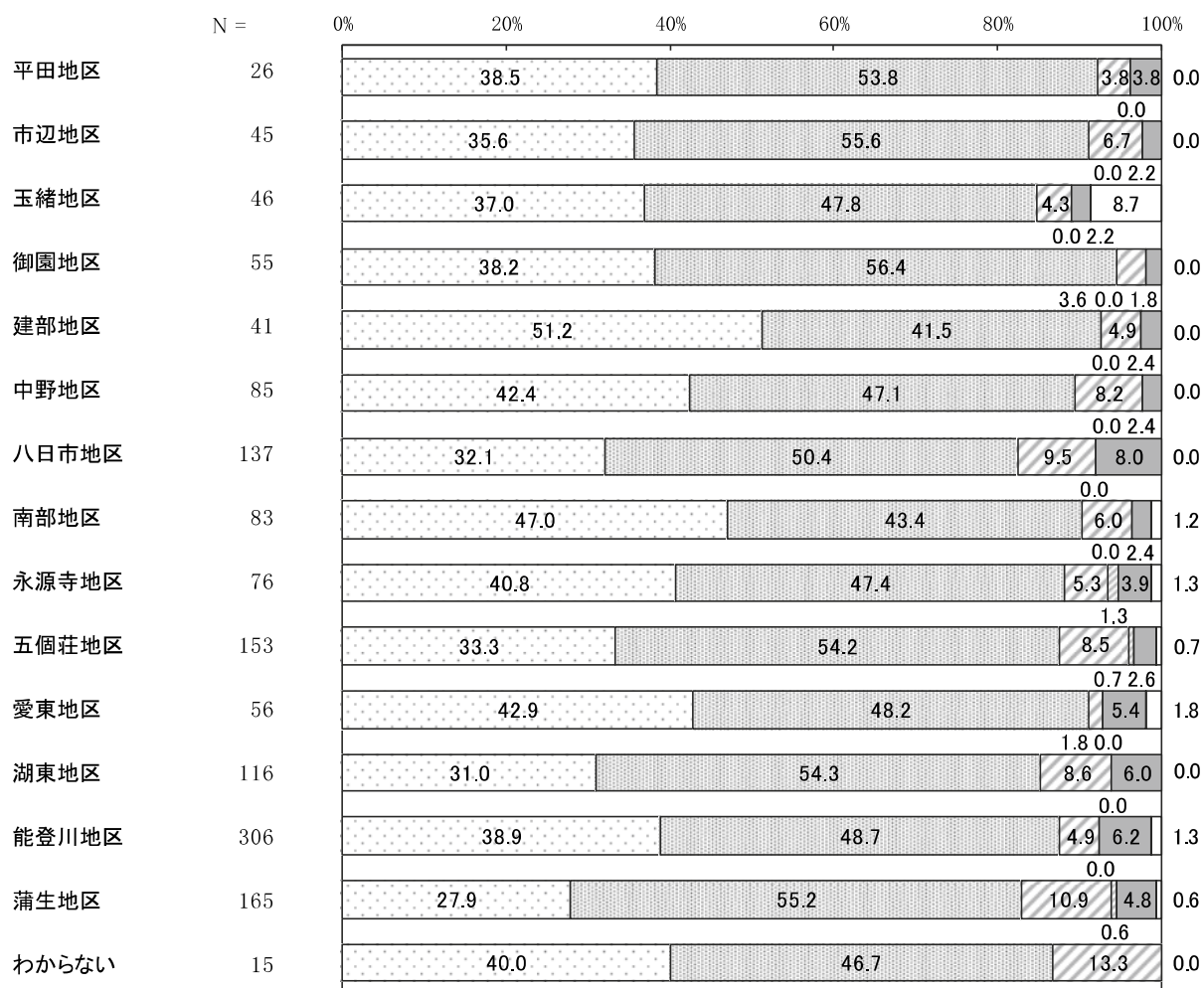


**【年代別】**



【居住地区別】

- 常に取り組んでいる
- とくとき取り組んでいる
- 取り組んでいない
- 取り組もうと思わない
- わからない
- 無回答

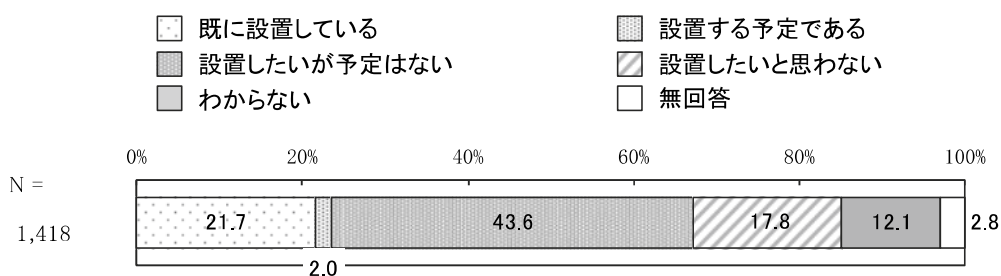


②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電や雨水貯留施設、太陽熱温水器、エネファーム、蓄電システムの設置等)《○1つ》

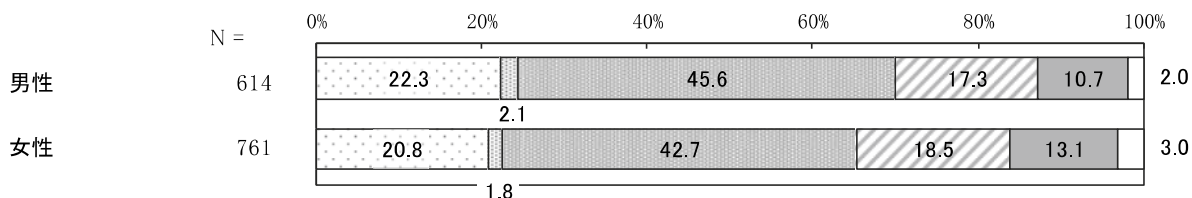
※エネファーム…家庭においてガス等を使って発電し、発電時の排熱を給湯等に利用するシステム

**2割が設置(予定含む)、設置したいも含めると4割**

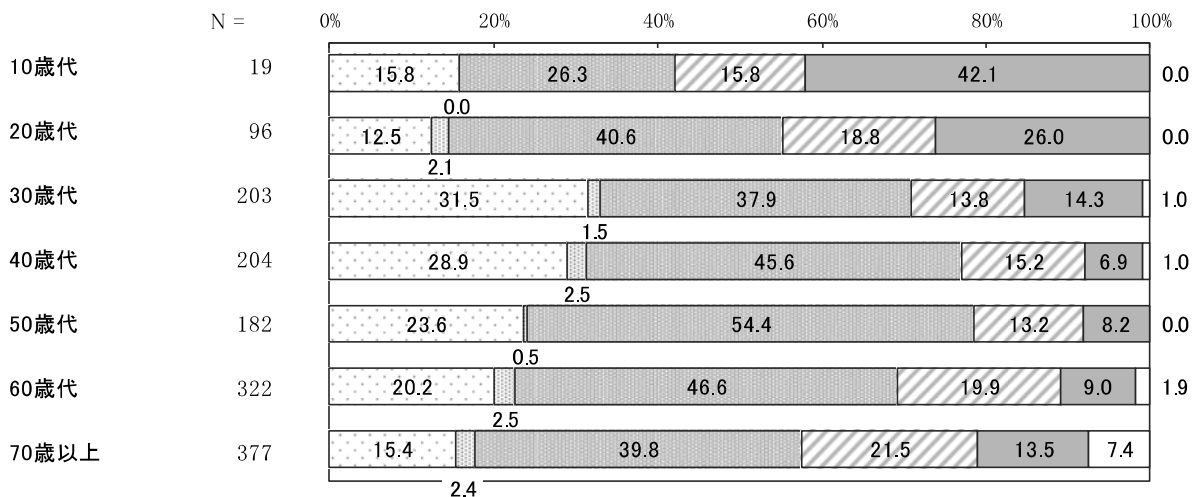
- ・ 自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置しているかについては、「既に設置している」が21.7%、「設置する予定である」が2.0%で、これらを合わせると23.7%となり、2割の人が設置して(予定含む)います。また、「設置したいが予定はない」は43.6%で、これも合わせると7割近く(67.3%)となります。一方、「設置したいと思わない」は17.8%となっています。
- ・ 年代別では30~40歳代で、居住地区別では建部地区、蒲生地区、中野地区で、予定も含め自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置している人が多くみられます。



**【性別】**

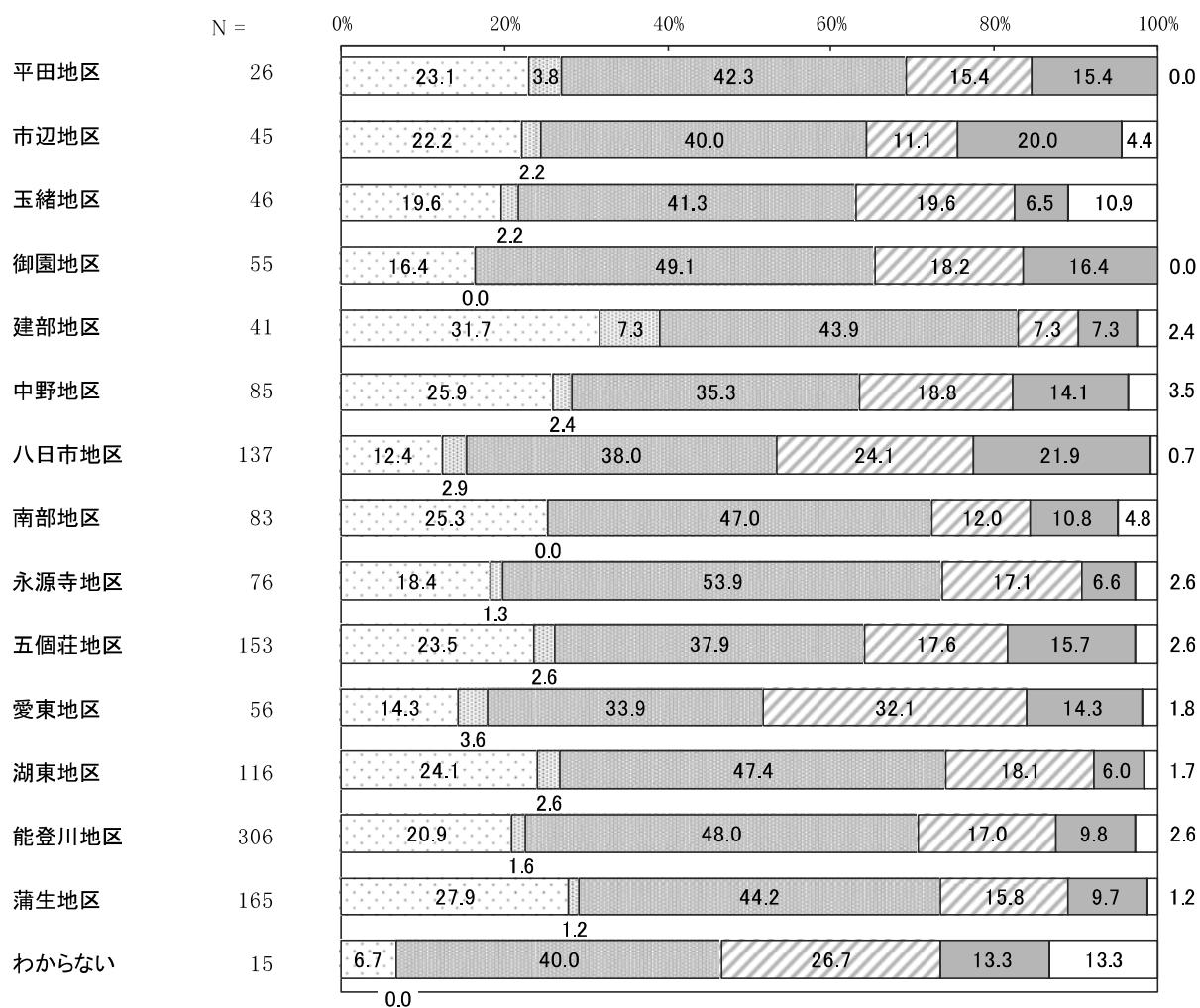


**【年代別】**



【居住地区別】

- 既に設置している
- 設置したいが予定はない
- わからない
- ▨ 設置する予定である
- ▨ 設置したいと思わない
- 無回答

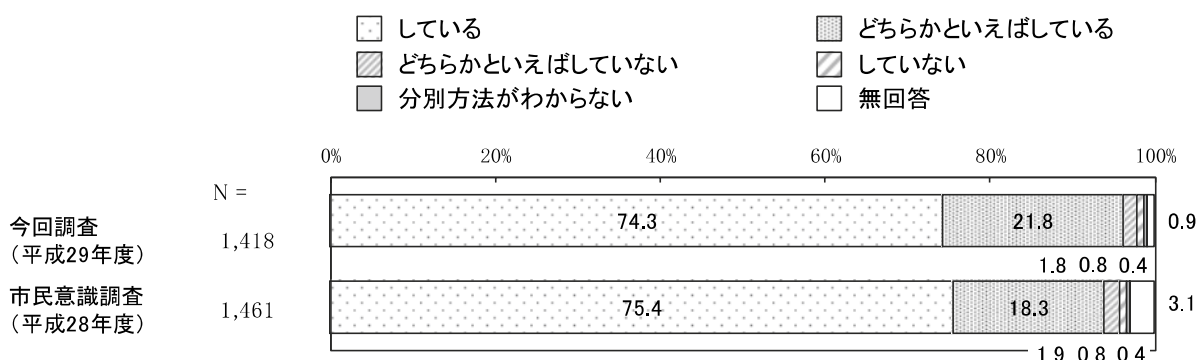




問 21 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

**9割以上がごみと資源の分別をしている**

- ・ ごみと資源の分別をしているかについては、「している」が74.3%と最も多く、次の「どちらかといえばしている」の21.8%と合わせると96.1%となり、ほとんどの人が分別をしています。一方、「どちらかといえばしていない」と「していない」を合わせても、わずか2.6%となっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、ごみと資源の分別をしている人（「している」と「どちらかといえばしている」の合計）の割合は、93.7%から2.4ポイント増加しています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では20歳代を除き年齢が上がるほど、居住地区別では愛東地区、平田地区、建部地区で、ごみと資源の分別を「している」人が多くみられます。



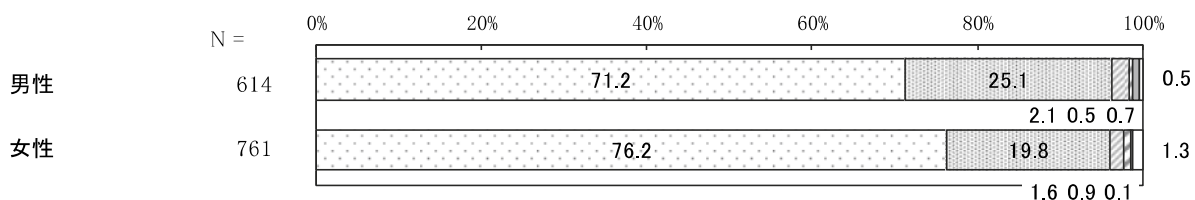
単位：%

	している	していない	差
今回調査(平成29年度)	96.1	2.6	93.5
市民意識調査(平成28年度)	93.7	2.7	91.0
①-②	2.4	-0.1	2.5

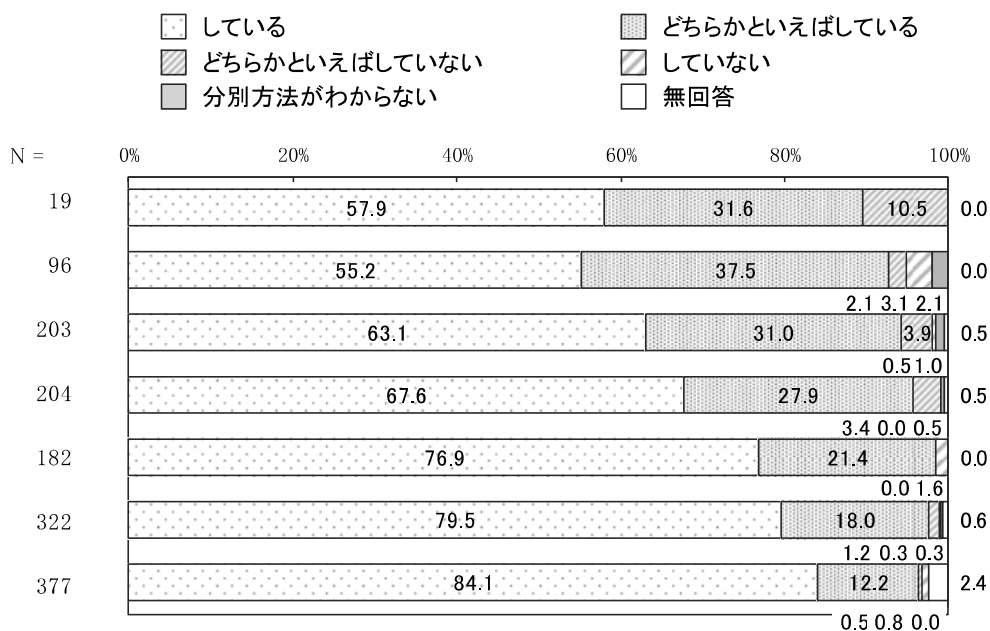
\*している:「している」と「どちらかといえばしている」の合計

\*していない:「どちらかといえばしていない」と「していない」の合計

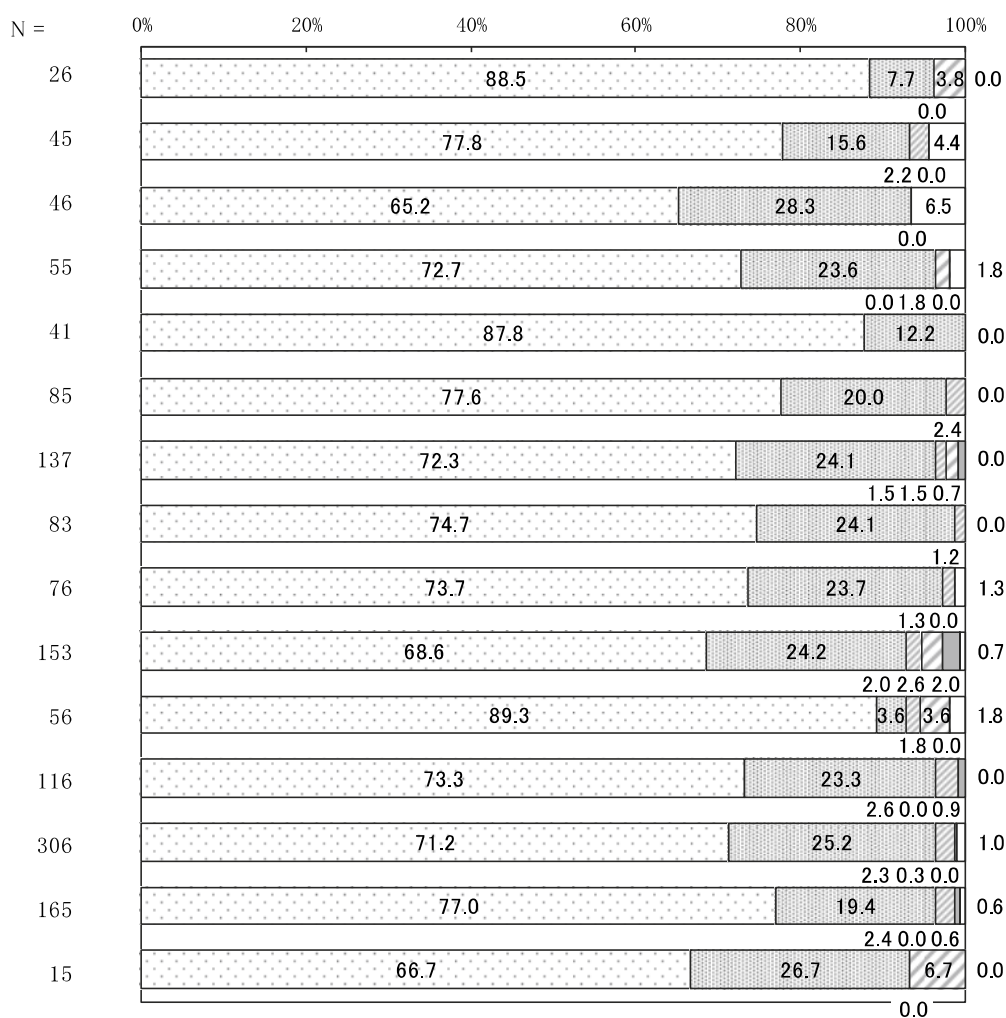
**【性別】**



【年代別】



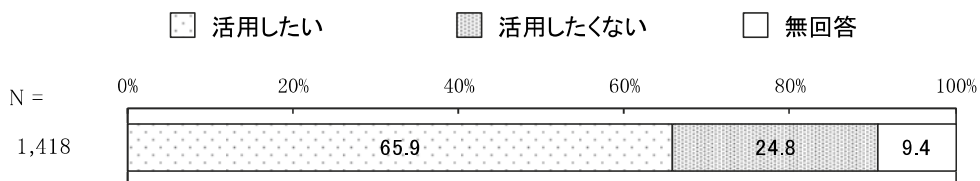
【居住地区別】



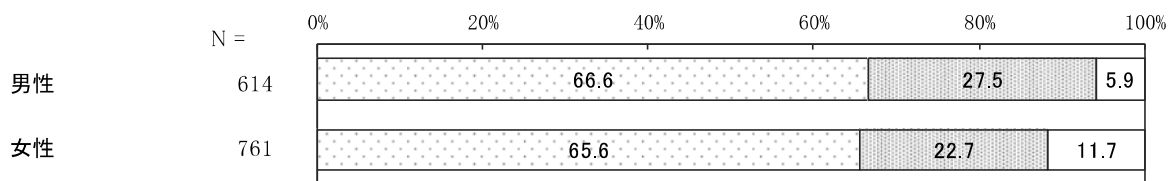
問 22 市内の土地の約56%が森林であり、鈴鹿山系の山間部では木材の生産が行われています。  
あなたは、住宅等の新築・改築時に市内産木材を活用したいと思いますか。《○1つ》

**7割近くが市内産木材を「活用したい」**

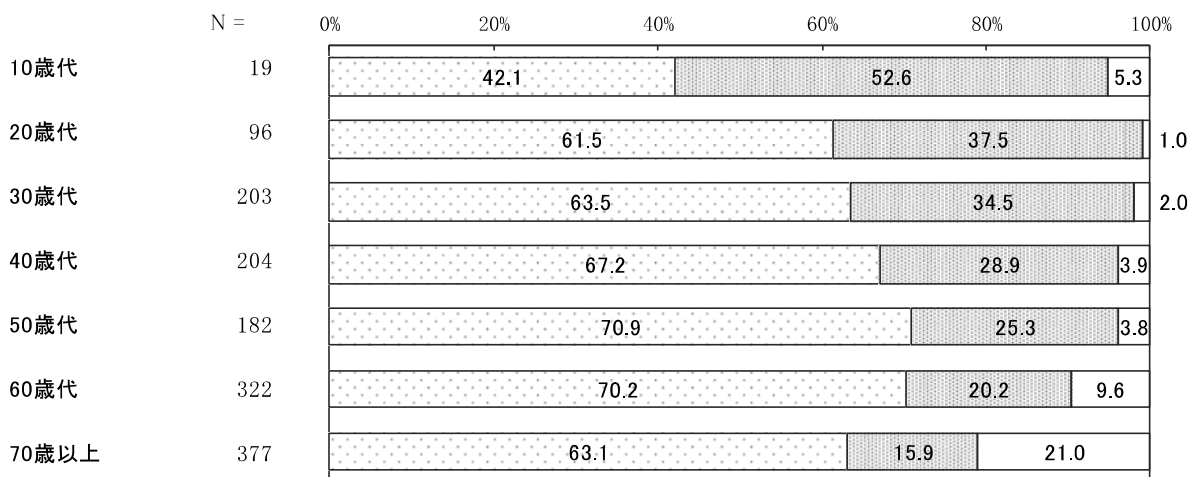
- ・ 住宅等の新築・改築時に市内産木材を活用したいと思うかについては、「活用したい」が65.9%で、「活用したくない」が24.8%となっています。
- ・ 年代別では60歳以上を除き年齢があがるほど、居住地区別では御園地区、愛東地区、八日市地区で、住宅等の新築・改築時に市内産木材の活用意向が強くなっています。



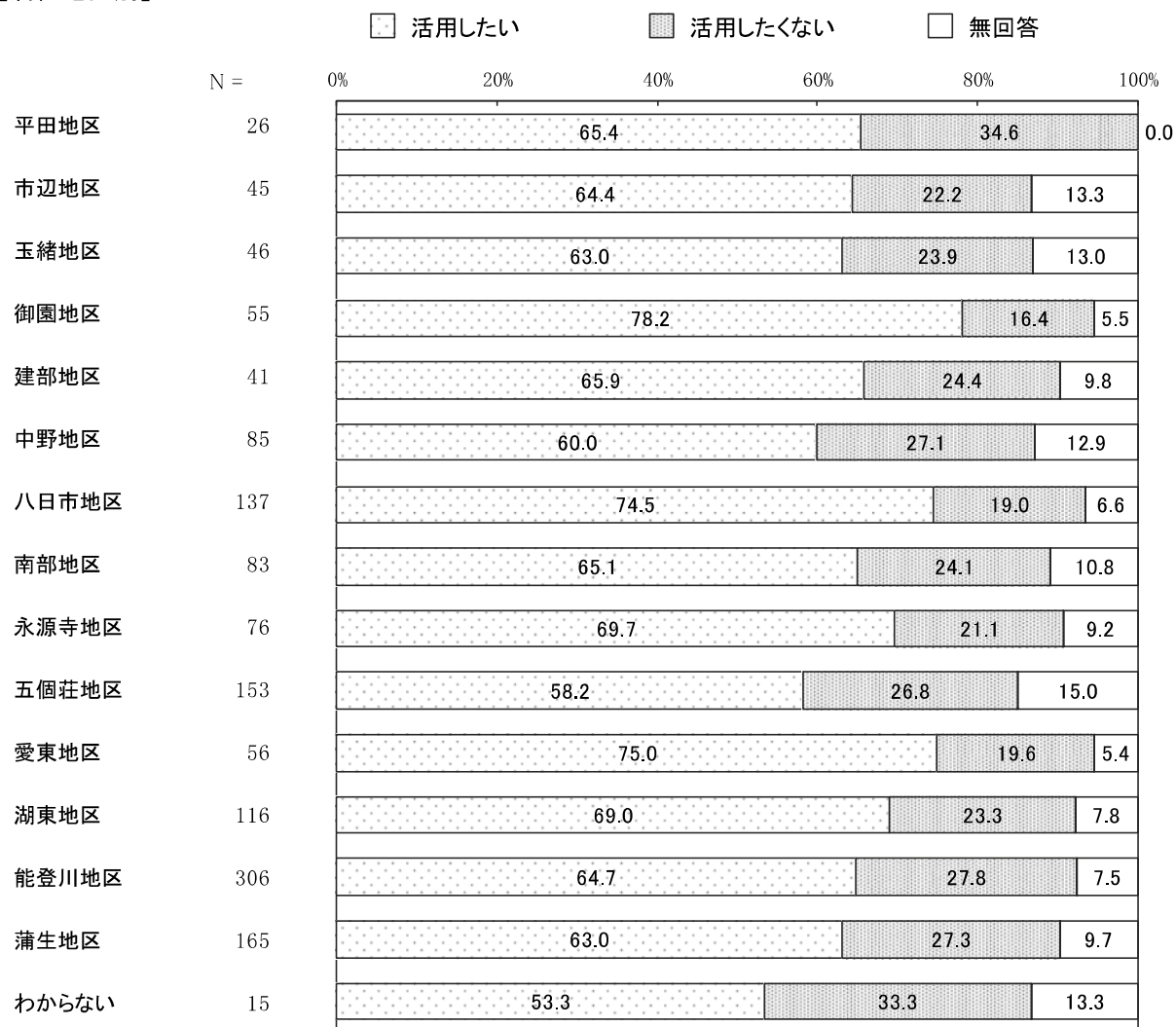
**【性別】**



**【年代別】**



【居住地区別】



問 22-1 問 22 で「1. 活用したい」とお答えの方にお聞きします。

具体的に住宅等のどの部分で活用したいですか。《あてはまるものすべてに○》

#### 4割以上が「構造材（柱）」や「床材」

- ・ 住宅等のどの部分で活用したいかについては、「床材」が 43.8%、「構造材（柱）」43.4%の 2つが多くあげられています。また、「わからない」と回答する人も 3割います。
- ・ 性別では、男性は「構造材（柱）」、女性は「床材」への活用を希望する人が最も多くなっています。
- ・ 年代別では、20歳代、40歳代、70歳以上は「構造材（柱）」、30歳代、50～60歳代は「床材」への活用を希望する人が最も多くなっています。（10歳代は有効回答数が 8件と少ないため、除外しています。）

#### 【性別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	構造材（柱）	天井材	壁面材	床材	わからない	その他	無回答
男性	409	50.4	32.3	33.5	45.5	24.9	4.4	1.0
女性	499	37.1	25.9	23.6	42.7	35.3	4.2	1.2

#### 【年代別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	構造材（柱）	天井材	壁面材	床材	わからない	その他	無回答
10歳代	8	37.5	25.0	37.5	37.5	25.0	0.0	0.0
20歳代	59	40.7	5.1	18.6	28.8	35.6	1.7	1.7
30歳代	129	38.0	24.8	27.9	40.3	37.2	3.1	0.0
40歳代	137	42.3	23.4	26.3	38.0	35.0	4.4	0.0
50歳代	129	40.3	29.5	24.0	45.7	35.7	2.3	0.0
60歳代	226	45.1	34.5	35.0	49.1	28.8	3.5	0.9
70歳以上	238	48.3	33.6	27.7	46.6	21.8	8.0	2.9

【居住地区別】

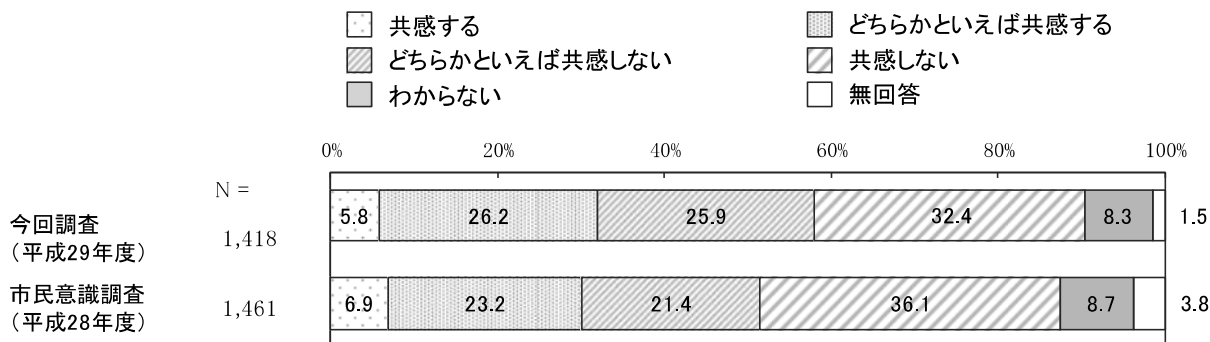
単位:%

区 分	有効回答数 (件)	構造材 (柱)	天井材	壁面材	床材	わからない	その他	無回答
平田地区	17	47.1	41.2	29.4	41.2	35.3	5.9	0.0
市辺地区	29	37.9	13.8	6.9	31.0	24.1	10.3	3.4
玉緒地区	29	48.3	34.5	31.0	51.7	20.7	6.9	3.4
御園地区	43	46.5	37.2	23.3	60.5	20.9	2.3	2.3
建部地区	27	48.1	22.2	25.9	44.4	25.9	7.4	0.0
中野地区	51	49.0	23.5	23.5	35.3	33.3	5.9	0.0
八日市地区	102	48.0	27.5	25.5	40.2	31.4	6.9	0.0
南部地区	54	37.0	24.1	24.1	37.0	40.7	5.6	0.0
永源寺地区	53	52.8	32.1	34.0	52.8	28.3	1.9	1.9
五個荘地区	89	38.2	28.1	29.2	42.7	31.5	3.4	1.1
愛東地区	42	40.5	28.6	38.1	45.2	33.3	4.8	0.0
湖東地区	80	45.0	22.5	26.3	43.8	27.5	1.3	2.5
能登川地区	198	40.9	31.3	29.3	44.9	31.8	4.0	0.5
蒲生地区	104	41.3	30.8	33.7	42.3	28.8	2.9	1.9
わからない	8	25.0	25.0	37.5	50.0	50.0	12.5	0.0

問 23 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

6割近くが「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない

- ・ 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、「共感する」と「どちらかといえば共感する」を合わせた割合が32.0%で、「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」を合わせた割合が58.3%となっており、共感しない人が多くなっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「どちらかといえば共感しない」の割合が4.5ポイント、「どちらかといえば共感する」の割合が3.0ポイントそれぞれ増加している一方、「共感しない」の割合が3.7ポイント減少しています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では70歳以上を除き、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に共感しない人（「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計）が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、建部地区、中野地区、玉緒地区、永源寺地区、南部地区で共感しない人（前述）が、御園地区、平田地区で共感する人（「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計）が多くみられます。

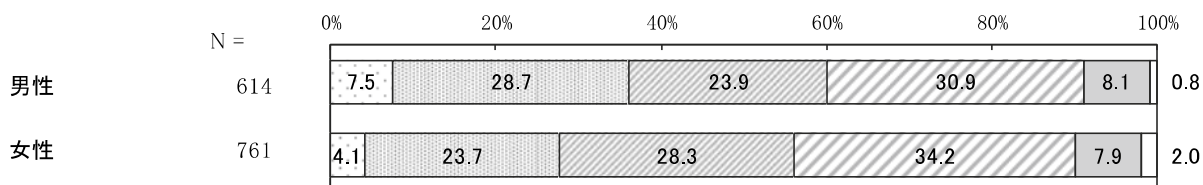


単位：%

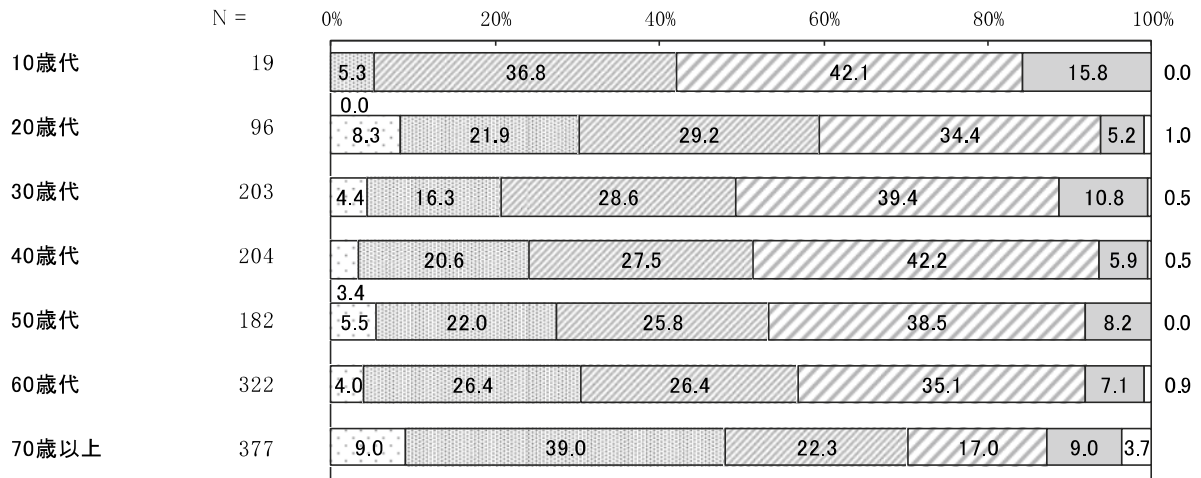
	共感する	共感しない	差
今回調査(平成29年度)	32.0	58.3	-26.3
市民意識調査(平成28年度)	30.1	57.5	-27.4
①-②	1.9	0.8	1.1

\* 共感する:「共感する」と「どちらかといえば共感する」の合計  
 \* 共感しない:「どちらかといえば共感しない」と「共感しない」の合計

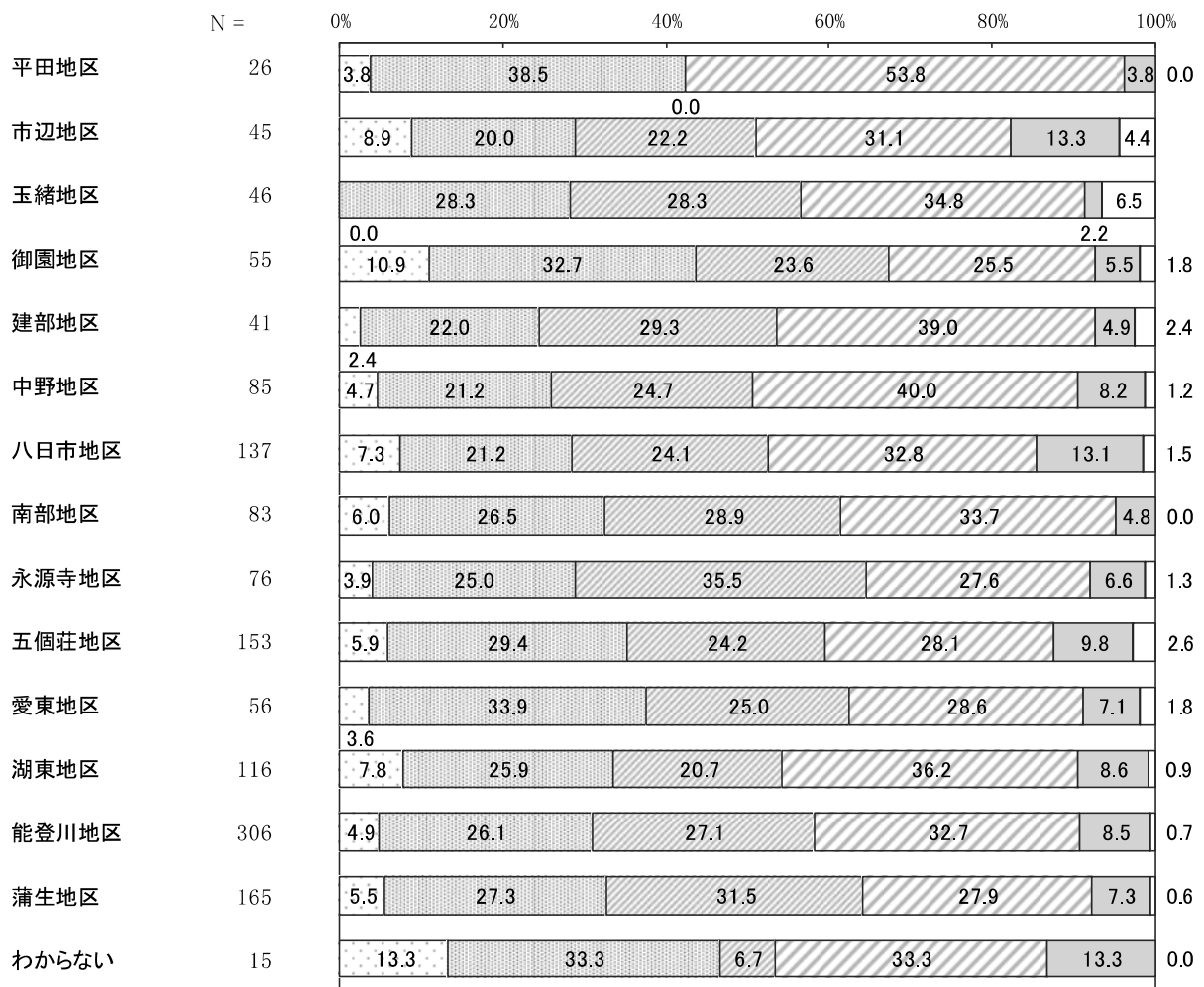
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

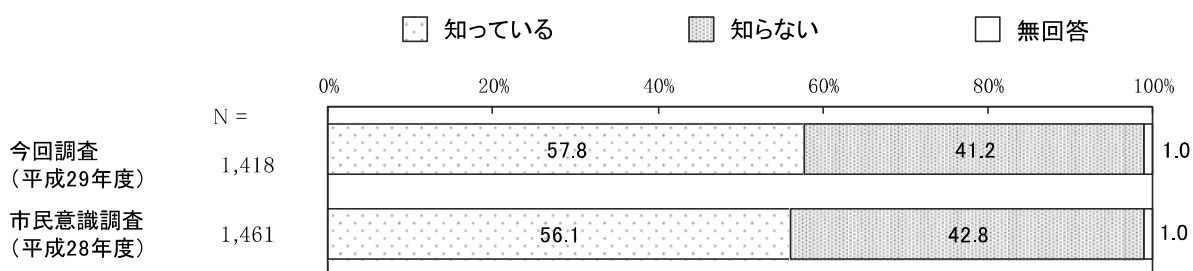




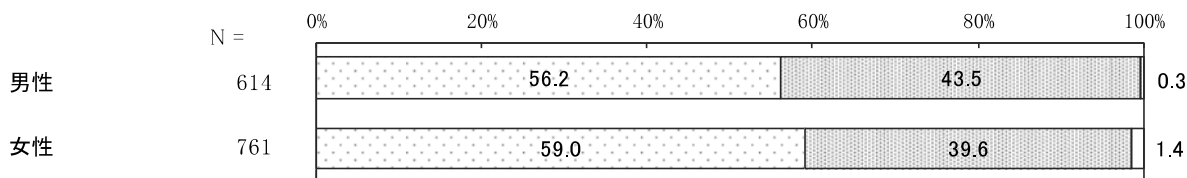
問 24 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれた時の相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることをご存知ですか。《○1つ》

**6割近くが「知っている」、認知度は57.8%**

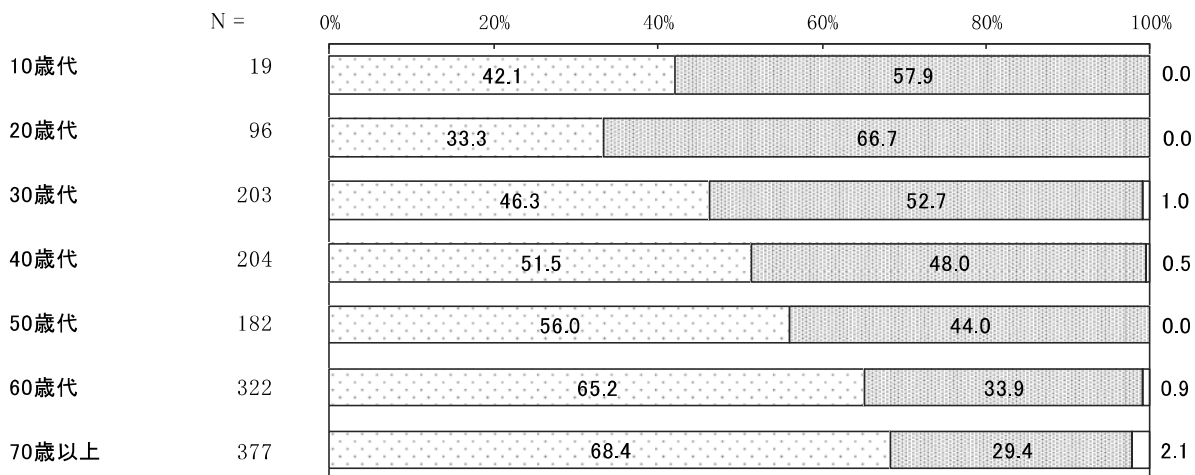
- ・ 市役所内に消費生活センターがあることを知っているかについては、「知っている」が57.8%、「知らない」が41.2%と、知っている人が多くなっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、認知度（「知っている」と回答した人の割合）が若干増加しています。
- ・ 年代別では、若い世代の認知度は低く、年齢があがるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、五個荘地区、御園地区、永源寺地区、建部地区で認知度が高く、八日市地区で低くなっています。



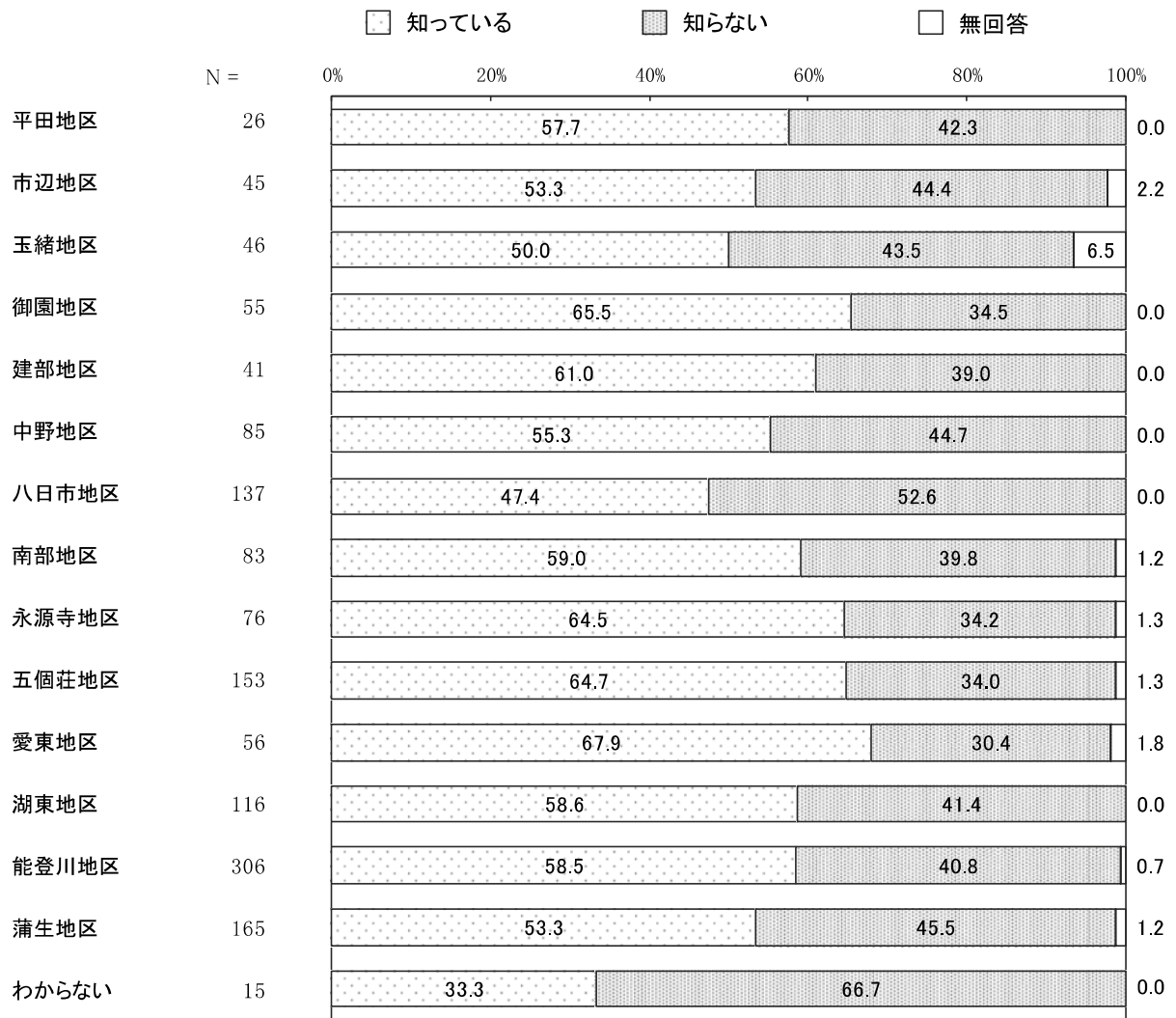
**【性別】**



**【年代別】**



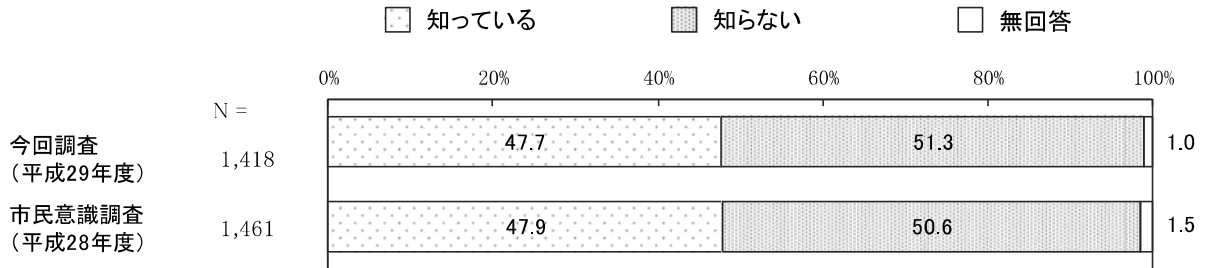
【居住地区別】



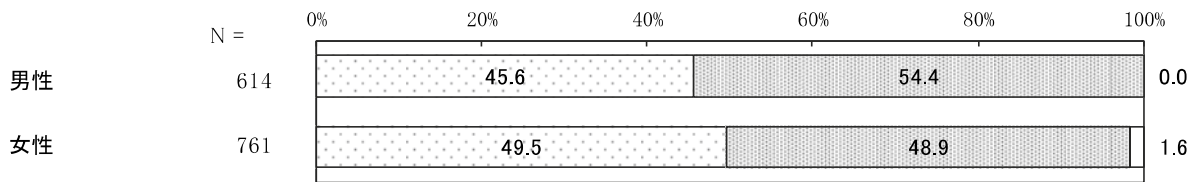
問 25 あなたは、市役所内の市民生活相談室で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることをご存知ですか。《○1つ》

**半数以上が「知らない」**

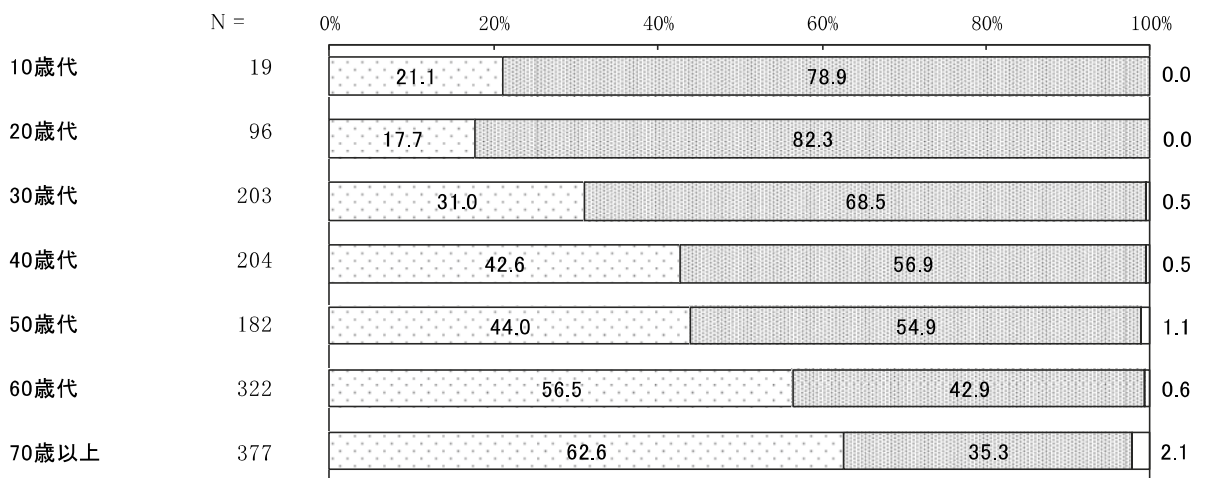
- ・ 市役所内の市民生活相談室で法律相談や登記相談等を受けられることについては、「知っている」が47.7%、「知らない」が51.3%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 年代別では、若い世代の認知度は低く、年齢があがるほど認知度が高くなる傾向がみられます。
- ・ 居住地区別では、愛東地区、永源寺地区で認知度が高く、八日市地区、蒲生地区で低くなっています。



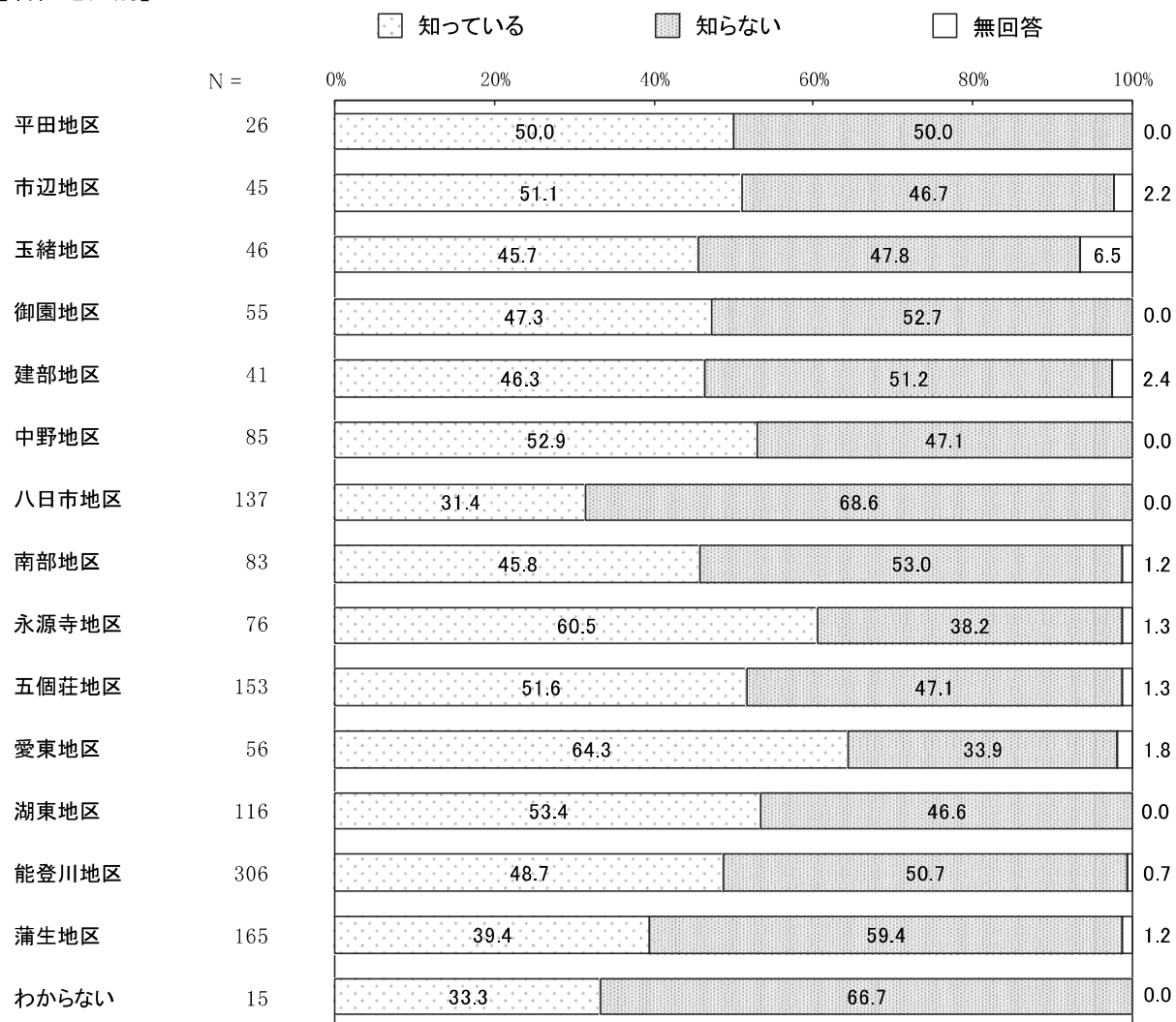
**【性別】**



**【年代別】**



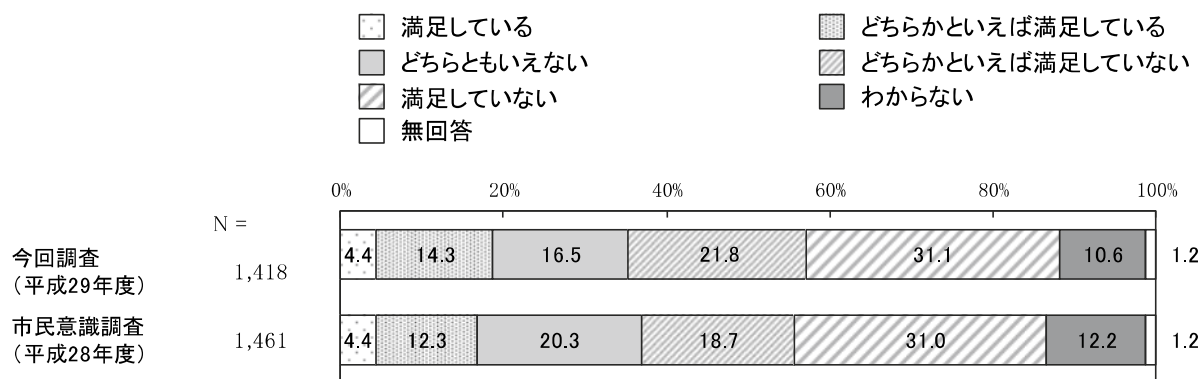
【居住地区別】



問 26 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

**半数以上が満足していない**

- ・ 公共交通に対する満足度については、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が 18.7%であるのに対し、満足していない（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が 52.9%と、満足していない人が多くなっています。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、「どちらともいえない」や「わからない」の割合が減少し、満足（前述）の割合が 2.0 ポイント増加し、満足していない（前述）の割合が 3.2 ポイント増加し、満足度が下がっています。
- ・ 年代別では、30～50 歳代の働き盛り世代で満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、市辺地区、蒲生地区で満足度が低く、能登川地区で満足度が高くなっています。



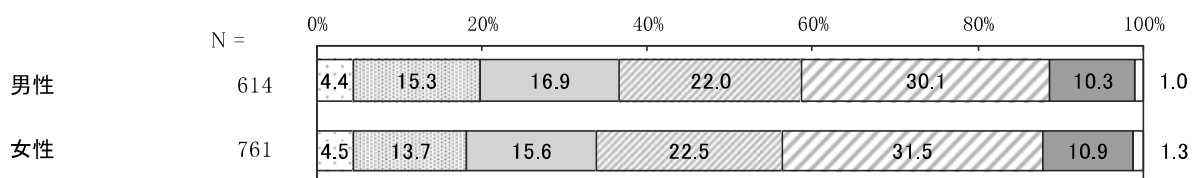
単位：%

	満足	不満	差
①今回調査(平成 29 年度)	18.7	52.9	-34.2
②市民意識調査(平成 28 年度)	16.7	49.7	-33.0
①-②	2.0	3.2	-1.2

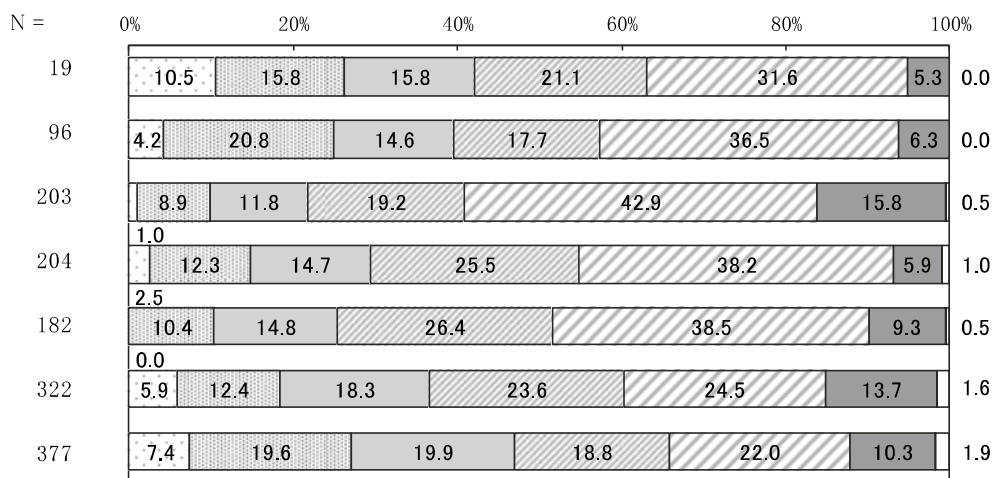
\* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

\* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

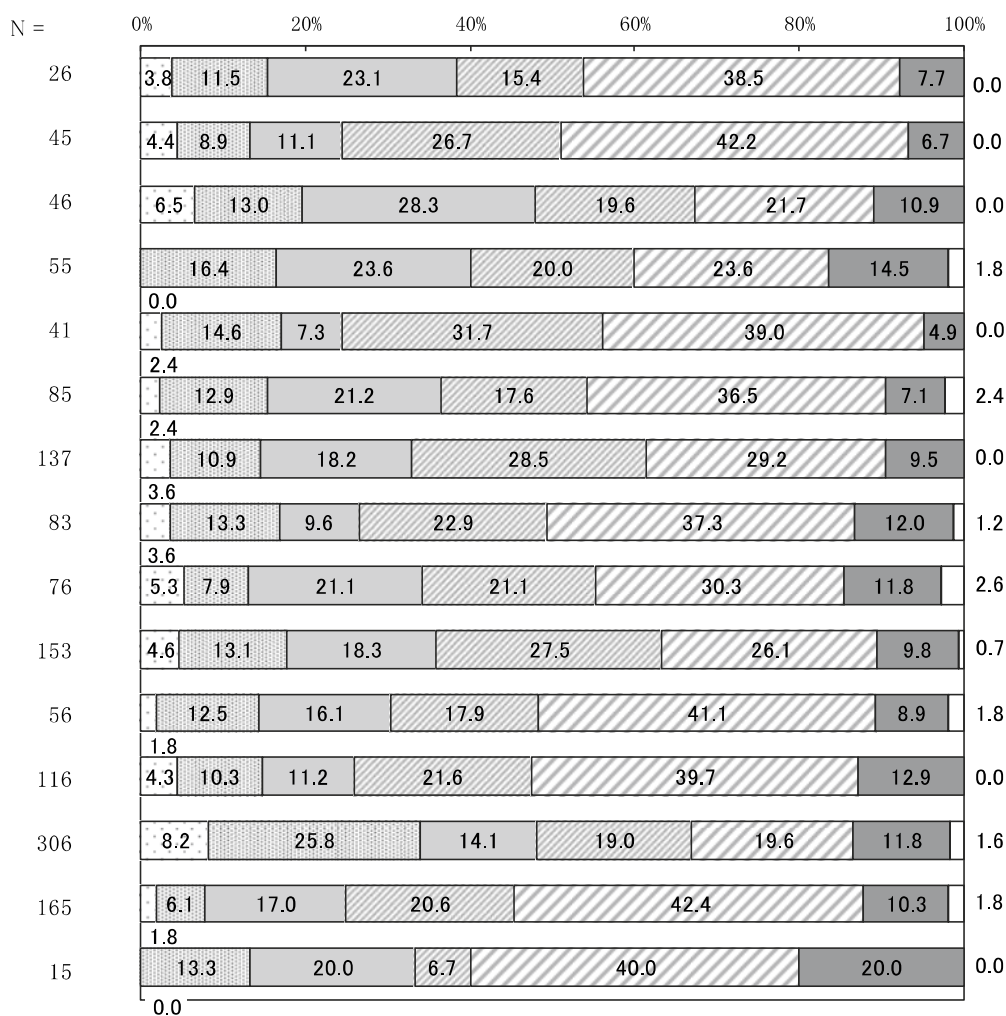
**【性別】**



【年代別】



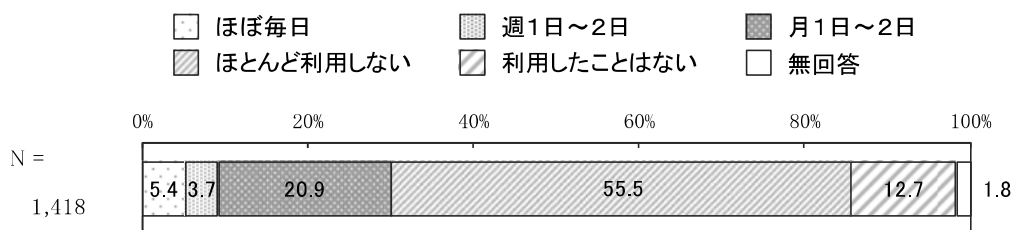
【居住地区別】



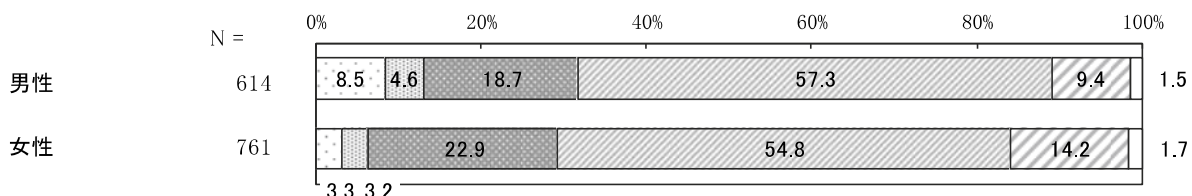
問 27 あなたは、JR琵琶湖線をどの程度利用しますか。《○1つ》

**7割近くが利用していない**

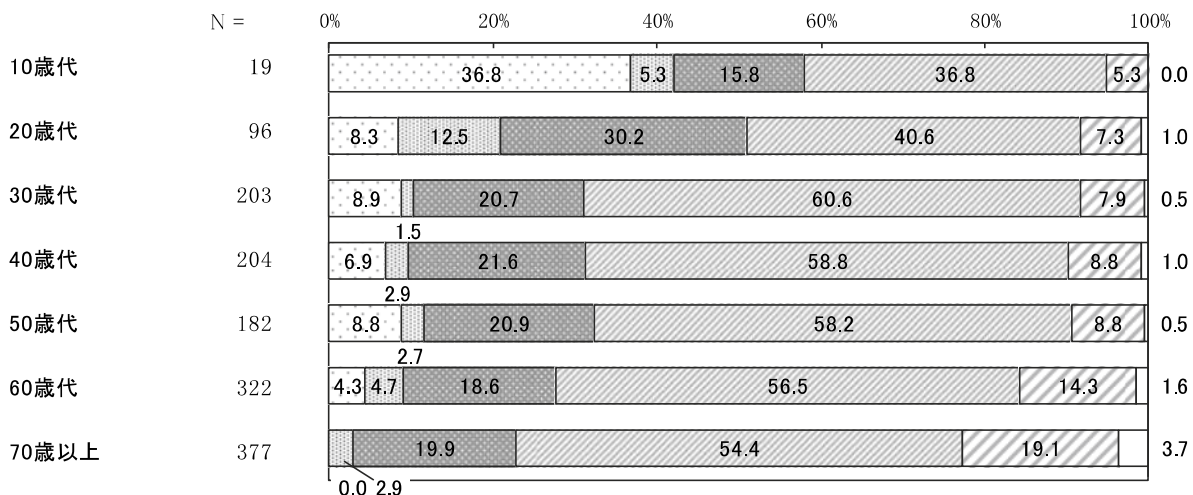
- ・ JR琵琶湖線の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が55.5%と最も多く、次の「利用したことはない」12.7%を合わせると68.2%と、7割近くの人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は30.0%で、その内訳は「月1日～2日」が20.9%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日」5.4%、「週1日～2日」が3.7%となっています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では10～20歳代で、JR琵琶湖線を利用している人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、能登川地区で「ほぼ毎日」利用している人が多くみられます。一方、玉緒地区、永源寺地区では利用していない人（「ほとんど利用しない」と「利用したことはない」の合計）が多くみられます。



**【性別】**

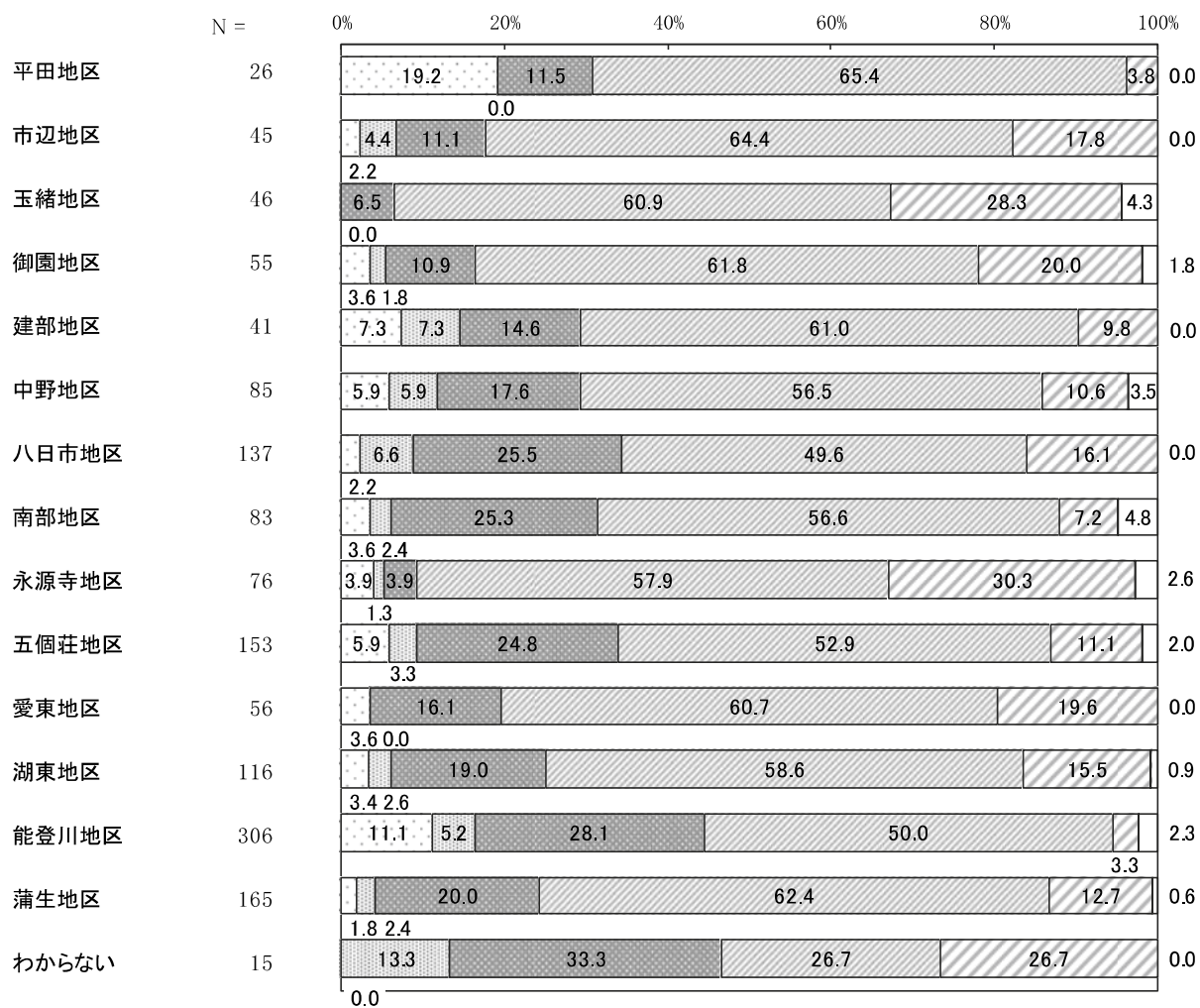


**【年代別】**



【居住地区別】

ほぼ毎日
  週1日～2日
  月1日～2日  
 ほとんど利用しない
  利用したことはない
  無回答



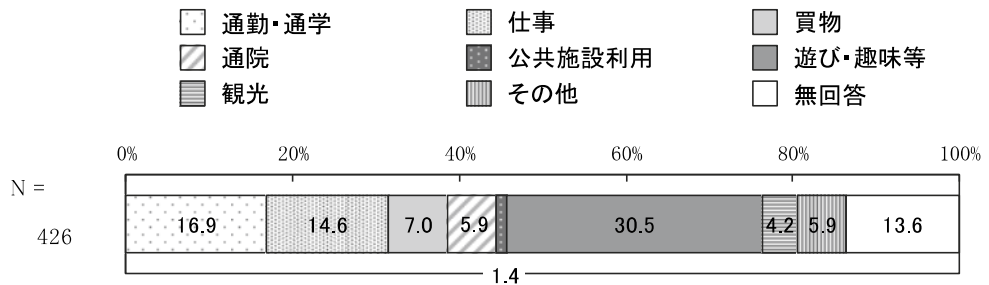


問 27-1 問 27 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1 日～2 日」「3. 月 1 日～2 日」とお答えの方にお聞きします。

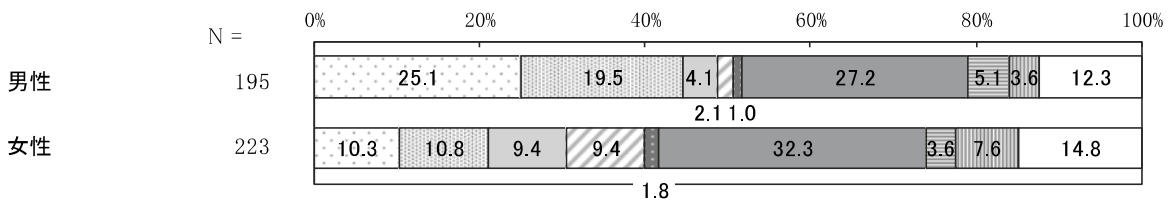
J R 琵琶湖線を利用する目的は何ですか。《○ 1 つ》

**J R 琵琶湖線の利用目的は「遊び・趣味等」、「通勤・通学」、「仕事」**

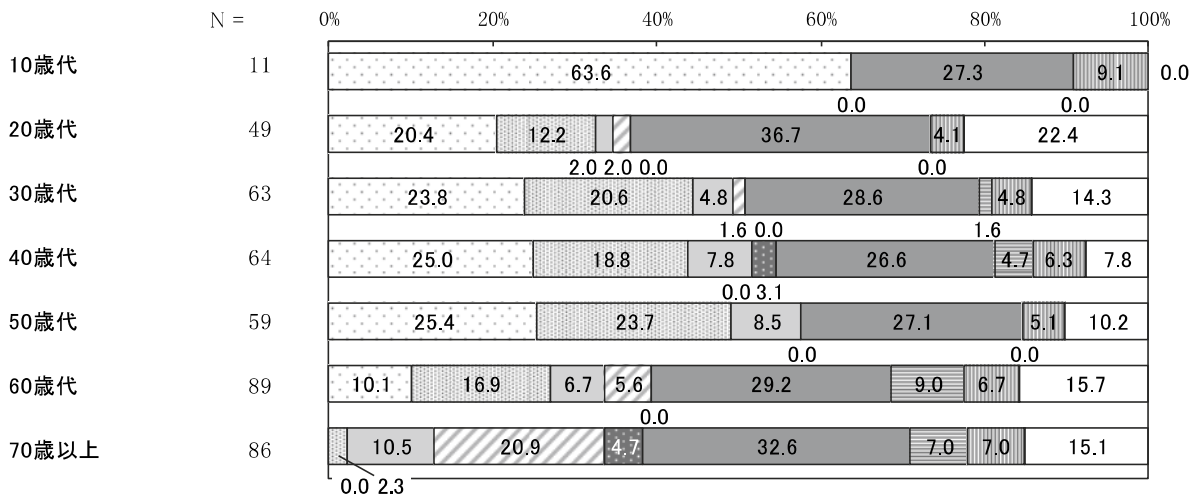
- ・ J R 琵琶湖線の利用目的については、「遊び・趣味等」が 30.5%と最も多く、次いで「通勤・通学」16.9%、「仕事」14.6%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「遊び・趣味等」が最も多くなっていますが、男性は女性より「通勤・通学」や「仕事」での利用が、女性は男性より「遊び・趣味」での利用が多くなっています。年代別では、50 歳代までは「通勤・通学」や「仕事」での利用が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、御園地区、永源寺地区で「通勤・通学」での利用が多く、五個荘地区、蒲生地区で「遊び・趣味等」での利用が多くなっています。



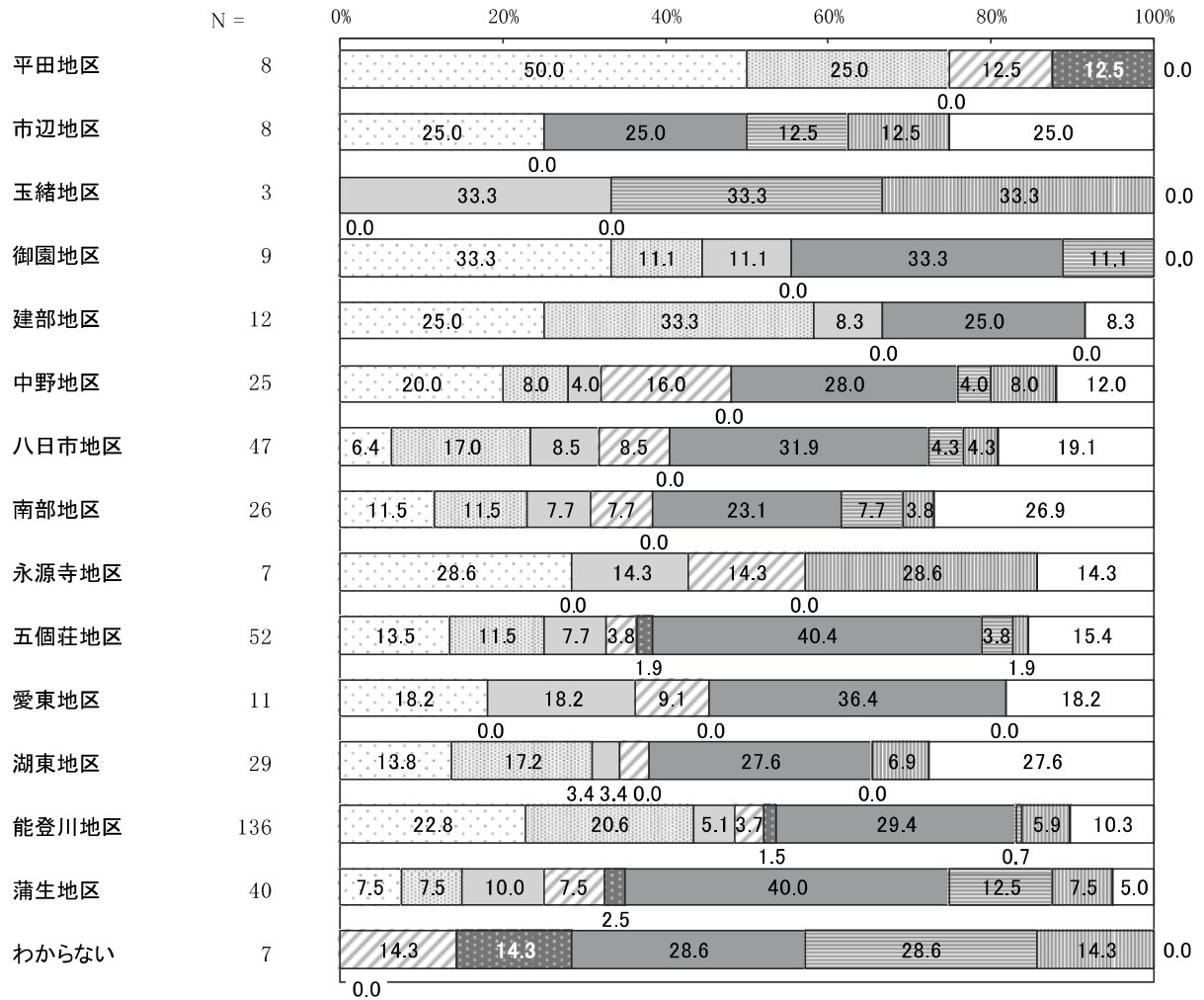
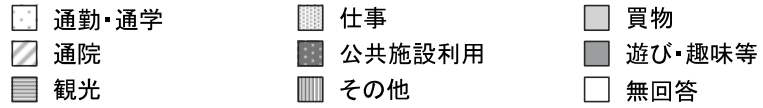
**【性別】**



**【年代別】**



【居住地区別】

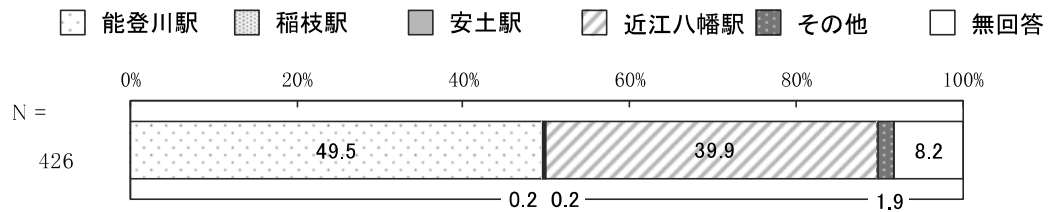


問 27-2 問 27 で「1. ほぼ毎日」「2. 週 1 日～2 日」「3. 月 1 日～2 日」とお答えの方にお聞きします。

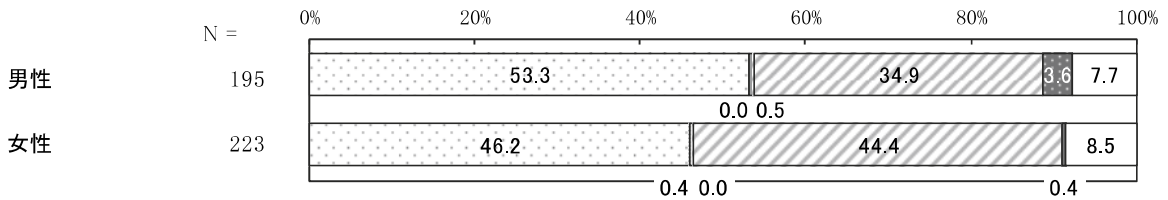
J R 琵琶湖線を利用するときの乗車駅は何駅ですか。《○1つ》

**乗車駅は「能登川駅」と「近江八幡駅」が多い**

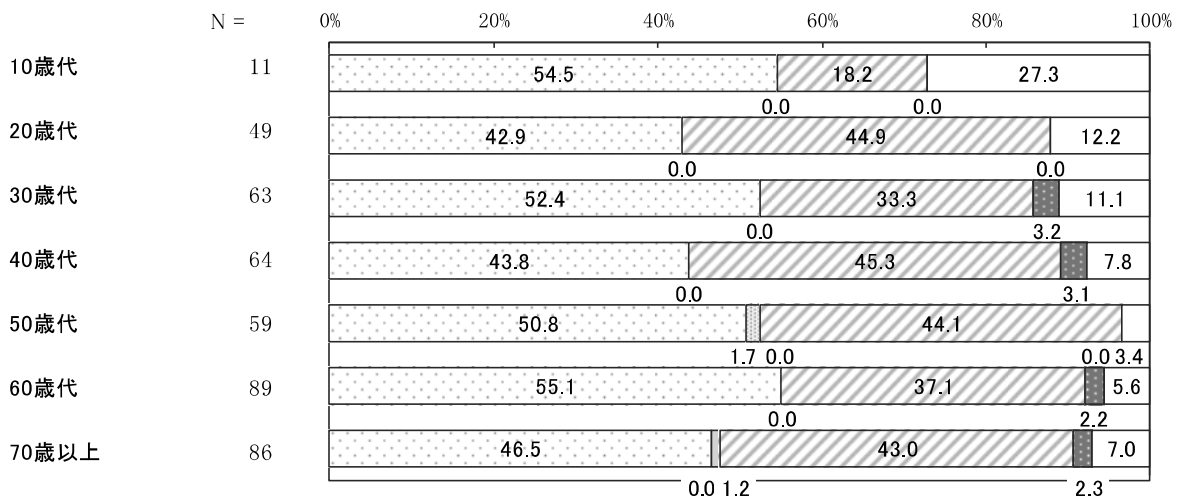
- ・ J R 琵琶湖線を利用するときの乗車駅は、「能登川駅」が 49.5%と最も多く、次いで「近江八幡駅」が 39.9%となっています。これらを合わせると 89.4%となります。
- ・ 「能登川駅」は、性別では男性、年代別では 10 歳代、30 歳代、50～60 歳代、居住地区別では能登川地区、五個荘地区、湖東地区での利用が多くなっています。
- ・ 「近江八幡駅」は、性別では女性、年代別では 20 歳代、40～50 歳代、70 歳以上、居住地区別では市辺地区、玉緒地区、御園地区、中野地区、南部地区、建部地区、蒲生地区での利用が多くなっています。



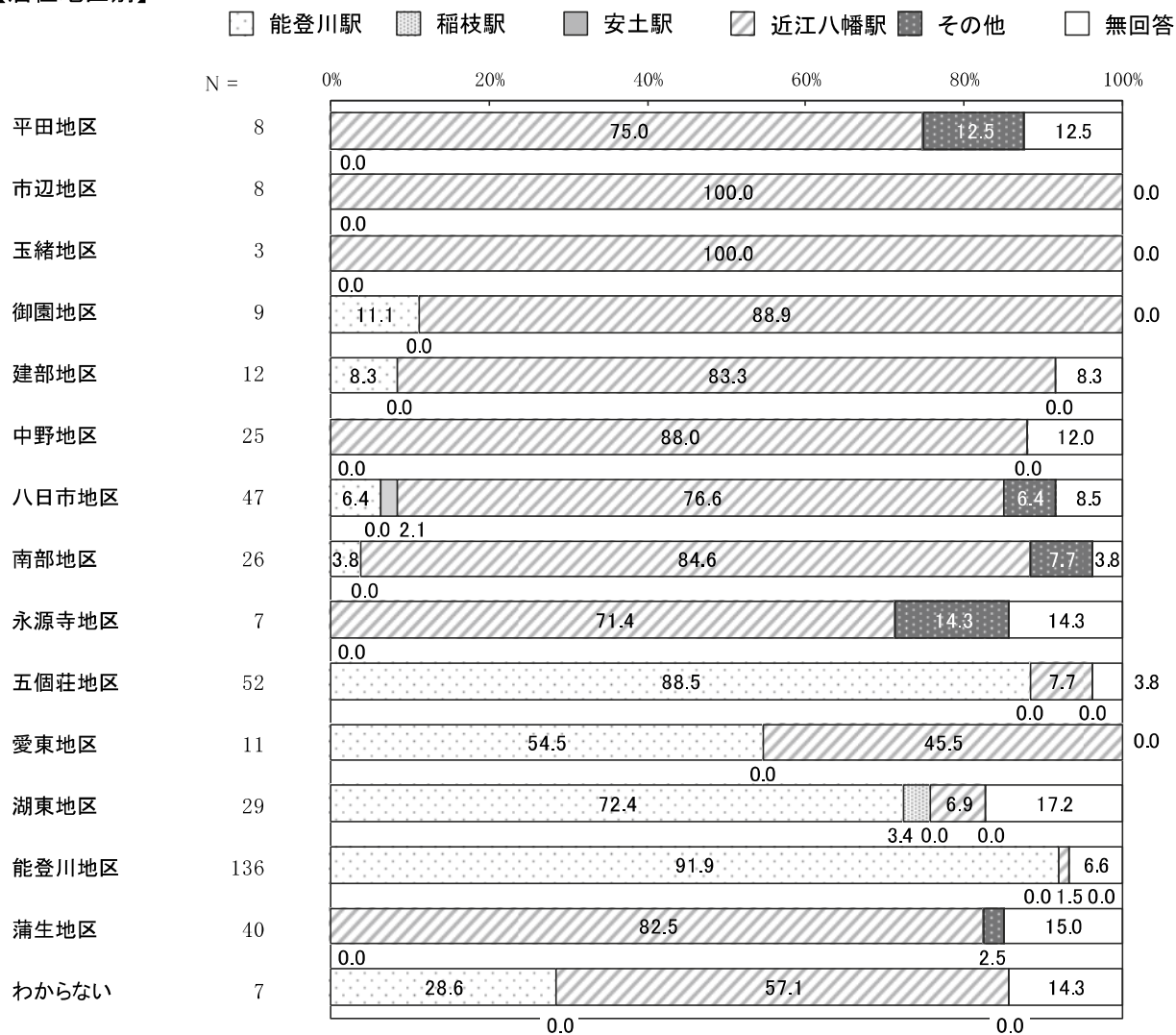
**【性別】**



**【年代別】**



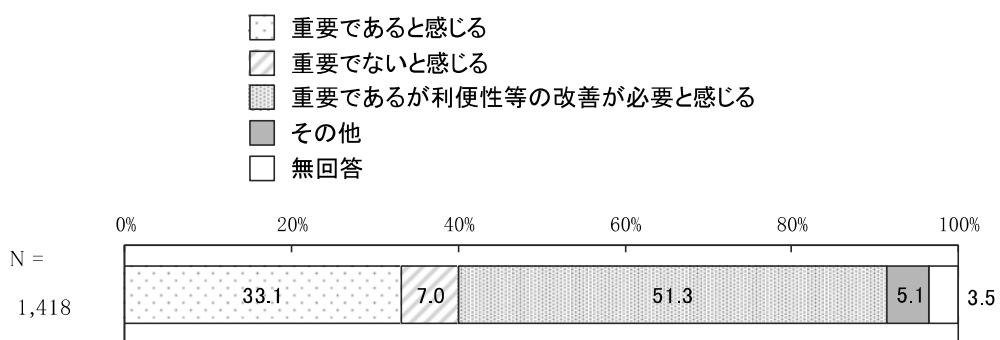
【居住地区別】



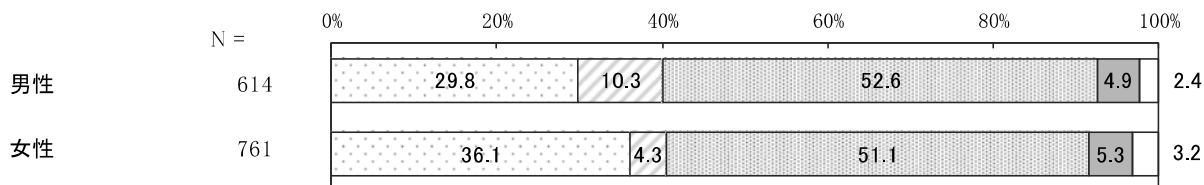
問 28 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、東近江市の活性化を進めていくうえで重要な公共交通機関であると考えています。あなたは、近江鉄道についてどう感じていますか。《○1つ》

**8割以上が重要と感じている、半数が改善を望む**

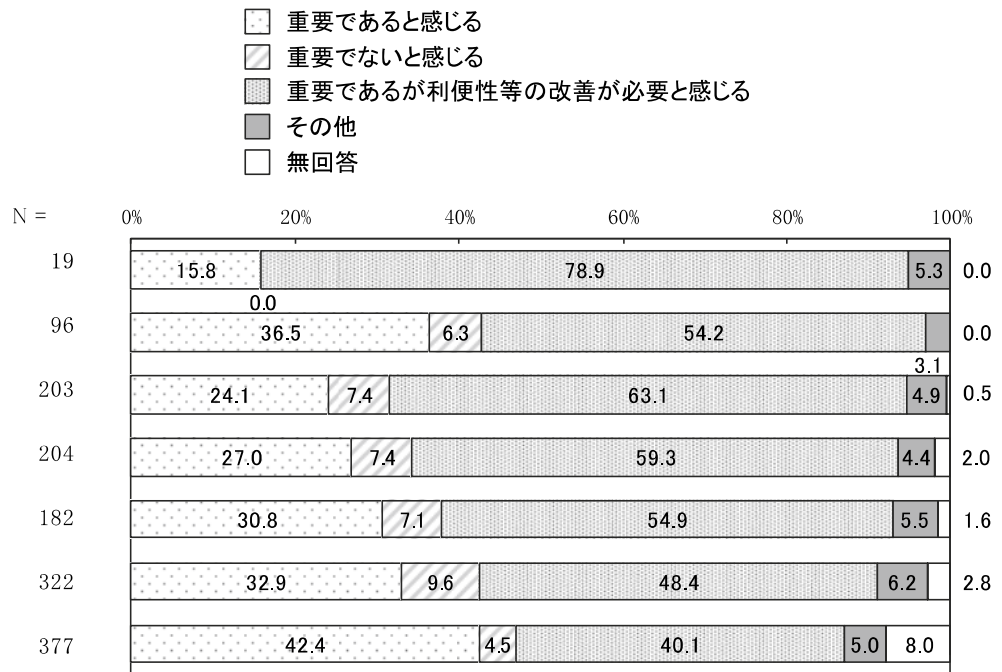
- ・ 近江鉄道については、「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」と回答した人が51.3%と最も多く、次いで「重要であると感じる」が33.1%と続きます。これらを合わせると84.4%となり、8割以上の人が近江鉄道は重要であると考えています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では30歳代から年齢があがるほど、居住地区別では市辺地区、南部地区、平田地区、中野地区、愛東地区、御園地区、建部地区で、重要であると感じている人（「重要であると感じる」と「重要であるが利便性等の改善が必要と感じる」の合計）が多くみられます。



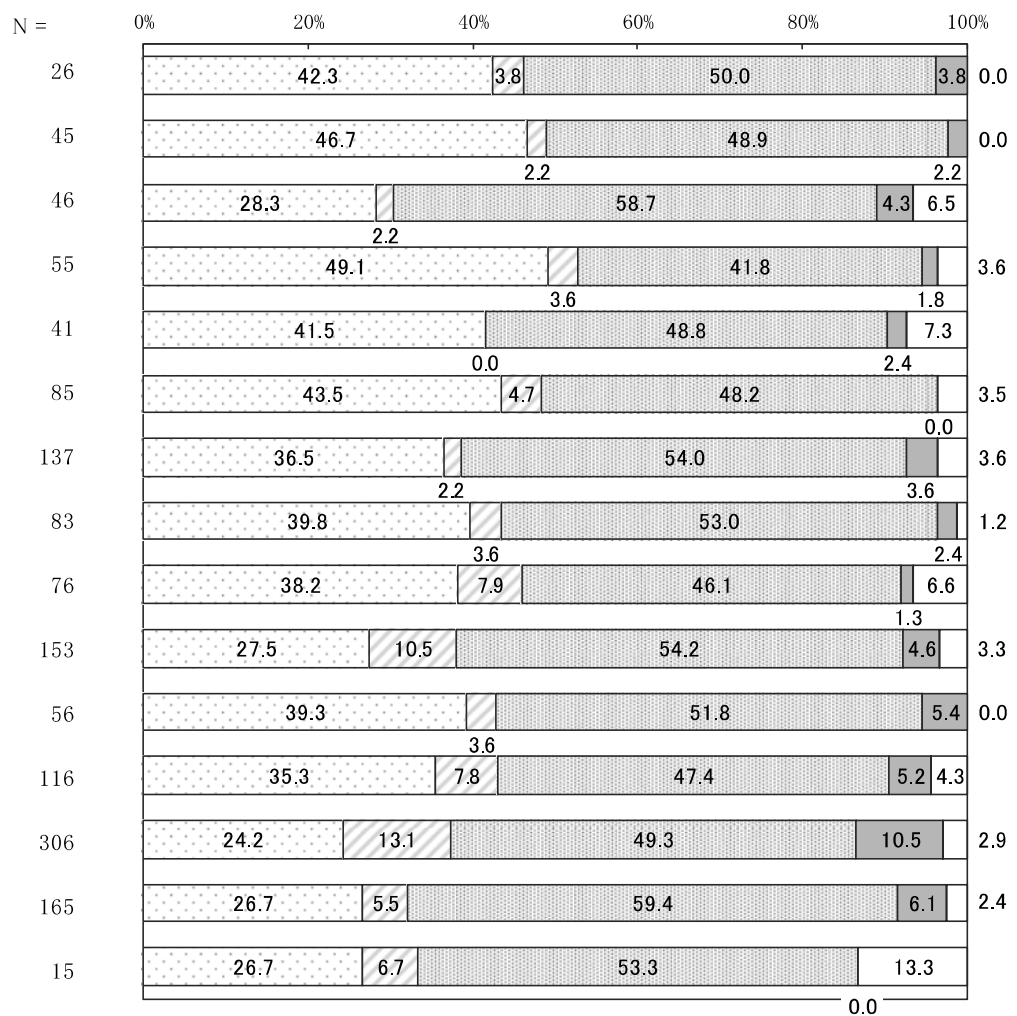
**【性別】**



【年代別】



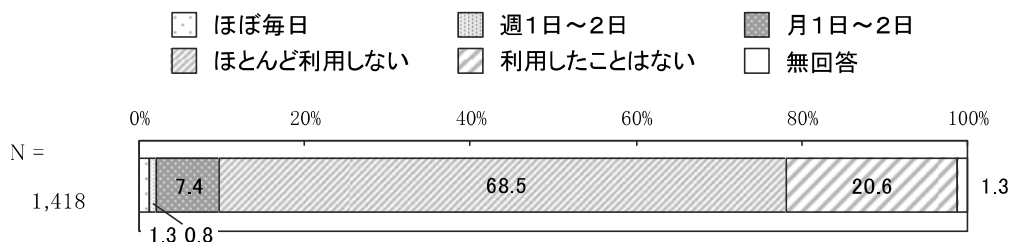
【居住地区別】



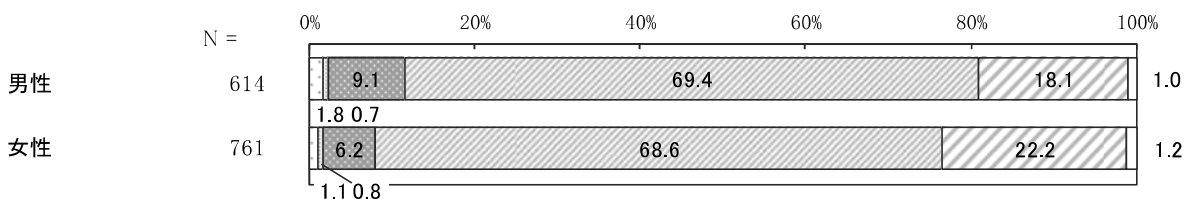
問 29 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

**9割近くが利用していない**

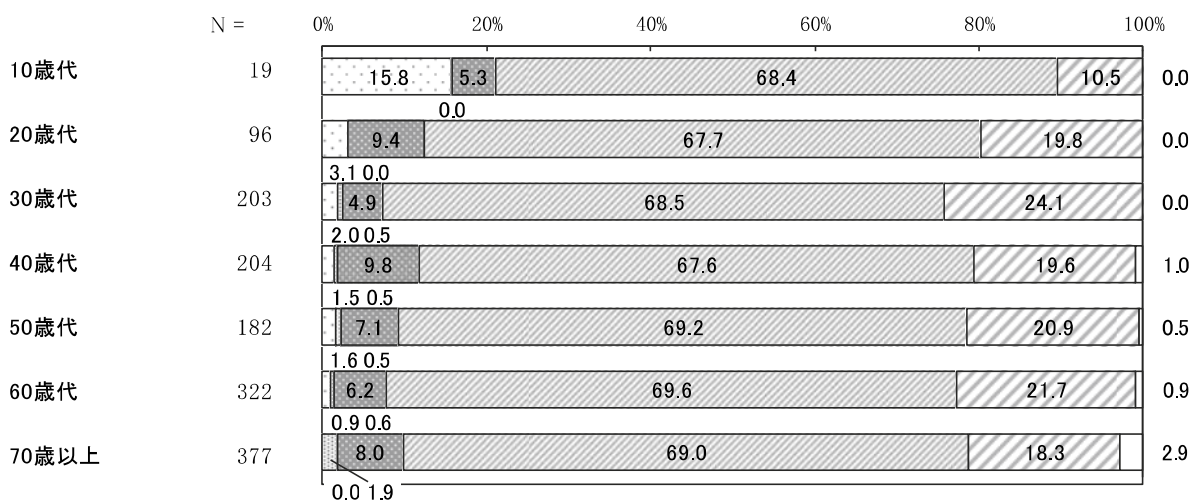
- ・ 近江鉄道の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が68.5%と最も多く、次の「利用したことはない」20.6%を合わせると89.1%と、9割近くの人が利用していないと回答しています。一方、利用している人は9.5%で、その内訳は「月1日～2日」が7.4%と最も多く、次いで「ほぼ毎日」1.3%、「週1日～2日」が0.8%となっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区、中野地区、八日市地区で多く利用されています。



**【性別】**

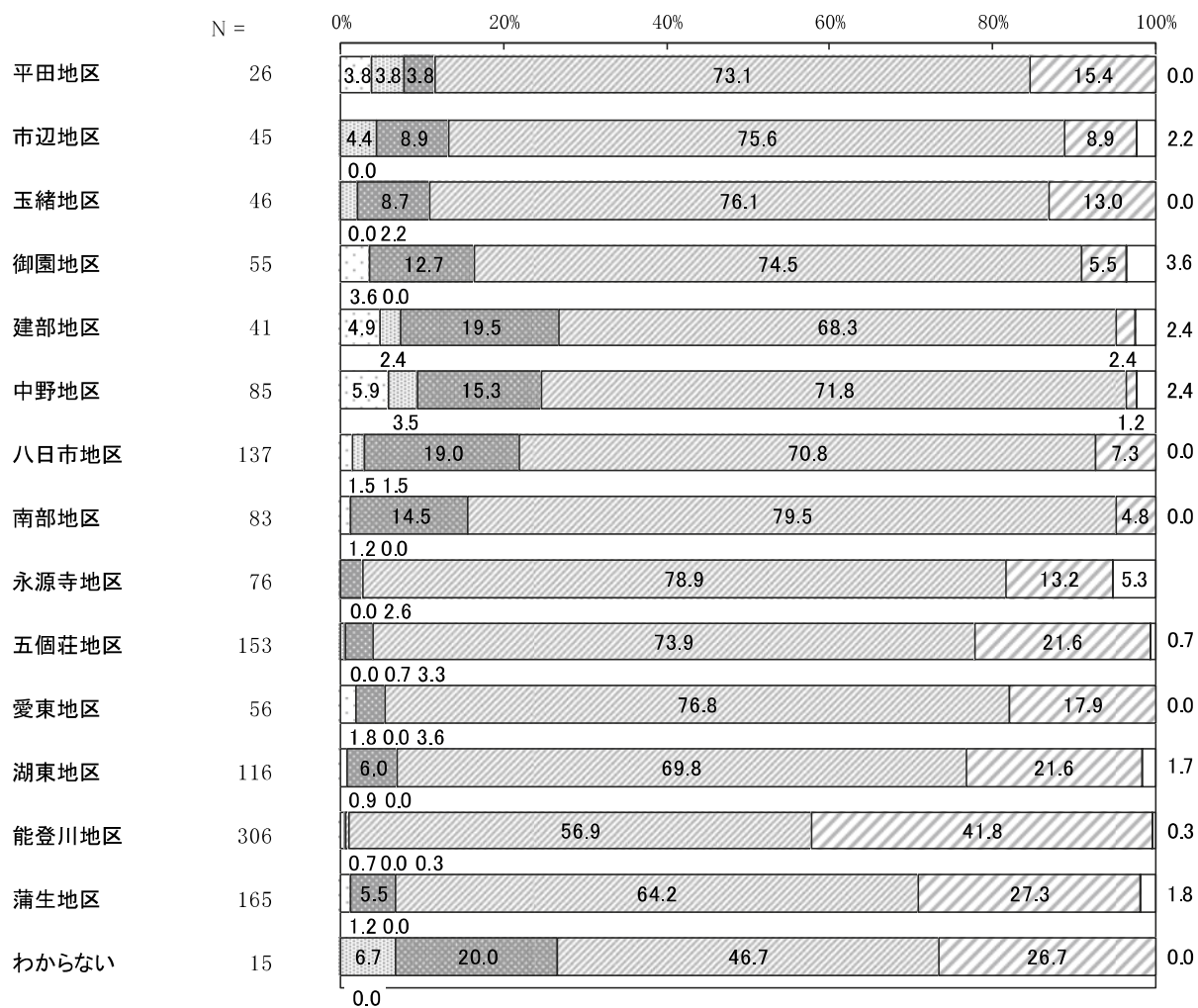


**【年代別】**



【居住地区別】

ほぼ毎日
  週1日～2日
  月1日～2日  
 ほとんど利用しない
  利用したことはない
  無回答



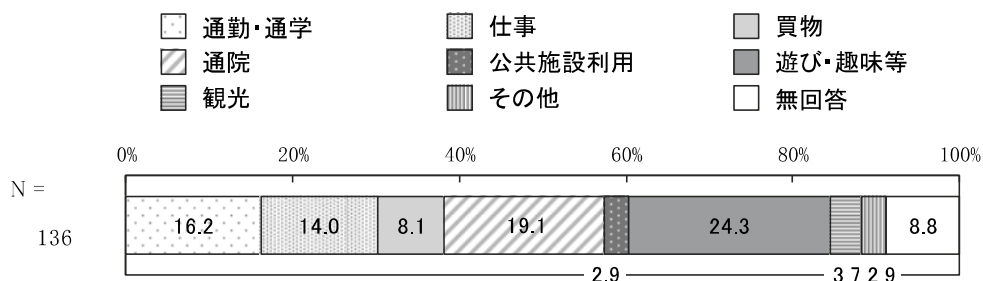


問 29-1 問 29 で、「1. ほぼ毎日」「2. 週1日～2日」「3. 月1日～2日」とお答えの方にお聞きします。

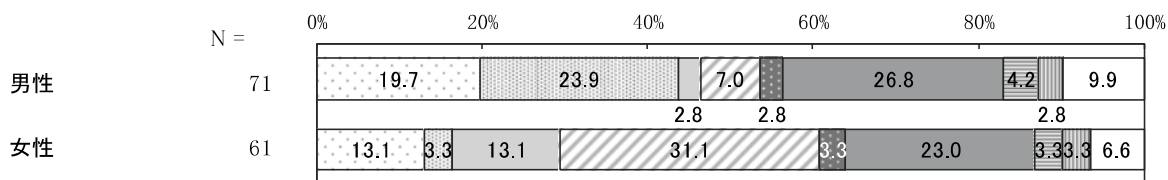
近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

**近江鉄道の利用目的は「遊び・趣味等」、「通院」、「通勤・通学」**

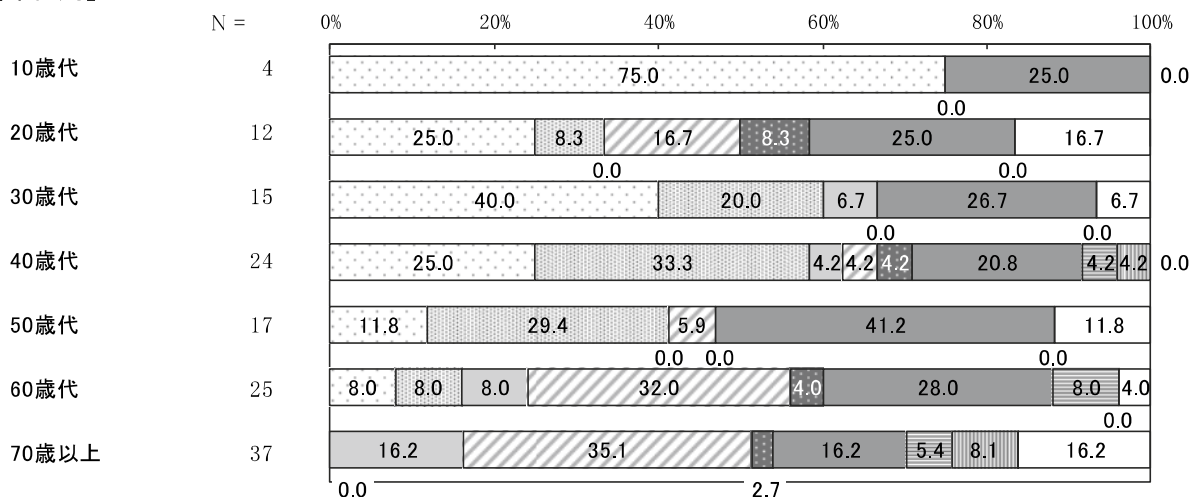
- ・ 近江鉄道の利用目的は、「遊び・趣味等」が 24.3%と最も多く、次いで「通院」19.1%、「通勤・通学」が 16.2%と続きます。
- ・ 性別では、男女ともに「遊び・趣味等」での利用が最も多くなっていますが、男性は女性と比べ「仕事」や「通勤・通学」での利用が、女性は男性より「通院」や「買物」での利用が多くみられます。
- ・ 年代別では、50歳代までは「通勤・通学」や「仕事」、60歳以上は「通院」での利用が多くみられます。また、50歳代では「遊び・趣味等」、70歳以上では「買物」での利用がほかの年代より多くなっています。



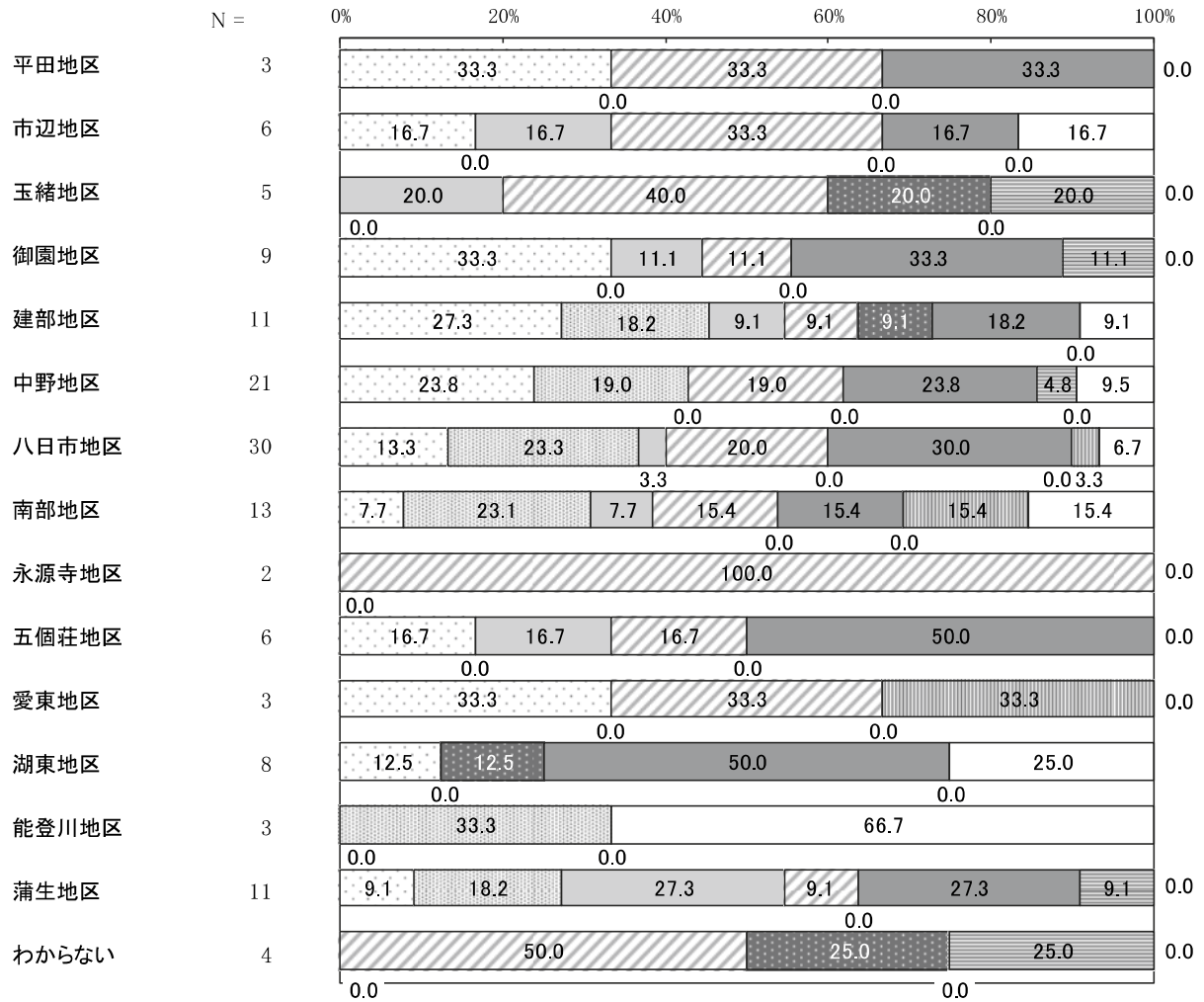
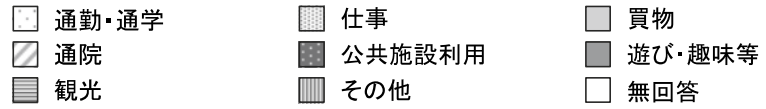
**【性別】**



**【年代別】**



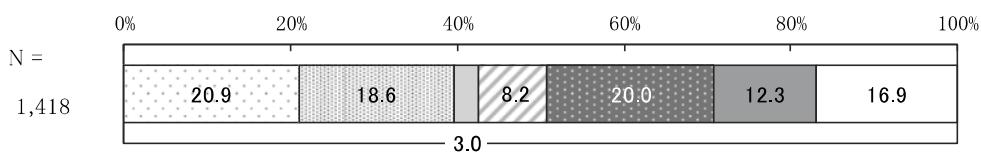
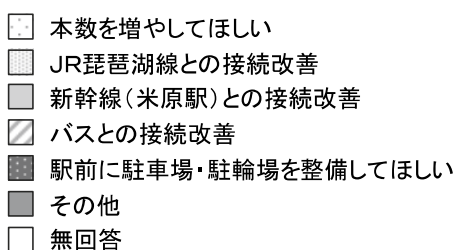
【居住地区別】



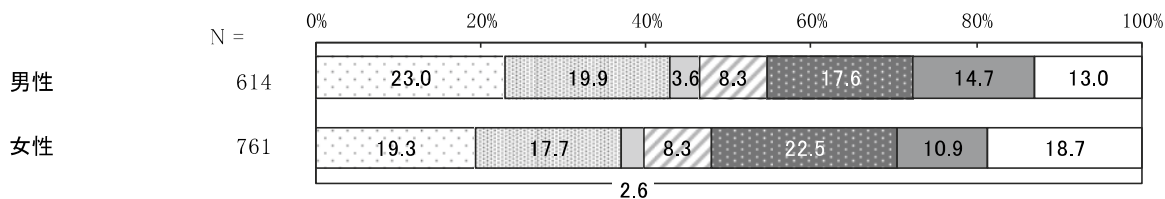
問 30 あなたは、近江鉄道を利用する場合、どんなことを希望されますか。《○1つ》

**近江鉄道への希望は、本数の増加、駐車場等の整備、JR琵琶湖線との接続改善**








- ・ 近江鉄道を利用する場合の希望を聞いたところ、「本数を増やしてほしい」が20.9%と最も多く、次いで「駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい」(20.0%)、「JR琵琶湖線との接続改善」(18.6%)と続きます。
- ・ 「その他」の回答では、「運賃の値下げ」を多くの人があげています。
- ・ 年代別では、年齢が若いほど本数の増加を、60歳代まで年齢が上がるほど駅前の駐車場・駐輪場の整備をあげる人が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、中野地区、建部地区、八日市地区で本数の増加を、能登川地区、建部地区、五個荘地区でJR琵琶湖線との接続改善を、御園地区、愛東地区、永源寺地区、玉緒地区で駅前の駐車場・駐輪場の整備をあげる人が多くみられます。

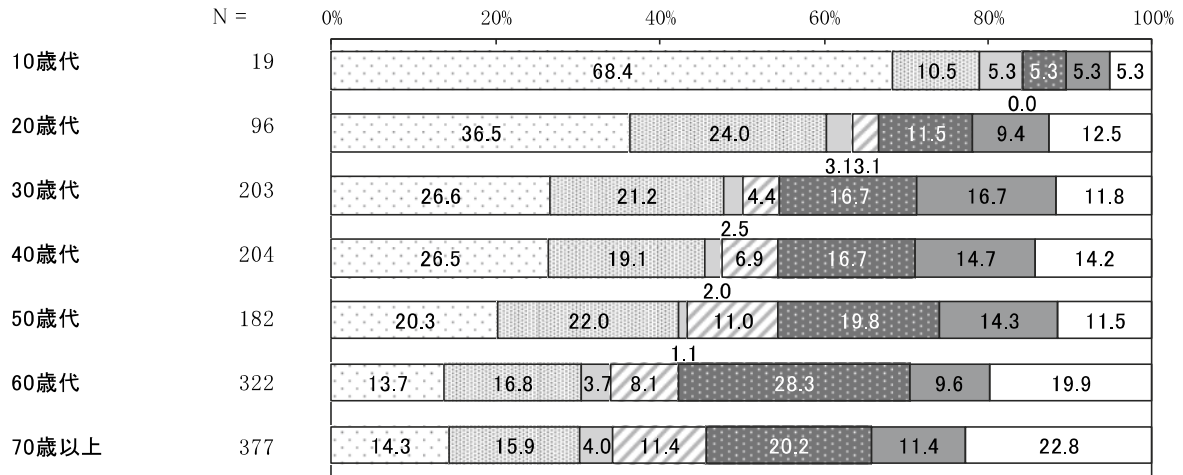


**【性別】**

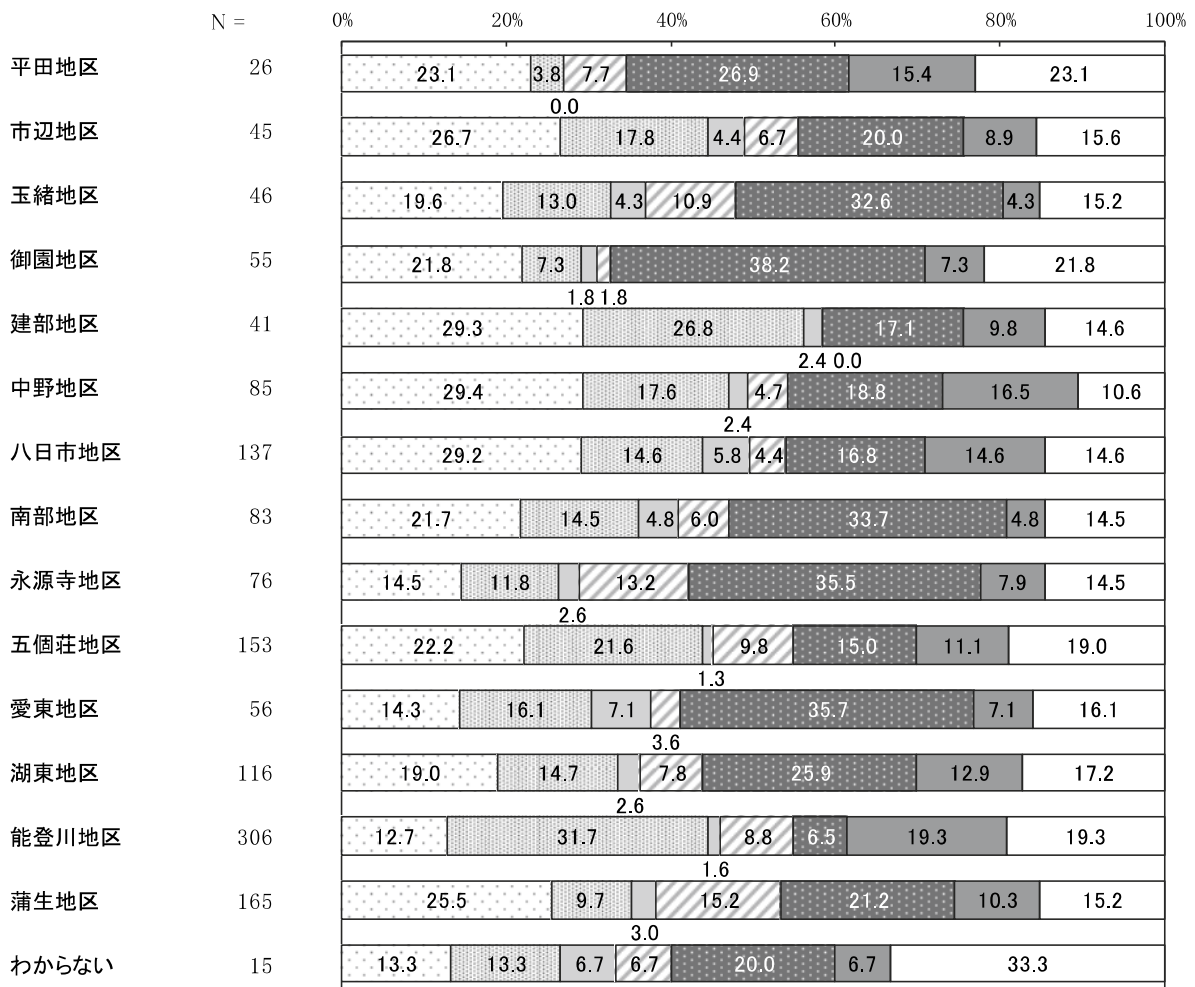


【年代別】

-  本数を増やしてほしい
-  JR琵琶湖線との接続改善
-  新幹線(米原駅)との接続改善
-  バスとの接続改善
-  駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい
-  その他
-  無回答



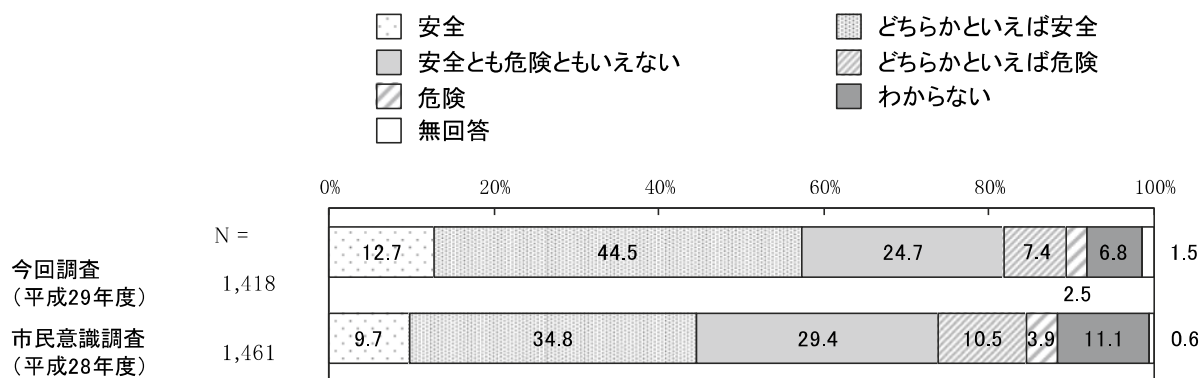
【居住地区別】



問 31 あなたの住んでいる地域は、災害に対して安全だと感じていますか。《○1つ》

**6割近くが安全**

- ・ 住んでいる地域が災害に対して安全と感じているかについては、「安全」が12.7%、「どちらかといえば安全」が44.5%で、これらを合わせると57.2%となり、6割近くの人が安全と感じています。一方、「どちらかといえば危険」と「危険」を合わせると9.9%となっています。また、「安全とも危険ともいえない」と回答した人は24.7%となっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、安全（「安全」と「どちらかといえば安全」の合計）の割合が12.7ポイント増加し、危険（「どちらかといえば危険」と「危険」の合計）の割合が4.5ポイント減少しており、住まいの安心感が高まっています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では20歳代と70歳以上が、居住地区別では南部地区で、住んでいる地域が災害に対して安全と感じている人（前述）が多くみられます。

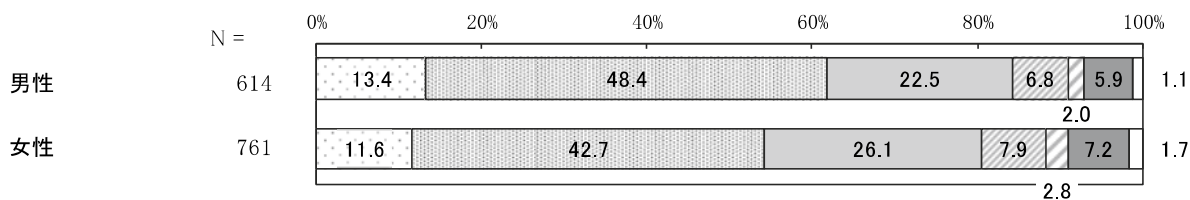


単位：%

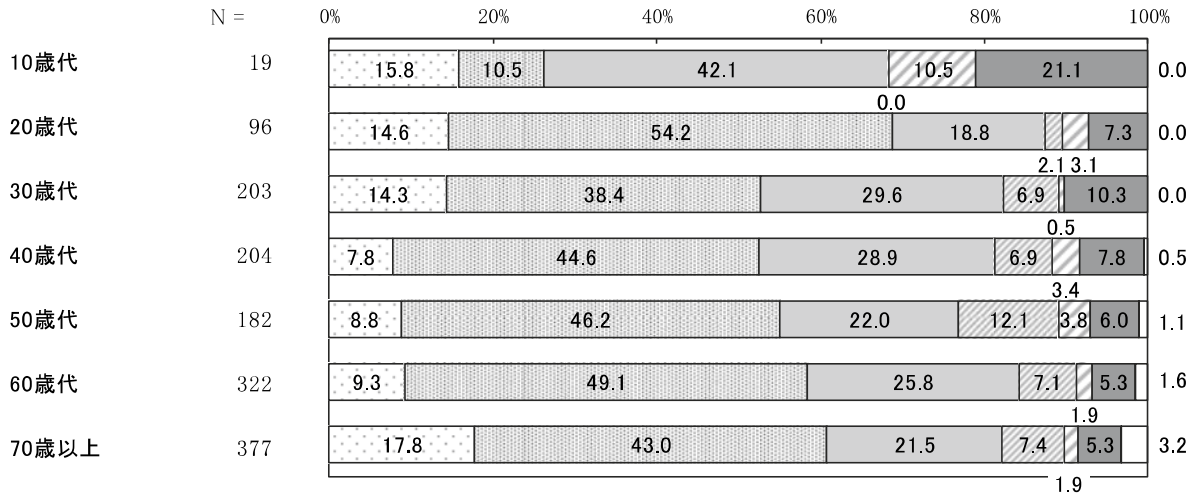
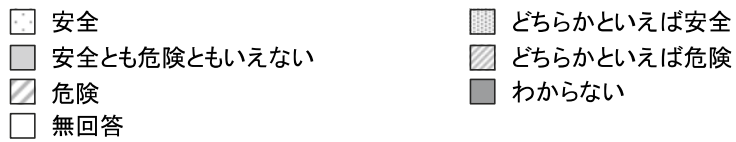
	安全	危険	差
①今回調査(平成29年度)	57.2	9.9	47.3
②市民意識調査(平成28年度)	44.5	14.4	30.1
①-②	12.7	-4.5	17.2

\* 安全:「安全」と「どちらかといえば安全」の合計  
 \* 危険:「どちらかといえば危険」と「危険」の合計

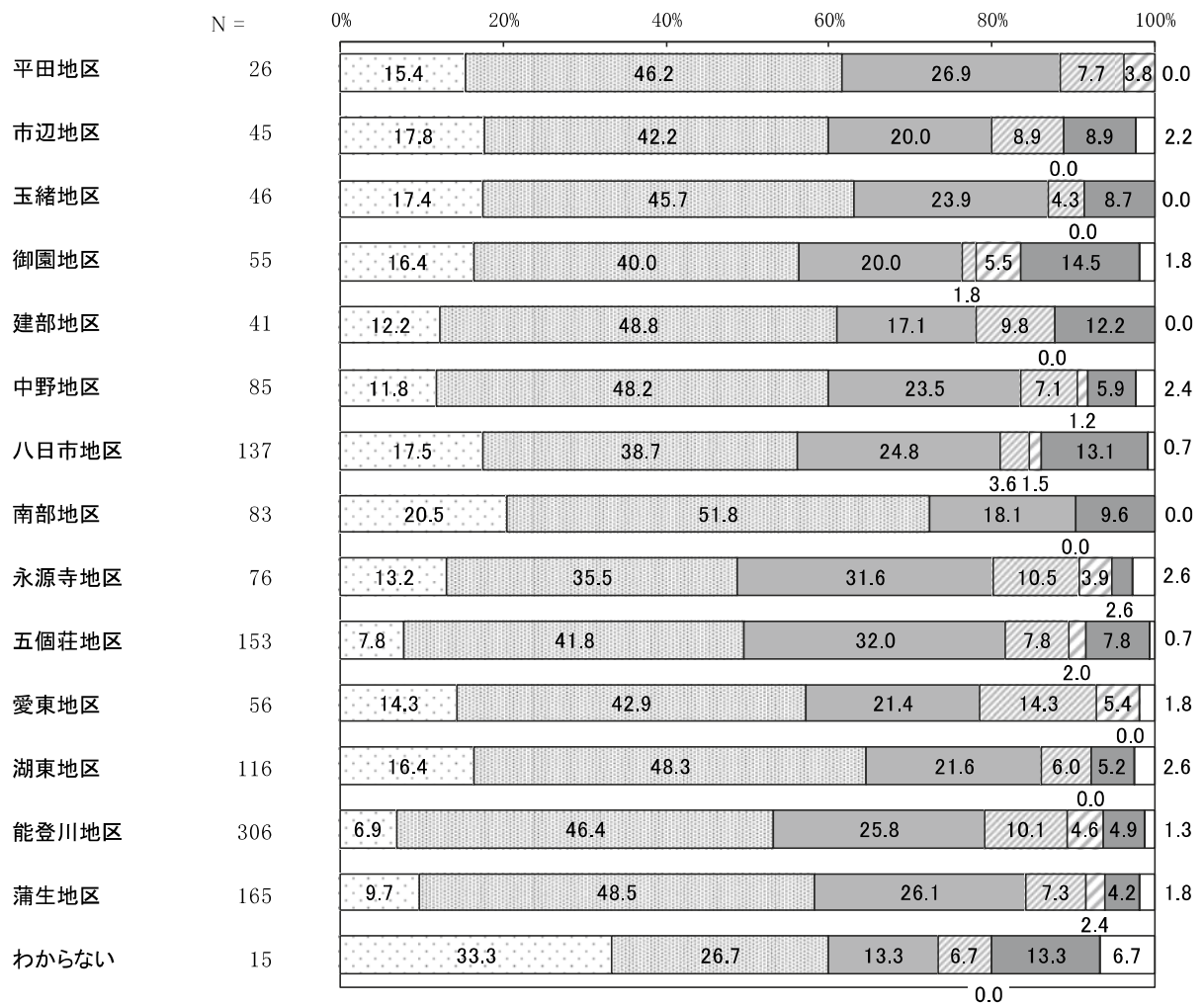
**【性別】**



【年代別】



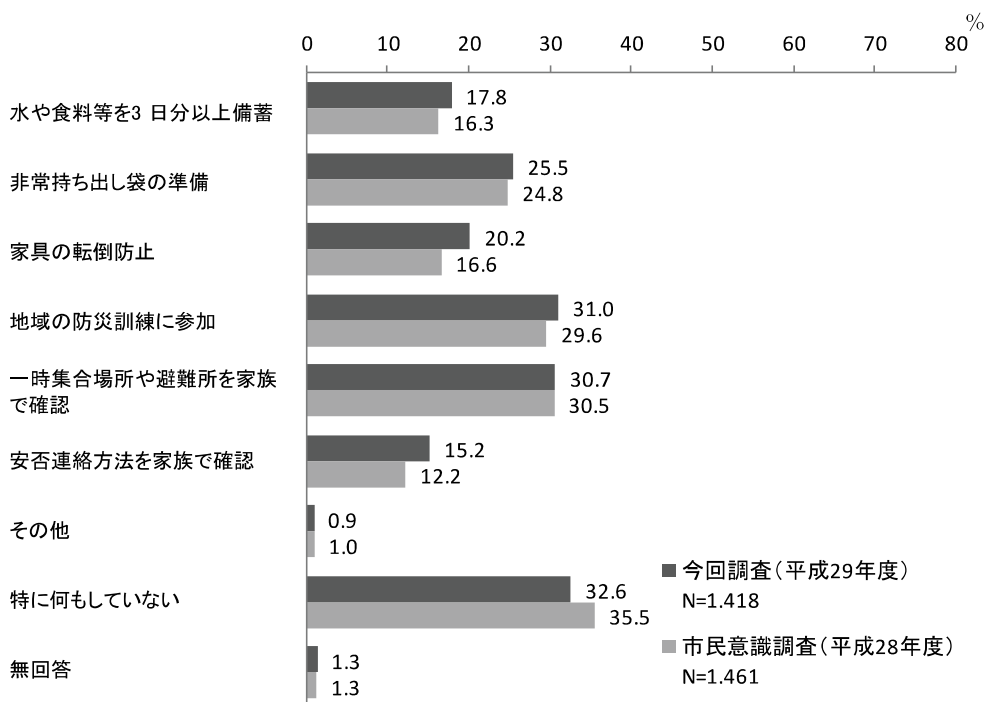
【居住地区別】



問 32 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

**災害への備えをしている人は増加、3割が「特に何もしていない」**

- ・ 災害への備えについては、「特に何もしていない」が32.6%と最も多く、次いで「地域の防災訓練に参加」31.0%、「一時集合場所や避難所を家族で確認」30.7%、「非常持ち出し袋の準備」25.5%、「家具の転倒防止」20.2%と続きます。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「特に何もしていない」の割合が2.9ポイント減少し、「家具の転倒防止」、「安否連絡方法を家族で確認」の割合が増加しています。
- ・ 性別では、男性は「特に何もしていない」が、女性は「一時集合場所や避難所を家族で確認」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、10～40歳代では「特に何もしていない」が、50歳以上では「地域の防災訓練に参加」が最も多くあげられています。また、「非常持ち出し袋の準備」は30歳代と50歳以上で、「一時集合場所や避難所を家族で確認」は40歳代と60歳以上でほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、市辺地区、玉緒地区、御園地区、中野地区、八日市地区、蒲生地区では「特に何もしていない」が、建部地区、永源寺地区、五個荘地区、愛東地区、湖東地区、能登川地区では「地域の防災訓練に参加」が、南部地区では「非常持ち出し袋の準備」が最も多くあげられています。



【性別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
男性	614	16.9	22.1	21.0	31.1	27.4	15.3	0.8	35.0	1.3
女性	761	18.7	28.4	19.6	31.3	33.1	14.8	1.1	30.5	1.3

【年代別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	水や食料等を3日分以上備蓄	非常持ち出し袋の準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に参加	一時集合場所や避難所を家族で確認	安否連絡方法を家族で確認	その他	特に何もしていない	無回答
10歳代	19	10.5	10.5	15.8	10.5	21.1	5.3	0.0	68.4	0.0
20歳代	96	16.7	13.5	15.6	8.3	20.8	15.6	0.0	46.9	0.0
30歳代	203	19.7	24.6	21.2	18.2	25.6	14.8	0.0	40.4	0.0
40歳代	204	14.7	21.1	20.6	31.4	31.9	15.2	0.5	34.3	0.5
50歳代	182	11.0	25.8	21.4	32.4	25.8	15.9	1.1	28.6	1.1
60歳代	322	19.6	26.1	18.6	40.4	34.8	14.9	0.6	31.1	0.6
70歳以上	377	20.7	31.6	22.0	36.3	33.7	15.1	2.1	26.0	3.2



【居住地区別】

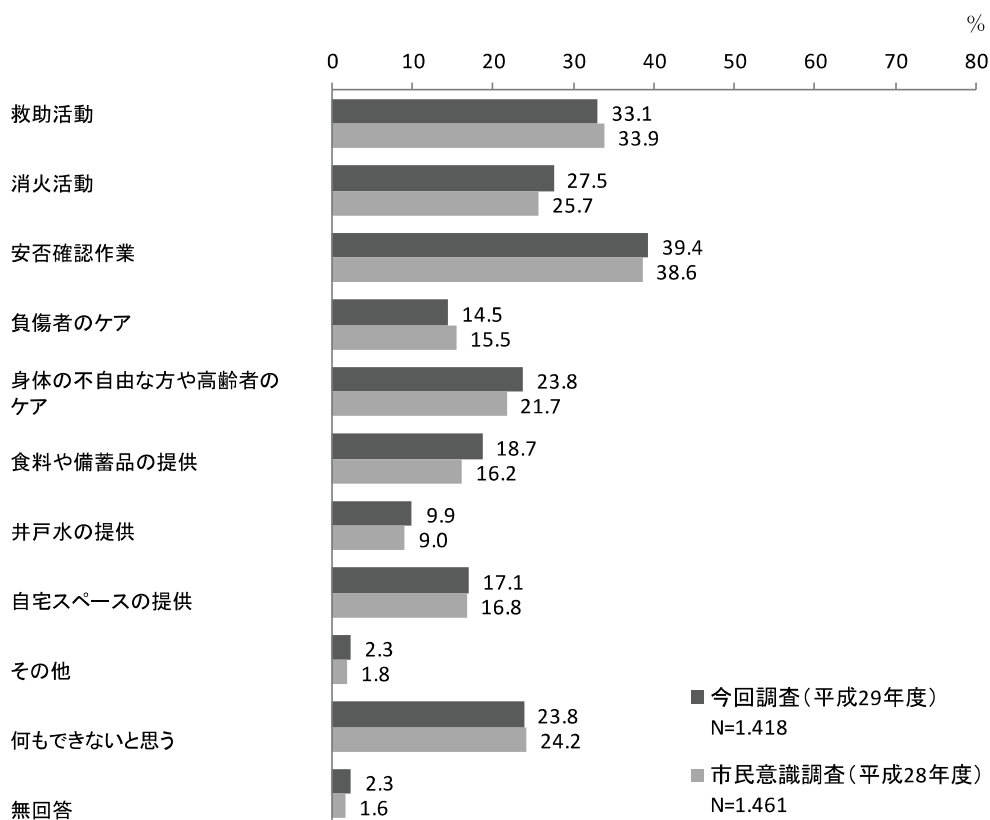
単位：%

区 分	有効回答数 (件)	水や食料等を 3日分以上 上備蓄	非常持ち出し袋の 準備	家具の転倒防止	地域の防災訓練に 参加	一時集合場所や避難所 を家族で確認	安否連絡方法を家族で 確認	その他	特に何もしていない	無回答
平田地区	26	7.7	23.1	7.7	26.9	15.4	11.5	0.0	38.5	0.0
市辺地区	45	6.7	20.0	11.1	17.8	40.0	11.1	0.0	40.0	0.0
玉緒地区	46	17.4	17.4	19.6	21.7	26.1	19.6	0.0	41.3	2.2
御園地区	55	16.4	27.3	20.0	18.2	30.9	9.1	1.8	36.4	0.0
建部地区	41	19.5	24.4	22.0	34.1	29.3	22.0	0.0	29.3	0.0
中野地区	85	12.9	27.1	28.2	7.1	16.5	16.5	1.2	37.6	3.5
八日市地区	137	17.5	16.1	18.2	16.8	22.6	10.2	0.7	44.5	0.7
南部地区	83	20.5	33.7	22.9	30.1	28.9	13.3	0.0	27.7	1.2
永源寺地区	76	15.8	27.6	17.1	40.8	39.5	13.2	1.3	34.2	2.6
五個荘地区	153	16.3	28.1	25.5	37.3	35.9	15.7	1.3	28.1	1.3
愛東地区	56	16.1	25.0	19.6	46.4	30.4	12.5	0.0	33.9	1.8
湖東地区	116	14.7	20.7	13.8	42.2	30.2	15.5	1.7	31.0	0.9
能登川地区	306	22.9	30.1	19.3	40.5	38.2	16.7	1.0	26.5	1.0
蒲生地区	165	18.8	23.0	24.8	26.7	24.2	15.8	1.2	33.3	1.2
わからない	15	20.0	26.7	0.0	6.7	6.7	33.3	0.0	40.0	6.7

問 33 大規模な災害時には、住民同士の助け合いが必要と言われていますが、あなたなら何ができるとお考えですか。《あてはまるものすべてに○》

**大規模な災害時にできることは、安否確認作業、救助活動、消火活動**

- ・ 大規模災害時に何ができるかについては、「安否確認作業」が 39.4%と最も多く、次いで「救助活動」33.1%、「消火活動」27.5%、「身体の不自由な方や高齢者のケア」が 23.8%と続きます。また、「何もできないと思う」と回答した人も 23.8%となっています。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、「食料や備蓄品の提供」、「身体の不自由な方や高齢者のケア」の割合が増加しています（それぞれ 2.5 ポイント、2.1 ポイント）。
- ・ 性別では、男性は「救助活動」が、女性は「安否確認作業」が最も多くあげられています。
- ・ 年代別では、10～20 歳代と 50 歳代では「救助活動」が、30～40 歳代と 60 歳代では「安否確認作業」が、70 歳以上では「何もできないと思う」が最も多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、玉緒地区、八日市地区では「救助活動」が、市辺地区、御園地区、建部地区、南部地区、永源寺地区、五個荘地区、愛東地区、湖東地区、能登川地区、蒲生地区では「安否確認作業」が、中野地区、愛東地区では「何もできないと思う」が最も多くあげられています。なお、愛東地区では、「安否確認作業」と「何もできないと思う」が、ともに同じ割合で最も多くあげられています。



【性別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	救助活動	消火活動	安否確認作業	負傷者のケア	身体の不自由な方や高齢者のケア	食料や備蓄品の提供	井戸水の提供	自宅スペースの提供	その他	何もできないと思う	無回答
男性	614	48.9	42.5	45.0	15.0	19.7	15.1	10.1	14.5	2.8	17.8	2.0
女性	761	21.3	15.9	35.5	14.5	27.2	21.4	10.2	19.4	1.8	28.6	1.8

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数(件)	救助活動	消火活動	安否確認作業	負傷者のケア	身体の不自由な方や高齢者のケア	食料や備蓄品の提供	井戸水の提供	自宅スペースの提供	その他	何もできないと思う	無回答
10歳代	19	31.6	21.1	15.8	5.3	15.8	21.1	0.0	5.3	0.0	31.6	0.0
20歳代	96	39.6	31.3	32.3	10.4	24.0	14.6	3.1	11.5	2.1	22.9	0.0
30歳代	203	32.5	25.6	39.9	20.2	27.1	15.8	4.4	15.3	0.5	26.1	0.5
40歳代	204	38.7	29.4	40.7	10.8	23.5	13.2	5.9	15.7	3.9	21.6	1.0
50歳代	182	44.5	36.3	41.2	17.6	25.8	18.1	6.0	14.3	2.7	19.2	0.5
60歳代	322	37.3	32.9	52.2	17.7	29.8	22.4	14.6	22.7	0.9	17.7	1.6
70歳以上	377	20.4	18.8	30.2	10.9	16.4	21.5	15.6	17.8	3.2	31.0	5.8

【居住地区別】

単位:%

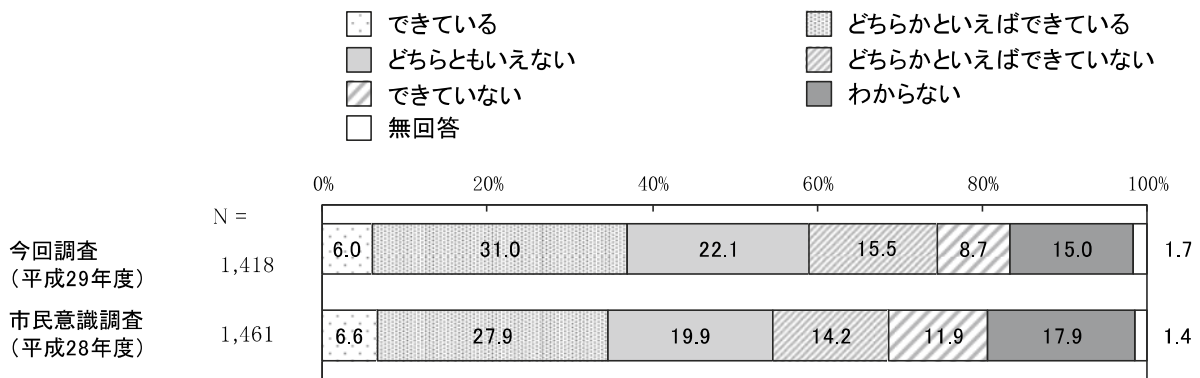
区 分	有効回答数(件)	救助活動	消火活動	安否確認作業	負傷者のケア	身体の不自由な方や高齢者のケア	食料や備蓄品の提供	井戸水の提供	自宅スペースの提供	その他	何もできないと思う	無回答
平田地区	26	38.5	34.6	34.6	19.2	30.8	11.5	7.7	23.1	3.8	11.5	0.0
市辺地区	45	17.8	24.4	37.8	11.1	20.0	11.1	4.4	24.4	2.2	22.2	2.2
玉緒地区	46	37.0	17.4	34.8	13.0	26.1	10.9	6.5	17.4	2.2	32.6	4.3
御園地区	55	38.2	30.9	45.5	20.0	25.5	27.3	1.8	18.2	1.8	20.0	0.0
建部地区	41	36.6	26.8	41.5	12.2	24.4	22.0	7.3	17.1	0.0	26.8	2.4
中野地区	85	23.5	21.2	31.8	9.4	16.5	11.8	1.2	12.9	1.2	36.5	3.5
八日市地区	137	35.0	27.0	34.3	11.7	22.6	16.8	2.2	8.8	4.4	27.0	0.7
南部地区	83	34.9	18.1	37.3	14.5	25.3	20.5	3.6	15.7	3.6	26.5	3.6
永源寺地区	76	36.8	36.8	47.4	15.8	28.9	27.6	22.4	28.9	0.0	11.8	2.6
五個荘地区	153	33.3	32.7	40.5	20.9	26.1	21.6	15.7	19.0	2.0	22.9	2.0
愛東地区	56	25.0	19.6	30.4	16.1	25.0	23.2	12.5	19.6	5.4	30.4	1.8
湖東地区	116	32.8	32.8	49.1	16.4	21.6	15.5	14.7	17.2	4.3	19.0	1.7
能登川地区	306	39.9	30.1	41.2	15.0	22.5	17.6	17.3	12.7	1.6	21.9	2.0
蒲生地区	165	23.6	21.2	38.2	9.7	24.8	20.0	3.0	24.2	0.6	26.1	2.4
わからない	15	53.3	53.3	33.3	20.0	26.7	26.7	0.0	13.3	0.0	20.0	6.7

(5) 教育関連の取組について

問 34 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

**4割近くが通学路の安全は確保できている**

- ・ 通学路の安全確保については、「できている」が6.0%、「どちらかといえばできている」が31.0%で、これらを合わせると37.0%となり、4割近くの人ができていると考えています。一方、「どちらかといえばできていない」と「できていない」を合わせると24.2%で、通学路の安全確保はできていると考えている人が多くなっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、通学路の安全確保ができている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）の割合が2.5ポイント増加し、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）の割合が1.9ポイント減少し、評価があがっています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では30～50歳代で、通学路の安全確保ができていない（前述）と感じている人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、愛東地区、能登川地区で安全確保の評価が高く、湖東地区、蒲生地区で評価が低くなっています。



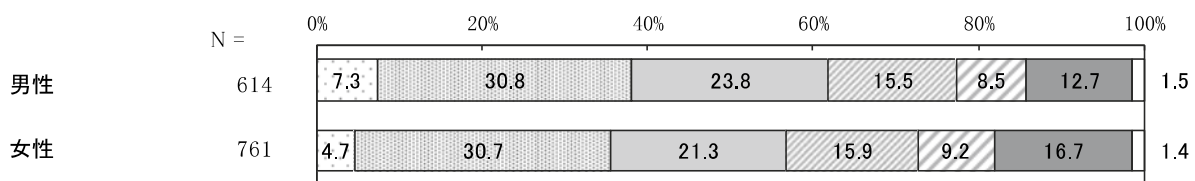
単位：%

	できている	できていない	差
①今回調査(平成29年度)	37.0	24.2	12.8
②市民意識調査(平成28年度)	34.5	26.1	8.4
①-②	2.5	-1.9	4.4

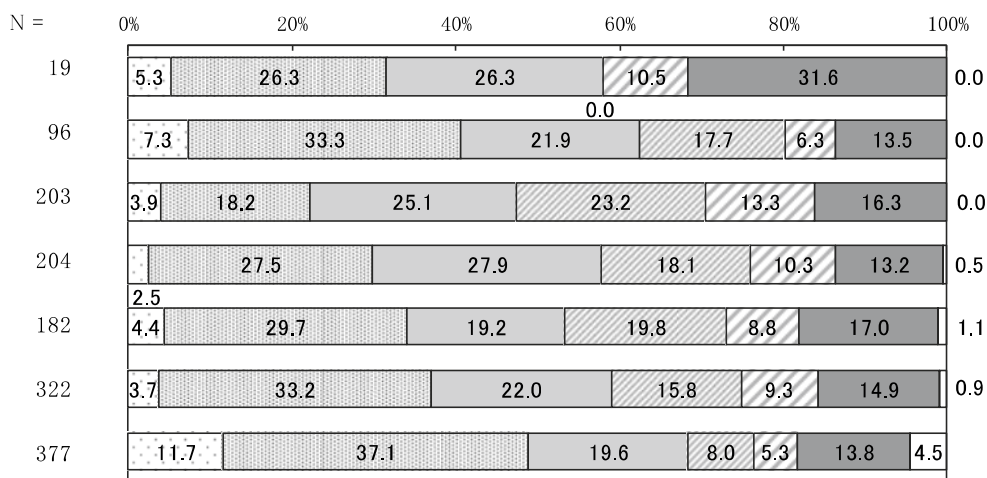
\* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計

\* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計

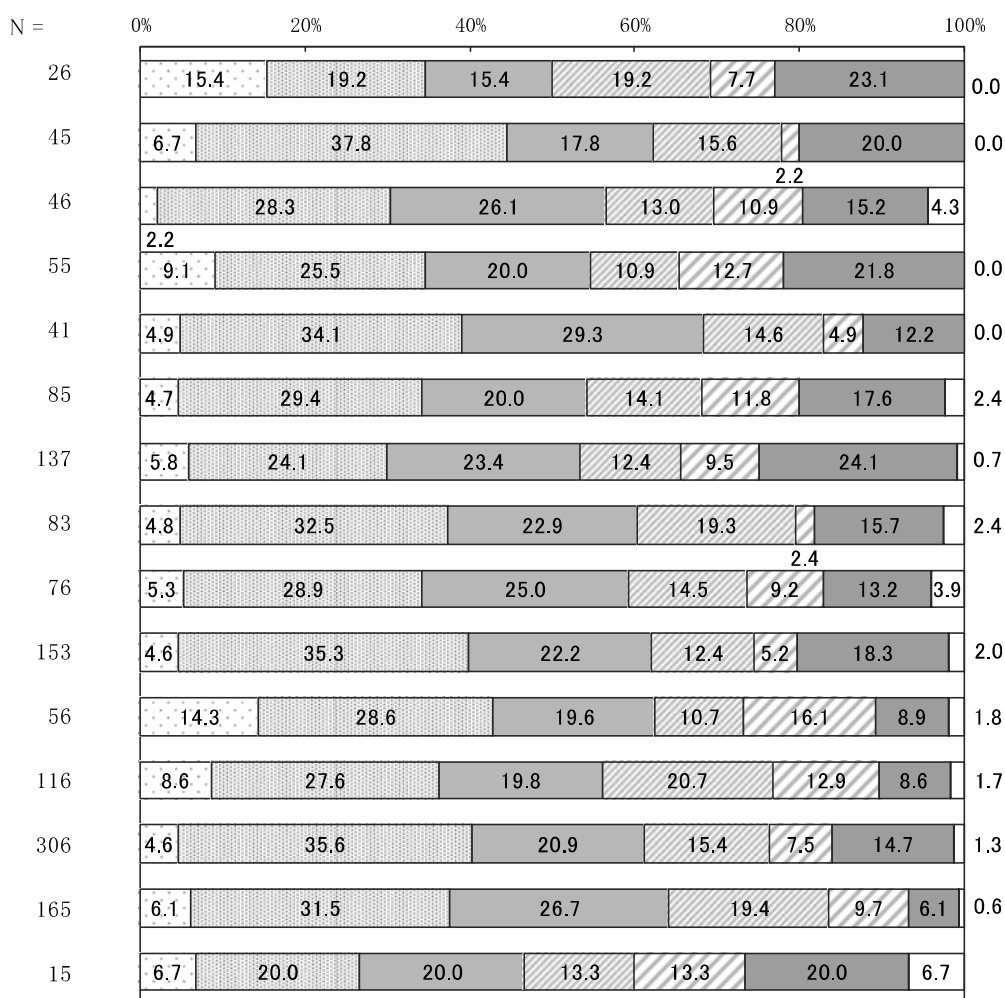
**【性別】**



【年代別】



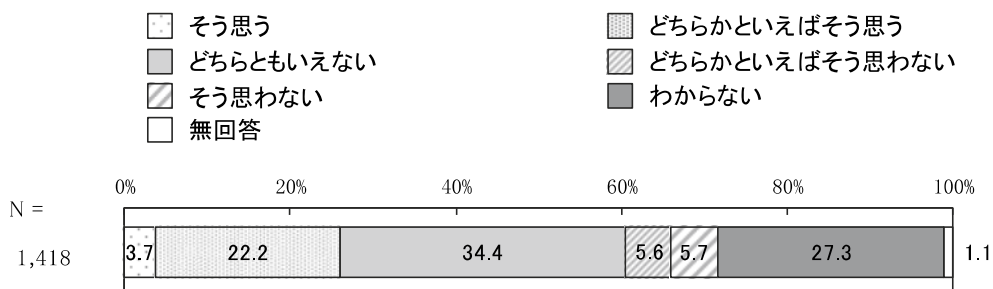
【居住地区別】



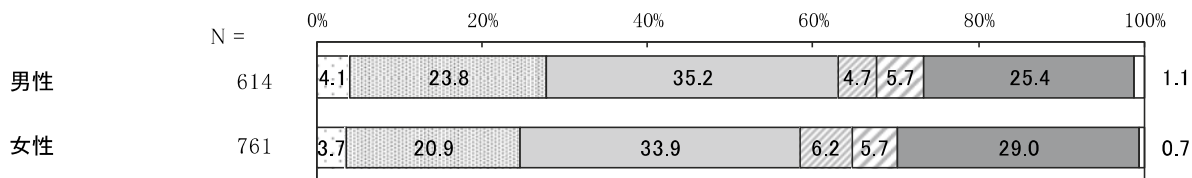
問 35 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

**人権が尊重されるまちになっていると思う人は3割近く、3割が「どちらともいえない」**

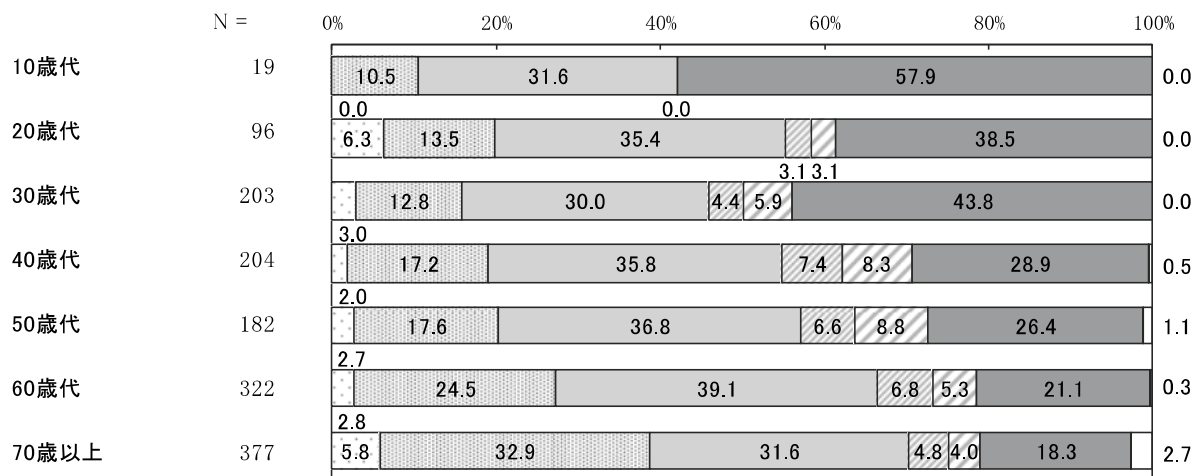
- ・ 東近江市は人権が尊重されるまちになっていると思うかについては、「どちらともいえない」が34.4%と最も多くなっています。
- ・ 人権が尊重されるまちになっていると思う人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は25.9%で、そう思わない人（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合（11.3%）より高くなっています。
- ・ 年代別では30歳以上で年齢があがるほど、居住地区別では御園地区、能登川地区で、人権が尊重されるまちになっていると思う人（前述）が多くみられます。



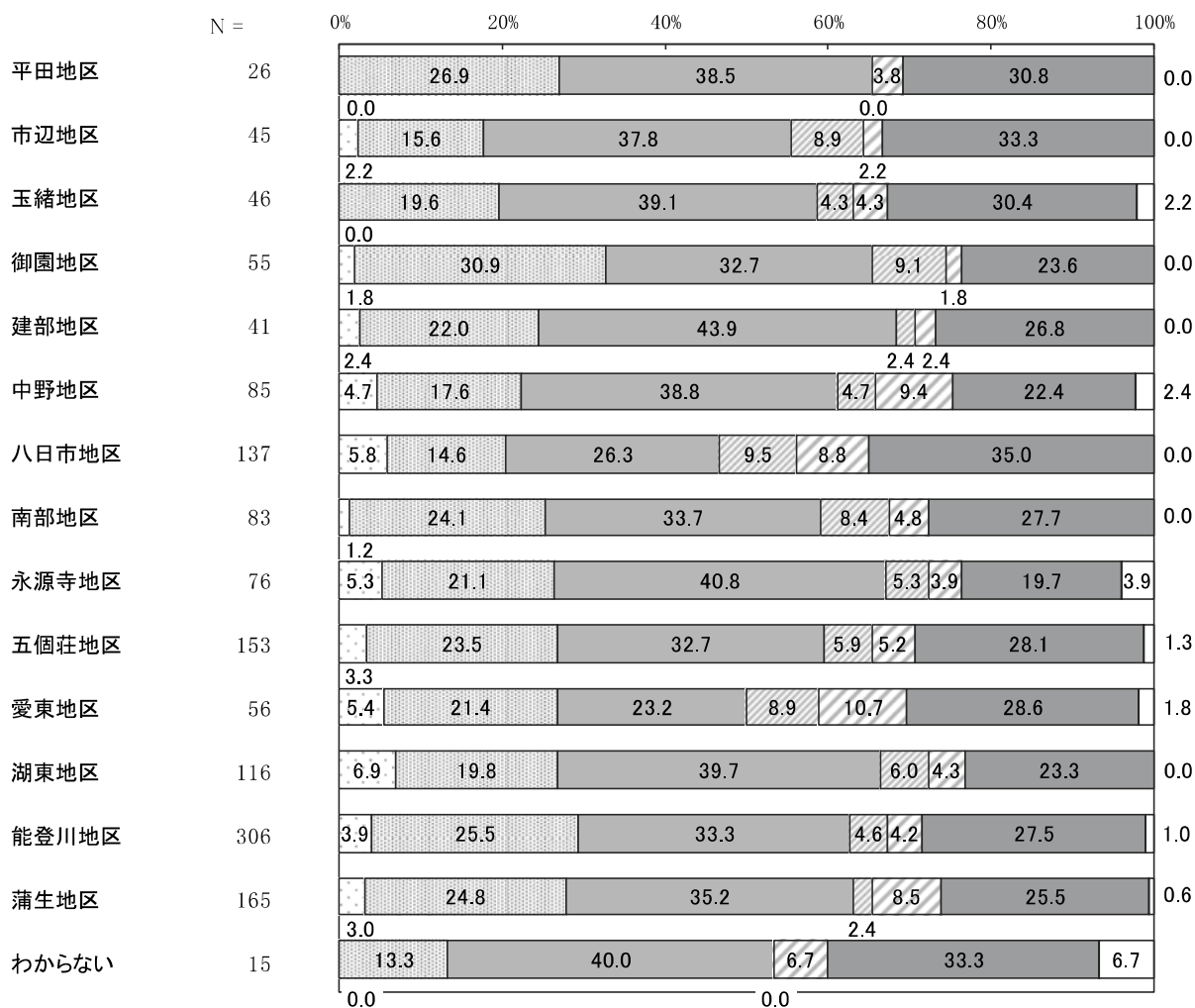
**【性別】**



**【年代別】**



【居住地区別】

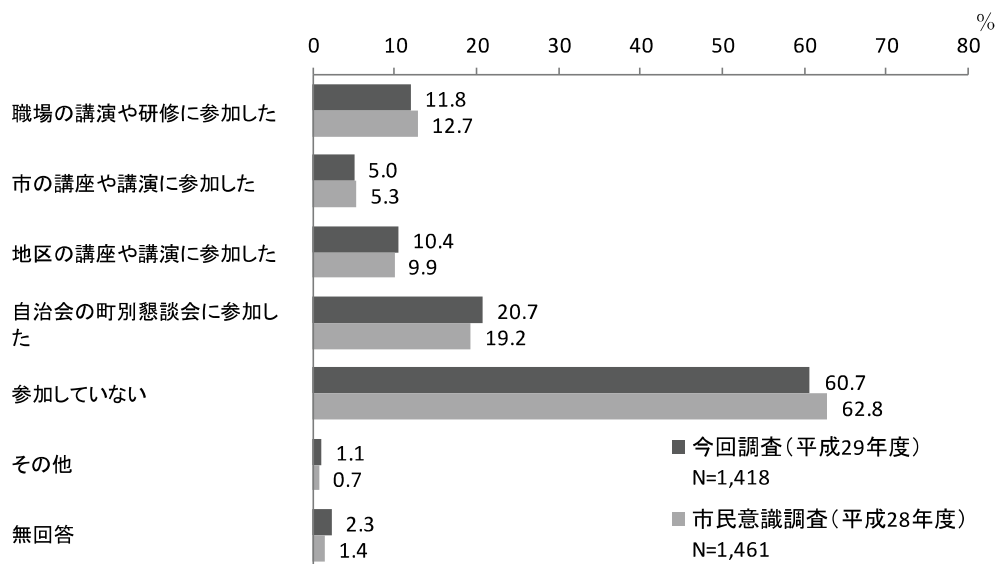




問 36 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

**何らかの講座や講演、研修等に参加した人が4割近く**

- ・ この1年間に人権に関する講座や講演、研修等に参加した割合は35.9%であり、「参加していない」が60.7%となっています。参加した人は、「自治会の町別懇談会」が20.7%と最も多く、次いで「職場の講演や研修」11.8%、「地区の講座や講演」10.4%、「市の講座や講演」5.0%と続きます。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「参加していない」の割合が2.1ポイント減少しています。
- ・ 性別では、女性より男性が人権に関する講座等に参加した人の割合が高く、自治会の町別懇談会、職場の講演や研修、地区の講座や講演への参加が多くみられます。
- ・ 年代別では、年齢があがるほど人権に関する講座等に参加した人の割合が高くなっています。



**【性別】**

単位: %

区分	有効回答数(件)	職場の講演や研修に参加した	市の講座や講演に参加した	地区の講座や講演に参加した	自治会の町別懇談会に参加した	参加していない	その他	無回答
男性	614	13.7	6.2	12.4	23.9	57.2	1.0	2.1
女性	761	10.6	4.1	8.8	18.0	64.0	1.1	2.0

【年代別】

単位:%

区分	有効回答数 (件)	職場の 講演や 研修に 参加した	市の 講座や 講演に 参加した	地区の 講座や 講演に 参加した	自治会 の町別 懇談会 に参加 した	参加して いない	その他	無回答
10歳代	19	5.3	0.0	0.0	0.0	94.7	0.0	0.0
20歳代	96	24.0	4.2	2.1	3.1	71.9	0.0	1.0
30歳代	203	16.7	4.4	2.5	4.9	74.9	1.0	1.0
40歳代	204	15.2	3.4	6.9	14.7	65.2	1.5	1.5
50歳代	182	19.8	6.0	12.6	17.6	57.1	1.6	0.0
60歳代	322	8.4	5.9	15.2	32.0	53.1	0.6	1.2
70歳以上	377	3.7	5.6	14.3	29.7	54.6	1.3	5.3

【居住地区別】

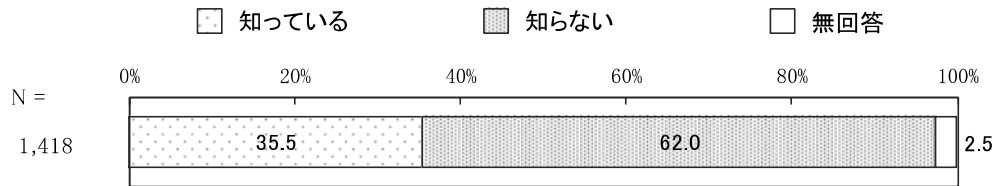
単位:%

区分	有効回答数 (件)	職場の 講演や 研修に 参加した	市の 講座や 講演に 参加した	地区の 講座や 講演に 参加した	自治会 の町別 懇談会 に参加 した	参加して いない	その他	無回答
平田地区	26	11.5	0.0	11.5	15.4	61.5	0.0	0.0
市辺地区	45	11.1	2.2	11.1	26.7	55.6	2.2	4.4
玉緒地区	46	15.2	10.9	15.2	26.1	52.2	0.0	0.0
御園地区	55	9.1	10.9	10.9	32.7	52.7	1.8	3.6
建部地区	41	17.1	7.3	4.9	26.8	56.1	0.0	2.4
中野地区	85	8.2	3.5	12.9	18.8	65.9	1.2	0.0
八日市地区	137	9.5	3.6	5.8	9.5	73.0	1.5	1.5
南部地区	83	13.3	3.6	12.0	12.0	68.7	1.2	2.4
永源寺地区	76	11.8	6.6	13.2	26.3	59.2	0.0	1.3
五個荘地区	153	15.0	2.0	9.2	19.0	62.1	0.7	2.0
愛東地区	56	5.4	0.0	14.3	23.2	64.3	0.0	1.8
湖東地区	116	14.7	6.9	12.1	26.7	52.6	0.9	2.6
能登川地区	306	12.1	7.2	9.5	25.2	54.9	1.6	3.6
蒲生地区	165	10.3	4.2	12.1	15.8	64.2	0.6	1.2
わからない	15	6.7	0.0	0.0	0.0	80.0	6.7	6.7

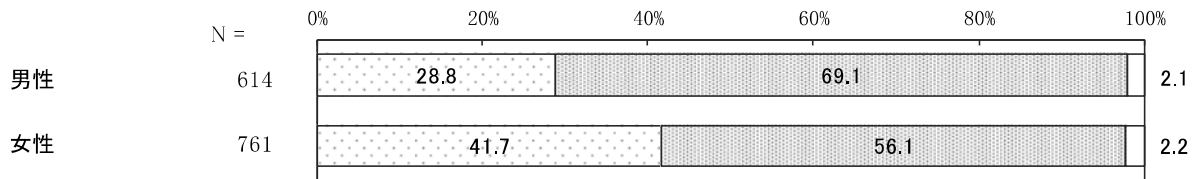
問 37 あなたは、オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマークであると知っていますか。《○  
1つ》

**認知度は4割近く、6割が「知らない」**

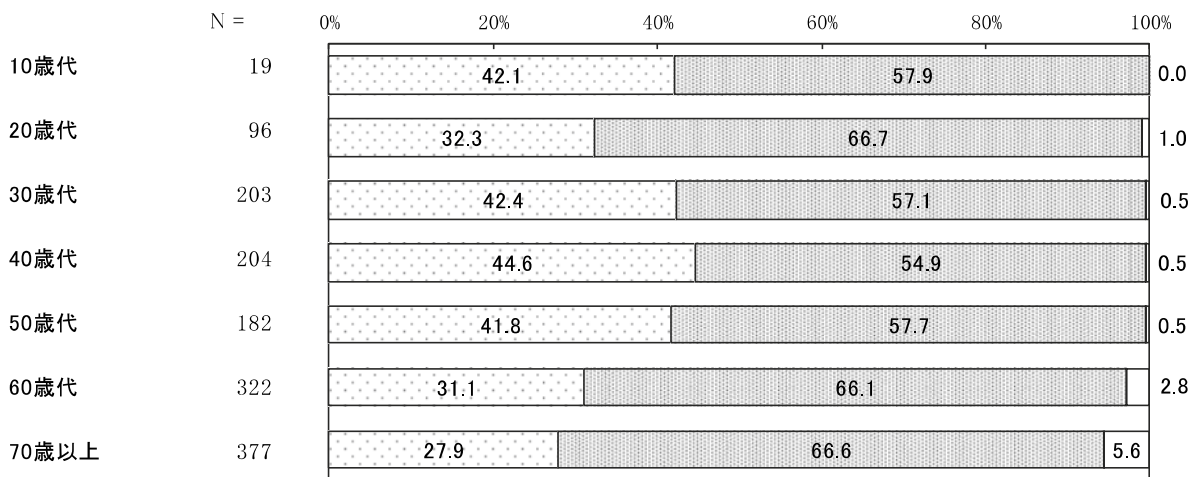
- ・ オレンジリボン(児童虐待防止のシンボルマーク)の認知度については、「知っている」が35.5%、「知らない」が62.0%と、知らない人が多くなっています。
- ・ 性別では男性より女性、年代別では10歳代と30～50歳代で、居住地区別では中野地区、平田地区で、認知度が高くなっています。



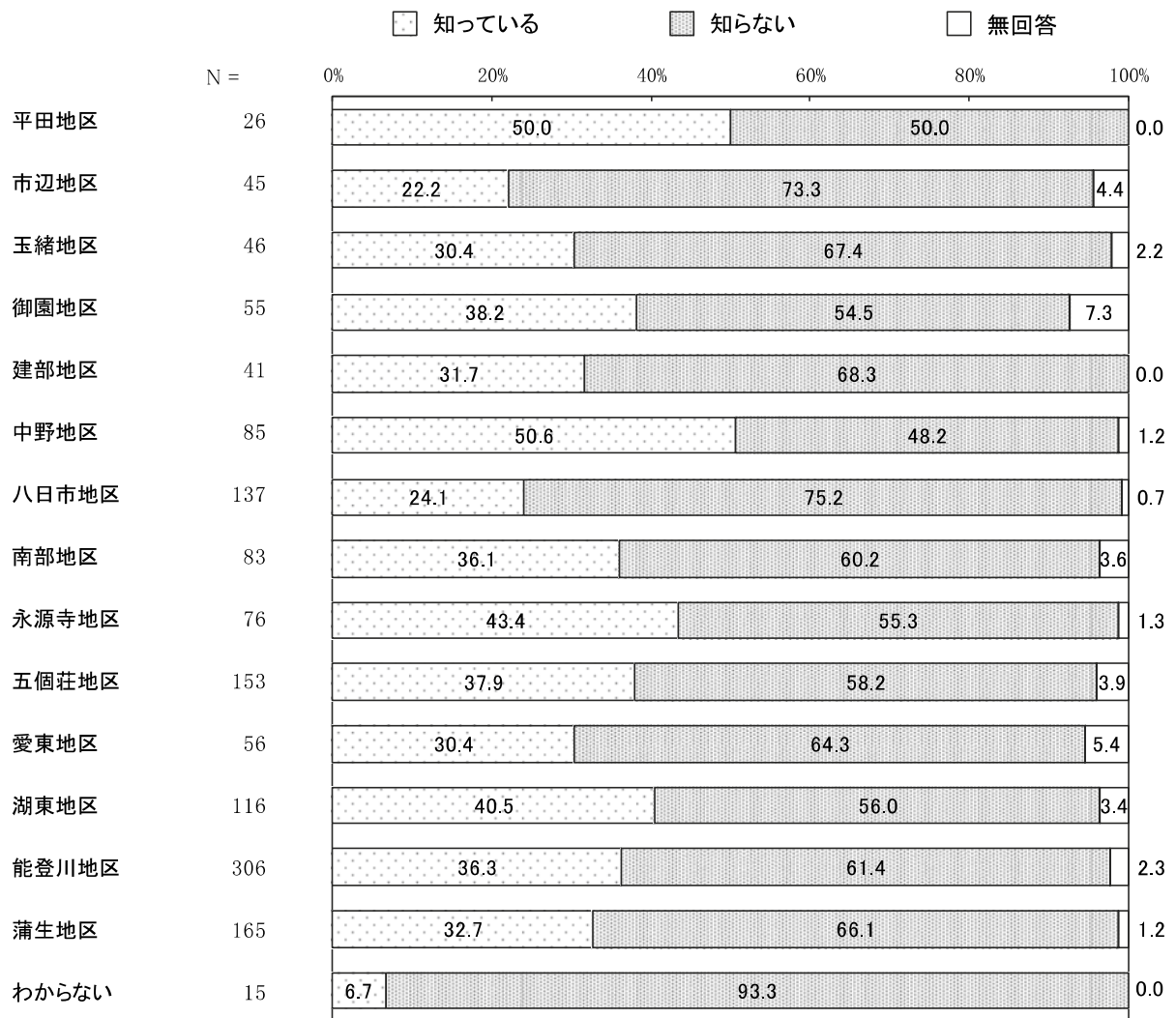
**【性別】**



**【年代別】**



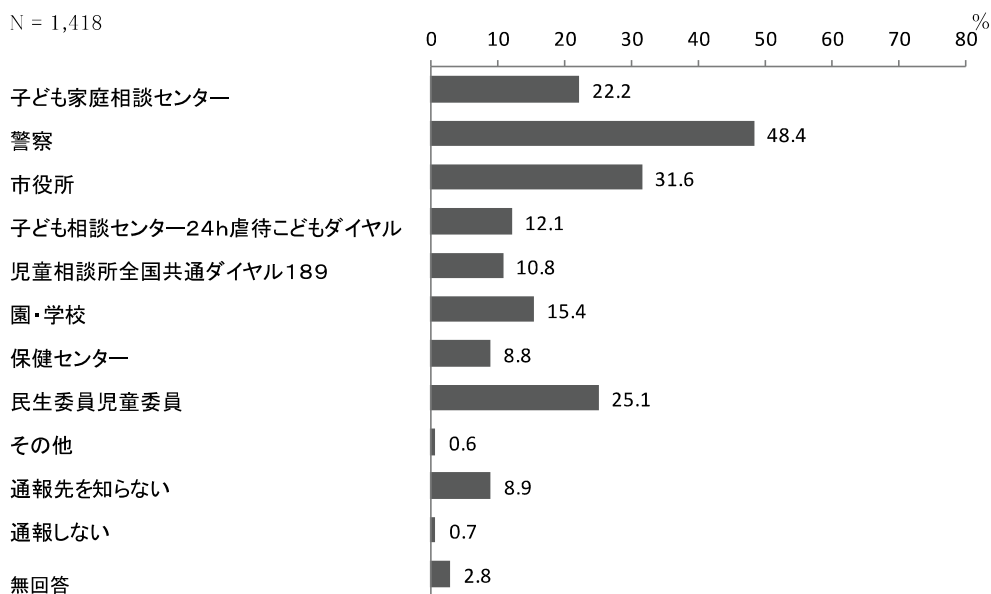
【居住地区別】



問 38 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

**通報先は、警察、市役所、民生委員児童委員、子ども家庭相談センター等**

- ・ 児童虐待が疑われるときの通報先については、「警察」が48.4%と最も多く、次いで「市役所」31.6%、「民生委員児童委員」25.1%、「子ども家庭相談センター」22.2%と続きます。一方、「通報先を知らない」は8.9%、「通報しない」は0.7%とわずかとなっています。
- ・ 性別、年代別、居住地区別のいずれも、すべて「警察」が最も多くなっています。
- ・ 性別では、男性は「警察」が女性より多く、女性は「民生委員児童委員」、「園・学校」、「保健センター」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、「警察」は10歳代で、「市役所」は60歳代で、「民生委員児童委員」は60歳以上で多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、「警察」は御園地区で、「市役所」は御園地区、永源寺地区、建部地区で、「園・学校」は愛東地区、永源寺地区、御園地区で、「民生委員児童委員」は愛東地区、市辺地区で多くあげられています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	子ども家庭相談センター	警察	市役所	子ども虐待相談センター24hダイヤル	児童相談所全国共通ダイヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
男性	614	22.8	55.2	32.7	10.3	9.4	12.5	5.5	21.8	0.3	9.4	0.5	2.3
女性	761	22.1	42.7	31.1	13.9	11.7	17.9	11.6	27.5	0.9	8.5	0.8	3.0

【年代別】

単位:%

区 分	有効回答数 (件)	子ども家庭相談セン ター	警察	市役所	子ども相談センター 4h虐待子どもダイヤ ル	児童相談所全国共通ダ イヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
10歳代	19	15.8	63.2	10.5	15.8	15.8	15.8	0.0	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0
20歳代	96	27.1	47.9	21.9	13.5	18.8	12.5	13.5	4.2	0.0	11.5	0.0	1.0
30歳代	203	25.6	54.7	32.0	15.8	12.8	16.3	14.8	5.4	0.0	8.4	0.5	1.0
40歳代	204	23.0	48.5	29.4	13.7	10.3	17.6	7.4	7.8	0.5	10.3	0.0	0.0
50歳代	182	29.7	47.8	33.5	8.2	10.4	15.9	6.6	19.8	0.5	10.4	3.3	0.5
60歳代	322	18.6	47.8	37.0	11.8	9.3	14.0	9.0	36.6	0.9	6.2	0.6	2.8
70歳以上	377	17.8	45.9	31.6	11.4	9.5	15.4	6.6	44.0	1.1	8.8	0.3	6.4

【居住地区別】

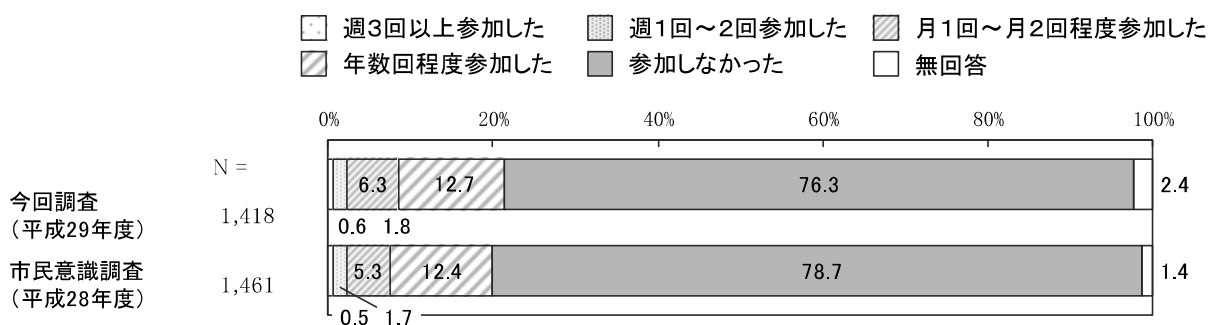
単位:%

区 分	有効回答数 (件)	子ども家庭相談セン ター	警察	市役所	子ども相談センター 4h虐待子どもダイヤ ル	児童相談所全国共通ダ イヤル189	園・学校	保健センター	民生委員児童委員	その他	通報先を知らない	通報しない	無回答
平田地区	26	23.1	42.3	30.8	3.8	3.8	11.5	11.5	19.2	3.8	3.8	0.0	0.0
市辺地区	45	22.2	46.7	28.9	20.0	13.3	17.8	8.9	37.8	0.0	4.4	0.0	2.2
玉緒地区	46	26.1	43.5	39.1	13.0	6.5	17.4	15.2	32.6	0.0	8.7	0.0	2.2
御園地区	55	25.5	69.1	43.6	5.5	0.0	21.8	3.6	30.9	0.0	0.0	3.6	3.6
建部地区	41	29.3	53.7	41.5	9.8	7.3	19.5	7.3	12.2	0.0	4.9	0.0	4.9
中野地区	85	22.4	41.2	37.6	11.8	9.4	17.6	10.6	18.8	0.0	11.8	2.4	4.7
八日市地区	137	17.5	52.6	27.0	13.1	16.1	12.4	3.6	13.9	0.7	13.9	0.0	1.5
南部地区	83	26.5	44.6	32.5	7.2	9.6	18.1	14.5	18.1	0.0	12.0	0.0	2.4
永源寺地区	76	21.1	46.1	42.1	10.5	11.8	22.4	7.9	28.9	0.0	10.5	0.0	2.6
五個荘地区	153	23.5	49.7	26.8	13.7	11.8	12.4	7.2	23.5	0.7	7.2	0.7	4.6
愛東地区	56	26.8	51.8	37.5	12.5	17.9	28.6	8.9	42.9	1.8	3.6	0.0	1.8
湖東地区	116	20.7	43.1	27.6	10.3	12.1	9.5	10.3	28.4	0.9	8.6	0.0	1.7
能登川地区	306	19.0	49.3	31.0	12.7	7.8	14.7	11.4	29.1	1.0	10.5	0.3	2.6
蒲生地区	165	22.4	46.7	27.9	15.8	13.9	13.9	6.1	23.6	0.6	8.5	1.8	1.8
わからない	15	33.3	53.3	26.7	6.7	13.3	0.0	6.7	6.7	0.0	6.7	0.0	6.7

問 39 あなたは、この1年間にコミュニティセンター等で趣味的なもの（音楽・美術等）や教養的なもの（文学・歴史等）の活動に参加しましたか。《○1つ》

**2割が「参加した」、8割近くが「参加しなかった」**

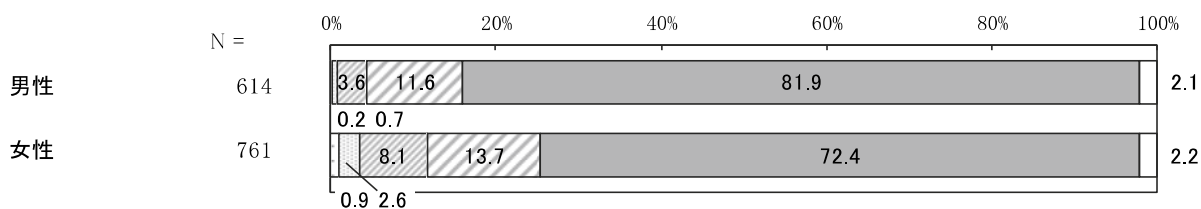
- ・ この1年間に音楽・美術等や文学・歴史等の活動に参加したかについては、「参加しなかった」が76.3%と最も多く、次いで「年数回程度参加した」12.7%、「月1回～月2回程度参加した」6.3%と続きます。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「参加しなかった」の割合が2.4ポイント減少しています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では50歳代までで、居住地区別では五個荘地区、湖東地区、八日市地区、御園地区、中野地区で、「参加しなかった」人が多くみられます。



単位：%

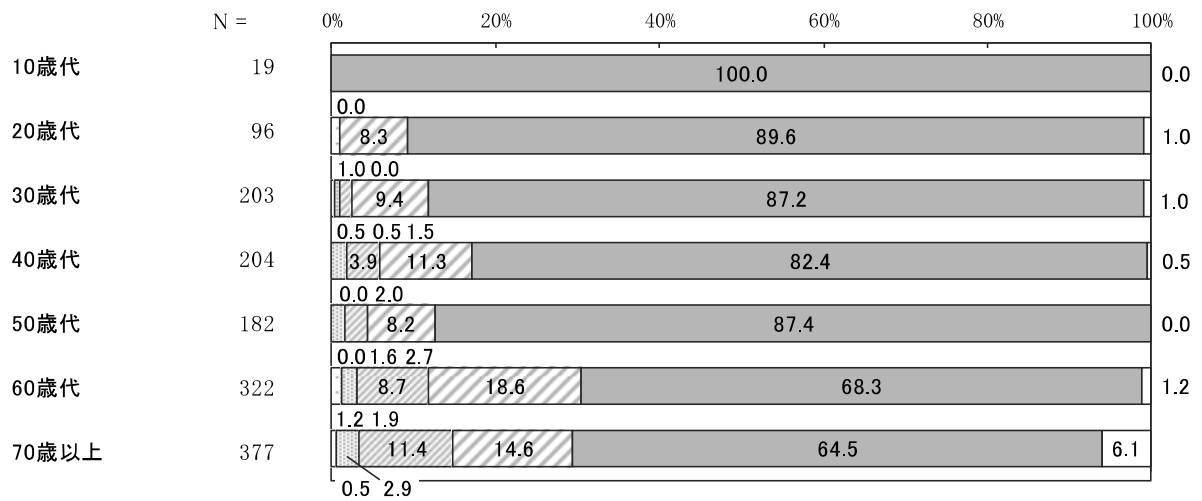
	週1回以上参加	参加しなかった
①今回調査(平成29年度)	2.4	76.3
②市民意識調査(平成28年度)	2.2	78.7
①-②	0.2	-2.4

**【性別】**

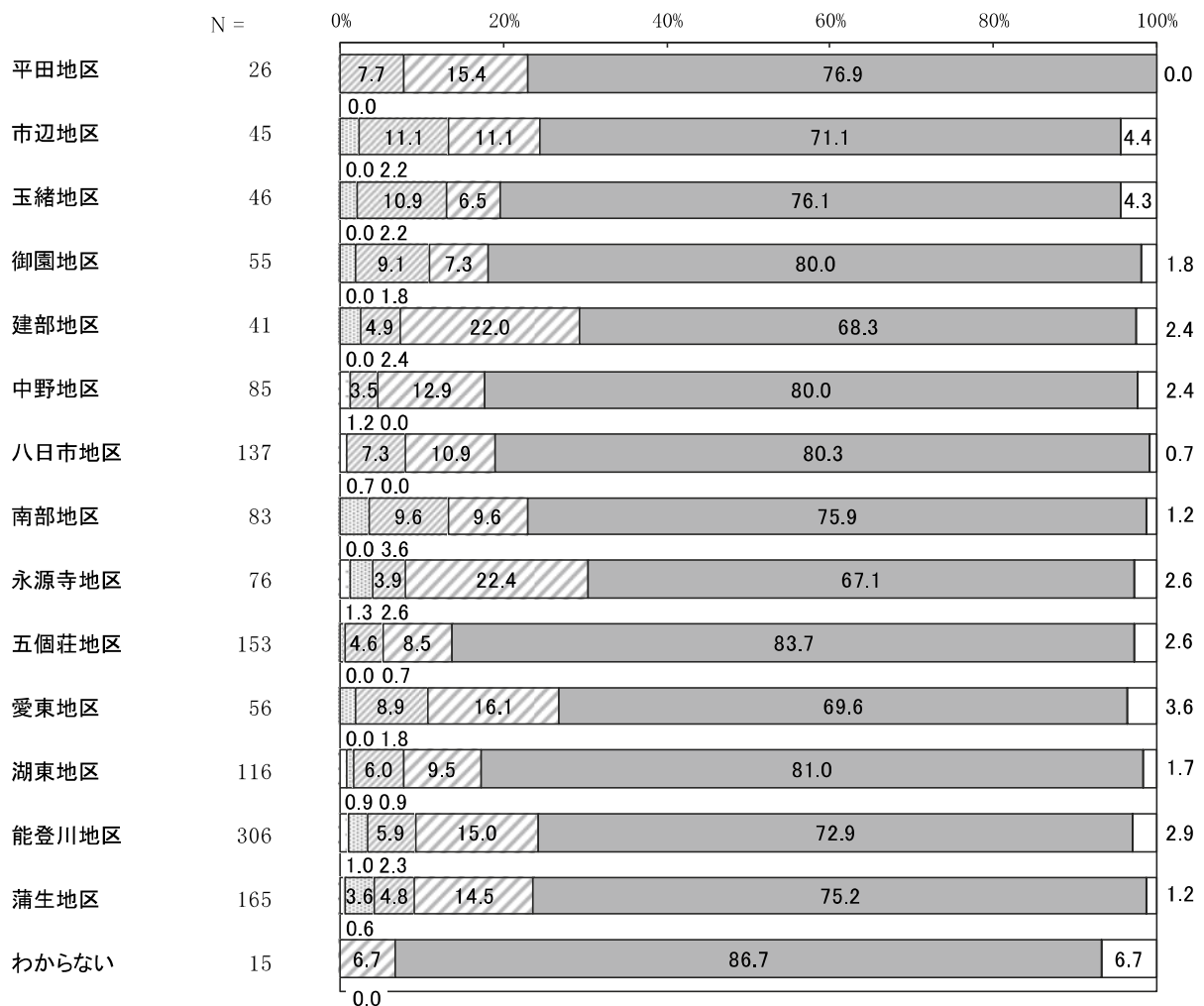


【年代別】

週3回以上参加した
  週1回～2回参加した
  月1回～2回程度参加した
  年数回程度参加した
  参加しなかった
  無回答



【居住地区別】

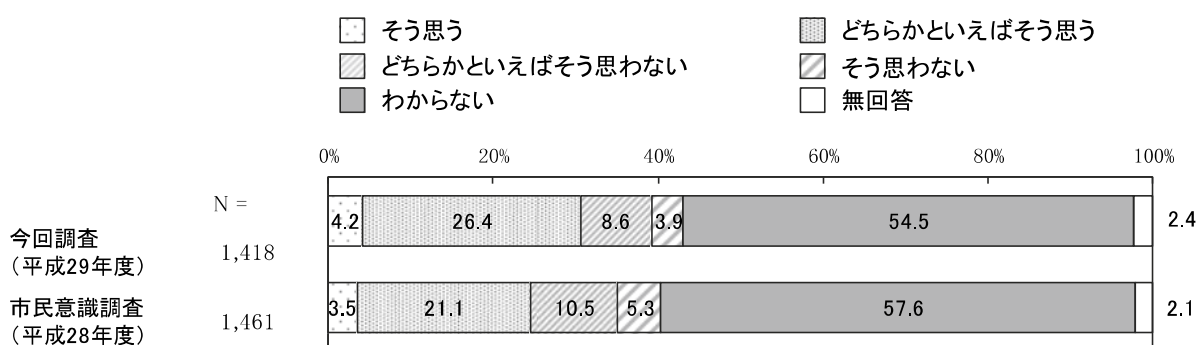




問 40 あなたは、東近江市において青少年健全育成の取組がなされていると思いますか。《○1つ》

**3割が「取組がなされている」、半数以上が「わからない」**

- ・ 青少年健全育成の取組がなされていると思うかについては、「わからない」が54.5%と最も多くなっています。取組がなされていると思う人（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は30.6%で、そう思わない人（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）の割合（12.5%）より多くなっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、青少年健全育成の取組がなされていると思う人（前述）の割合が6.0ポイント増加し、そう思わない人（前述）の割合が3.3ポイント減少し、評価はあがっています。
- ・ 年代別では60歳以上で、居住地区別では永源寺地区で、青少年の健全育成の取組がなされていると思う人（前述）が多くみられます。



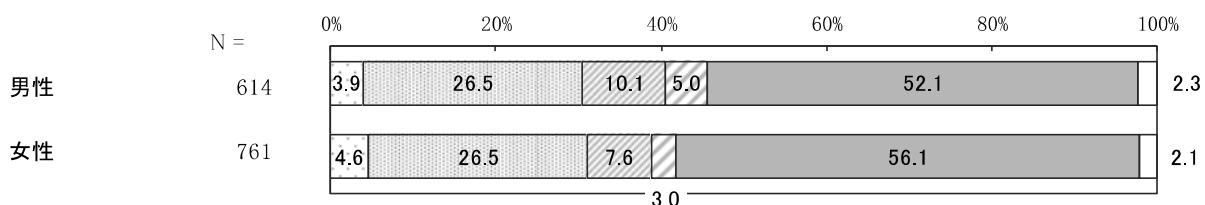
単位：%

	そう思う	そう思わない	差
①今回調査(平成29年度)	30.6	12.5	18.1
②市民意識調査(平成28年度)	24.6	15.8	8.8
①-②	6.0	-3.3	9.3

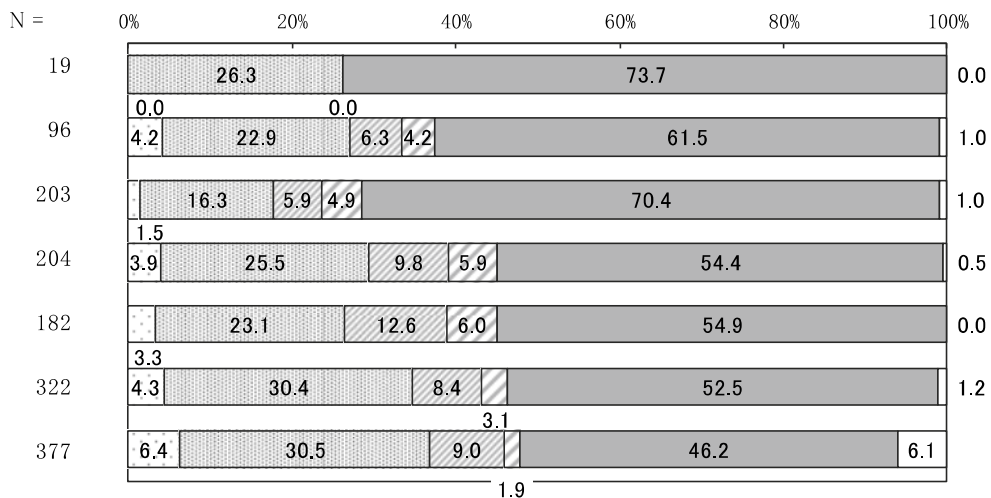
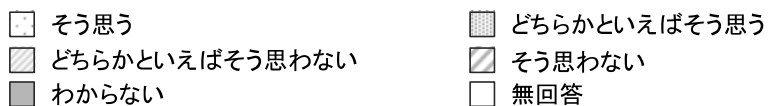
\* そう思う:「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計

\* そう思わない:「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計

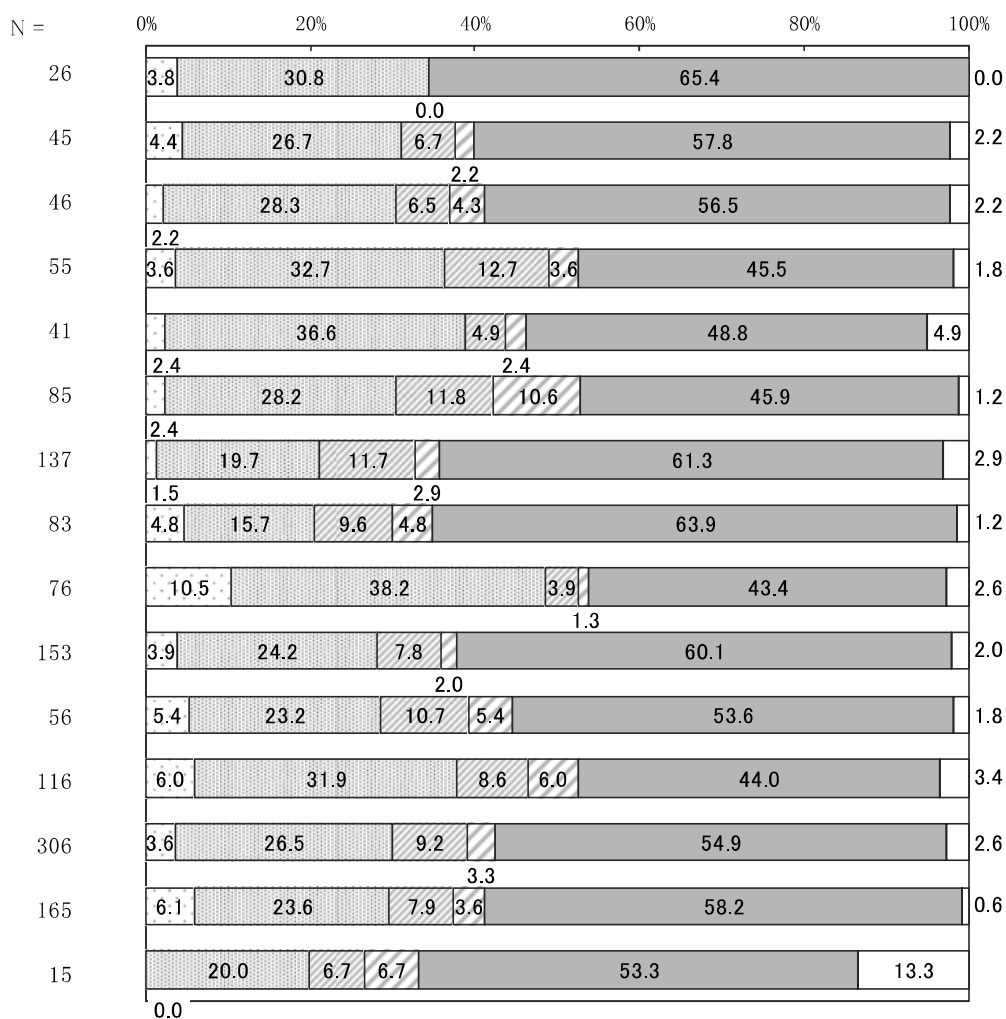
**【性別】**



【年代別】



【居住地区別】

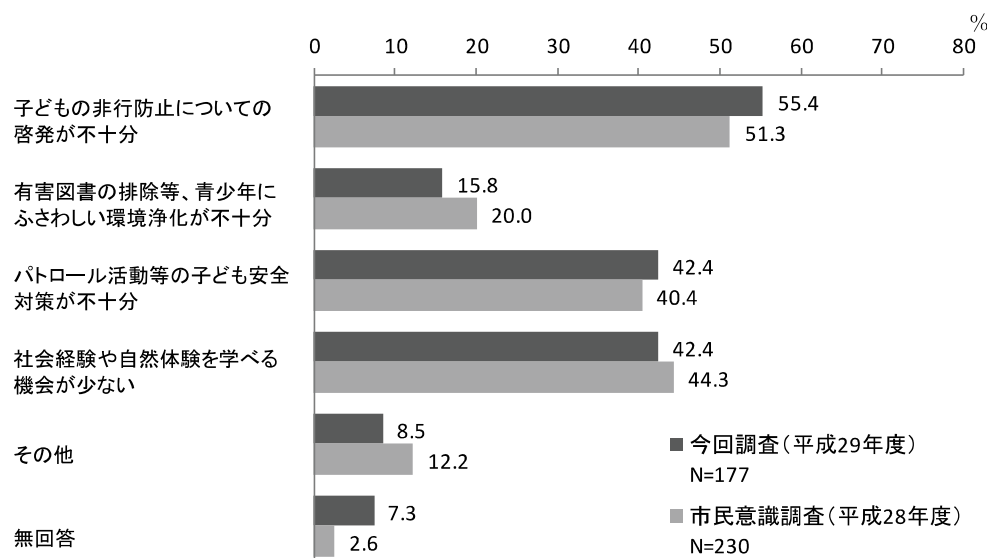


問 40-1 問 40 で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方にお聞きします。

その理由はこういったことですか。《あてはまるものすべてに○》

**青少年健全育成の取組がなされていないと思う理由は「子どもの非行防止についての啓発が不十分」**

- ・ 青少年健全育成の取組がなされていないと思う理由としては、「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が 55.4%と最も多く、次いで「パトロール活動等の子どもの安全対策が不十分」と「社会経験や自然体験を学べる機会が少ない」（ともに 42.4%）と続きます。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、「子どもの非行防止についての啓発が不十分」の割合が 4.1 ポイント増加し、「有害図書の排除等、青少年にふさわしい環境浄化が不十分」の割合が 4.2 ポイント減少しています。
- ・ 年代別では、10 歳代、30～60 歳代では「子どもの非行防止についての啓発が不十分」が、20 歳代では「パトロール活動等の子どもの安全対策が不十分」が最も多くあげられています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数 (件)	子どもの非行防止についての啓発が不十分	有害図書の排除等、環境浄化が不十分	パトロール活動等の子ども安全対策が不十分	社会経験や自然体験を学べる機会が少ない	その他	無回答
男性	93	61.3	15.1	41.9	40.9	6.5	7.5
女性	81	48.1	17.3	42.0	45.7	9.9	7.4

【年代別】

単位:%

区 分	有効回答数（件）	子どもの非行防止についての啓発が不十分	少年が不十分な浄化にふさわしい環境	有害図書の排除等、青少年に有害な環境	パトロール活動が不十分	子ども安全対策が不十分	学べる機会が少ない	社会経験や自然体験を	その他	無回答
10歳代	10	70.0	10.0	50.0	60.0	10.0	0.0			
20歳代	22	40.9	27.3	54.5	36.4	13.6	4.5			
30歳代	32	43.8	18.8	25.0	40.6	9.4	6.3			
40歳代	34	64.7	20.6	38.2	47.1	11.8	2.9			
50歳代	37	51.4	16.2	37.8	40.5	5.4	13.5			
60歳代	41	65.9	4.9	56.1	41.5	2.4	9.8			
70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0			

【居住地区別】

単位:%

区 分	有効回答数（件）	子どもの非行防止についての啓発が不十分	少年が不十分な浄化にふさわしい環境	有害図書の排除等、青少年に有害な環境	パトロール活動が不十分	子ども安全対策が不十分	学べる機会が少ない	社会経験や自然体験を	その他	無回答
平田地区	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
市辺地区	4	50.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0			
玉緒地区	5	40.0	20.0	40.0	20.0	0.0	40.0			
御園地区	9	55.6	33.3	55.6	44.4	11.1	11.1			
建部地区	3	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0			
中野地区	19	63.2	26.3	42.1	36.8	10.5	10.5			
八日市地区	20	70.0	15.0	30.0	30.0	15.0	0.0			
南部地区	12	66.7	16.7	41.7	41.7	16.7	8.3			
永源寺地区	4	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0			
五個荘地区	15	53.3	26.7	40.0	60.0	0.0	6.7			
愛東地区	9	33.3	0.0	33.3	55.6	11.1	0.0			
湖東地区	17	47.1	17.6	52.9	52.9	5.9	11.8			
能登川地区	38	60.5	10.5	47.4	42.1	2.6	5.3			
蒲生地区	19	47.4	5.3	52.6	31.6	10.5	10.5			
わからない	2	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0			

(6) 都市整備について

問 41 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《それぞれの項目に○1つ》

**満足度は、主要幹線道路、地域の生活道路、雨水排水、公園、河川の順**

- ・ 都市基盤の整備に対する満足度については、満足（「満足」と「どちらかといえば満足」の合計）の割合と、不満（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）の割合を比べると、⑤公園の整備を除いていずれも満足の割合が高くなっています。
- ・ 満足度の高い順に並べると、①主要幹線道路の整備、②地域の生活道路の整備、④雨水排水の整備、⑤公園の整備、③河川の整備となっています。一方、不満（「どちらかといえば不満」と「不満」の合計）とする人が多い項目は⑤公園の整備、②地域の生活道路の整備となっています。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、③河川の整備、②地域の生活道路の整備、④雨水排水の整備の順に満足度があがっています。

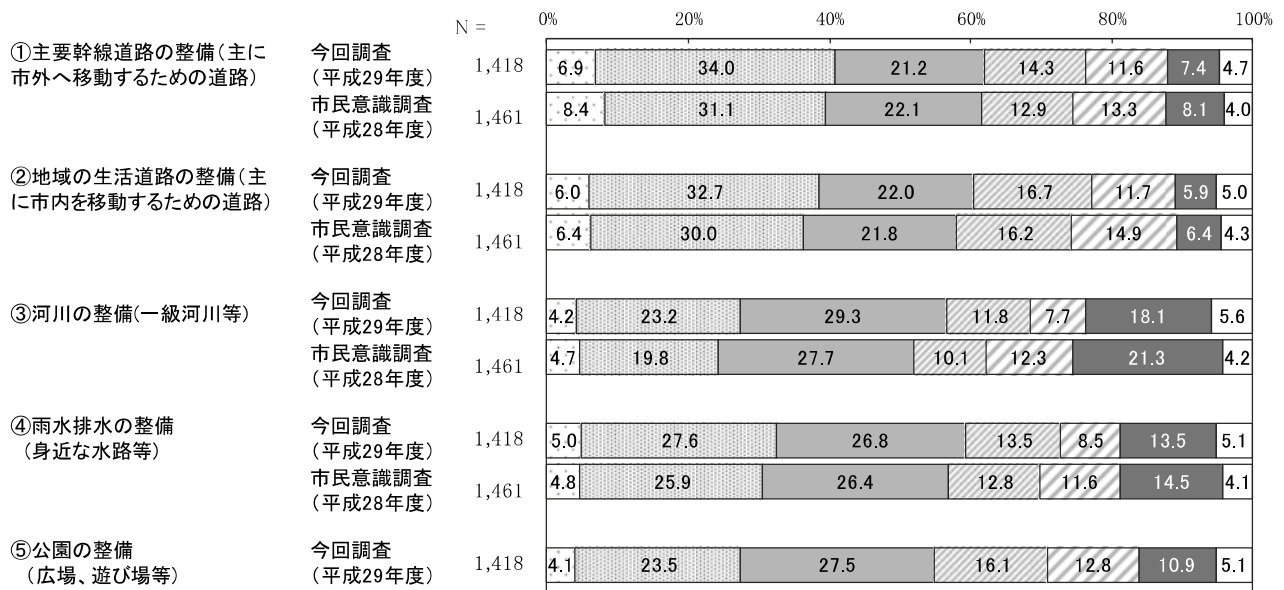
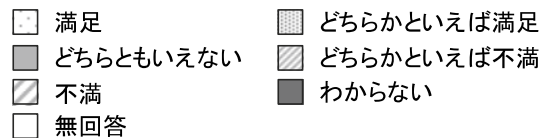
	満足	不満	加重平均
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	40.9% (+1.4)	25.9% (-0.3)	0.10
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	38.7% (+2.3)	28.4% (-2.7)	0.05
③河川の整備(一級河川等)	27.4% (+2.9)	19.5% (-2.9)	0.04
④雨水排水の整備(身近な水路等)	32.6% (+1.9)	22.0% (-2.4)	0.07
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	27.6% —	28.9% —	-0.10

\* 満足:「満足」と「どちらかといえば満足」の合計

\* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

\* 加重平均:「満足」は+2点、「どちらかといえば満足」は+1点、「どちらかといえば不満」は-1点、「不満」は-2点、「どちらともいえない」と「わからない」は0点として加点し、その平均値を出したもの。値が大きいほど満足度が高く、値が小さいほど満足度が低いといえる。

\* 満足と不満の( )内の数値は平成 28 年度調査との差を示している。



### ①主要幹線道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、30歳代で満足度が高く、50歳代で満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、御園地区、蒲生地区で満足度が高く、平田地区で満足度が低くなっています。

### ②地域の生活道路の整備

- ・ 性別では、女性の満足度が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、20～30歳代で満足度が高く、50歳代で満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、蒲生地区で満足度が高く、平田地区で満足度が低くなっています。

### ③河川の整備

- ・ 年代別では、20～30歳代で満足度が高く、10歳代と60歳代で満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、建部地区と湖東地区で満足度が高く、平田地区で満足度が低くなっています。

### ④雨水排水の整備

- ・ 年代別では、20～30歳代で満足度が高く、40～60歳代で満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、湖東地区、永源寺地区、五個荘地区で満足度が高く、南部地区、中野地区、玉緒地区で満足度が低くなっています。

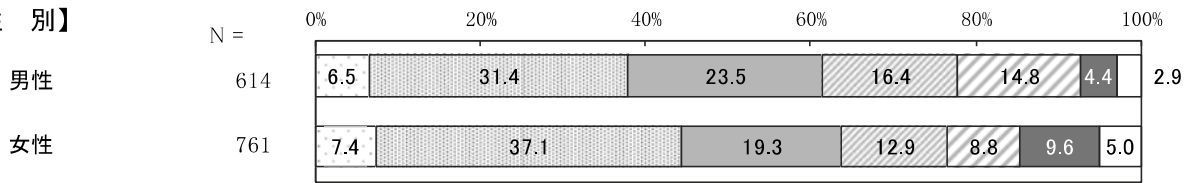
### ⑤公園の整備

- ・ 性別では、女性は満足度が低くなっています。
- ・ 年代別では、50歳代と20歳代で満足度が高く、10歳代と30～40歳代、60歳代で満足度が低くなっています。
- ・ 居住地区別では、五個荘地区と湖東地区で満足度が高く、南部地区、中野地区、平田地区、建部地区、御園地区、八日市地区、玉緒地区、永源寺地区、蒲生地区（満足と不満の差が大きい順）で満足度が低くなっています。

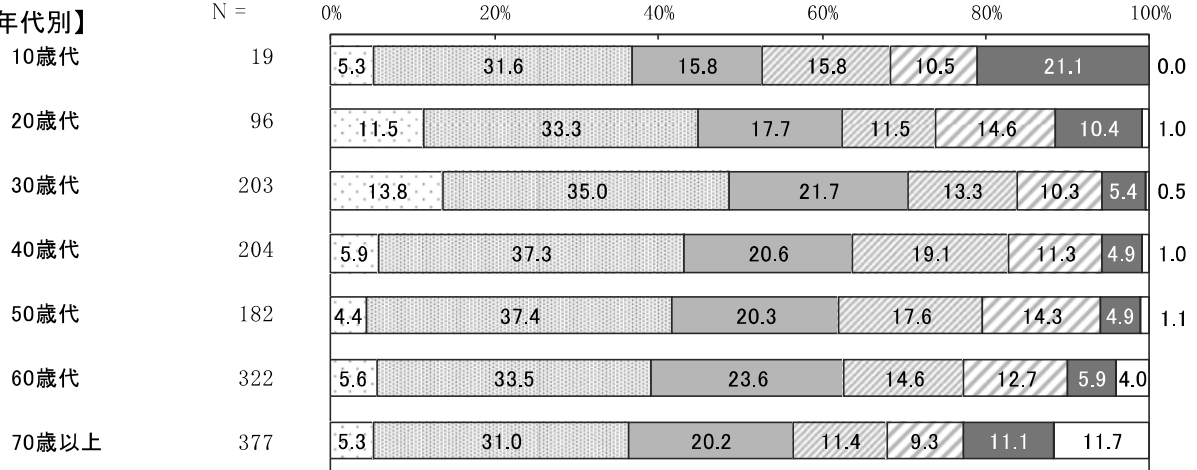
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)



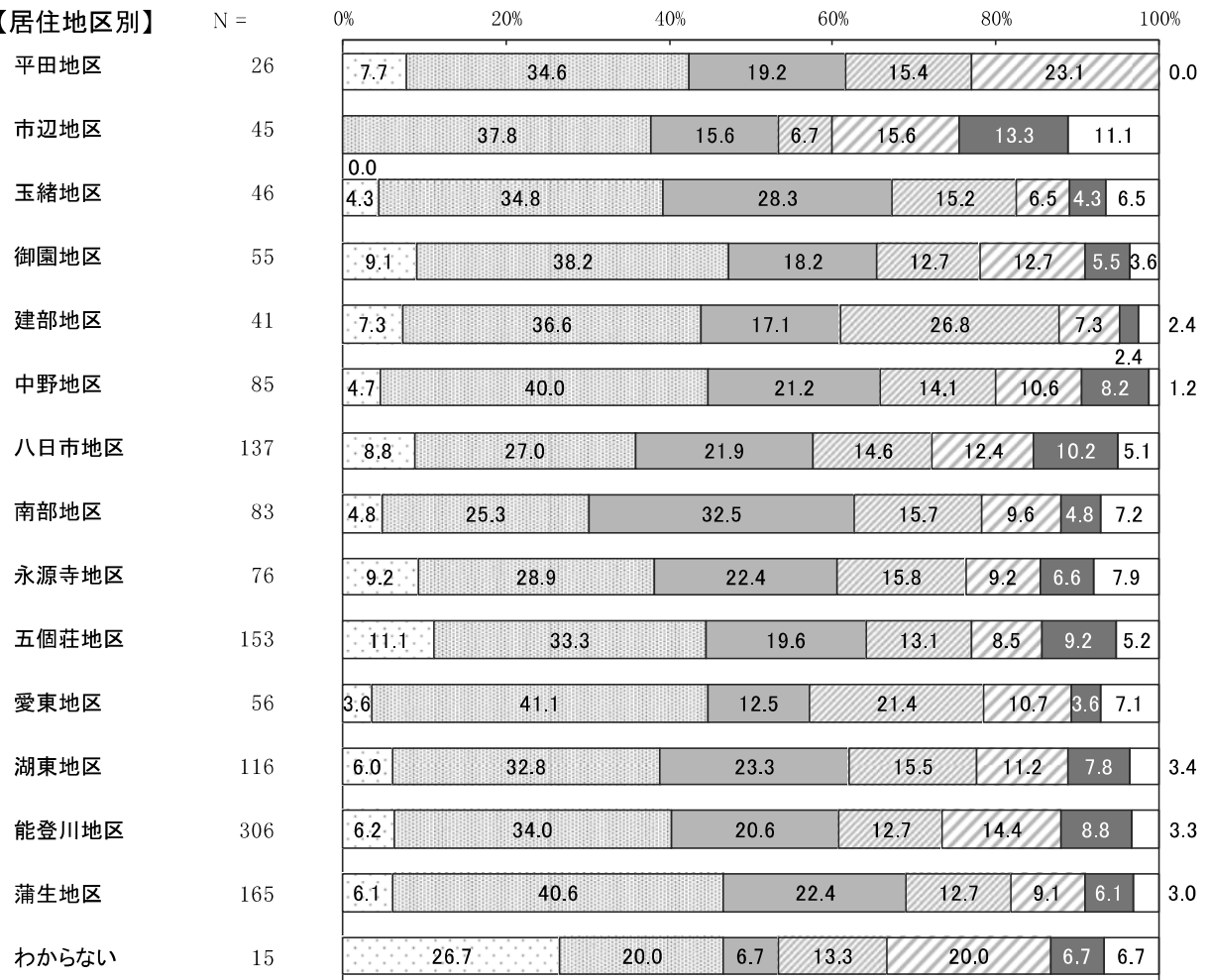
【性別】



【年代別】



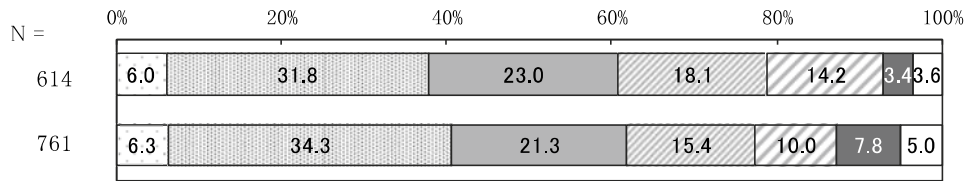
【居住地区別】



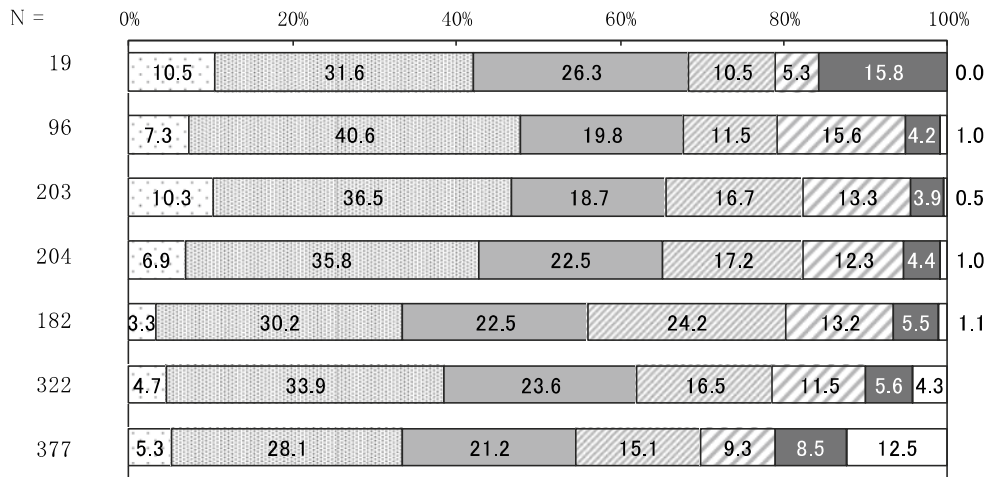
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)



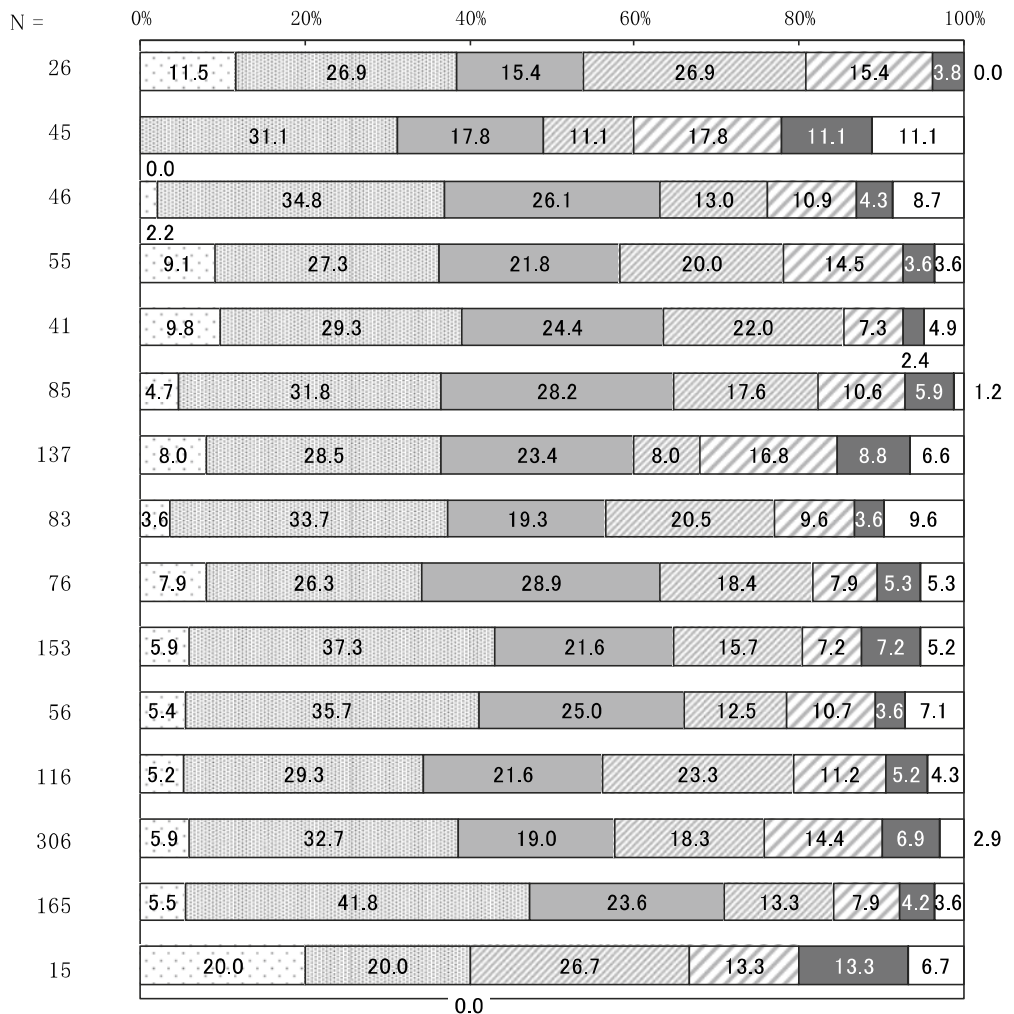
【性別】



【年代別】



【居住地区別】





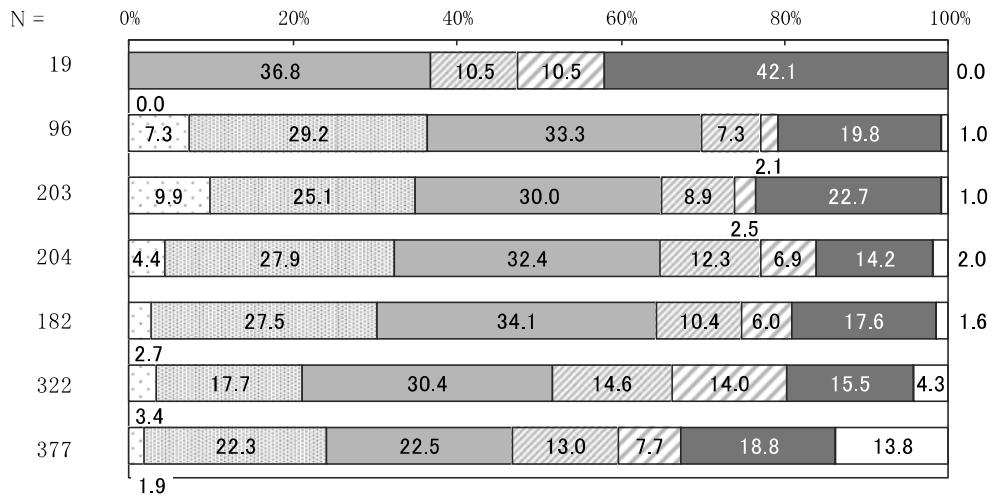
③河川の整備(一級河川等)



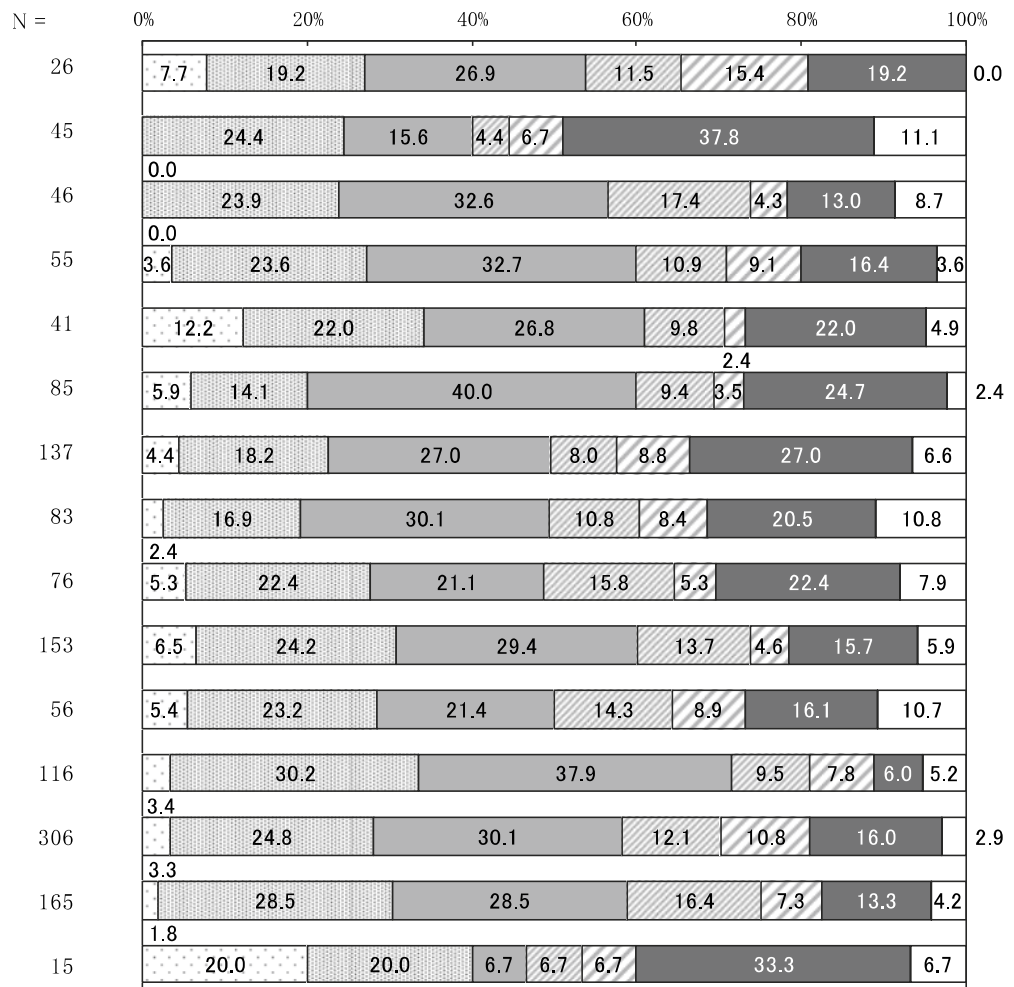
【性別】



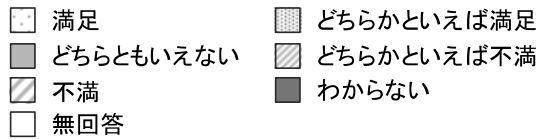
【年代別】



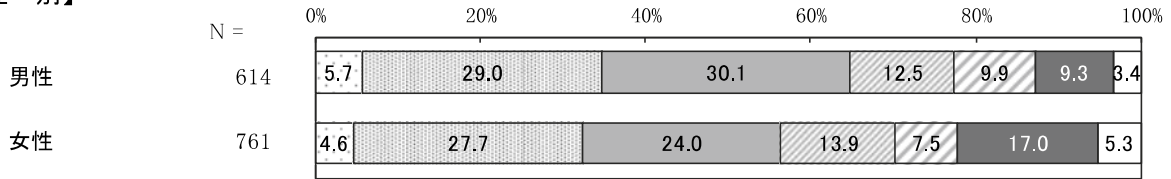
【居住地区別】



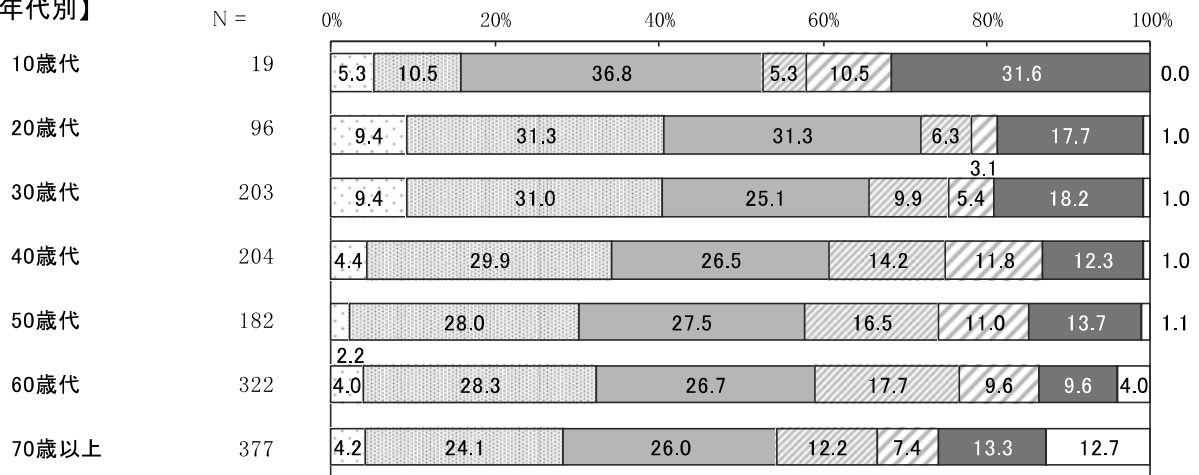
④雨水排水の整備(身近な水路等)



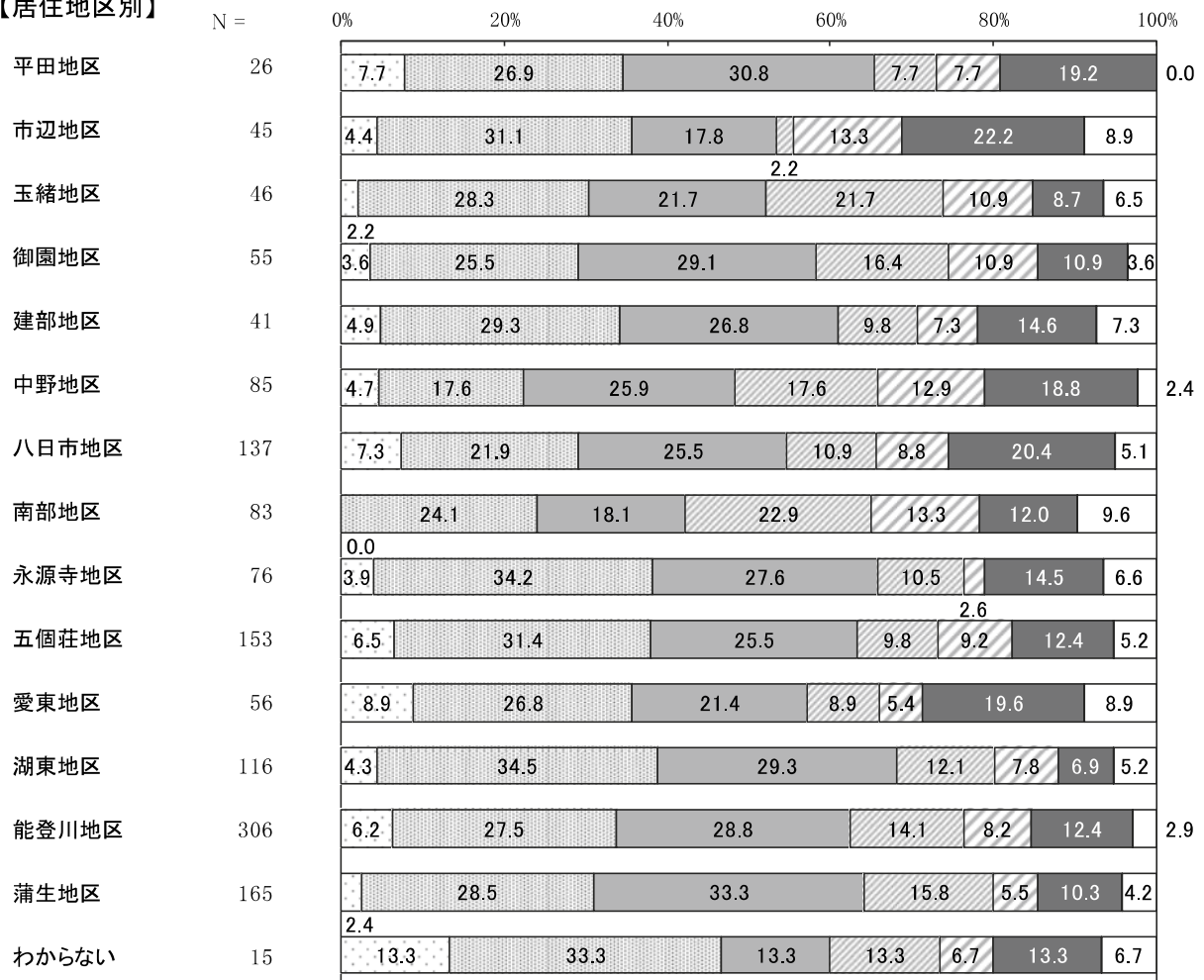
【性別】



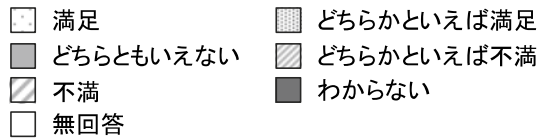
【年代別】



【居住地区別】



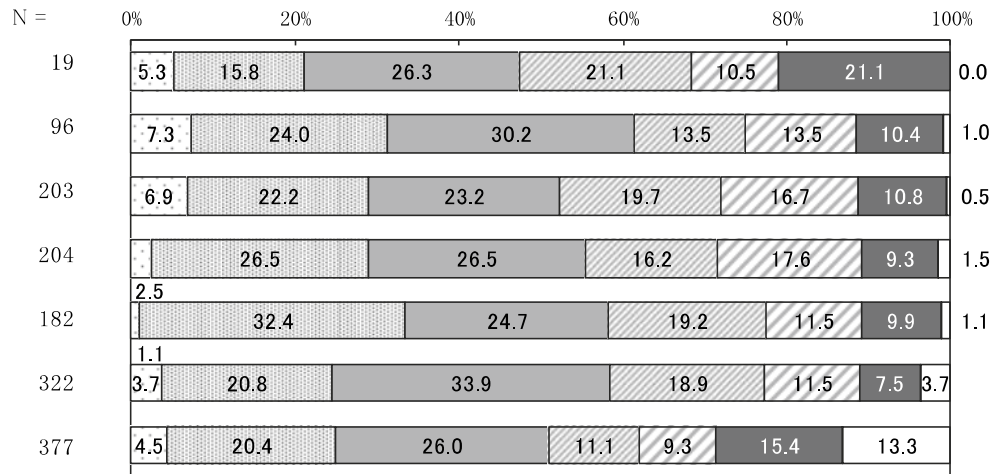
⑤公園の整備(広場、遊び場等)



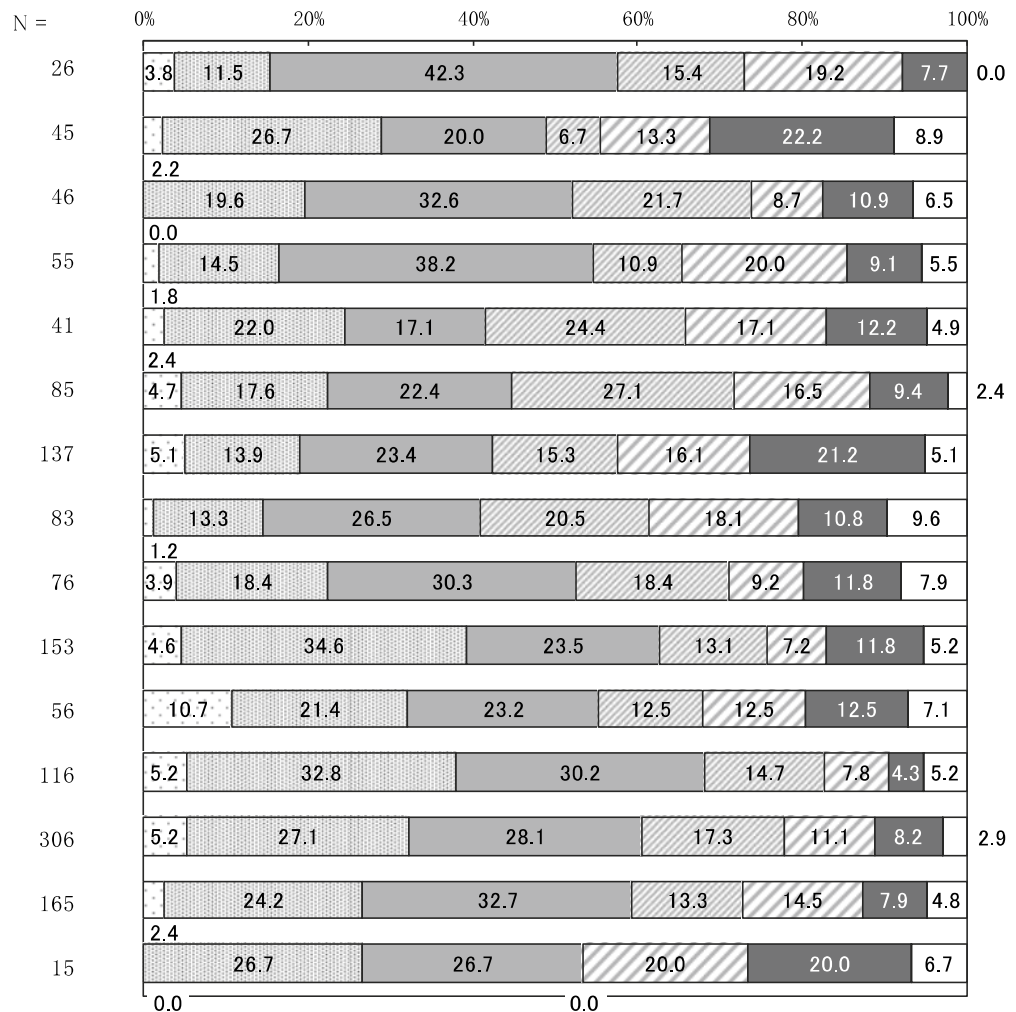
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

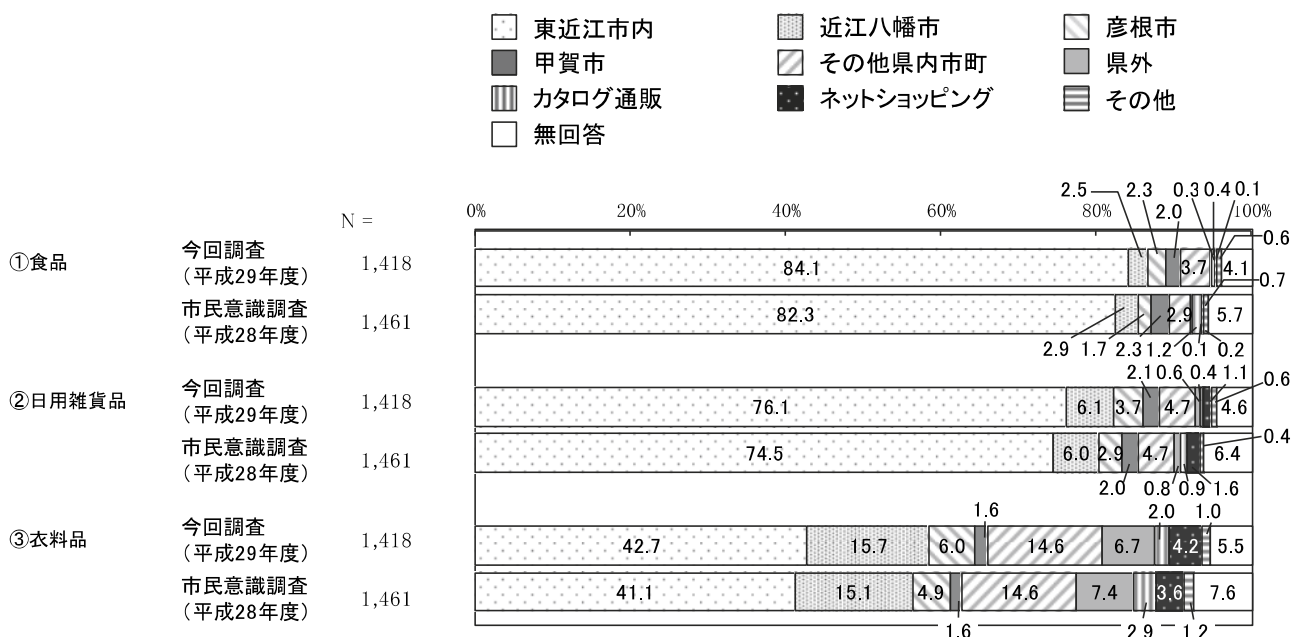


(7) 購買状況等について

問 42 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入されますか。《それぞれの項目に○1つ》

**食品、日用雑貨品は8割前後が市内で購入、衣料品は市外で購入**

- 食品、日用雑貨品、衣料品の購入先は、①食品と②日用雑貨品は、主に「東近江市内」で購入している人が8割前後となっています（それぞれ84.1%、76.1%）。一方、③衣料品については、半数以上（51.8%）が市外で購入しており、その内訳としては「近江八幡市」（15.7%）、「その他県内市町」（14.6%）、「県外」（6.7%）、「彦根市」（6.0%）などが多くあげられています。
- 平成28年度の調査と比較すると、それぞれ「市内」の割合が若干増加しています。



①食品

- 年代別では、10歳代が市内で購入している人がほかの年代より多くみられます。
- 居住地区別では、建部地区と中野地区で、市内で購入している人がほかの地区より多くみられます。一方、平田地区では近江八幡市が6割近くとなっています。また、蒲生地区では甲賀市が、湖東地区ではその他県内市町村が、ほかの地区より多くあげられています。

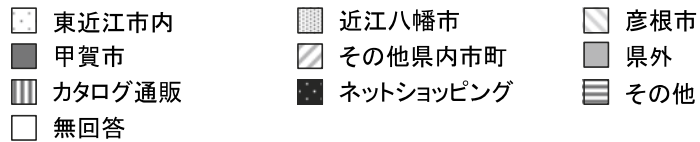
②日用雑貨品

- 年代別では、60歳代が市内で購入している人がほかの年代より多くみられます。また、10～20歳代で、近江八幡市が多くあげられています。
- 居住地区別では、建部地区、愛東地区、御園地区で、市内で購入している人がほかの地区より多くみられます。一方、平田地区では近江八幡市が7割近くとなっています。また、湖東地区ではその他県内市町村が、蒲生地区では甲賀市やその他県内市町村が、ほかの地区より多くあげられています。

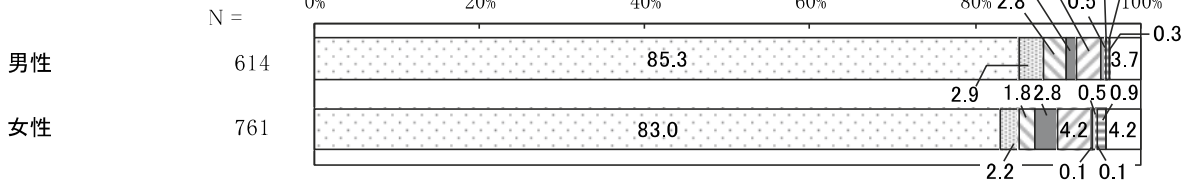
### ③衣料品

- ・ 年代別では、60歳以上が市内で購入している人がほかの年代より多くみられます。また、20～40歳代でその他県内市町村が、10～20歳代で県外が、30歳代でネットショッピングが、ほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、玉緒地区で、市内で購入している人がほかの地区より多くみられます。一方、平田地区では近江八幡市が6割近くとなっています。また、湖東地区ではその他県内市町村が、能登川地区では彦根市が、八日市地区と愛東地区では県外が、中野地区ではネットショッピングが、ほかの地区より多くあげられています。

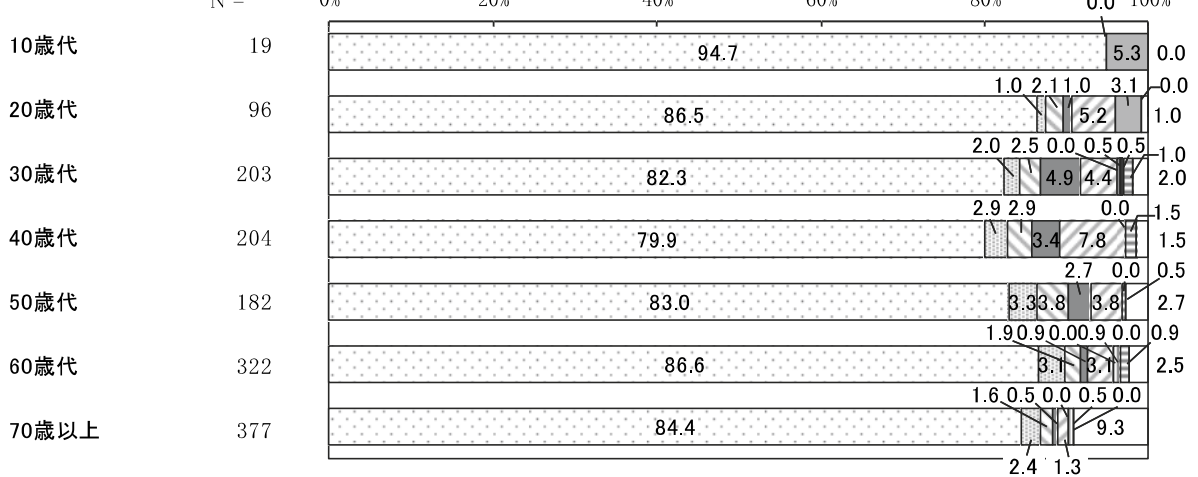
①食品



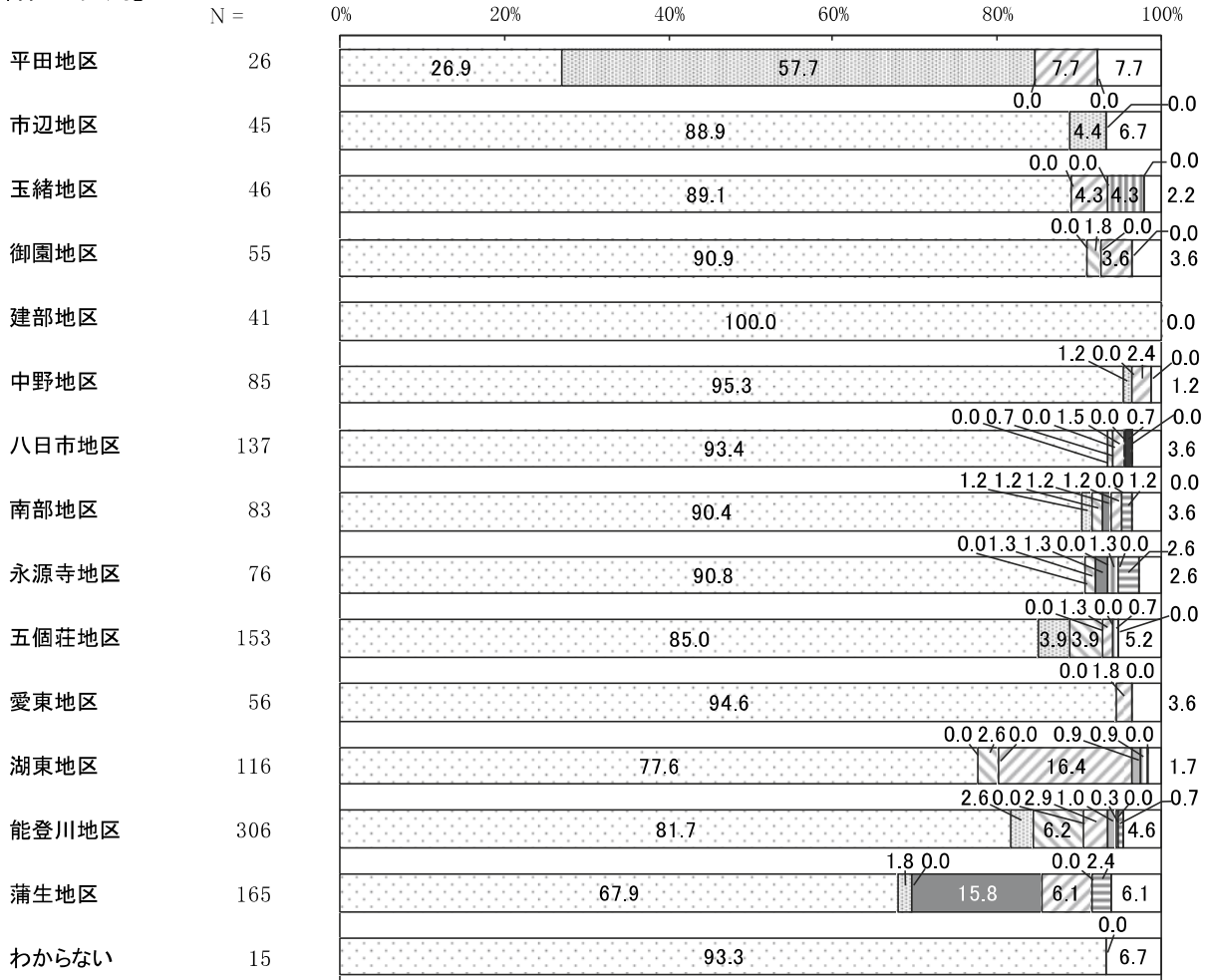
【性別】



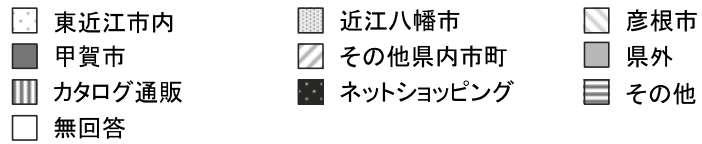
【年代別】



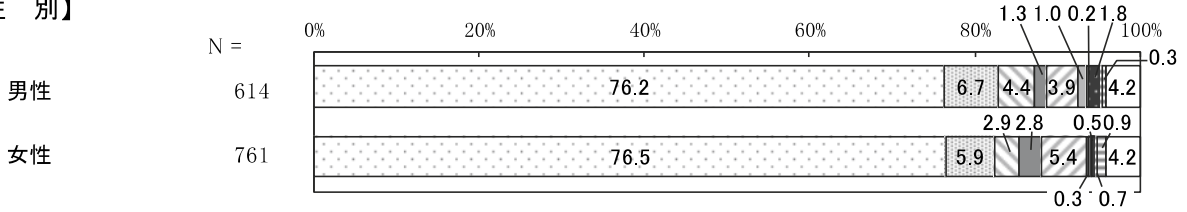
【居住地区別】



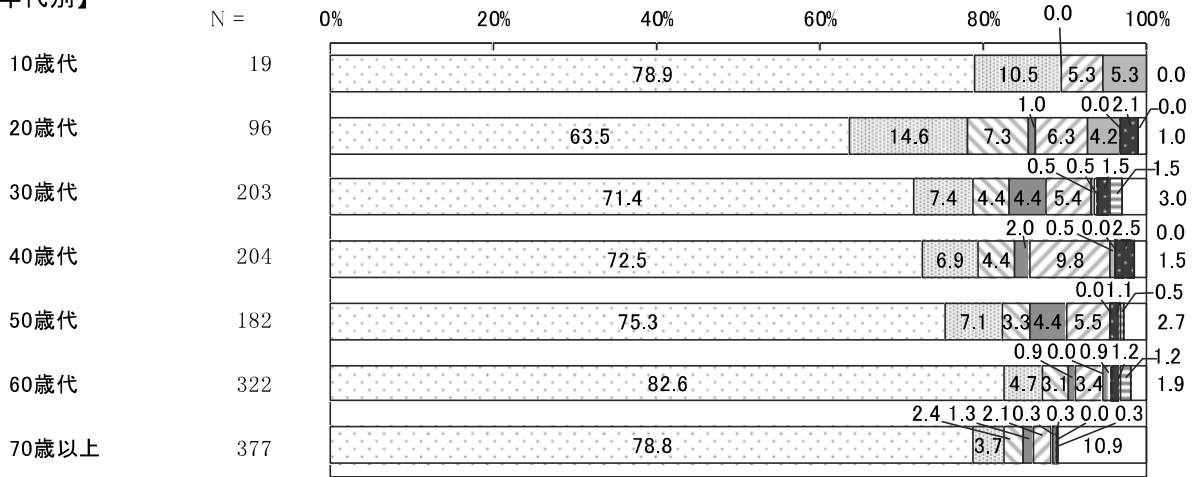
②日用雑貨品



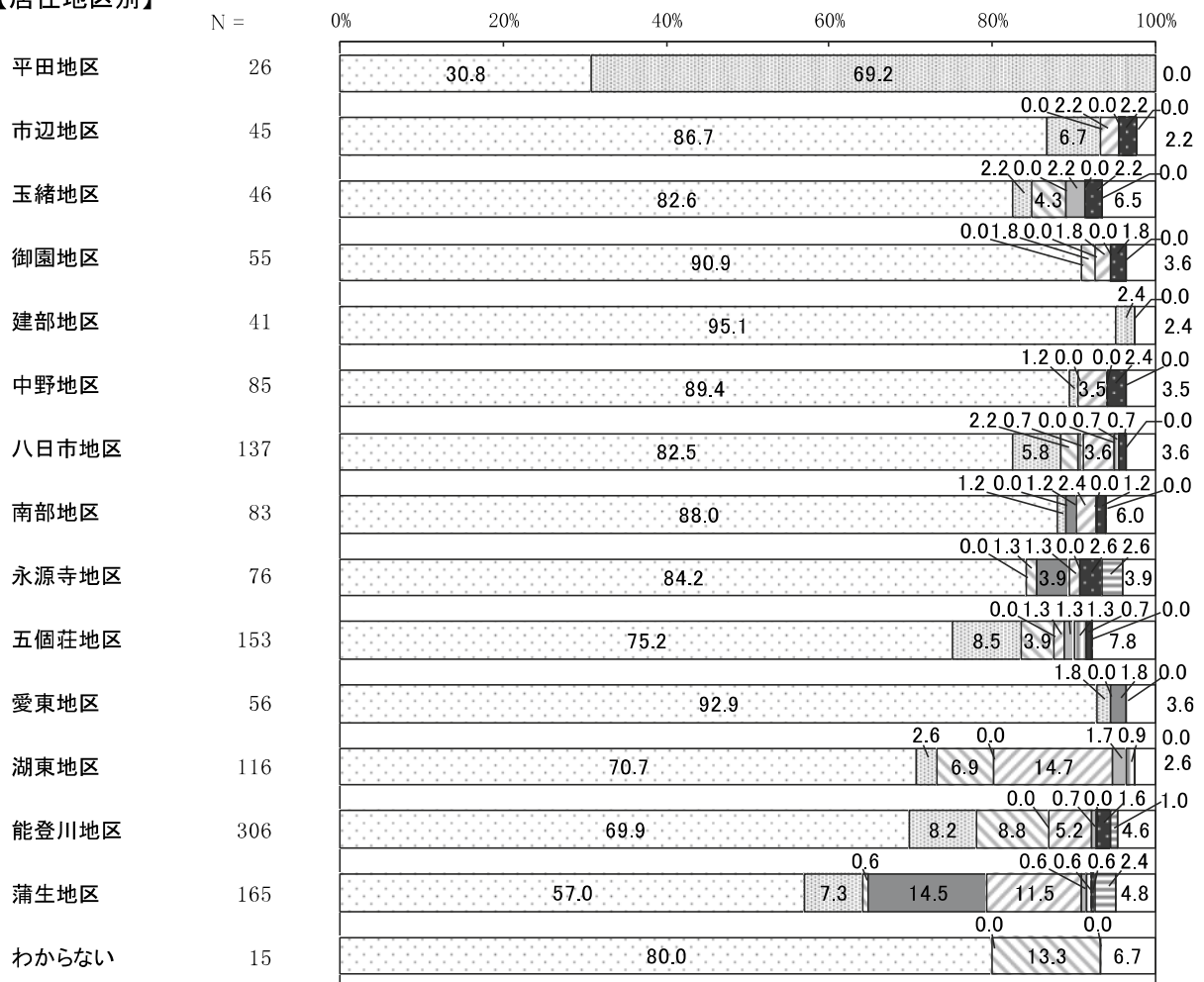
【性別】



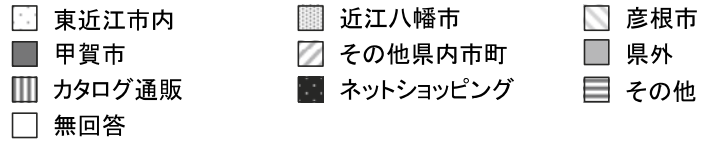
【年代別】



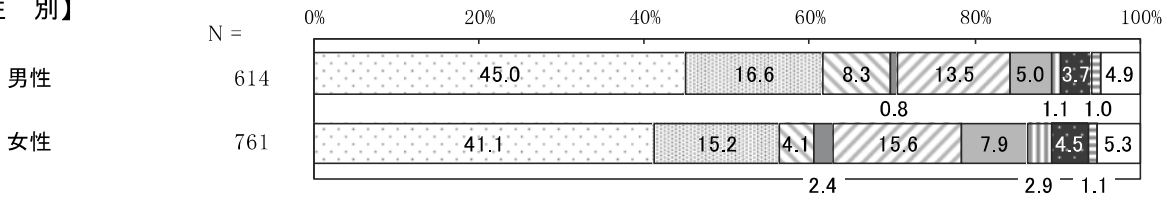
【居住地区別】



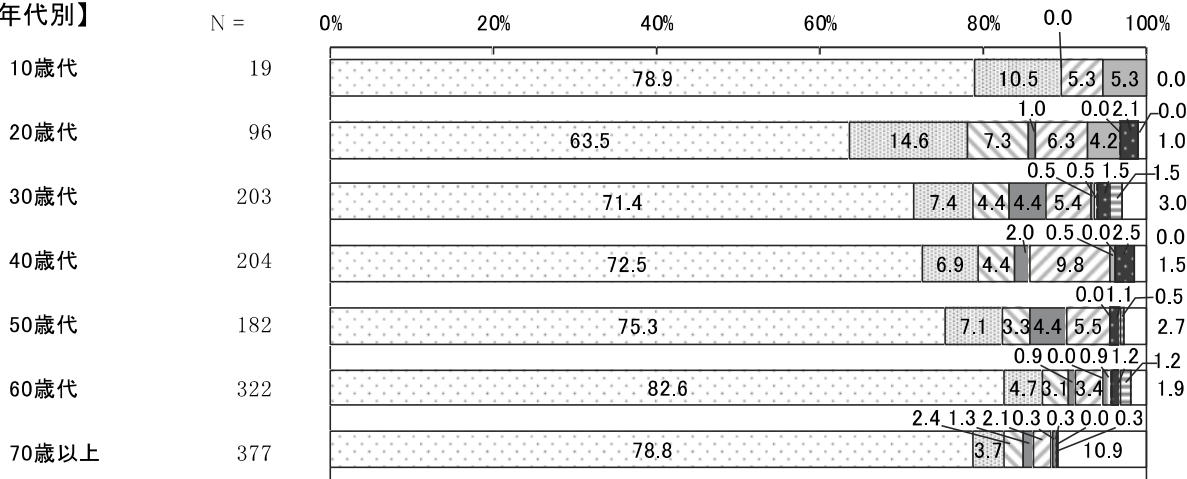
③衣料品



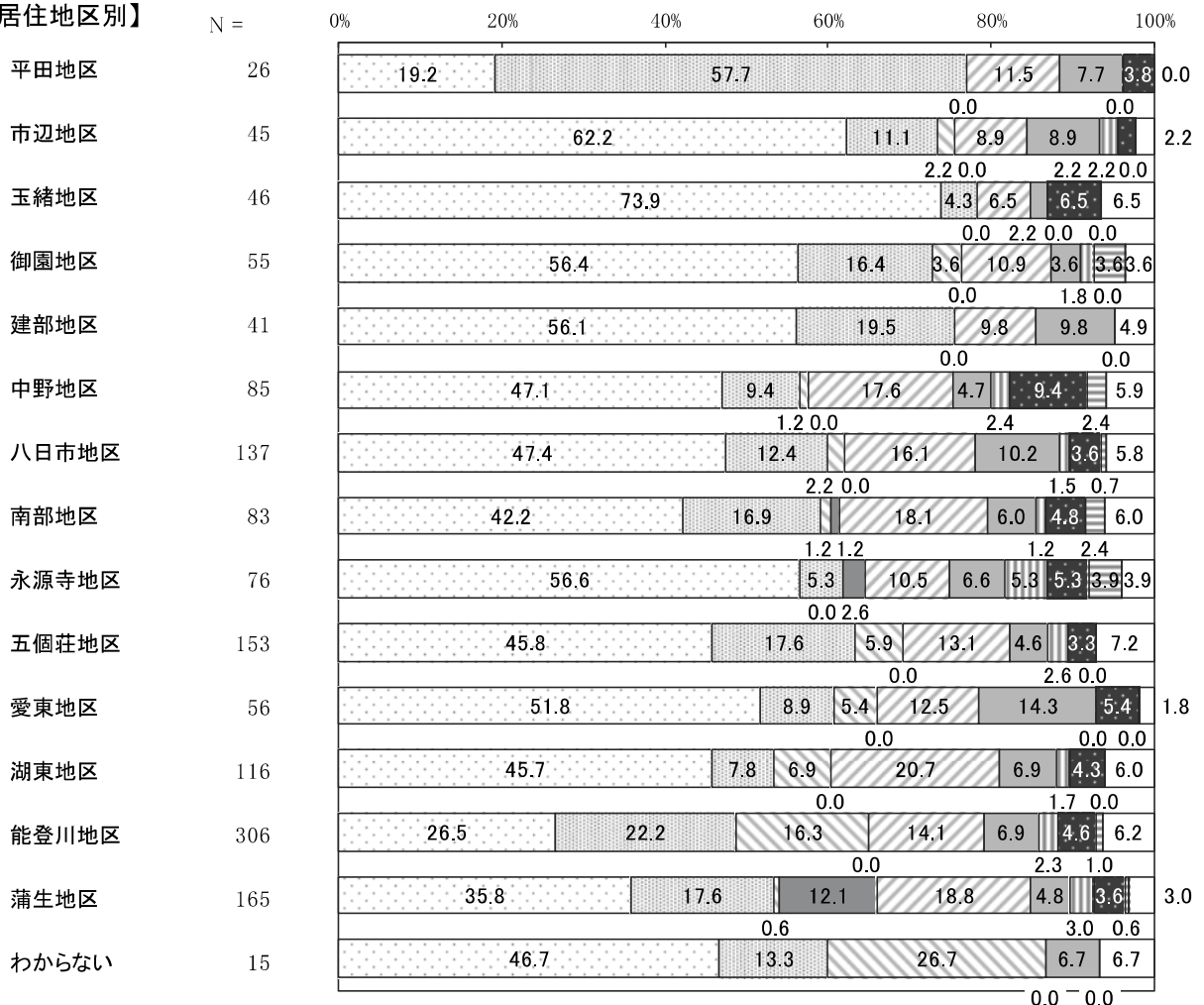
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

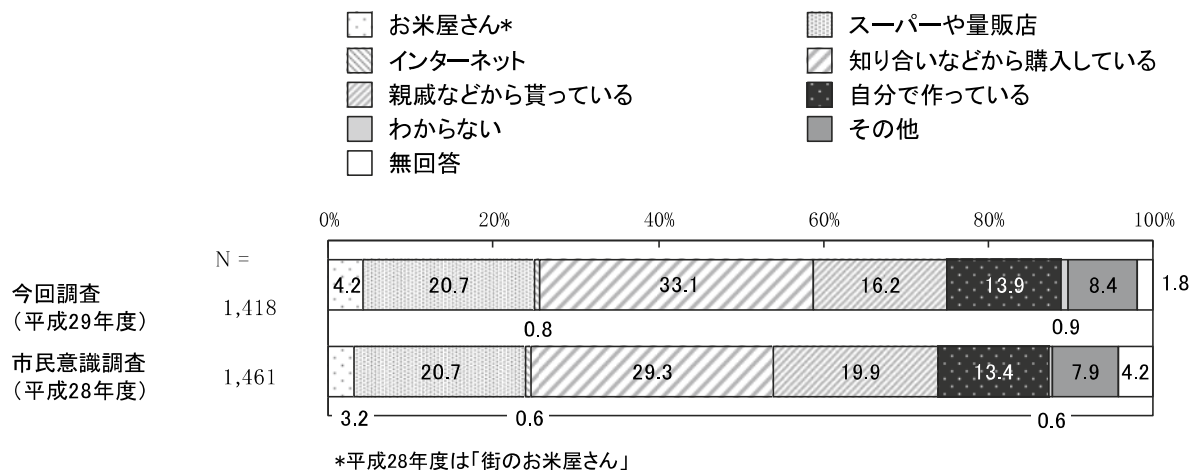




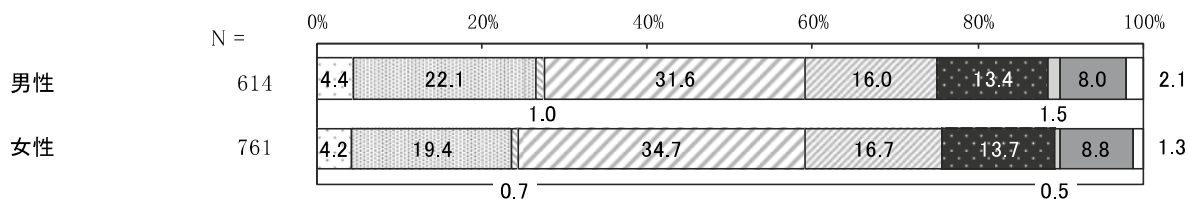
問 43 あなたの家庭では、お米を主にどこから購入等していますか。《○1つ》

米の購入先は、知り合い、スーパーや量販店、親戚の順

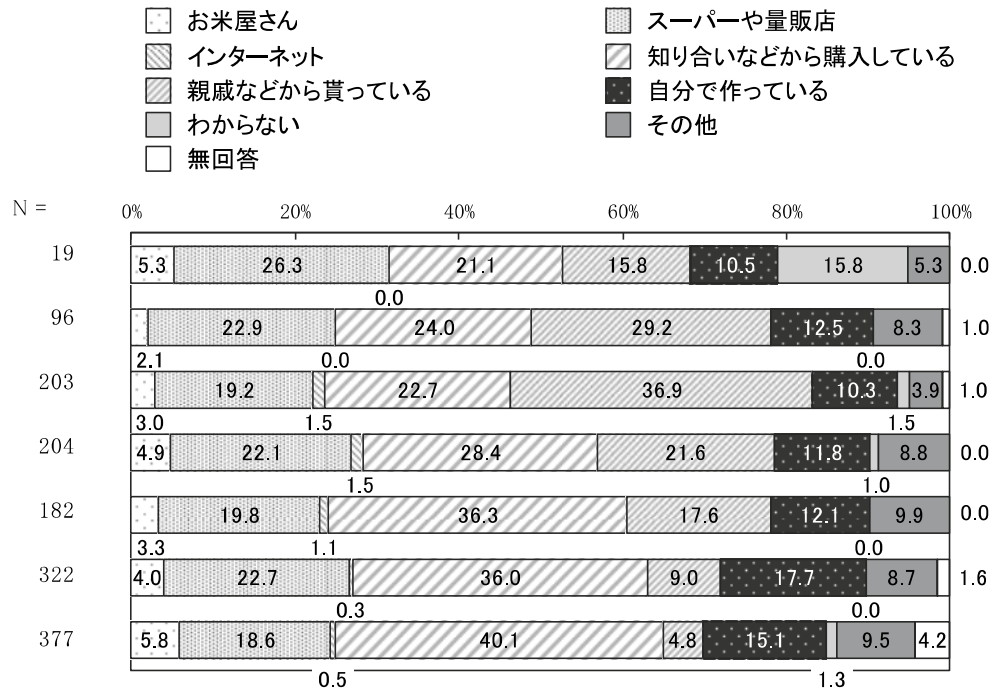
- ・ 米の購入先については、「知り合いなどから購入している」が33.1%で最も多く、次いで「スーパーや量販店」が20.7%、「親戚などから貰っている」が16.2%と続きます。「自分で作っている」は13.9%と1割程度です。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「知り合いなどから購入している」の割合が3.8ポイント増加し、「親戚などから貰っている」の割合が3.7ポイント減少しています。
- ・ 年代別では、10歳代でスーパーや量販店で購入、20～30歳代で親戚などから貰っている、50歳以上で知り合いなどから購入している人の割合がほかの年代より高くなっています。
- ・ 居住地区別では、八日市地区でスーパーや量販店で購入、南部地区、市辺地区、永源寺地区で知り合いなどから購入、南部地区、八日市地区で親戚などから貰っている、愛東地区で自分で作っている人がほかの地区より多くみられます。



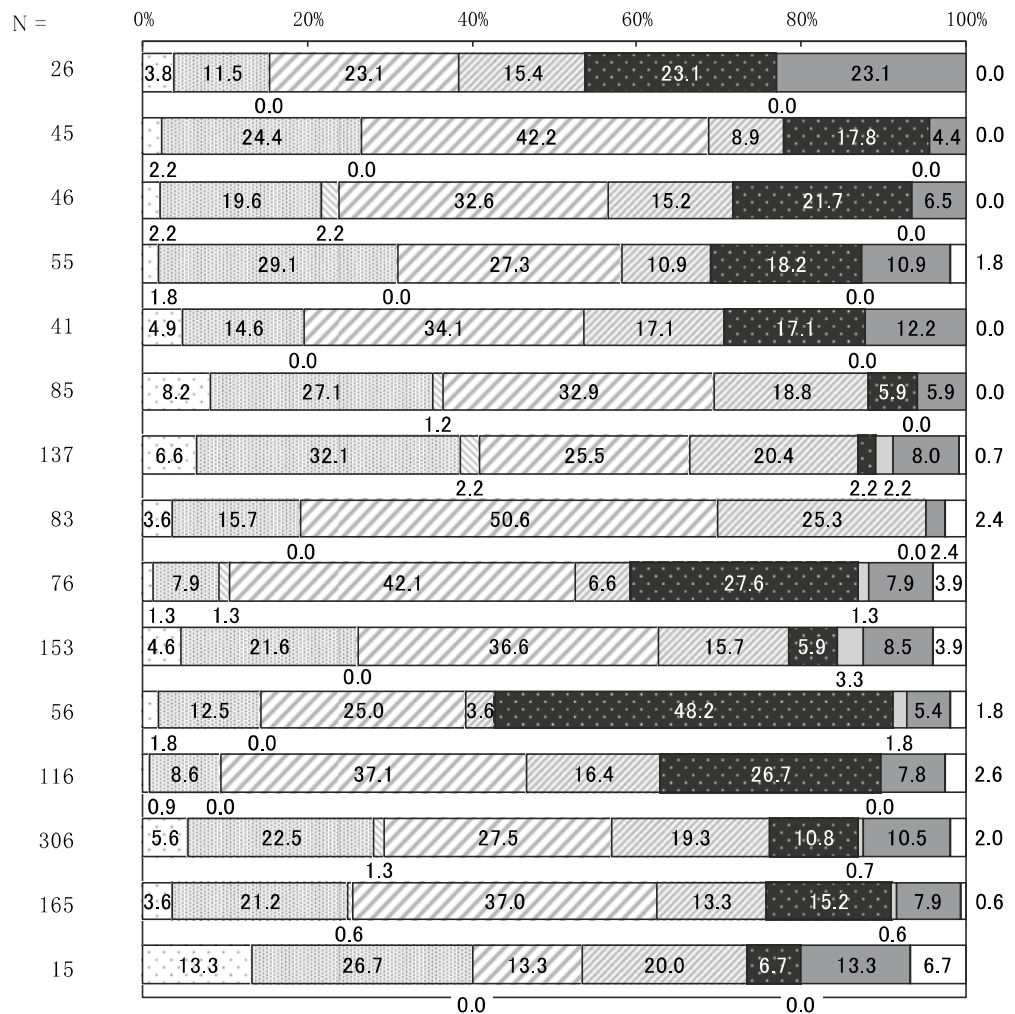
【性別】



【年代別】



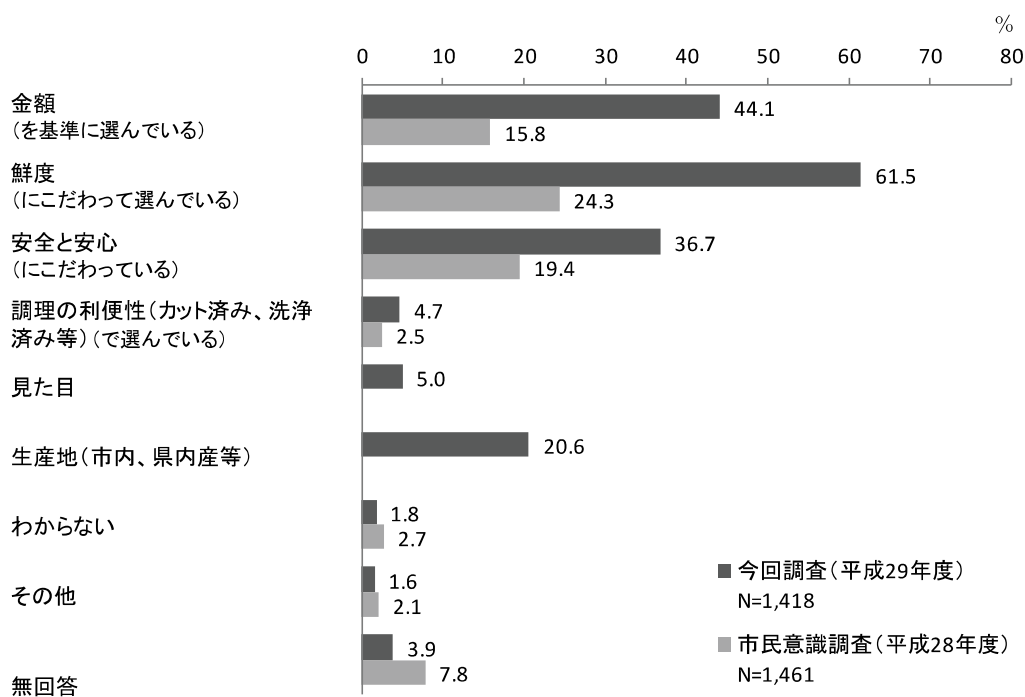
【居住地区別】



問 44 あなたの家庭では、野菜等を購入する際には主に何を基準に選んでいますか。《〇2つ》

**野菜等を購入する際の基準は「鮮度」、「金額」、「安全と安心」**

- ・ 野菜等を購入する際の基準として2つ選んでもらったところ、「鮮度」が61.5%と最も多く、次いで「金額」が44.1%、「安全と安心」が36.7%、「生産地（市内、県内産等）」が20.6%と続きます。調理の利便性や見た目より、これらが重視されていることが分かります。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、今回は選択数が1つから2つに増えているため、単純比較はできませんが、「安全・安心」と「金額」の順位が逆転しています。
- ・ 性別では、男女ともに「鮮度」と「金額」が上位にあげられています。女性は「鮮度」と「生産地」が男性より多く、男性は「金額」をあげる人が女性より多くみられます。
- ・ 年代別では、10～50歳代では「金額」と「鮮度」が、60歳以上では「鮮度」と「安全・安心」が多くあげられています。20歳代では「鮮度」より「金額」をあげる人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、愛東地区で「鮮度」と「安全・安心」が、そのほかの地区では「金額」と「鮮度」が多くあげられています。



\* 今回調査は、2つ選択だが、平成28年度調査では〇1つ選択

\* ( )が平成28年度調査の選択肢。選択肢が類似のものだけ比較している。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の 済み、洗 浄済み等 (カッ ト)	見た 目	生産地 (市内、 県内産 等)	わから ない	その他	無回 答
男性	614	47.6	54.7	36.3	6.7	6.8	16.8	3.1	1.5	3.6
女性	761	42.3	66.9	37.2	3.4	3.5	23.4	0.5	1.6	3.8

【年代別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の 済み、洗 浄済み等 (カッ ト)	見た 目	生産地 (市内、 県内産 等)	わから ない	その他	無回 答
10歳代	19	52.6	52.6	26.3	0.0	10.5	21.1	10.5	0.0	5.3
20歳代	96	64.6	45.8	28.1	8.3	15.6	12.5	2.1	0.0	2.1
30歳代	203	51.7	53.2	34.0	5.9	5.4	24.1	3.0	0.5	3.9
40歳代	204	55.9	57.4	34.3	6.4	2.0	20.6	1.5	2.0	3.4
50歳代	182	56.6	64.3	30.8	4.4	6.0	14.3	1.6	1.1	2.2
60歳代	322	33.9	69.6	44.4	4.7	4.7	23.3	0.6	1.2	2.2
70歳以上	377	31.3	64.7	39.5	2.9	3.4	20.4	1.6	2.9	6.4

【居住地区別】

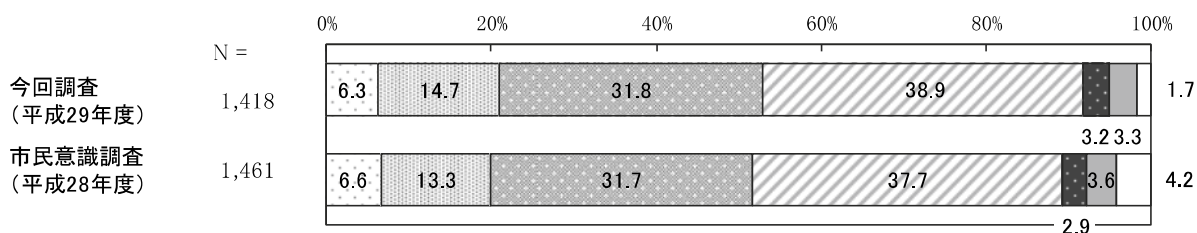
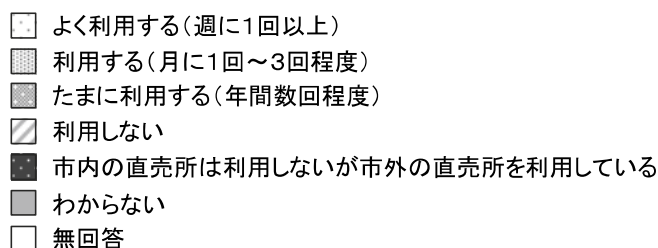
単位: %

区分	有効回答数 (件)	金額	鮮度	安全と安心	調理の利便性(カット 済み、洗浄済み等)	見た目	生産地(市内、県内産 等)	わからない	その他	無回答
平田地区	26	23.1	73.1	50.0	0.0	7.7	15.4	0.0	3.8	3.8
市辺地区	45	44.4	64.4	33.3	2.2	6.7	26.7	0.0	2.2	2.2
玉緒地区	46	34.8	63.0	32.6	4.3	6.5	23.9	0.0	2.2	6.5
御園地区	55	50.9	63.6	34.5	0.0	7.3	18.2	3.6	1.8	1.8
建部地区	41	46.3	65.9	29.3	9.8	0.0	34.1	0.0	2.4	2.4
中野地区	85	43.5	56.5	41.2	4.7	4.7	16.5	2.4	0.0	8.2
八日市地区	137	48.2	61.3	31.4	10.9	6.6	16.8	2.2	0.7	2.2
南部地区	83	47.0	66.3	36.1	2.4	1.2	24.1	2.4	0.0	3.6
永源寺地区	76	44.7	56.6	34.2	3.9	5.3	19.7	1.3	1.3	2.6
五個荘地区	153	42.5	62.1	35.9	5.2	6.5	19.6	2.6	1.3	5.2
愛東地区	56	23.2	51.8	50.0	0.0	5.4	28.6	1.8	7.1	3.6
湖東地区	116	46.6	62.1	37.1	4.3	6.9	19.8	0.9	1.7	3.4
能登川地区	306	49.0	58.8	37.6	4.9	4.2	19.6	1.0	1.0	3.9
蒲生地区	165	42.4	67.3	38.2	4.2	3.6	18.2	3.6	2.4	3.0
わからない	15	33.3	60.0	33.3	6.7	6.7	26.7	0.0	0.0	0.0

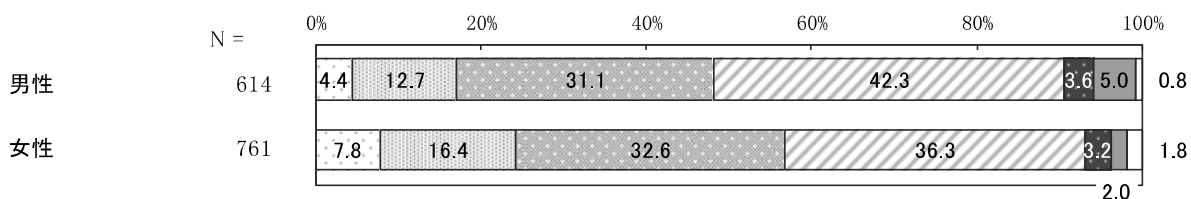
問 45 あなたの家庭では、市内の農産物直売所（青空市、無人販売所含む）を利用しますか。《○1つ》

**市外も含め6割近くが直売所を利用**

- ・ 農産物直売所の利用状況については、市外も含め利用すると回答した人の割合は56.0%となっています。一方、市内の農産物直売所は、「利用しない」が38.9%と最も多く、次いで「たまに利用する（年間数回程度）」31.8%、「利用する（月に1回～3回程度）」14.7%となっています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では60歳以上で、利用する人がより多くみられます。一方、20歳未満は利用しない人がほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、南部地区、愛東地区、御園地区で利用する人が、市辺地区で利用しない人がほかの地区より多くみられます。

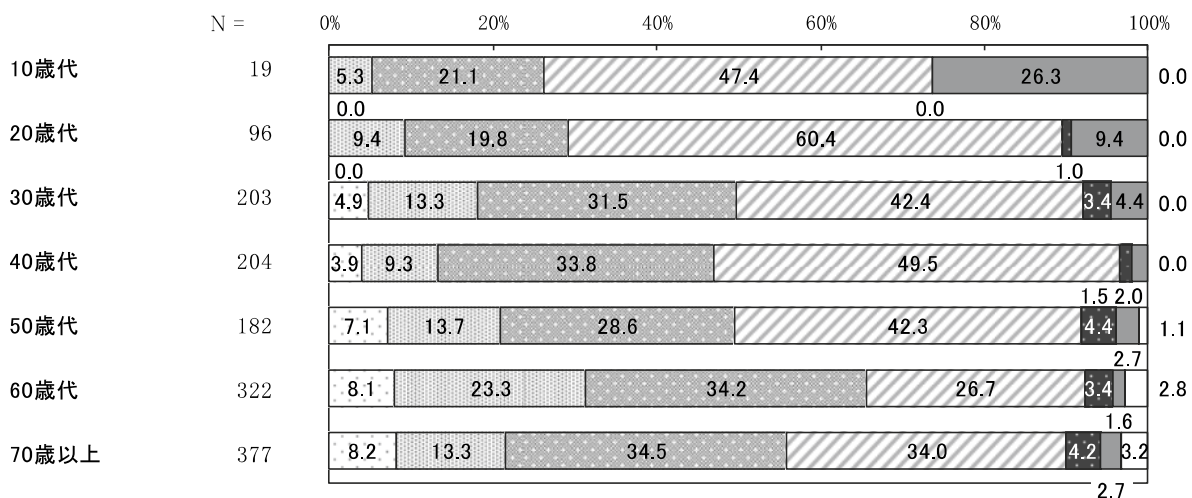


**【性別】**

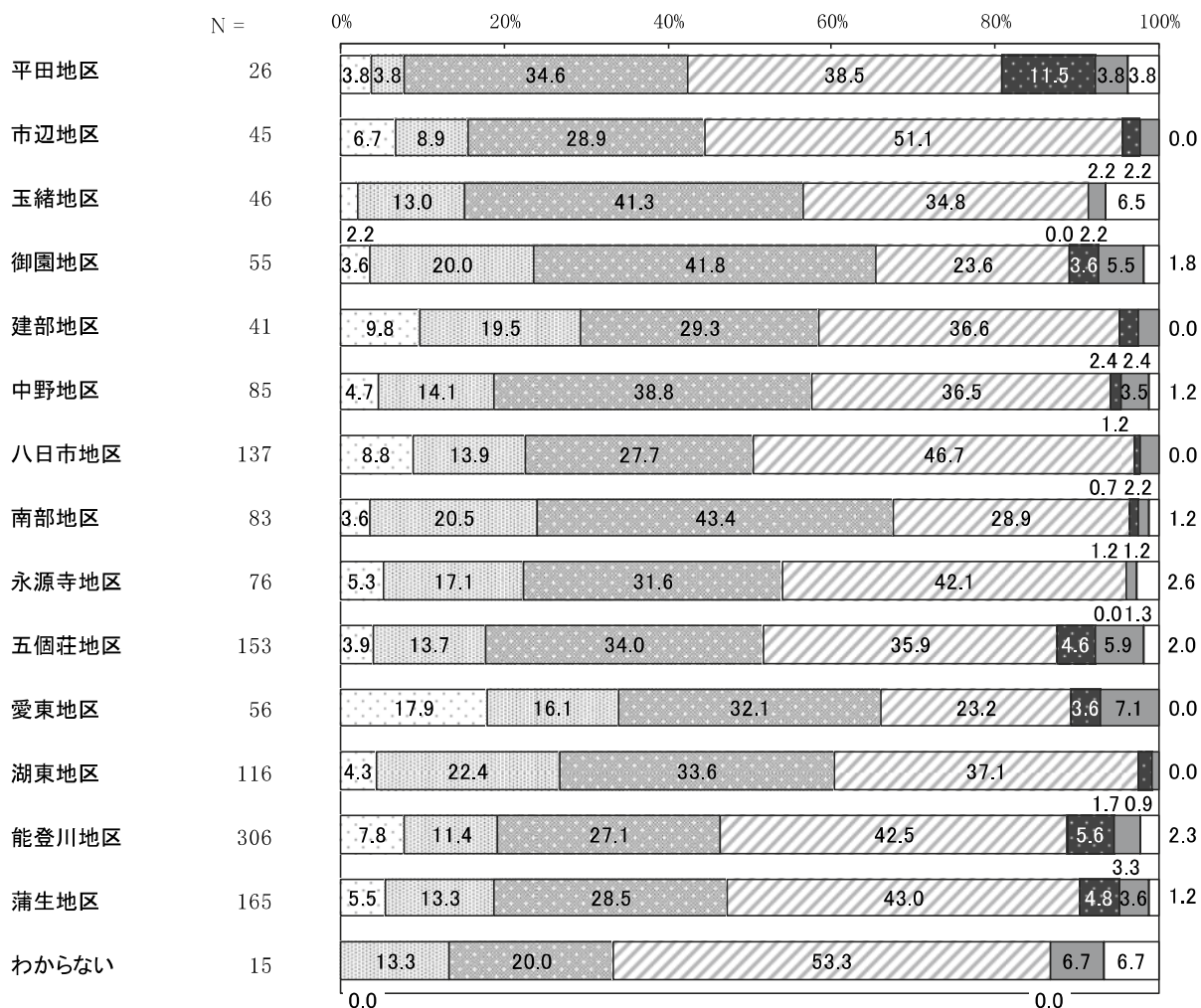


【年代別】

- よく利用する(週に1回以上)
- 利用する(月に1回~3回程度)
- たまに利用する(年間数回程度)
- 利用しない
- 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している
- わからない
- 無回答



【居住地区別】

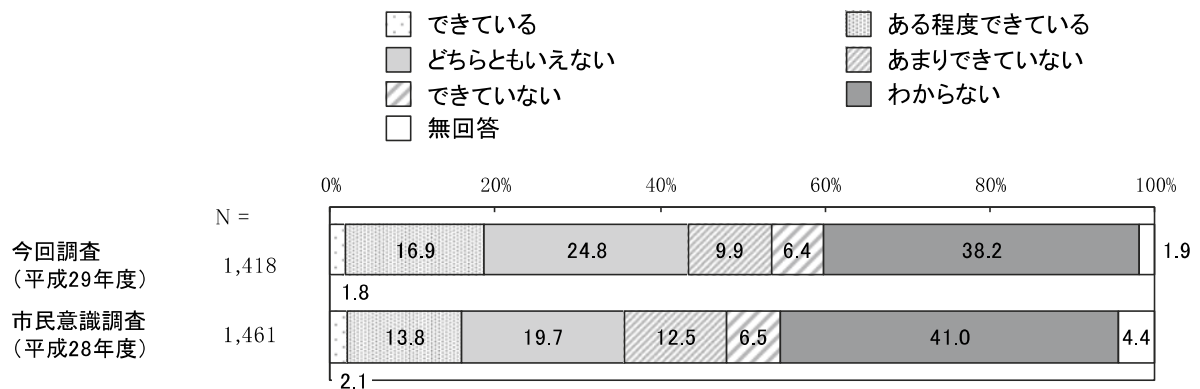


(8) 協働のまちづくりについて

問 46 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていますか。《○1つ》

**できていると思う人の割合が増加、4割近くが「わからない」**

- ・ 協働のまちづくりができていますかについては、できている（「できている」と「ある程度できている」の合計）の割合が18.7%と、できていない（「あまりできていない」と「できていない」の合計）の割合（16.3%）より若干多くなっています。また、「わからない」が38.2%と最も多くなっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、できている（前述）の割合ができていない（前述）の割合より高くなっています。
- ・ 性別では男性が、年代別では40～60歳代で、できていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。また、10～30歳代の若い世代では「わからない」人がほかの年代より多くなっています。
- ・ 居住地区別では、愛東地区でできている（前述）と思う人が多くみられ、蒲生地区、能登川地区ではできていない（前述）と思う人ができている（前述）と思う人より多くなっています。



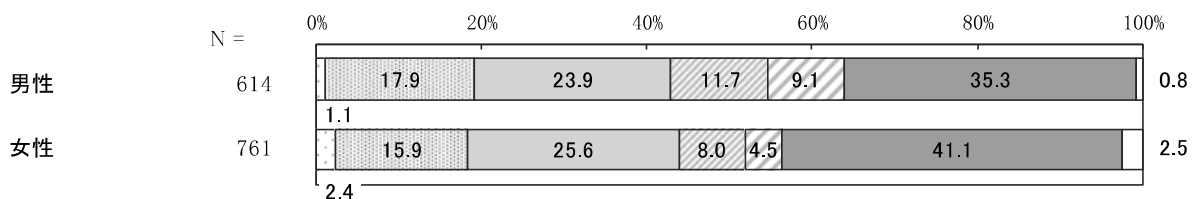
単位：%

	できている	できていない	差
①今回調査(平成29年度)	18.7	16.4	2.3
②市民意識調査(平成28年度)	15.9	19.0	-3.1
①-②	2.8	-2.6	5.4

\* できている: 「できている」と「ある程度できている」の合計

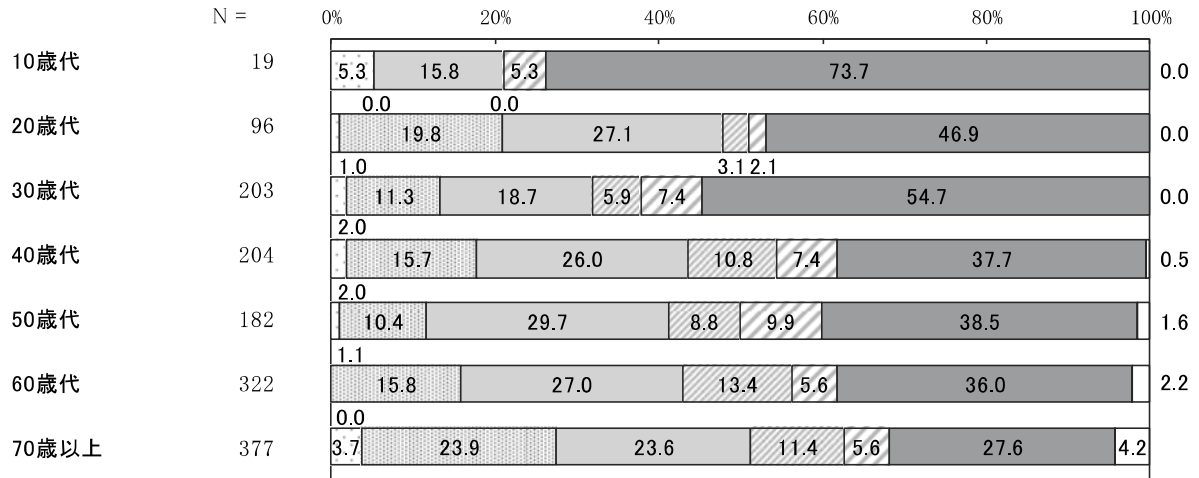
\* できていない: 「あまりできていない」と「できていない」の合計

【性別】

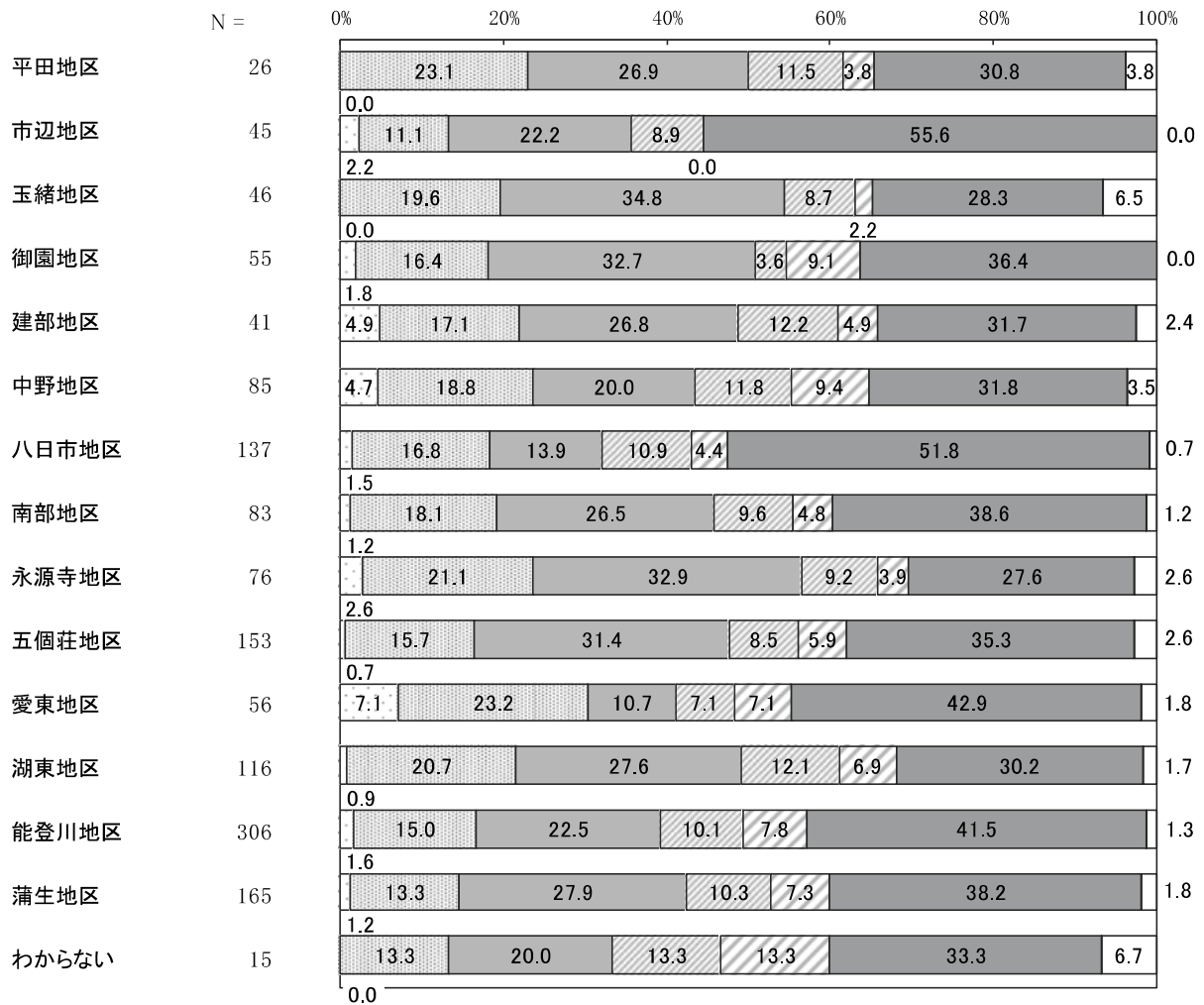




【年代別】



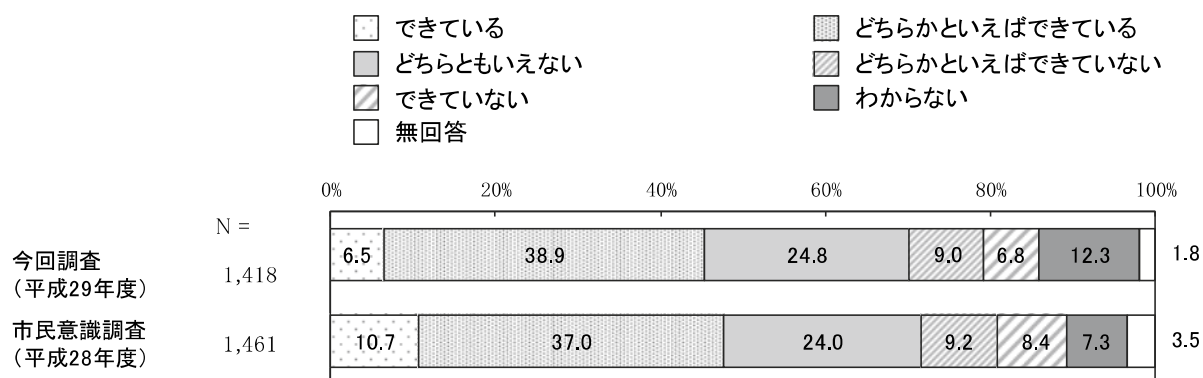
【居住地区別】



問 47 あなたの身近な地域で住民同士の助け合いができていますか。《○1つ》

半数近くが住民同士の助け合いはできている

- ・ 地域での住民同士の助け合いができていますかについては、できている（「できている」と「どちらかといえばできている」の合計）の割合が 45.4%と、できていない（「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計）の割合（15.8%）より高くなっています。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、できている（前述）の割合が 2.3 ポイント、できていない（前述）の割合が 1.8 ポイント減少する一方、「わからない」の割合が 5.0 ポイント増加しています。
- ・ 年代別では 50 歳以上で、居住地区別では平田地区、永源寺地区、愛東地区で、住民同士の助け合いができています（前述）と思う人が多くみられます。一方、年代別では 20～40 歳代、居住地区別では八日市地区で、できていない（前述）と思う人が多くみられます。

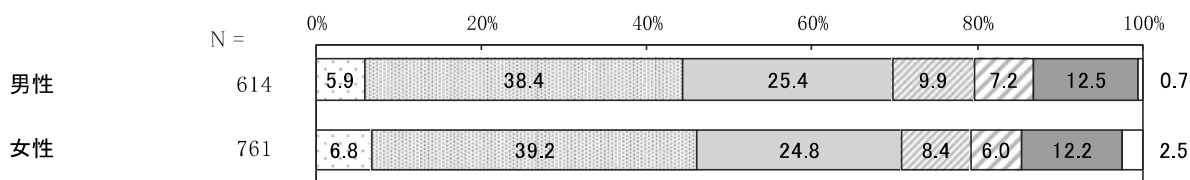


単位：%

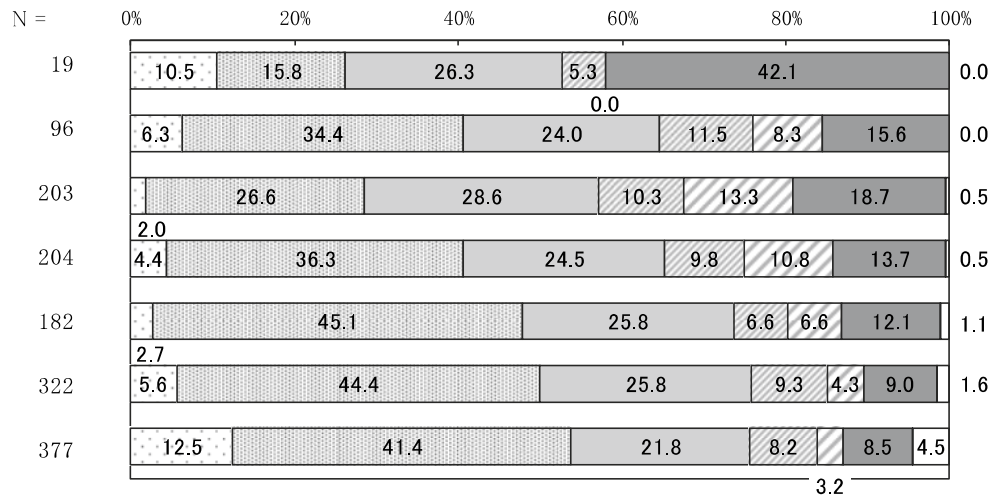
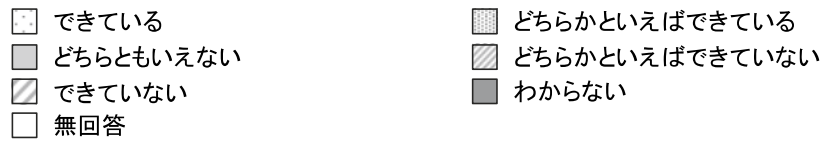
	できている	できていない	差
①今回調査(平成 29 年度)	45.4	15.8	29.6
②市民意識調査(平成 28 年度)	47.7	17.6	30.1
①－②	-2.3	-1.8	-0.5

\* できている:「できている」と「どちらかといえばできている」の合計  
 \* できていない:「どちらかといえばできていない」と「できていない」の合計

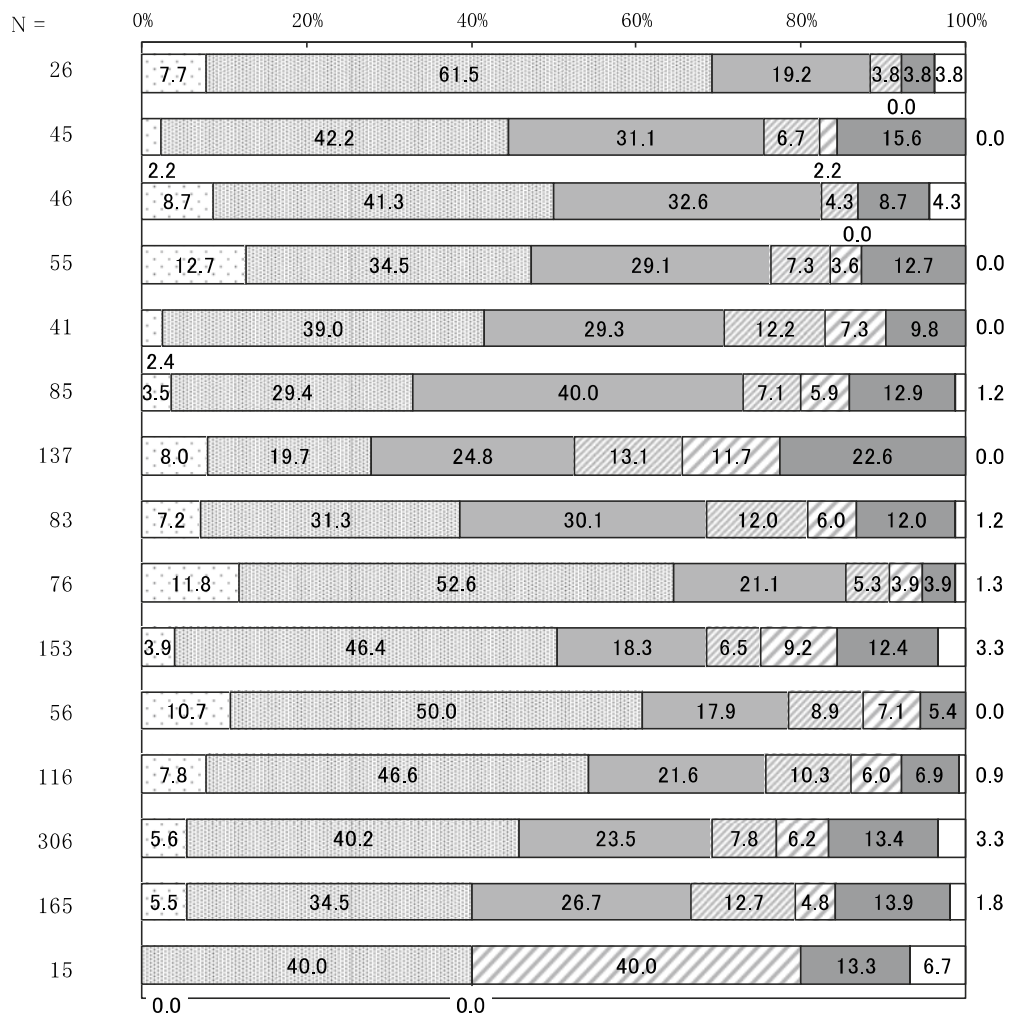
【性別】



【年代別】



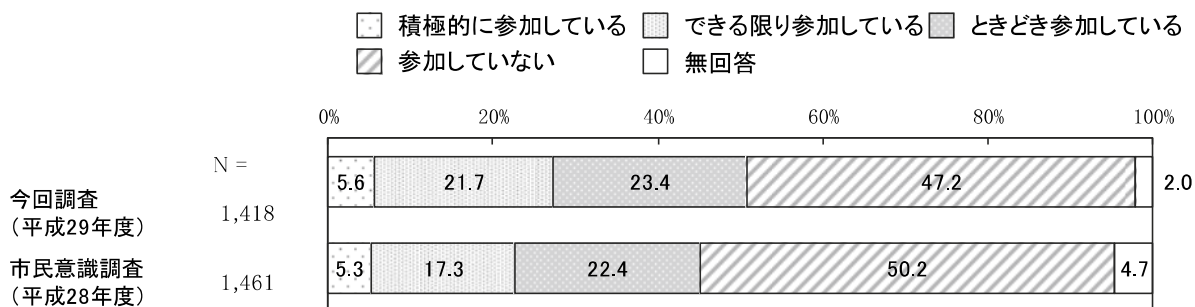
【居住地区別】



問 48 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

**半数以上が活動に参加している**

- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動への参加頻度については、参加している人が50.7%と半数以上で、その内訳は、「ときどき参加している」が23.4%、「できる限り参加している」21.7%、「積極的に参加している」5.6%となっています。一方、「参加していない」は47.2%となっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「参加していない」の割合が3.0ポイント減少し、参加している人の割合が5.7ポイント増加し、参加している人が参加していない人より多くなっています。
- ・ 性別では女性より男性が、年代別では70歳以上を除き年齢があがるほど、参加している人が多くみられます。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区、御園地区、玉緒地区、湖東地区で参加している人が多くみられ、八日市地区で参加していない人が多くみられます。

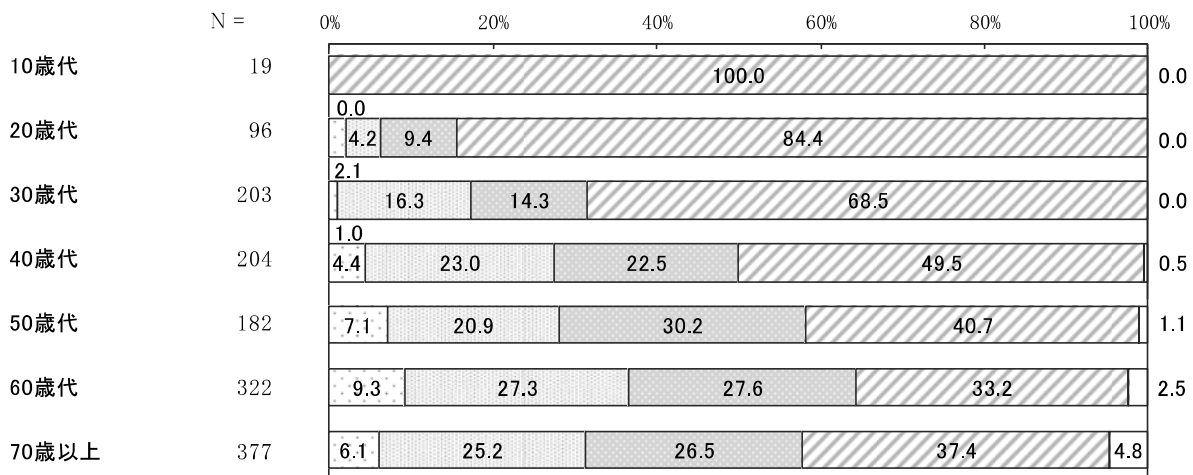


**【性別】**

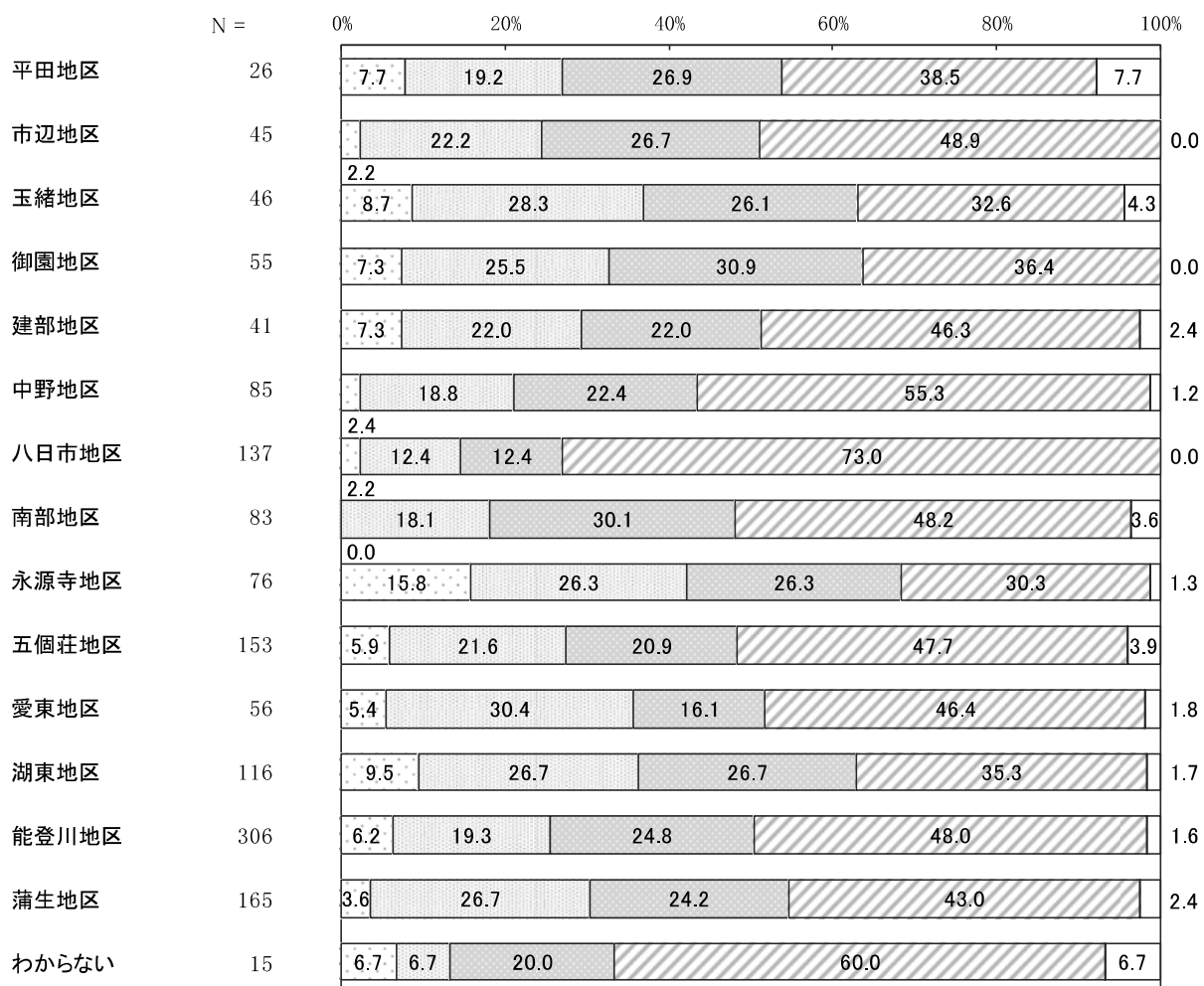


【年代別】

積極的に参加している
  できる限り参加している
  ときどき参加している  
 参加していない
  無回答



【居住地区別】

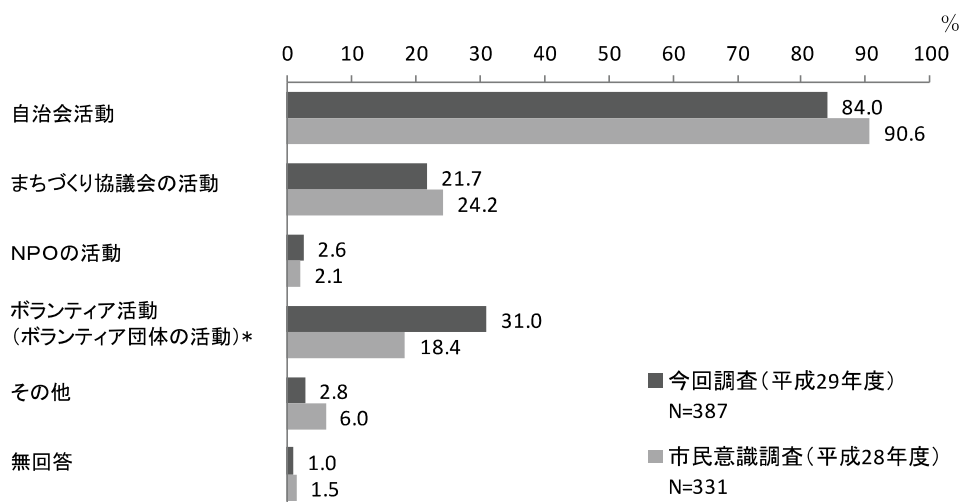


問 48-1 問 48 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えした方にお聞きします。

この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

### 8割以上が「自治会活動」に参加、「ボランティア活動」も3割以上が参加

- ・ この1年間にどのような活動に参加したかについては、「自治会活動」が84.0%と最も多く、次いで「ボランティア活動」が31.0%、「まちづくり協議会の活動」が21.7%と続きます。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「自治会活動」の割合が6.6ポイント減少しています。なお、「ボランティア活動」の割合が12.6ポイントと大きく増加していますが、平成28年度の調査では「ボランティア団体の活動」となっていたこと、今回問48-2でその内容を例示した形となったためより回答しやすくなったことなどの影響が考えられます。
- ・ 性別では、男女ともに「自治会活動」が最も多くあげられています。男性は「自治会活動」をあげる人が女性より多く、女性は「ボランティア活動」が男性より多くあげられています。
- ・ 年代別では、30歳以上で「自治会活動」が最も多くあげられています。また、60歳以上では「ボランティア活動」がほかの年代より多くみられます。
- ・ 居住地区別では、永源寺地区と五個荘地区で「まちづくり協議会の活動」が、市辺地区と愛東地区で「ボランティア活動」がほかの地区より多くあげられています。



\*( )内は平成28年度の選択肢

【性別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動ま ち づ く り 協 議 会 の 活	N P O の 活 動	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	そ の 他	無 回 答
男性	184	90.8	26.1	3.3	21.7	3.3	0.5
女性	191	77.5	18.8	2.1	39.3	2.6	1.6

【年代別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	自治会活動	動ま ち づ く り 協 議 会 の 活	N P O の 活 動	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動	そ の 他	無 回 答
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	6	33.3	83.3	0.0	16.7	16.7	0.0
30歳代	35	91.4	8.6	0.0	14.3	5.7	0.0
40歳代	56	92.9	12.5	1.8	19.6	1.8	0.0
50歳代	51	94.1	19.6	2.0	11.8	2.0	0.0
60歳代	118	81.4	28.8	2.5	39.0	2.5	3.4
70歳以上	118	79.7	21.2	4.2	41.5	2.5	0.0

【居住地区別】

単位：%

区 分	有効回答数 (件)	自治会活動	動 まちづくり協議会の活	N P O の活動	ボランティア活動	その他	無回答
平田地区	7	85.7	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
市辺地区	11	72.7	18.2	9.1	45.5	0.0	0.0
玉緒地区	17	70.6	23.5	0.0	17.6	0.0	5.9
御園地区	18	94.4	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
建部地区	12	91.7	33.3	16.7	25.0	8.3	0.0
中野地区	18	88.9	16.7	0.0	22.2	5.6	0.0
八日市地区	20	95.0	10.0	0.0	20.0	5.0	0.0
南部地区	15	93.3	6.7	0.0	26.7	0.0	0.0
永源寺地区	32	78.1	43.8	0.0	37.5	3.1	6.3
五個荘地区	42	83.3	38.1	0.0	33.3	0.0	0.0
愛東地区	20	85.0	30.0	5.0	40.0	0.0	5.0
湖東地区	42	83.3	16.7	7.1	26.2	2.4	0.0
能登川地区	78	85.9	10.3	3.8	35.9	3.8	0.0
蒲生地区	50	80.0	22.0	0.0	36.0	4.0	0.0
わからない	2	100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

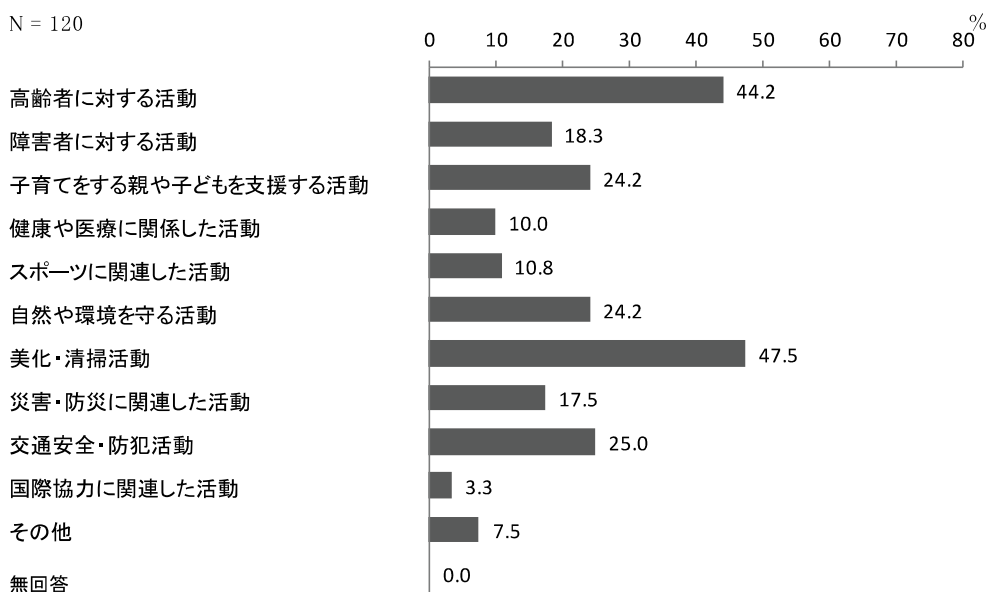


問 48-2 問 48 で「4. ボランティア活動」とお答えした方にお聞きします。

この1年間にどのようなボランティア活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

**「美化・清掃活動」、「高齢者に対する活動」が4割以上**

- ・ どのようなボランティア活動に参加したかについては、「美化・清掃活動」が47.5%と最も多く、次の「高齢者に対する活動」(44.2%) とともに4割以上の方があげています。そのほか、「交通安全・防犯活動」(25.0%)、「子育てをする親や子どもに支援する活動」、「自然や環境を守る活動」(ともに24.2%)も2割以上の方があげています。
- ・ 性別では、「美化・清掃活動」は男女ともに多くなっていますが、「自然や環境を守る活動」、「災害・防災に関連した活動」、「スポーツに関連した活動」は女性より男性が多く、「高齢者に対する活動」、「子育てをする親や子どもを支援する活動」、「障害者に対する活動」は男性より女性が多くあげています。



**【性別】**

区分	有効回答数(件)	単位: %											
		高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
男性	40	27.5	12.5	15.0	5.0	17.5	37.5	52.5	27.5	27.5	2.5	7.5	0.0
女性	75	53.3	22.7	30.7	12.0	8.0	17.3	44.0	12.0	22.7	4.0	6.7	0.0

【年代別】

単位:%

区 分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	5	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	11	9.1	9.1	18.2	0.0	27.3	0.0	36.4	36.4	18.2	0.0	18.2	0.0
50歳代	6	33.3	0.0	33.3	16.7	0.0	50.0	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
60歳代	46	41.3	17.4	32.6	8.7	6.5	30.4	54.3	23.9	41.3	4.3	4.3	0.0
70歳以上	49	59.2	22.4	18.4	10.2	10.2	24.5	42.9	4.1	16.3	4.1	10.2	0.0

【居住地区別】

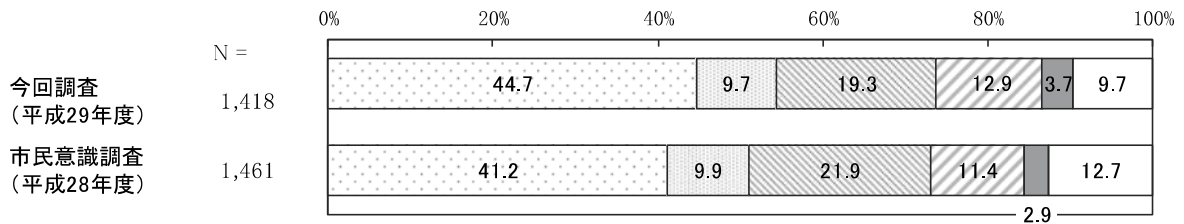
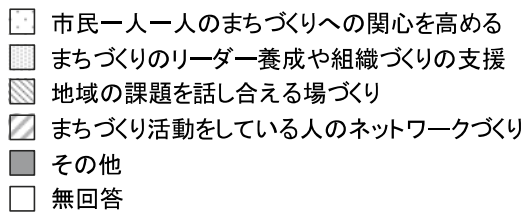
単位:%

区 分	有効回答数(件)	高齢者に対する活動	障害者に対する活動	子育てをする親や子どもを支援する活動	健康や医療に関係した活動	スポーツに関連した活動	自然や環境を守る活動	美化・清掃活動	災害・防災に関連した活動	交通安全・防犯活動	国際協力に関連した活動	その他	無回答
平田地区	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
市辺地区	5	60.0	40.0	20.0	20.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
玉緒地区	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
御園地区	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
建部地区	3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
中野地区	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	50.0	0.0
八日市地区	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0
南部地区	4	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
永源寺地区	12	33.3	16.7	33.3	16.7	0.0	50.0	66.7	25.0	25.0	0.0	16.7	0.0
五個荘地区	14	7.1	14.3	14.3	0.0	7.1	14.3	64.3	35.7	35.7	0.0	7.1	0.0
愛東地区	8	75.0	12.5	62.5	37.5	12.5	62.5	62.5	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0
湖東地区	11	63.6	18.2	36.4	18.2	18.2	36.4	72.7	27.3	36.4	9.1	0.0	0.0
能登川地区	28	64.3	28.6	25.0	7.1	10.7	3.6	21.4	7.1	14.3	0.0	3.6	0.0
蒲生地区	18	33.3	22.2	5.6	0.0	16.7	27.8	66.7	11.1	11.1	5.6	5.6	0.0
わからない	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

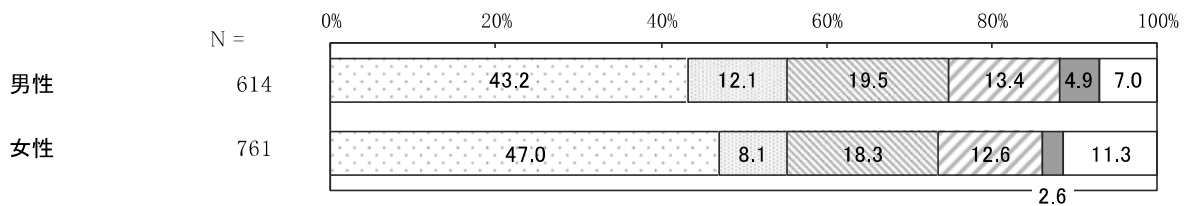
問 49 あなたは、協働のまちづくりを進めるためにはどんなことが必要だと思いますか。《○1つ》

**協働のまちづくりを進めるためには、一人一人の意識改革が必要**

- ・ 協働のまちづくりを進めるために必要なこととしては、「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」が44.7%と最も多く、次いで「地域の課題を話し合える場づくり」(19.3%)、「まちづくり活動をしている人のネットワークづくり」(12.9%)と続きます。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」の割合が3.5ポイント増加する一方、「地域の課題を話し合える場づくり」の割合が2.6ポイント減少し、まずは一人一人の意識改革が重要と考える人が増えています。
- ・ 年代別では、若い世代ほど「市民一人一人のまちづくりへの関心を高める」が、年齢があがるほど「地域の課題を話し合える場づくり」が必要と思う人が多くみられます。

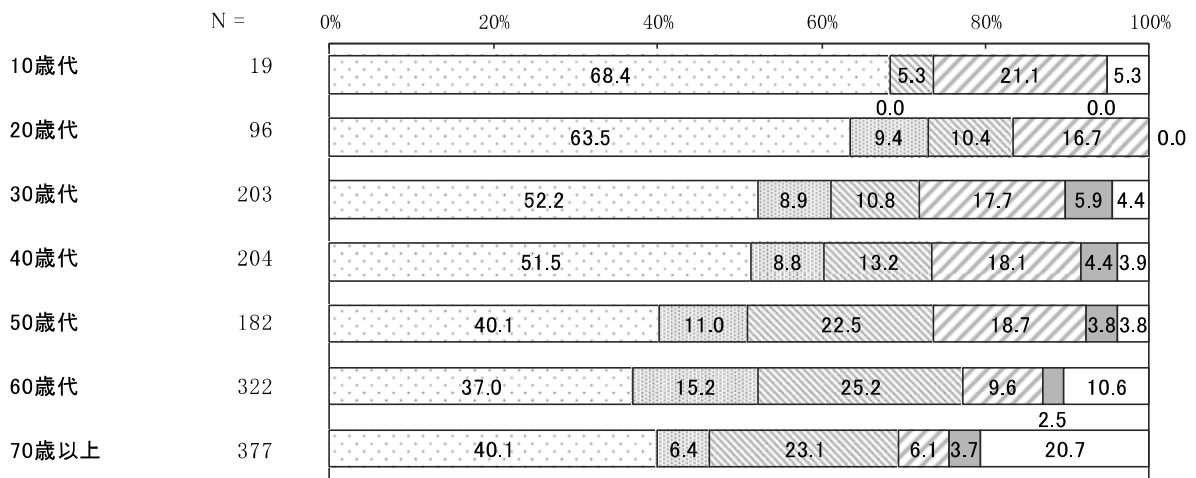


**【性別】**

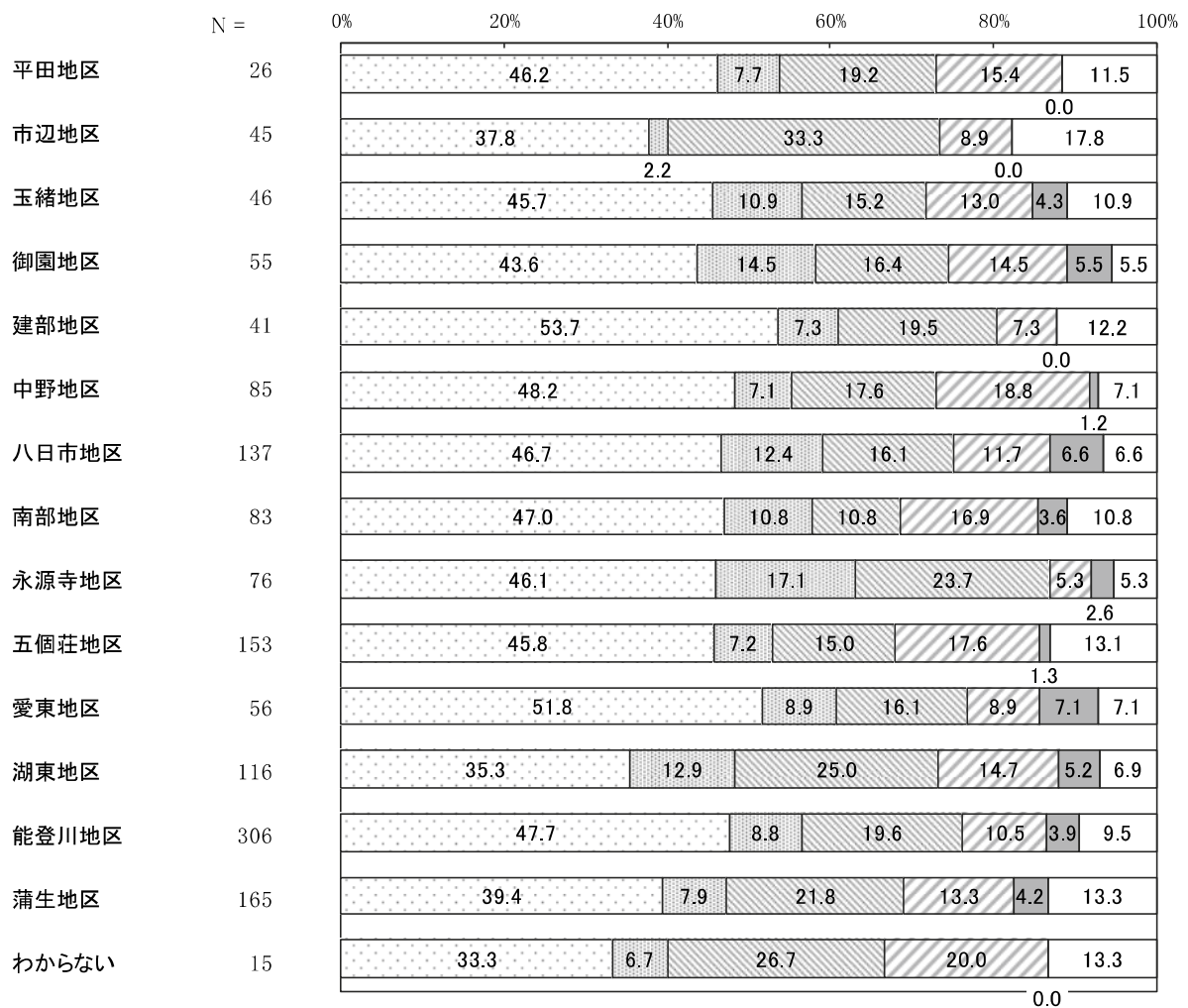


【年代別】

- 市民一人一人のまちづくりへの関心を高める
- ▨ まちづくりのリーダー養成や組織づくりの支援
- ▧ 地域の課題を話し合える場づくり
- ▩ まちづくり活動をしている人のネットワークづくり
- その他
- 無回答



【居住地区別】

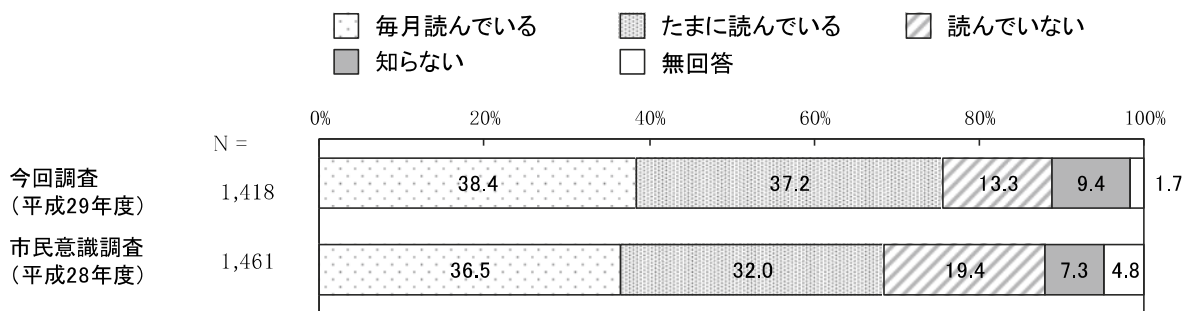


(9) 広報等の情報について

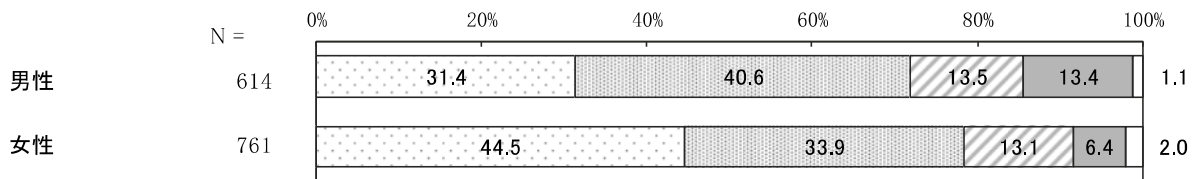
問 50 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

**8割近くが広報紙を読んでおり、4割近くは「毎月読んでいる」**

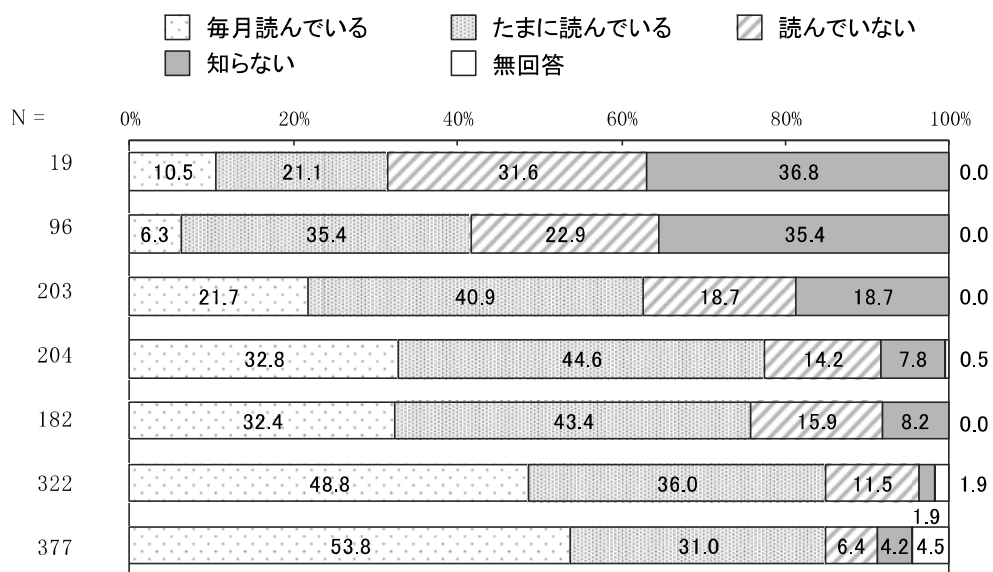
- ・ 「広報ひがしおうみ」については、「毎月読んでいる」が38.4%と最も多く、「たまに読んでいる」37.2%と合わせると75.6%となり、8割近くの人が読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が13.3%、「知らない」が9.4%となっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、読んでいる人（「毎月読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合が7.1ポイント増加し、「読んでいない」と回答した人の割合が6.1ポイント減少し、広報紙を読んでいる人が増えています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では年齢があがるほど、広報紙を「毎月読んでいる」人の割合が多くなっています。また、20歳未満では「読んでいない」又は「知らない」人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、南部地区で広報紙を読んでいる人（前述）が多くみられる一方、八日市地区で読んでいない又は知らない人が多くみられます。



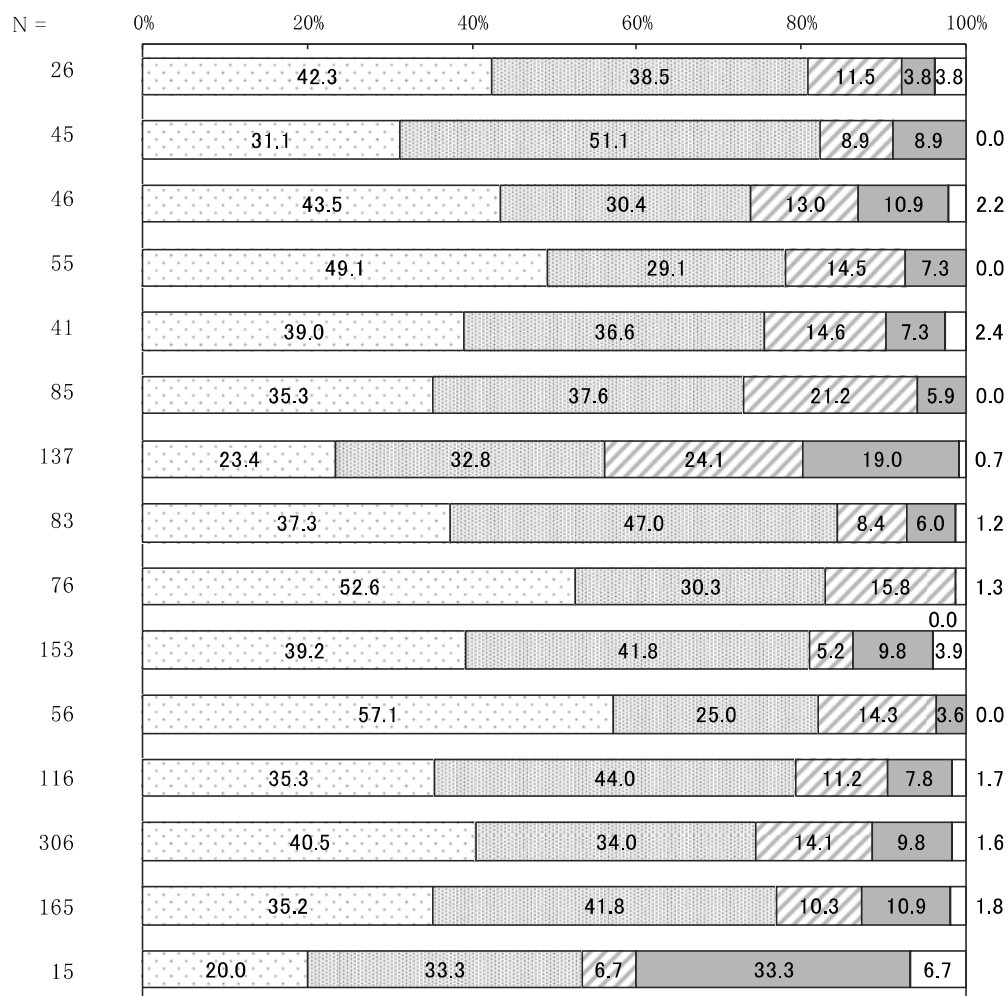
**【性別】**



【年代別】



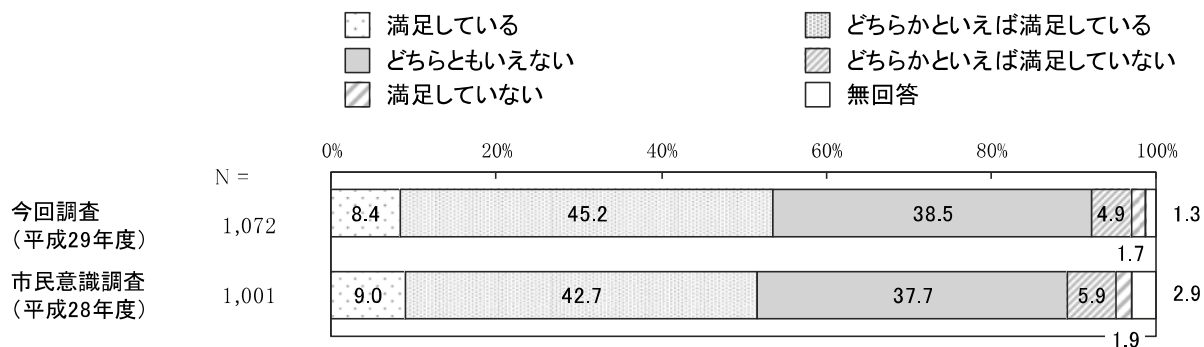
【居住地区別】



問 50-1 問 50 で、「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方にお聞きします。  
あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

**半数以上が満足、4割近くが「どちらともいえない」**

- ・ 「広報ひがしおうみ」の満足度について広報紙を読んでいる人に聞いたところ、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が 53.6%であるのに対し、「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」を合わせた割合は 6.6%となっています。一方、「どちらともいえない」と回答した人は 38.5%で 4 割近くとなっています。
- ・ 平成 28 年度の調査と比較すると、「どちらかといえば満足している」の割合が 2.5 ポイント増加し、満足（「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計）の割合が 1.9 ポイント増加する一方、不満（「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計）の割合が 1.2 ポイント減少し、満足度はあがっています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では 10 歳代と 60 歳以上で、満足度が高くなっています。



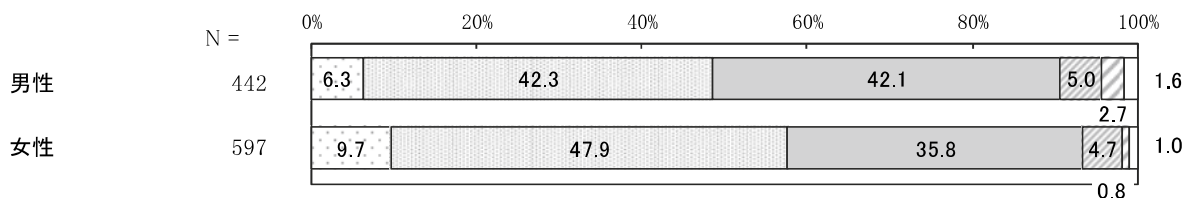
単位：%

	満足	不満	差
①今回調査(平成 29 年度)	53.6	6.6	47.0
②市民意識調査(平成 28 年度)	51.7	7.8	43.9
①-②	1.9	-1.2	3.1

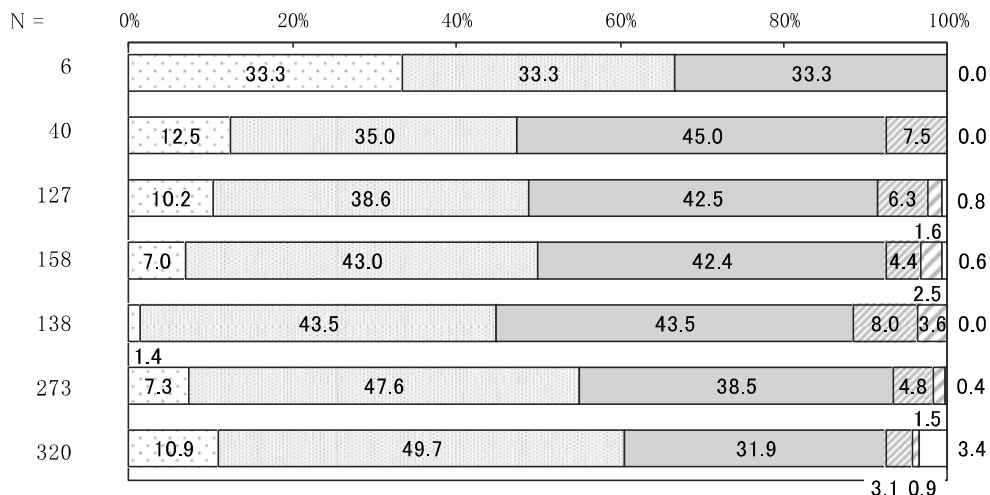
\* 満足:「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計

\* 不満:「どちらかといえば満足していない」と「満足していない」の合計

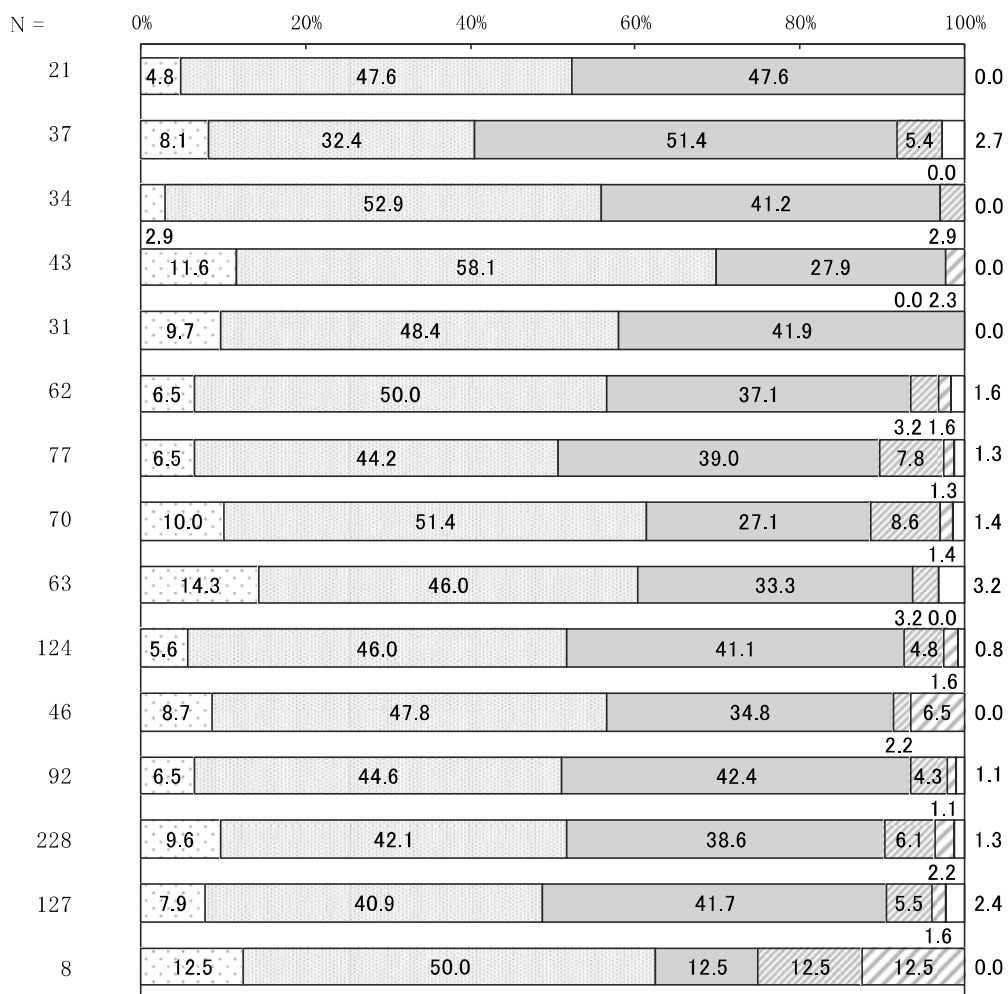
**【性別】**



【年代別】



【居住地区別】

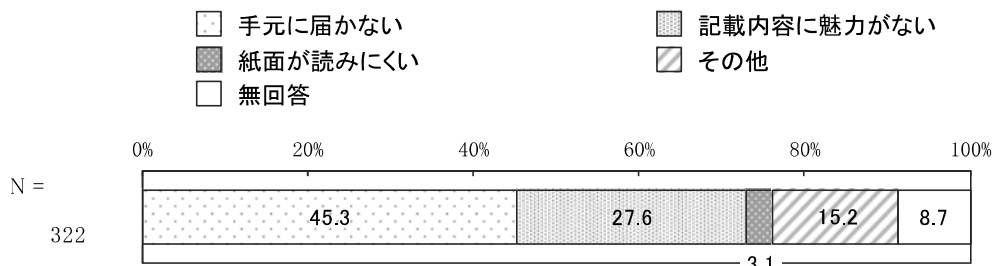




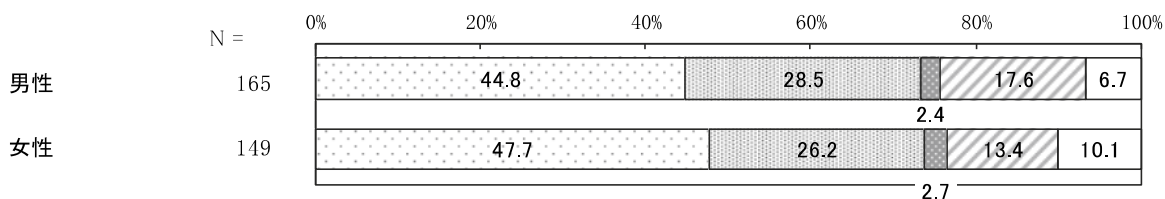
問 50-2 問 50 で、「3. 読んでいない」「4. 知らない」とお答えの方にお聞きします。  
その理由は何ですか。《○1つ》

**広報紙を読まない理由は「手元に届かない」が4割以上**

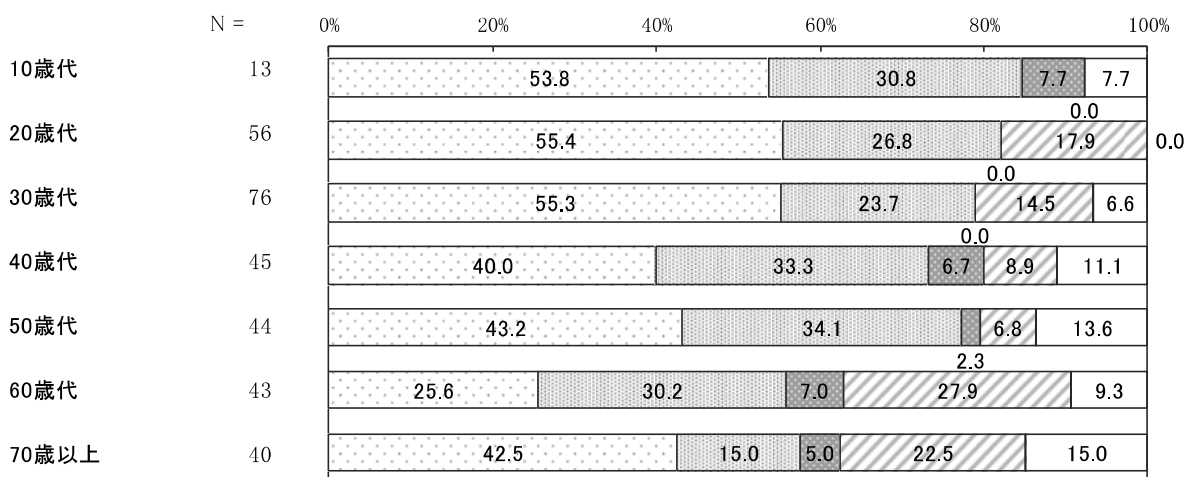
- ・ 「広報ひがしおうみ」を読んでいない人の理由としては、「手元に届かない」が45.3%と最も多く、次いで「記載内容に魅力がない」が27.6%と続きます。
- ・ 年代別では、10～30歳代で「手元に届かない」を理由にあげる人が多くみられます。



**【性別】**

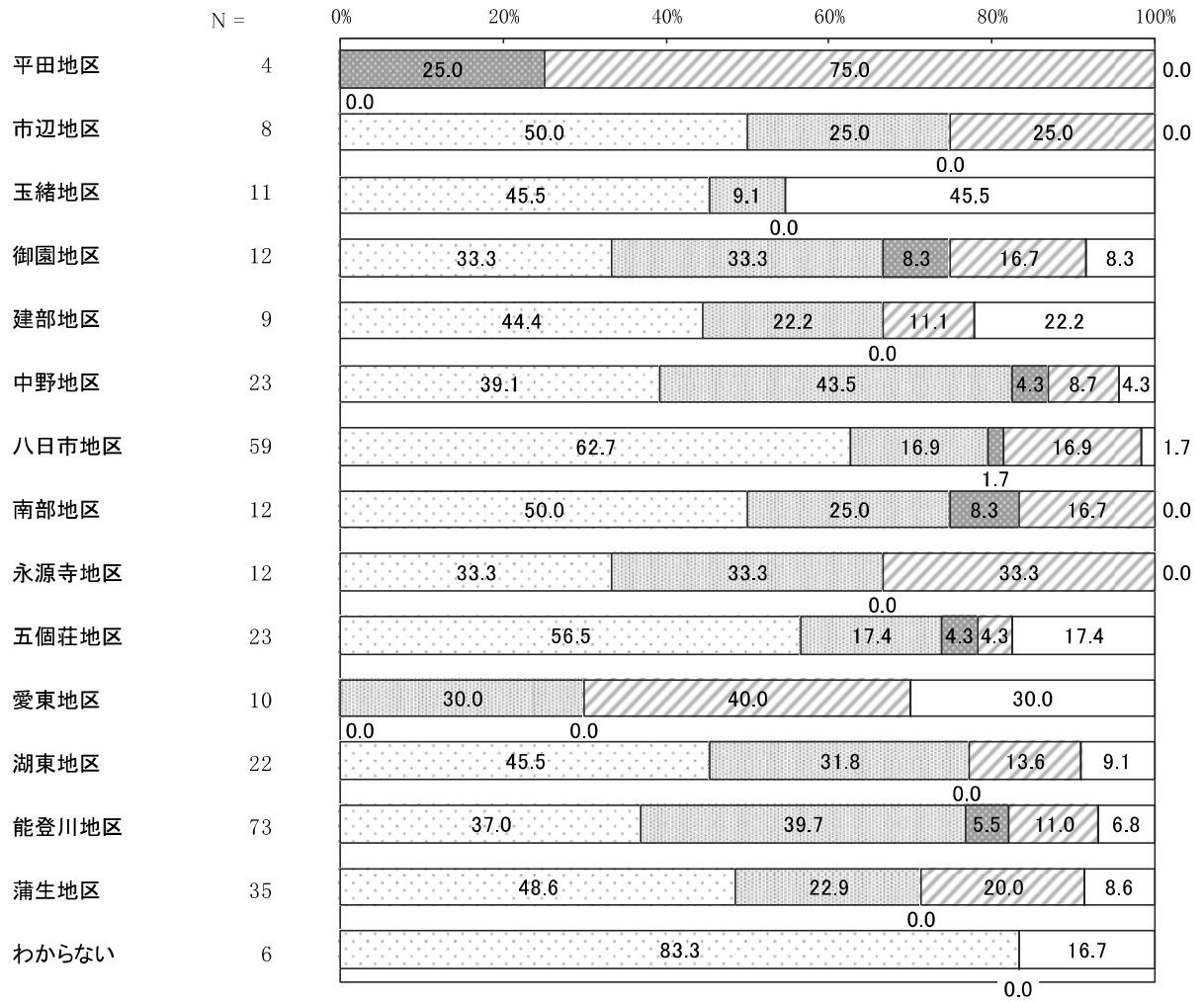


**【年代別】**



【居住地区別】

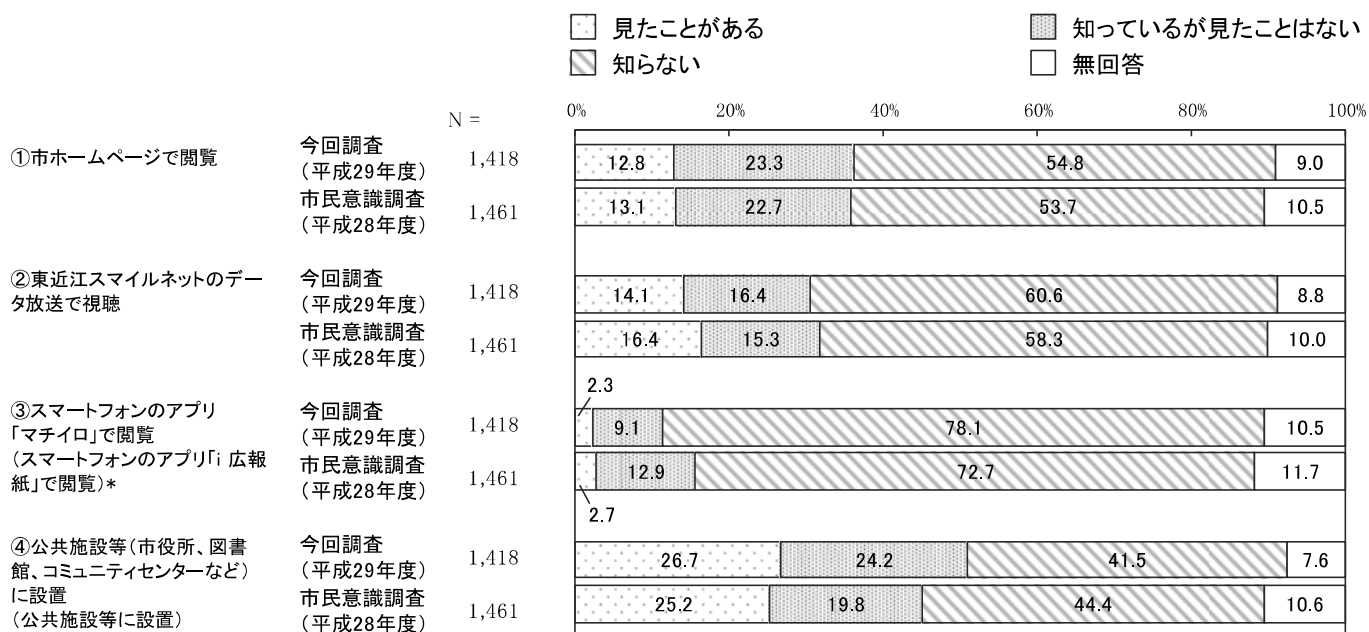
- ☐ 手元に届かない
- ☐ 紙面が読みにくい
- ☐ 無回答
- ☐ 記載内容に魅力がない
- ☐ その他



問 51 「広報ひがしおうみ」は毎月新聞折込みによる配布のほかに、次の方法で配信等を行っています。あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

**「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度は「公共施設に設置」が最も高い**

- ・ 「広報ひがしおうみ」の配信方法の認知度（「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた割合）については、「④公共施設等に設置」が50.9%と最も高く、次いで「①市ホームページで閲覧」(36.1%)、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」(30.5%)、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」(11.4%)となっています。実際に「見たことがある」人が多かったのは、「④公共施設等に設置」(26.7%)、「②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴」(14.1%)、「①市ホームページで閲覧」(12.8%)、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」(2.3%)の順となり、市のホームページでの配信が知られているのに実際に見る人が少ないことが分かります。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、認知度は「④公共施設等（市役所、図書館、コミュニティセンターなど）に設置」の割合が5.9ポイント増加している一方、「③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧」（平成28年度は「i 広報紙」）の割合が4.2ポイント減少しています。また、④以外の配信方法は「知らない」の割合が増加しています。なお、「④公共施設等（市役所、図書館、コミュニティセンターなど）に設置」の割合の増加には、今回公共施設等の例示を加えたことも影響している可能性があります。



\* ( )内は平成28年度調査の項目

単位：％

		認知度	知らない	差
①市ホームページで閲覧	今回調査(平成 29 年度)	36.1	54.8	-18.7
	市民意識調査(平成 28 年度)	35.8	53.7	-17.9
	差	0.3	1.1	-0.8
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	今回調査(平成 29 年度)	30.5	60.6	-30.1
	市民意識調査(平成 28 年度)	31.7	58.3	-26.6
	差	-1.2	2.3	-3.5
③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧 (平成 28 年度は「i 広報誌」)	今回調査(平成 29 年度)	11.4	78.1	-66.7
	市民意識調査(平成 28 年度)	15.6	72.7	-57.1
	差	-4.2	5.4	-9.6
④公共施設等に設置	今回調査(平成 29 年度)	50.9	41.5	9.4
	市民意識調査(平成 28 年度)	45.0	44.4	0.6
	差	5.9	-2.9	8.8

#### ①市ホームページで閲覧

- ・ 年代別では、70 歳以上を除き年齢があがるほど認知度が高くなっています。60 歳代だけが、知らない人の割合より認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、平田地区、永源寺地区、市辺地区の順に認知度が高く、そのほかの地区では知らない人が多くなっています。

#### ②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっており、10 歳代と 70 歳以上を除き年齢があがるほど認知度が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、市辺地区、湖東地区で認知度が高く、そのほかの地区では知らない人が多くなっています。なかでも八日市地区の認知度は 19.0%と非常に低くなっています。

#### ③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧

- ・ 年代別では、すべての年代で知らない人が知っている人より多くなっています。50 歳代までは、認知度が 1 割未満となっています。
- ・ 居住地区別では、いずれの地区でも知らない人が知っている人より多くなっていますが、永源寺地区と市辺地区で認知度が 2 割以上とほかの地区より高くなっています。一方、玉緒地区では 2.2%と非常に低くなっています。

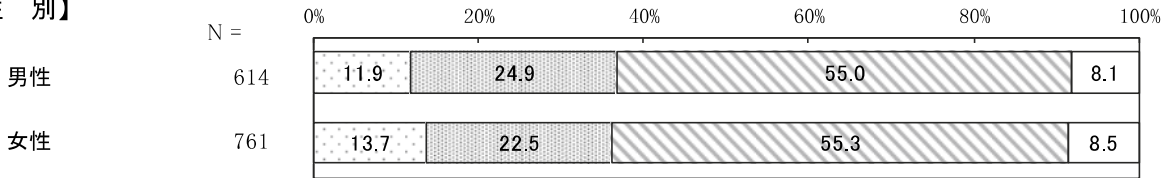
#### ④公共施設等に設置

- ・ 性別では、女性の認知度が男性より高くなっています。
- ・ 年代別では、40 歳代と 60 歳代で認知度が高く、10～20 歳代では知らない人が多くなっています。
- ・ 居住地区別では、五個荘地区、愛東地区、永源寺地区で認知度が高く、八日市地区、建部地区、御園地区では知らない人が多くなっています。

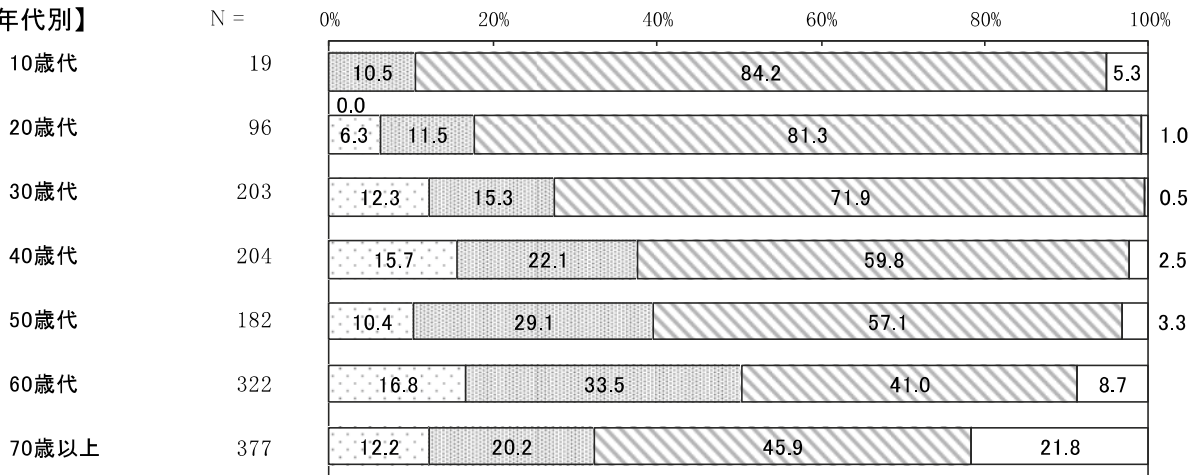
①市ホームページで閲覧

見たことがある       知っているが見たことはない  
 知らない             無回答

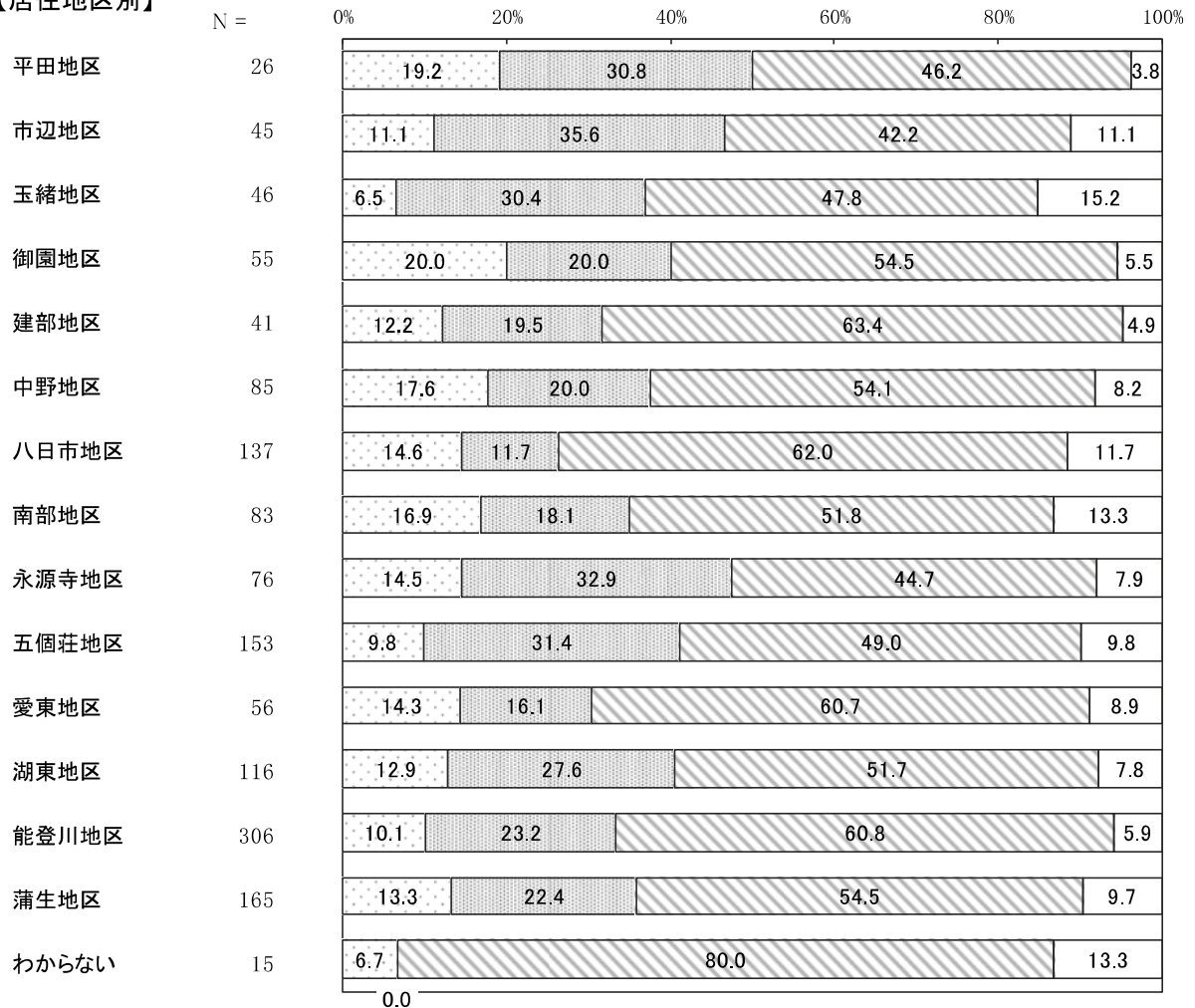
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

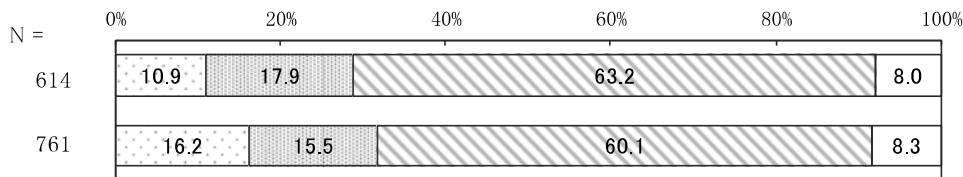


②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴

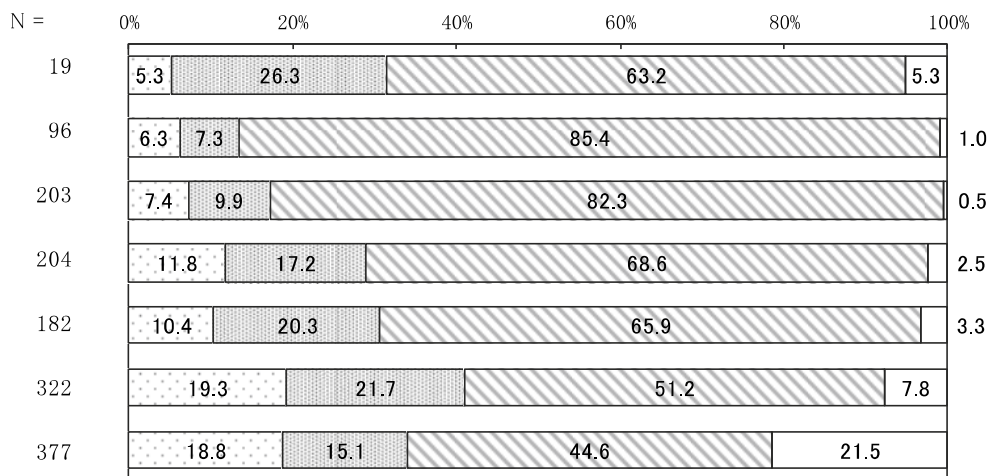
■ 見たことがある  
■ 知らない

■ 知っているが見たことはない  
□ 無回答

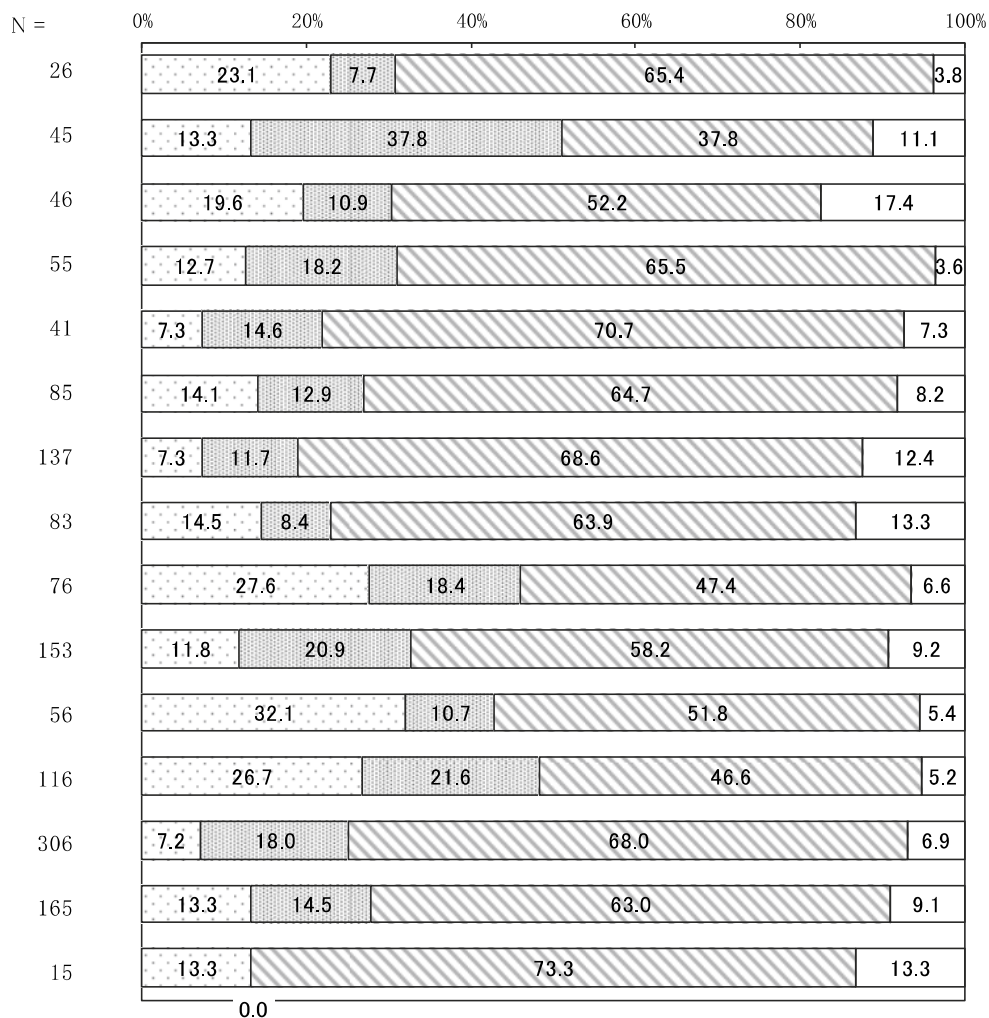
【性別】



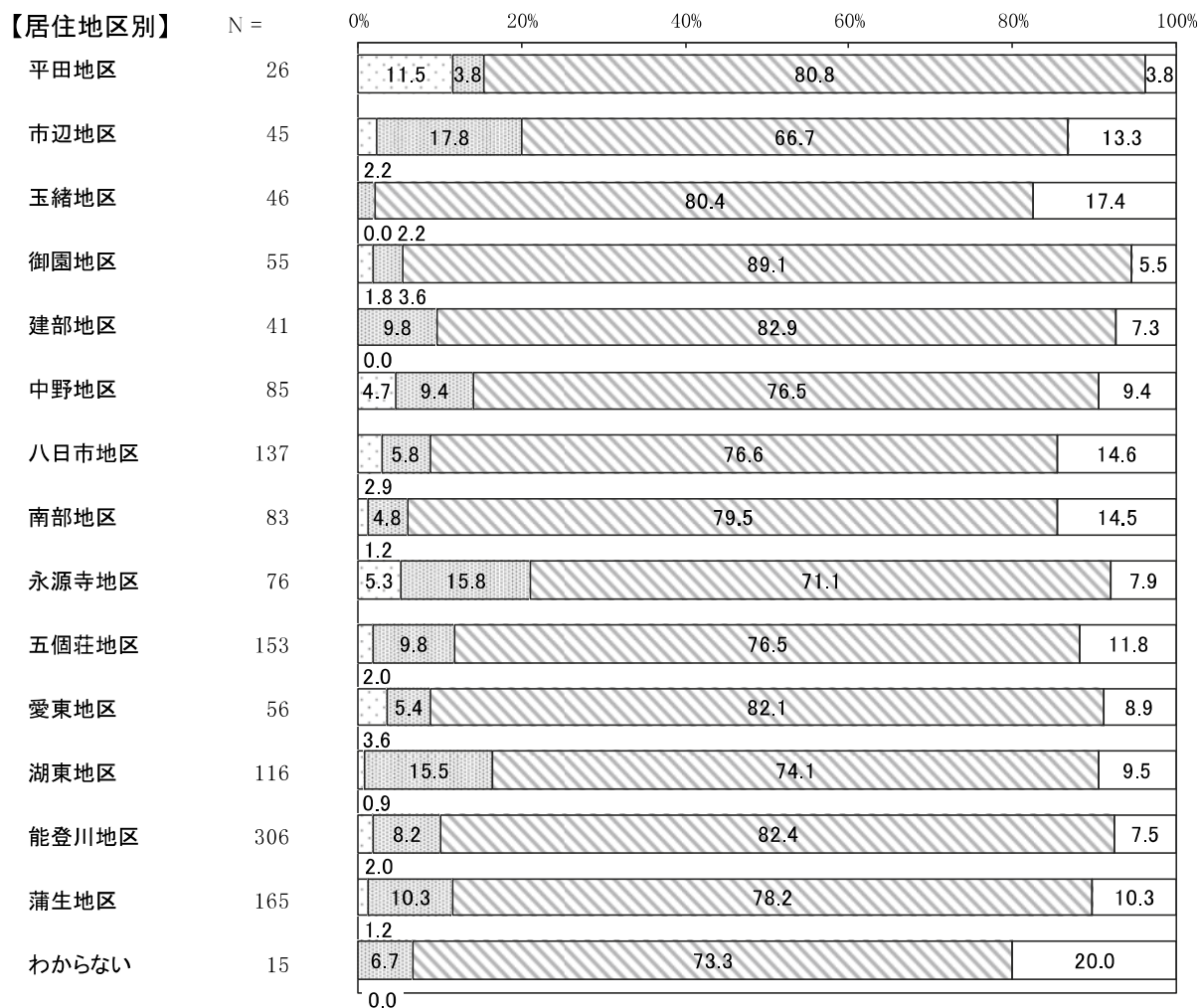
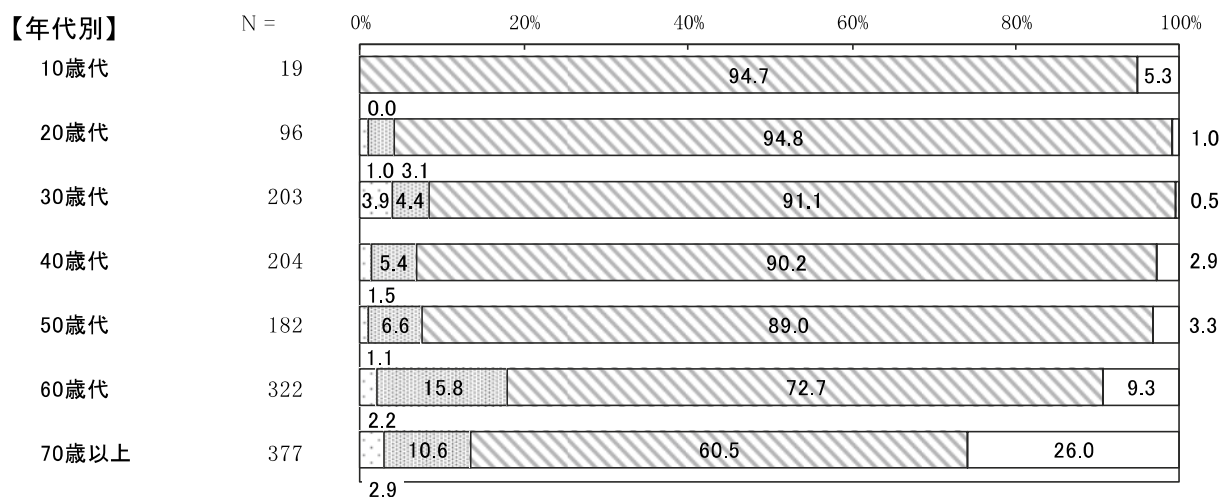
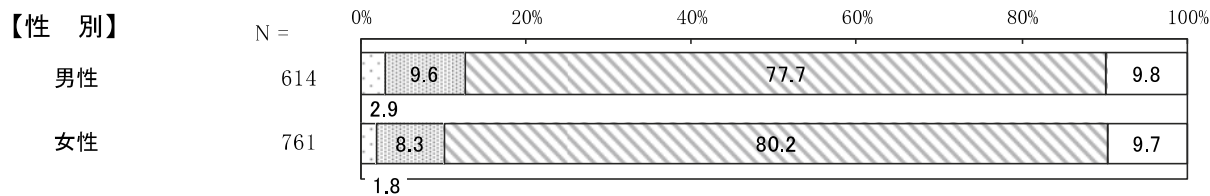
【年代別】



【居住地区別】



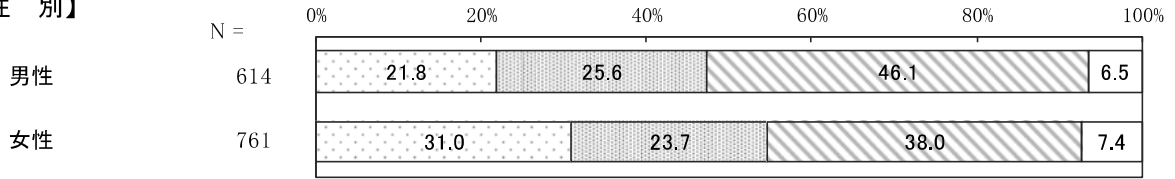
③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧 ■ 見たことがある ■ 知っているが見たことはない  
■ 知らない □ 無回答



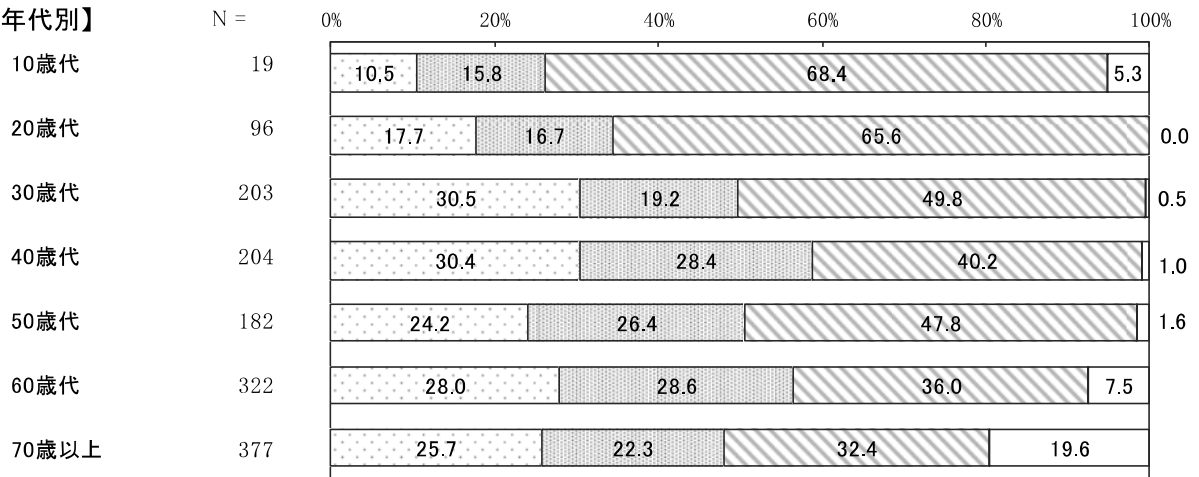
④公共施設等に設置

見たことがある
  知っているが見たことはない  
 知らない
  無回答

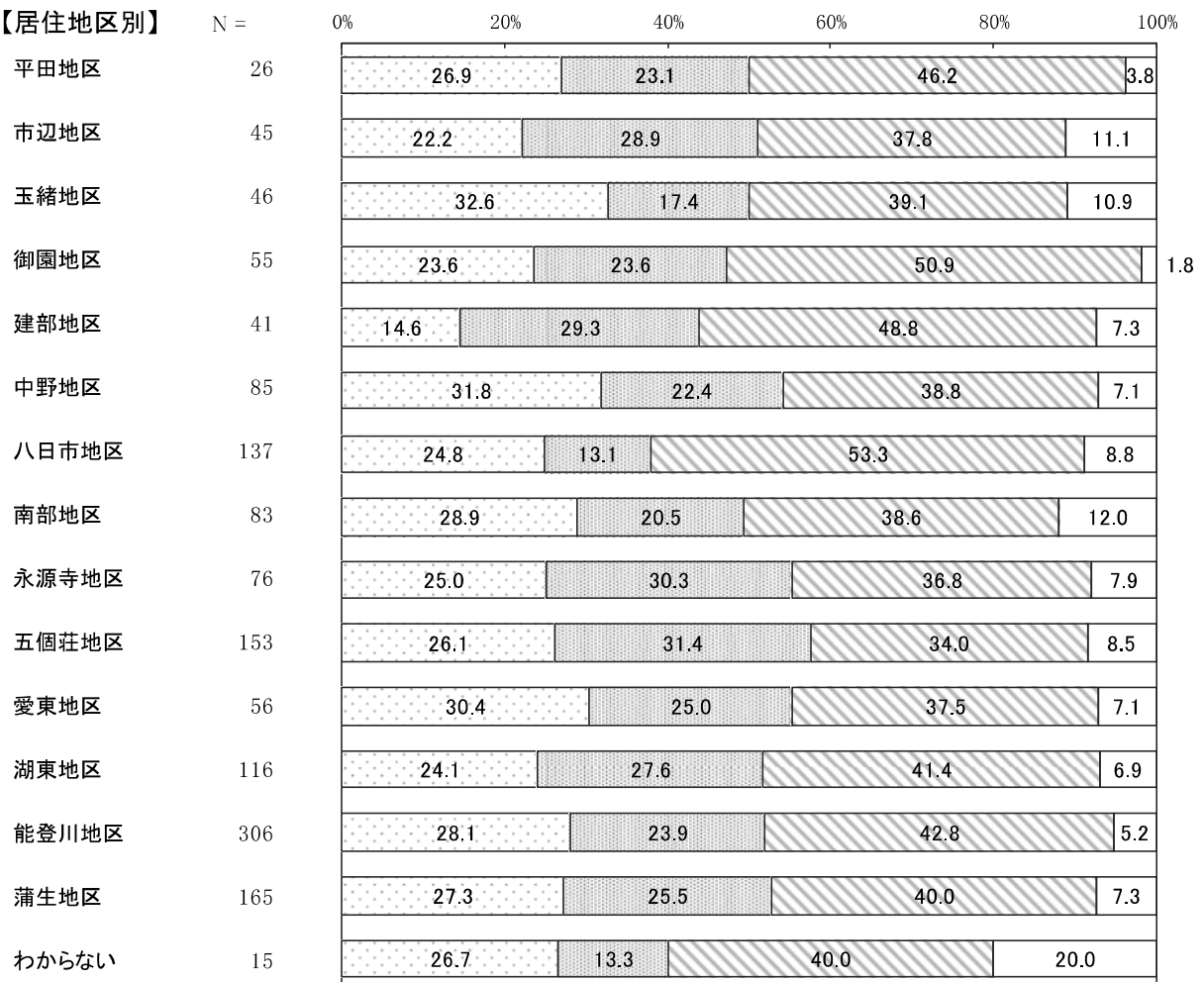
【性別】



【年代別】



【居住地区別】

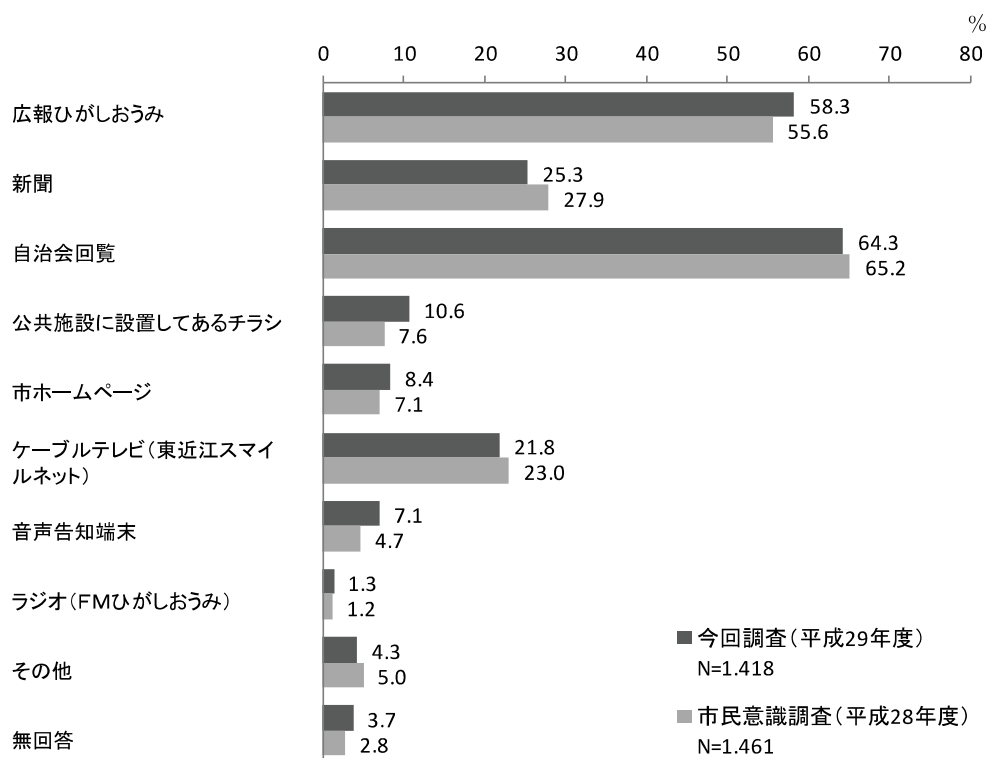




問 52 あなたは、市の情報（お知らせ）は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

**半数以上が「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」で市の情報を取得**

- ・ 市の情報（お知らせ）の主な取得方法については、「自治会回覧」が64.3%と最も多く、次いで「広報ひがしおうみ」が58.3%、「新聞」(25.3%)、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」が21.8%と続きます。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、紙媒体としては「新聞」の割合が2.6ポイント減少し、「公共施設に設置してあるチラシ」と「広報ひがしおうみ」の割合がそれぞれ3.0ポイント、2.7ポイント増加し、そのほかの媒体としては「音声告知端末」の割合が2.4ポイント増加しています。
- ・ 性別では、男女ともに「自治会回覧」「広報ひがしおうみ」が多くあげられていますが、その傾向は女性で強くなっています。
- ・ 年代別では、「広報ひがしおうみ」は年齢があがるほど多くあげられており、「新聞」は60歳以上、「公共施設に設置してあるチラシ」は20～30歳代、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」は10歳代と60歳以上でほかの年代より多くあげられています。
- ・ 居住地区別では、「広報ひがしおうみ」は御園地区で、「新聞」は玉緒地区と南部地区で、「自治会回覧」は平田地区、能登川地区、蒲生地区で、「ケーブルテレビ（東近江スマイルネット）」は愛東地区、永源寺地区、湖東地区で、ほかの地区より多くあげられています。



【性別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)	音声告知端末	ラジオ(FMひがしおうみ)	その他	無回答
男性	614	52.3	25.2	61.4	8.6	9.4	19.9	6.8	1.8	5.4	3.7
女性	761	64.0	25.1	66.6	12.4	7.9	23.4	7.1	0.8	3.7	3.3

【年代別】

単位: %

区分	有効回答数(件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会回覧	公共施設に設置してあるチラシ	市ホームページ	ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)	音声告知端末	ラジオ(FMひがしおうみ)	その他	無回答
10歳代	19	21.1	26.3	31.6	5.3	5.3	26.3	5.3	5.3	5.3	5.3
20歳代	96	31.3	17.7	34.4	20.8	17.7	19.8	6.3	6.3	13.5	3.1
30歳代	203	42.4	13.3	45.8	19.7	16.3	14.8	6.4	2.5	8.9	4.4
40歳代	204	55.4	20.6	62.7	12.3	10.3	18.1	7.8	0.5	5.4	2.5
50歳代	182	56.0	18.7	68.1	7.1	10.4	19.2	4.9	1.1	4.9	2.2
60歳代	322	68.0	30.1	73.3	9.9	6.2	26.1	7.5	0.9	0.6	3.1
70歳以上	377	70.0	35.3	74.3	4.8	2.1	26.3	8.0	0.3	1.6	5.3

【居住地区別】

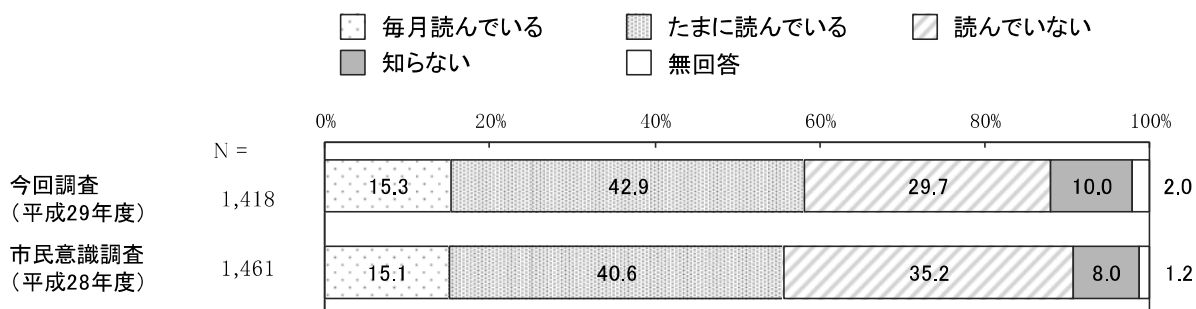
単位: %

区 分	有効回答数 (件)	広報ひがしおうみ	新聞	自治会 回覧	公共施設に 設置してあ るチラシ	市 ホームペ ージ	ケー ブル スミ イル テレ ビ ネッ ト (東 近)	音 声 告 知 端 末	ラ ジ オ (F M ひ が し お う み)	そ の 他	無 回 答
平田地区	26	57.7	30.8	73.1	7.7	0.0	23.1	7.7	0.0	7.7	3.8
市辺地区	45	55.6	35.6	62.2	17.8	8.9	22.2	4.4	2.2	6.7	0.0
玉緒地区	46	65.2	37.0	69.6	8.7	6.5	17.4	2.2	2.2	0.0	4.3
御園地区	55	69.1	30.9	67.3	7.3	3.6	23.6	0.0	0.0	3.6	1.8
建部地区	41	61.0	34.1	53.7	12.2	12.2	14.6	0.0	0.0	7.3	4.9
中野地区	85	61.2	25.9	64.7	10.6	10.6	12.9	2.4	3.5	8.2	5.9
八日市地区	137	41.6	24.8	46.7	15.3	10.9	12.4	2.9	2.9	9.5	5.1
南部地区	83	59.0	36.1	67.5	7.2	12.0	18.1	4.8	1.2	0.0	3.6
永源寺地区	76	64.5	15.8	68.4	7.9	6.6	43.4	11.8	0.0	1.3	2.6
五個荘地区	153	62.7	20.9	63.4	11.8	7.8	28.1	10.5	2.0	4.6	5.2
愛東地区	56	57.1	12.5	55.4	3.6	3.6	48.2	35.7	0.0	3.6	1.8
湖東地区	116	55.2	16.4	60.3	6.9	6.9	42.2	18.1	1.7	4.3	1.7
能登川地区	306	60.5	27.1	71.2	13.1	8.8	12.1	4.9	1.0	2.3	2.6
蒲生地区	165	58.8	27.9	70.9	10.3	8.5	18.2	2.4	0.6	3.6	4.2
わからない	15	40.0	0.0	40.0	0.0	13.3	13.3	0.0	0.0	20.0	20.0

問 53 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

**6割近くが「東近江市議会だより」を読んでいる**

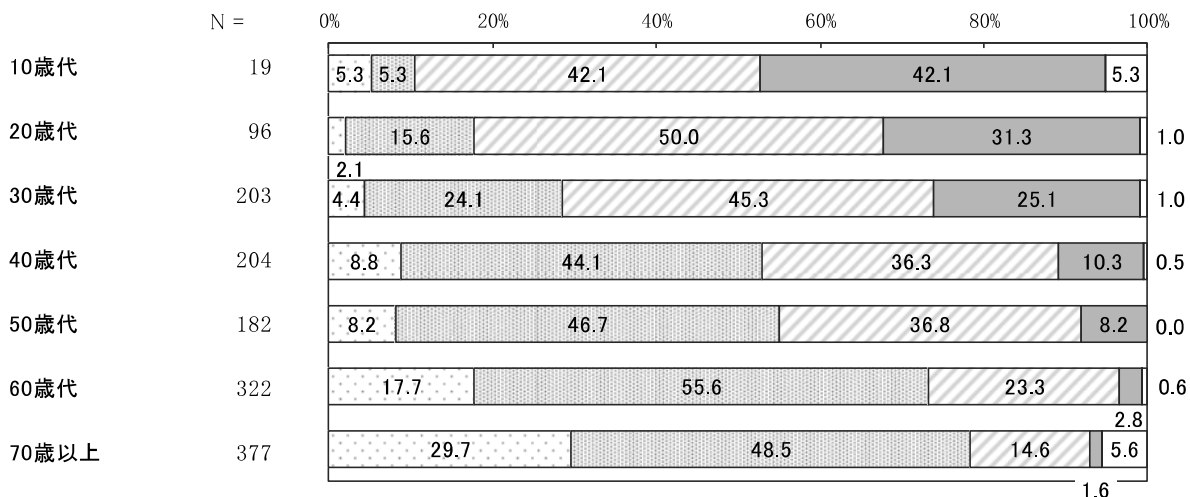
- ・ 「東近江市議会だより」については、「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」を合わせた割合が 58.2% となっており、6割近くの人を読んでいると回答しています。一方、「読んでいない」が 29.7%、「東近江市議会だより」を「知らない」が 10.0% となっています。
- ・ 平成 28 年度調査と比較すると、読んでいる人（「毎号読んでいる」と「たまに読んでいる」の合計）の割合が 2.5 ポイント増加し、「読んでいない」の割合が 5.5 ポイント減少しています。
- ・ 性別では男性より女性が、年代別では年齢が上がるほど、「東近江市議会だより」を読んでいる人（前述）が多くみられます。また、10～30 歳代では読んでいない又は知らない人が多くみられます。



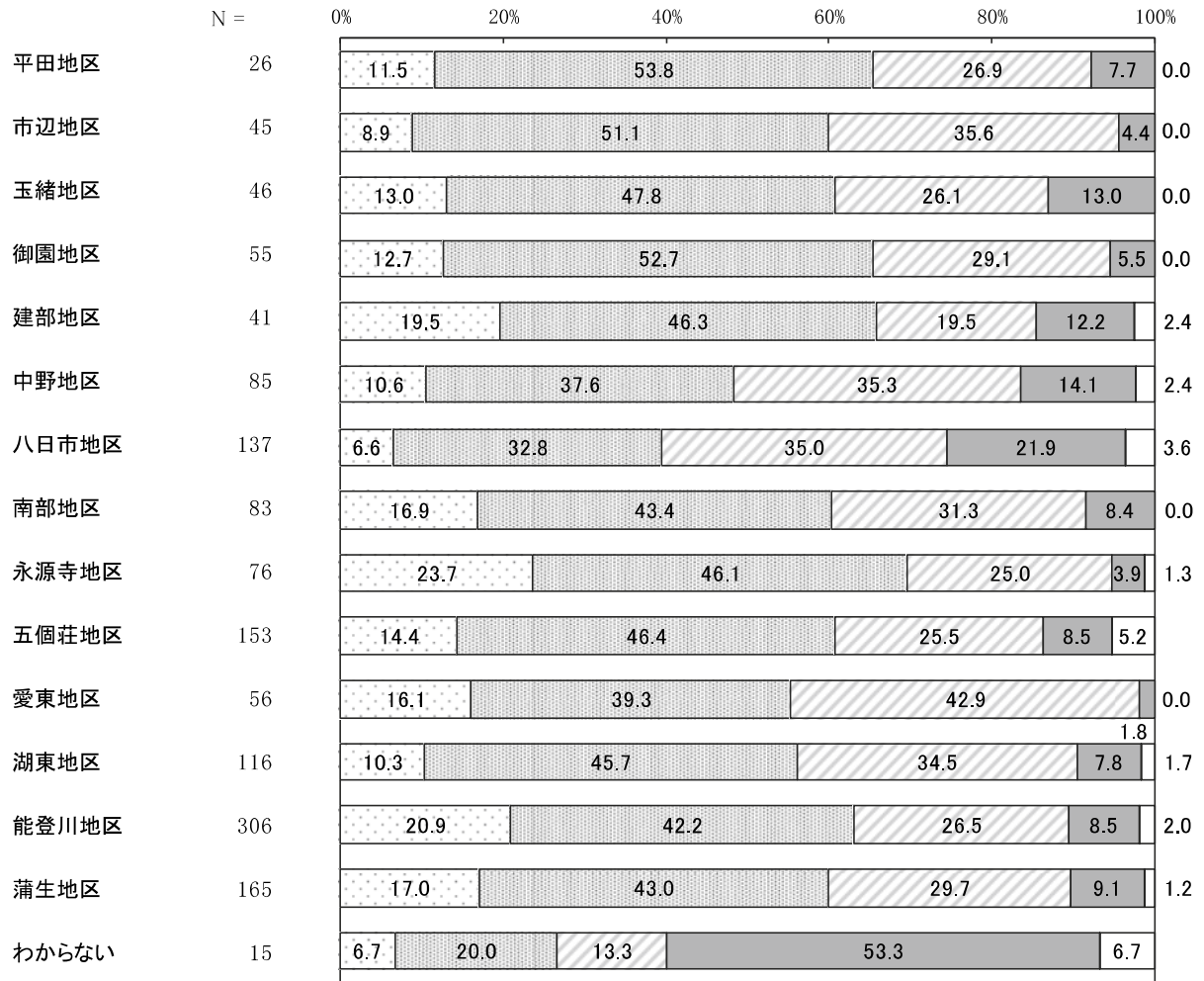
**【性別】**



**【年代別】**



【居住地区別】

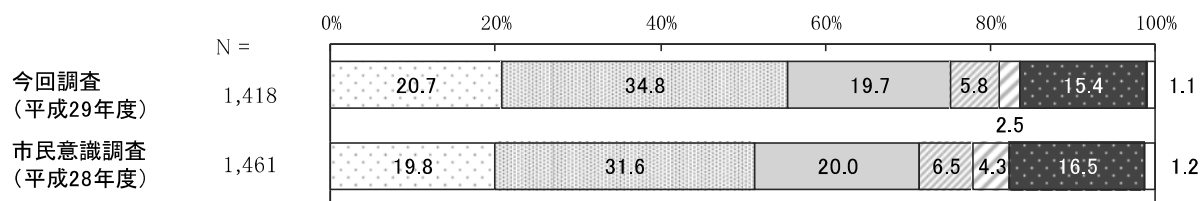
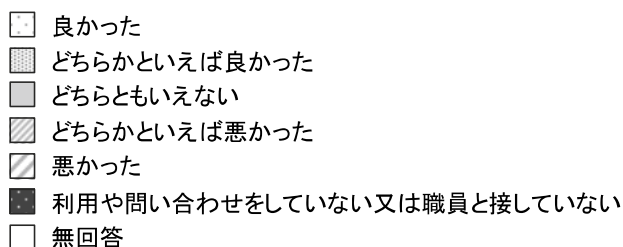


(10) 市役所のサービスに関して

問 54 この1年間に、市役所（支所・出張所を含む）の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応の印象はいかがでしたか。《○1つ》

**半数以上が市役所職員の対応は良かった**

- ・ 市役所職員の対応の印象については、良かった（「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計）の割合が55.5%に対し、悪かった（「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計）の割合は8.3%で、良かったと回答した人が多くなっています。
- ・ 平成28年度の調査と比較すると、良かった（前述）の割合が4.1ポイント増加し、悪かった（前述）の割合が2.5ポイント減少しており、評価はあがっています。
- ・ 年代別では、60歳以上で市役所職員の対応が良かったとする人の割合が高くなっています。一方、10歳代は「利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない」人の割合が高くなっています。
- ・ 居住地区別では、御園地区、蒲生地区で評価が高く、永源寺地区、中野地区で評価が低くなっています。



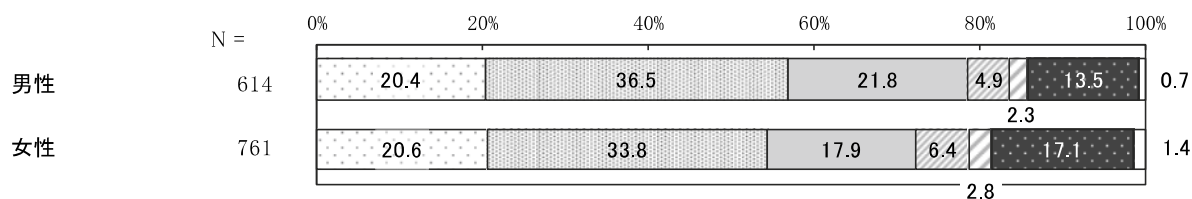
単位：%

	良かった	悪かった	差
①今回調査(平成29年度)	55.5	8.3	47.2
②市民意識調査(平成28年度)	51.4	10.8	40.6
①-②	4.1	-2.5	6.6

\* 良かった:「良かった」と「どちらかといえば良かった」の合計

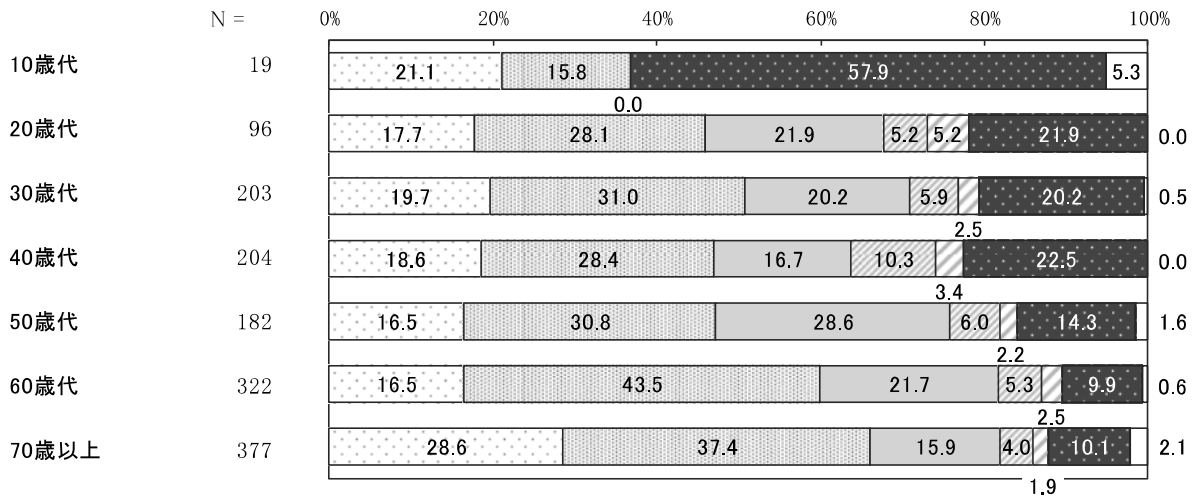
\* 悪かった:「どちらかといえば悪かった」と「悪かった」の合計

**【性別】**

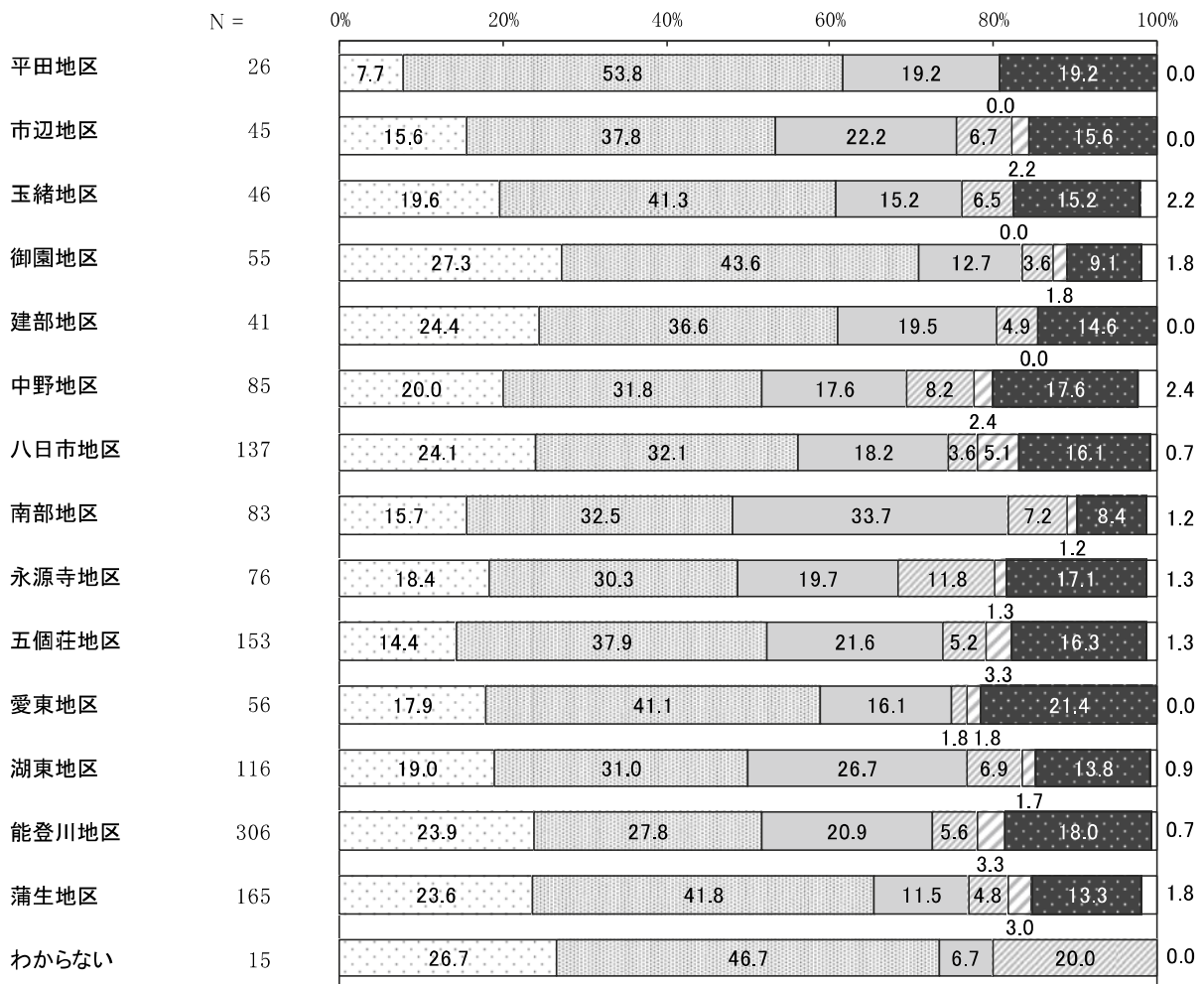


【年代別】

- 良かった
- ▨ どちらかといえば良かった
- ▩ どちらともいえない
- ▧ どちらかといえば悪かった
- ▦ 悪かった
- 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない
- 無回答



【居住地区別】



(11) まちづくりに対する意見等について

問 55 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたらご記入ください。

- ・ 有効回収数 1,418 件のうち、自由記述への記入件数は 430 件（30.3%）でした。これらの意見を概ね本意識調査票の調査項目ごとに分類した件数は、次のとおりです。
- ・ なお、同じ人が複数の項目の意見を書かれているものも多いため、調査項目ごとに分類した件数の合計件数は 430 件以上となっています。

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
住みごこちや愛着等について	46 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知名度、認知度アップより、住民の住みやすさを第一に考えてほしい。住宅地周辺の商業施設等が少ないと思う。(30 代男性)</li> <li>・ 市が大きくなりすぎていまだに知らない町もあり、親しみが持ちにくい。地名の変更等はしてほしい。(40 代女性)</li> <li>・ 東近江市にはいろいろな文化遺産や農産物、自然遺産、伝統行事が多くあり、もっと県外へPRすべき。(60 代女性)</li> </ul>
健康や福祉について	28 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 救急（夜間）病院へ行く時に近江八幡まで行かないといけなかったことがあった。もう少し近くにはないものかと思った。(30 代女性)</li> <li>・ 老人が健康で住みやすく、趣味や運動で子どもから若者や老人も参加できるイベント企画を育ててほしい。(60 代男性)</li> <li>・ 今後、高齢者が多くなる中、独居の方の見回り、サービス、身の回りの世話を今後どうしていくのか、考える必要がある。(50 代女性)</li> </ul>
環境や暮らしについて	73 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車を運転できない高齢者の方などもっと使えるように、バスの本数を増やしたり、若者が乗りたいと思えるように電車の本数を増やしたらいいと思う。また、料金が高いと思う。(20 代男性)</li> <li>・ 交通の便が悪いので、この先車に乗れなくなったときのことを考えると不安である。(60 代女性)</li> <li>・ 大雪の際の道路の除雪活動があまりできていない。雪の多い地域なのに対策が全くできていない。(60 代男性)</li> </ul>
子育てや教育について	30 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが遊べる施設がほかの市町村に比べ少ないように思う。子どもに関するケアが充実すれば、戻ってこられる方（結婚して親元に来てくれる）も増えるのではないかと思う。(30 代女性)</li> <li>・ 高齢者の福祉も大切かもしれないが、それよりもまず未来を担う子ども達を育てやすい世の中にしてほしい。物価や教育にかかる費用ばかりが上がっていくのに、賃金があがるわけでもなく、そのために子どもを産み育てる環境が整ってなくて、ますます少子化に拍車がかかっている。まずは何よりも子どもを育てやすい社会の実現を願う。(40 代男性)</li> </ul>



内容	件数	主な意見（一部抜粋）
都市整備について	60件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路の整備、これに尽きる。また、能登川駅から市中心部である八日市方面への道路の整備、バス等の公共交通機関の充実が早急に必要。市外から東近江市を訪れるときの唯一のJRの窓口である部分は、重要施策として整備して欲しい。(40代男性)</li> <li>・子どもが遊べる公園が少ないので、増やしてほしい。(50代女性)</li> <li>・中心部またJR駅の近くの整備が目立つ。周辺にももっと力をいれてほしい。(60代男性)</li> </ul>
商業やにぎわいの創出について	13件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ショッピングモールができると街も活性化すると思うし、そこで東近江の野菜などの売り場、レストランなどがあれば、他県の人にも東近江市を知ってもらえると思う。(30代男性)</li> <li>・ショッピングモールや映画館など集客力のあるものがあってもよいような町だと思う。色々不便なくあるのですが、決め手に欠けるように思う。(20代男性)</li> </ul>
協働のまちづくりについて	34件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併して同じ市民とはいえ、知らない地域が多い。旧の町名がないとわからないので、もう少し交流を深めてほしい。(30代男性)</li> <li>・高齢化が進み、ボランティア等のリーダーが少なくなり、自治会等の活動が弱くなっている。(組織の弱体化)まちづくりリーダーの養成に力を入れて、若者にも積極的に参加できる体制づくりをお願いしたい。(70代男性)</li> <li>・どんな事業へも参加はほとんど高齢者が多い。若者に受け入れられて積極的に参加してもらえるような工夫をしてほしい。また、障害者にはまだまだ参加できない会場も多いのでバリアフリーのところも増やしてほしい。(70代女性)</li> </ul>
広報等の情報について	14件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネット又はスマホで逐次情報を送ってもらうことで、市民の一人一人が見る、読む頻度が広報よりも高くなると思う。(50代男性)</li> <li>・市の情報や地区の情報等が回覧板で分かるようにしてほしい。今の回覧板は商品、カタログばかりで、読むものは何もない。たまにお知らせがあるが、これはよいと思う。(70代女性)</li> <li>・週1回特定の時刻にあいさつやイベントの告知を町内アナウンスで行う。(20代男性)</li> </ul>
市役所のサービスについて	38件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支所で間に合わないことが結構ある。本庁へ行ってくださいとか直接電話してくださいとか言われる。高齢者の人達は不安に思っている。(60代女性)</li> <li>・受け身的な対応ではなく、市民のために働きかけられる体制作りが必要。(40代男性)</li> </ul>
まちづくり全般について	74件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てから介護まで全ての環境が整っている、人に優しいまちづくりをお願いします。どの世代にも楽しく暮らせる東近江市に。(30代女性)</li> <li>・鈴鹿から琵琶湖までの広域な東近江市。私は永源寺生れ八日市育ち、現在能登川在住。それぞれの地域に合ったまちづくり、施策が重要と思う。(70代男性)</li> <li>・旧市町地区の伝統を大切にしたいまちづくりも大切であるが、今後はどの地域の方もよるこべる新しい公平なまちづくり施策も大切であろう。新しい東近江市独自の新しいまちづくり(どの地域の方も理解ができる。)が必要。(60代男性)</li> </ul>

内容	件数	主な意見（一部抜粋）
まちづくり全般について （つづき）		・合併して自分の地域が変化したとは思えない。変化・発展している地域は限られていると思う。やはり東近江市全体に活気を。(50代女性)
アンケートについて	6件	・アンケートなど問うのはよいが、結果が不明になることが多い。できるだけ開示を望む。(60代男性)
その他	46件	・特になし(13件) ・感想等(7件) ・その他(26件)

### 3 総括

#### 1. 回答者属性

- ・男女比は2対3となっています。
- ・60歳以上がほぼ半数を占めています。
- ・居住地区は、2割が能登川地区、1割が蒲生地区と五個荘地区。旧八日市市8地区が4割近く。

#### 2. 住みごこちや愛着等について

- ・8割近くが住みごこちが良く、また6割が東近江市に対して愛着があると回答しています。
- ・東近江市を自慢できるかについては、4割近くが自慢できる一方、4割が「どちらともいえない」としています。
- ・知名度アップの取組としては、「地域資源を生かした観光の振興」、「B級グルメの開発」、「メディアやSNSの活用」が上位にあげられています。
- ・名神高速道路八日市インターチェンジやJR能登川駅等の名称変更については、7割が「今のままでよい」と回答しています。
- ・「鈴鹿10座」の認知度は1割と低く、9割近くが「知らない」と回答しています。

#### 3. 健康や福祉について

- ・かかりつけ医は、6割近くが市内の病院又は診療所にいると回答しています。
- ・病院や緊急時の医療体制は半数近くが満足している一方、3割近くが満足していません。
- ・健康づくりの取組は4割以上が取り組んでおり（取り組みたいを合わせると9割近く）、その内容としては、運動、食事、睡眠、規則正しい生活、定期健診の受診などが多くあげられています。
- ・朝食を毎日食べている人は9割近くですが、運動は「ほとんどしていない」人が半数以上で、週1回以上の運動実施率は3割となっています。
- ・7割近くが悩み等を相談できる人がいると回答しています。
- ・東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思うかについては、理解が進んできたと思う人が微増していますが、「わからない」が3割で最も多く、今後力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや施設整備における配慮などが多くあげられています。

#### 4. 環境や暮らしについて

- ・自然環境の保全の取組への満足度は、3割近くが満足、「どちらともいえない」又は「わからない」が6割ですが、半数以上の人々が日々の営みの中では自然環境との関わりを感じています。
- ・環境にやさしい取組は9割近くが実践しており、再生可能エネルギー・省エネ設備については設置（予定も含む。）が2割で、設置したいも含めると4割になります。また、ごみと資源の分別は9割以上が実践しています。
- ・住宅等の新築・改築時の市内産木材の活用については、7割近くが活用したいと回答しています。
- ・「男は仕事、女は家事・育児」という考え方については、6割近くが共感しないと回答しています。
- ・市役所内に消費生活センターがあることの認知度は6割近くありますが、市役所内の市民生活相談室で法律相談や登記相談等が受けられることは、半数以上知られていません。
- ・公共交通の満足度は低く、平成28年度の調査より評価は下がっており半数以上が満足していません。

ん。

- ・ J R琵琶湖線の利用目的は遊び・趣味等、通勤・通学、仕事が多く、主な乗車駅は能登川駅と近江八幡駅となっています。一方、7割近くが利用していないと回答しています。
- ・ 近江鉄道は8割が重要と感じているものの、9割近くが利用していないと回答しています。また、半数改善を望んでおり、本数の増加、駐車場等の整備、J R琵琶湖線との接続改善などを求める声が多くなっています。
- ・ 住んでいる地域は災害に対して安全と感じている人が6割近くいます。災害への備えをしている人は平成28年度より微増しているものの、3割が特に何もしていません。

## 5. 教育関連の取組について

- ・ 4割近くが通学路の安全確保ができていると回答しています。
- ・ 人権が尊重されたまちになっていると思う人は3割近くですが、3割が「どちらともいえない」と回答しています。また、何らかの人権に関する講座や講演、研修等に参加した人は4割近くとなっています。
- ・ オレンジリボン（児童虐待防止のシンボルマーク）の認知度は4割近く。児童虐待が疑われるときの通報先は、警察、市役所、民生委員児童委員、子ども家庭相談センターが多くあげられています。
- ・ 趣味や教養活動については、2割が「参加した」と回答しています。
- ・ 青少年健全育成の取組は、3割が「取組がなされている」と評価していますが、半数以上が「わからない」としています。

## 6. 都市整備について

- ・ 都市基盤整備に対する満足度は、主要幹線道路、地域の生活道路、雨水排水、公園、河川の順となっています。
- ・ 平成28年度の調査より、河川の整備、地域の生活道路の整備、雨水排水の整備の順に満足度があがっています。

## 7. 購買状況等について

- ・ 食品や日用雑貨品は8割前後が市内で購入していますが、衣料品は半数以上が市外で購入しています。
- ・ お米の購入先は、知り合い、スーパーや量販店、親戚などの順となっています。
- ・ 野菜を購入する際の基準は、鮮度、金額、安全と安心が多くあげられています。
- ・ 農産物直売所は、市外も含めると6割近くが直売所を利用しています。

## 8. 協働のまちづくりについて

- ・ 協働のまちづくりができているかについては、4割近くが「わからない」としていますが、平成28年度の調査よりできていると思う人の割合が増加しています。また、協働のまちづくりを進めるためには、一人一人の意識改革が必要としています。
- ・ 地域での住民同士の助け合いは、半数近くができていると評価しています。
- ・ 地域活動又はNPOやボランティア等の活動は、半数以上が参加していると回答しています。

## 9. 広報等の情報について

- ・「広報ひがしおうみ」は8割近くが読んでおり、うち4割近くが毎月読んでいます。また、半数以上がその内容に満足しています。
- ・「広報ひがしおうみ」の配信方法は、「公共施設に設置」が最もよく知られており、スマートフォンのアプリでの閲覧はほとんど知られていません。
- ・市の情報の取得方法は、半数以上が「自治会回覧」や「広報ひがしおうみ」をあげています。
- ・「東近江市議会だより」は6割近くが読んでいます。

## 10. 市役所のサービスについて

- ・市役所職員の対応については、半数以上が良かったと回答しており、平成28年度より評価があがっています。

## 4 調査票

# 平成29年度 東近江市 市民意識調査



### ◆アンケート調査へのご協力をお願い◆

皆さまには、日頃から東近江市政に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、東近江市では「うるおいにぎわいのまち東近江市」を目指し、昨年度に策定いたしました「第2次東近江市総合計画」に基づき、まちづくりを進めております。

住みよいまちづくりを実現するため、皆さまの意識や生活スタイルなどの幅広い項目について御意見をお聞かせいただきたく、市内にお住まいの18歳以上の市民の皆さまから約3,000名を無作為に抽出し、アンケート調査を毎年実施させていただいております。

皆さまには何かと御多用のこととは存じますが、本調査の趣旨を御理解いただき、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、今回お答えいただきました内容につきましては統計的に処理し、東近江市個人情報保護条例に基づき適切に取り扱います。

平成29年8月

東近江市長 小椋 正清

### アンケートのご記入・返信について

- ・調査の回答は、封筒あて名の御本人が記入してください。なお、御本人による回答(記入)が難しい場合は、御家族の方が御本人の意思を反映して、御記入くださいますようお願いいたします。
- ・お答えは、質問にしたがって、あてはまる番号に○をつけてください。
- ・選択肢の中で「その他」に回答された場合は、( )内に具体的な内容を記入してください。
- ・記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、平成29年9月4日(月)までに郵便ポストに投函してください。切手は不要です。

### アンケートに関する問い合わせ

東近江市 企画部 企画課

〒527-8527 東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5801-5610 電話:0748-24-5610

FAX:0748-24-1457 Eメール:kikaku@city.higashiomi.lg.jp

※宛先は、平成29年8月1日現在の住民基本台帳から抽出しました。

## 平成29年度 東近江市 市民意識調査 調査票

### 1 あなた自身のことについておたずねします。

問1 性別《○1つ》	1. 男性	2. 女性		
問2 年齢《○1つ》	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
	5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳以上	
問3 居住地区 《○1つ》	1. 平田地区	2. 市辺地区	3. 玉緒地区	
	4. 御園地区	5. 建部地区	6. 中野地区	
	7. 八日市地区	8. 南部地区	9. 永源寺地区	
	10. 五個荘地区	11. 愛東地区	12. 湖東地区	
	13. 能登川地区	14. 蒲生地区	15. わからない(町・丁目名 )	

### 2 住みごちや愛着等についておたずねします。

問4 あなたは、東近江市の住みごちをどう思いますか。《○1つ》

1. 良い	2. どちらかといえば良い	3. どちらかといえば悪い
4. 悪い	5. わからない	

問5 あなたは、東近江市に対して愛着がありますか。《○1つ》

1. とても愛着がある	2. やや愛着がある	3. どちらともいえない
4. あまり愛着がない	5. 愛着がない	

問6 あなたは、東近江市を自慢できますか。《○1つ》

1. とても自慢できる	2. やや自慢できる	3. どちらともいえない
4. あまり自慢できない	5. 自慢できない	

問7 東近江市では、合併から12年目を迎え、知名度アップに取り組んでいきたいと考えています。あなたは、どのような取組をすれば、東近江市の知名度がアップすると思いますか。《○3つ》

1. 地域資源を生かした観光の振興	2. PR動画の製作
3. PR看板の設置	4. PR大使の任命
5. メディアやSNSの活用	6. B級グルメの開発
7. 公共施設等の名称変更	8. アンテナショップの開設やイベントの開催
9. ゆるキャラやマスコットの活用	10. その他 ( )

問 8 東近江市の認知度アップを図る方法の1つとして、名神高速道路八日市インターチェンジやJR能登川駅等の名称を「東近江」に変更することについてどう思われますか。《○1つ》

1. 今のままでよい                      2. 変更したほうがよい                      3. どちらでもよい

問 9 東近江市では、平成27年度に鈴鹿の山々から「鈴鹿10座」を認定し、鈴鹿山脈の素晴らしさと存在意義を広く周知するとともに、東近江市の知名度アップにもつなげていきたいと考えています。あなたは、「鈴鹿10座」を知っていますか。《○1つ》

1. 知っている                                      2. 知らない

### 3 健康や福祉についておたずねします。

問 10 あなたには、日常的な診療や健康の管理をしてくれるお医者さん(かかりつけ医)はいますか。《○1つ》

1. 市内の病院にいる                      2. 市内の診療所(開業医)にいる                      3. 市外の病院にいる  
4. 市外の診療所(開業医)にいる                      5. いない

問 11 あなたは、病院や救急時の医療体制に満足していますか。《○1つ》

1. 満足している                      2. どちらかといえば満足している                      3. どちらかといえば満足していない  
4. 満足していない                      5. わからない

問 12 あなたは、自分の健康づくりのために何か取り組んでいますか。《○1つ》

1. 取り組んでいる                                      2. 取り組みたいと思っている                      →問 12-1 へ  
3. 取り組むつもりはない                      →問 12-2 へ

問 12-1 問 12 で「1. 取り組んでいる」「2. 取り組みたいと思っている」とお答えの方にお聞きます。具体的にどのような取組をしていますか、又は取り組みたいと思っていますか。《あてはまるものすべてに○》

1. 運動をする                                      2. 趣味(運動以外)の時間をつくる  
3. 休養を十分にとる                                      4. 食事の量や質に注意する  
5. 睡眠を十分にとる                                      6. 定期的に健康診査やがん検診を受ける  
7. 規則正しい生活をする                                      8. たばこを控える又はやめる  
9. アルコールを控える又はやめる                                      10. その他(                                      )

問 12-2 問 12 で「3. 取り組むつもりはない」とお答えの方にお聞きます。その理由はどのようなことですか。《あてはまるものすべてに○》

1. どのように取り組んだらよいのかわからない                      2. 自分の健康づくりに興味、関心がない  
3. 取り組んでも効果が期待できない                      4. その他(                                      )



問13 あなたは、朝食を食べていますか。《○1つ》

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 毎日食べる     | 2. 週4日～5日食べる |
| 3. 週2日～3日食べる | 4. ほとんど食べない  |

問14 あなたは、スポーツやレクリエーション等の運動をどの程度行っていますか。《○1つ》

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 週3回以上     | 2. 週1回～2回    |
| 3. 月1回～月2回程度 | 4. ほとんどしていない |

問15 あなたは、身近な地域で日ごろの心配ごとや悩みを話したり相談したりする人がいますか。《○1つ》

- |       |        |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

問16 あなたは、東近江市民の障害者に対する理解は進んできたと思いますか。《○1つ》

- |                   |              |              |
|-------------------|--------------|--------------|
| 1. かなり進んできた       | 2. ある程度進んできた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり進んでいるとは思わない | 5. 進んでいない    | 6. わからない     |

問17 あなたは、障害者に対する理解を深めるために、今後どのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。《あてはまるものすべてに○》

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. スポーツや文化活動で地域交流を深める   | 2. 「ふれあいの集い」などのイベントを充実する |
| 3. 市民対象の福祉講座や講演会を開催する   | 4. 福祉施設を地域に開放し交流を図る      |
| 5. グループホームを地域の中につくる     | 6. 子どもたちへの人権・福祉教育を充実する   |
| 7. 障害者団体や関係グループの活動をPRする | 8. ボランティアの育成を図る          |
| 9. 障害者も使いやすい施設をつくる      | 10. 障害者がまちに出かけやすい整備を進める  |
| 11. わからない               | 12. その他( )               |

#### 4 環境や暮らしについておたずねします。

問18 あなたは、東近江市の自然環境保全の取組について満足していますか。《○1つ》

- |                    |                   |              |
|--------------------|-------------------|--------------|
| 1. 満足している          | 2. どちらかといえば満足している | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば満足していない | 5. 満足していない        | 6. わからない     |

問19 あなたは、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じていますか。《○1つ》

- |                   |                  |              |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. 感じている          | 2. どちらかといえば感じている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば感じていない | 5. 感じていない        | 6. わからない     |

問 20 あなたは、次の低炭素・資源循環型の取組を行っていますか。

①あなたは、環境にやさしい取組を行っていますか。(使用していない電気の消灯、マイバックの持参、省エネ機器の選択、自転車や公共交通機関の利用等)《○1つ》

- |               |                |             |
|---------------|----------------|-------------|
| 1. 常に取り組んでいる  | 2. ときどき取り組んでいる | 3. 取り組んでいない |
| 4. 取り組もうと思わない | 5. わからない       |             |

②あなたは、自宅に再生可能エネルギー・省エネ設備を設置していますか。(太陽光発電や雨水貯留施設、太陽熱温水器、エネファーム、蓄電システムの設置等)《○1つ》

※エネファーム…家庭においてガス等を使って発電し、発電時の排熱を給湯等に利用するシステム

- |               |              |                |
|---------------|--------------|----------------|
| 1. 既に設置している   | 2. 設置する予定である | 3. 設置したいが予定はない |
| 4. 設置したいと思わない | 5. わからない     |                |

問 21 あなたは、ごみと資源の分別をしていますか。《○1つ》

- |          |                 |                  |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. している  | 2. どちらかといえばしている | 3. どちらかといえばしていない |
| 4. していない | 5. 分別方法がわからない   |                  |

問 22 市内の土地の約56%が森林であり、鈴鹿山系の山間部では木材の生産が行われています。あなたは、住宅等の新築・改築時に市内産木材を活用したいと思いますか。《○1つ》

- |          |           |            |
|----------|-----------|------------|
| 1. 活用したい | →問 22-1 へ | 2. 活用したくない |
|----------|-----------|------------|

問 22-1 問 22 で「1. 活用したい」とお答えの方にお聞きします。

具体的に住宅等のどの部分で活用したいですか。《あてはまるものすべてに○》

- |           |          |           |
|-----------|----------|-----------|
| 1. 構造材(柱) | 2. 天井材   | 3. 壁面材    |
| 4. 床材     | 5. わからない | 6. その他( ) |

問 23 あなたは、「男は仕事、女は家事・育児」という考え方についてどう思いますか。《○1つ》

- |          |                 |                  |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. 共感する  | 2. どちらかといえば共感する | 3. どちらかといえば共感しない |
| 4. 共感しない | 5. わからない        |                  |

問 24 あなたは、消費者トラブルに巻きこまれた時の相談窓口として、市役所内に消費生活センターがあることをご存知ですか。《○1つ》

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 25 あなたは、市役所内の市民生活相談室で、暮らしの困りごとに関して法律相談や登記相談等を受けられることをご存知ですか。《○1つ》

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 26 あなたは、市内の鉄道やバス等の公共交通に対して満足していますか。《○1つ》

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している    | 2. どちらかといえば満足している  |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない   | 6. わからない           |

問 27 あなたは、JR琵琶湖線をどの程度利用しますか。《○1つ》

- |              |              |           |           |
|--------------|--------------|-----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日      | 2. 週1日～2日    | 3. 月1日～2日 | →問 27-1 へ |
| 4. ほとんど利用しない | 5. 利用したことはない |           | →問 27-2 へ |

問 27-1 問 27 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1日～2日」「3. 月1日～2日」とお答えの方にお聞きします。  
JR琵琶湖線を利用する目的は何ですか。《○1つ》

1. 通勤・通学	2. 仕事	3. 買物	4. 通院
5. 公共施設利用	6. 遊び・趣味等	7. 観光	8. その他( )

問 27-2 問 27 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1日～2日」「3. 月1日～2日」とお答えの方にお聞きします。  
JR琵琶湖線を利用するときの乗車駅は何駅ですか。《○1つ》

1. 能登川駅	2. 稲枝駅	3. 安土駅	4. 近江八幡駅
5. その他( )	駅)		

問 28 市内には近江鉄道の駅が13箇所あり、東近江市の活性化を進めていくうえで重要な公共交通機関であると考えています。

あなたは、近江鉄道についてどう感じていますか。《○1つ》

- |                         |              |
|-------------------------|--------------|
| 1. 重要であると感じる            | 2. 重要でないと感じる |
| 3. 重要であるが利便性等の改善が必要と感じる | 4. その他( )    |

問 29 あなたは、近江鉄道をどの程度利用しますか。《○1つ》

- |              |              |           |           |
|--------------|--------------|-----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日      | 2. 週1日～2日    | 3. 月1日～2日 | →問 29-1 へ |
| 4. ほとんど利用しない | 5. 利用したことはない |           |           |

問 29-1 問 29 で「1. ほぼ毎日」「2. 週1日～2日」「3. 月1日～2日」とお答えの方にお聞きします。  
近江鉄道を利用する目的は何ですか。《○1つ》

1. 通勤・通学	2. 仕事	3. 買物	4. 通院
5. 公共施設利用	6. 遊び・趣味等	7. 観光	8. その他( )

問 30 あなたは、近江鉄道を利用する場合、どんなことを希望されますか。《○1つ》

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 本数を増やしてほしい         | 2. JR琵琶湖線との接続改善 |
| 3. 新幹線(米原駅)との接続改善     | 4. バスとの接続改善     |
| 5. 駅前に駐車場・駐輪場を整備してほしい | 6. その他( )       |

問 31 あなたの住んでいる地域は、災害に対して安全だと感じていますか。《○1つ》

- |               |               |                 |
|---------------|---------------|-----------------|
| 1. 安全         | 2. どちらかといえば安全 | 3. 安全とも危険ともいえない |
| 4. どちらかといえば危険 | 5. 危険         | 6. わからない        |

問 32 あなたは、地震等の災害に備えてどのような準備をしていますか。《あてはまるものすべてに○》

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1. 水や食料等を3日以上備蓄     | 2. 非常持ち出し袋の準備   |
| 3. 家具の転倒防止          | 4. 地域の防災訓練に参加   |
| 5. 一時集合場所や避難所を家族で確認 | 6. 安否連絡方法を家族で確認 |
| 7. その他( )           | 8. 特に何もしていない    |

問 33 大規模な災害時には、住民同士の助け合いが必要と言われていますが、あなたなら何ができると思われますか。《あてはまるものすべてに○》

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. 救助活動            | 2. 消火活動       |
| 3. 安否確認作業          | 4. 負傷者のケア     |
| 5. 身体の不自由な方や高齢者のケア | 6. 食料や備蓄品の提供  |
| 7. 井戸水の提供          | 8. 自宅スペースの提供  |
| 9. その他( )          | 10. 何もできないと思う |

## 5 教育関連の取組についておたずねします。

問 34 あなたは、市内において児童・生徒の通学路の安全は確保できていると思いますか。《○1つ》

- |                   |                  |              |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている          | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない        | 6. わからない     |

問 35 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。《○1つ》

- |                   |                 |              |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. そう思う           | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばそう思わない | 5. そう思わない       | 6. わからない     |

問 36 あなたは、この1年間に職場、市又は地区等が開催する人権に関する講座や講演、研修等に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1. 職場の講演や研修に参加した | 2. 市の講座や講演に参加した   |
| 3. 地区の講座や講演に参加した | 4. 自治会の町別懇談会に参加した |
| 5. 参加していない       | 6. その他( )         |

問 37 あなたは、オレンジリボンが児童虐待防止のシンボルマークであると知っていますか。《○1つ》

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 38 あなたは、児童虐待が疑われるときに、どこに通報しますか。《あてはまるものすべてに○》

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 子ども家庭相談センター      | 2. 警察                    |
| 3. 市役所              | 4. 子ども相談センター24h虐待こどもダイヤル |
| 5. 児童相談所全国共通ダイヤル189 | 6. 園・学校                  |
| 7. 保健センター           | 8. 民生委員児童委員              |
| 9. その他( )           | 10. 通報先を知らない             |
| 11. 通報しない           |                          |

問 39 あなたは、この1年間にコミュニティセンター等で趣味的なもの(音楽・美術等)や教養的なもの(文学・歴史等)の活動に参加しましたか。《○1つ》

- |              |               |                  |
|--------------|---------------|------------------|
| 1. 週3回以上参加した | 2. 週1回～2回参加した | 3. 月1回～月2回程度参加した |
| 4. 年数回程度参加した | 5. 参加しなかった    |                  |

問 40 あなたは、東近江市において青少年健全育成の取組がなされていると思いますか。《○1つ》

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1. そう思う           | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない       |
| 5. わからない          | →問 40-1 へ       |

問 40-1 問 40 で「3. どちらかといえばそう思わない」「4. そう思わない」とお答えの方にお聞きます。その理由はこういったことですか。《あてはまるものすべてに○》

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 子どもの非行防止についての啓発が不十分            |
| 2. 有害図書や暴力団の排除等、青少年にふさわしい環境浄化が不十分 |
| 3. パトロール活動等の子ども安全対策が不十分           |
| 4. 社会経験や自然体験を学べる機会が少ない            |
| 5. その他( )                         |

## 6 都市整備についておたずねします。

問 41 市内の都市基盤の整備に対する満足度をお答えください。《それぞれの項目に○1つ》

	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	わからない
①主要幹線道路の整備(主に市外へ移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
②地域の生活道路の整備(主に市内を移動するための道路)	1	2	3	4	5	6
③河川の整備(一級河川等)	1	2	3	4	5	6
④雨水排水の整備(身近な水路等)	1	2	3	4	5	6
⑤公園の整備(広場、遊び場等)	1	2	3	4	5	6

## 7 購買状況等についておたずねします。

問 42 あなたは、日頃、食品や日用雑貨品、衣料品を主にどこで購入されますか。《それぞれの項目に○1つ》

	東近江市内	近江八幡市	彦根市	甲賀市	県内市町 その他	県外	カタログ通販	ショッピング ネット	その他
①食品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
②日用雑貨品	1	2	3	4	5	6	7	8	9
③衣料品	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問 43 あなたの家庭では、お米を主にどこから購入等していますか。《○1つ》

1. お米屋さん	2. スーパーや量販店	3. インターネット
4. 知り合いなどから購入している	5. 親戚などから貰っている	6. 自分で作っている
7. わからない	8. その他( )	

問 44 あなたの家庭では、野菜等を購入する際には主に何を基準に選んでいますか。《○2つ》

1. 金額	2. 鮮度	3. 安全と安心
4. 調理の利便性(カット済み、洗浄済み等)	5. 見た目	6. 生産地(市内、県内産等)
7. わからない	8. その他( )	

問 45 あなたの家庭では、市内の農産物直売所(青空市、無人販売所含む)を利用しますか。《○1つ》

- |                               |                    |
|-------------------------------|--------------------|
| 1. よく利用する(週に1回以上)             | 2. 利用する(月に1回～3回程度) |
| 3. たまに利用する(年間数回程度)            | 4. 利用しない           |
| 5. 市内の直売所は利用しないが市外の直売所を利用している | 6. わからない           |

## 8 協働のまちづくりについておたずねします。

問 46 あなたは、東近江市では市民、企業、行政等が共に考え、力を合わせた協働のまちづくりができていると思いますか。《○1つ》

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. できている     | 2. ある程度できている | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりできていない | 5. できていない    | 6. わからない     |

問 47 あなたの身近な地域で住民同士の助け合いができていると思いますか。《○1つ》

- |                   |                  |              |
|-------------------|------------------|--------------|
| 1. できている          | 2. どちらかといえばできている | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばできていない | 5. できていない        | 6. わからない     |

問 48 あなたは、自治会やまちづくり協議会等の地域活動又はNPOやボランティア等の活動にどの程度参加していますか。《○1つ》

- |               |                |           |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 積極的に参加している | 2. できる限り参加している | →問 48-1 へ |
| 3. ときどき参加している | 4. 参加していない     |           |

問 48-1 問 48 で「1. 積極的に参加している」「2. できる限り参加している」とお答えした方にお聞きます。  
この1年間にどのような活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- |           |                       |
|-----------|-----------------------|
| 1. 自治会活動  | 2. まちづくり協議会の活動        |
| 3. NPOの活動 | 4. ボランティア活動 →問 48-2 へ |
| 5. その他( ) |                       |

問 48-2 問 48-1 で「4. ボランティア活動」とお答えした方にお聞きます。  
この1年間にどのようなボランティア活動に参加しましたか。《あてはまるものすべてに○》

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 高齢者に対する活動          | 2. 障害者に対する活動    |
| 3. 子育てをする親や子どもを支援する活動 | 4. 健康や医療に関係した活動 |
| 5. スポーツに関連した活動        | 6. 自然や環境を守る活動   |
| 7. 美化・清掃活動            | 8. 災害・防災に関連した活動 |
| 9. 交通安全・防犯活動          | 10. 国際協力に関連した活動 |
| 11. その他( )            |                 |

問 49 あなたは、協働のまちづくりを進めるためにはどんなことが必要だと思いますか。《○1つ》

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 市民一人一人のまちづくりへの関心を高める | 2. まちづくりのリーダー養成や組織づくりの支援   |
| 3. 地域の課題を話し合える場づくり      | 4. まちづくり活動をしている人のネットワークづくり |
| 5. その他( )               |                            |

## 9 広報等の情報についておたずねします。

問 50 あなたは、市の広報紙「広報ひがしおうみ」を読んでいますか。《○1つ》

- |            |             |           |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 毎月読んでいる | 2. たまに読んでいる | →問 50-1 へ |
| 3. 読んでいない  | 4. 知らない     | →問 50-2 へ |

問 50-1 問 50 で「1. 毎月読んでいる」「2. たまに読んでいる」とお答えの方にお聞きします。  
あなたは、「広報ひがしおうみ」の内容について満足していますか。《○1つ》

- |              |                    |
|--------------|--------------------|
| 1. 満足している    | 2. どちらかといえば満足している  |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば満足していない |
| 5. 満足していない   |                    |

問 50-2 問 50 で「3. 読んでいない」「4. 知らない」とお答えの方にお聞きします。  
その理由は何ですか。《○1つ》

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1. 手元に届かない  | 2. 記載内容に魅力がない |
| 3. 紙面が読みにくい | 4. その他( )     |

問 51 「広報ひがしおうみ」は毎月新聞折込みによる配布の他に、次の方法で配信等を行っています。  
あなたは、次の配信等の方法を知っていますか。《それぞれの項目に○1つ》

	見たことがある	見たことはないが知っている	知らない
①市ホームページで閲覧	1	2	3
②東近江スマイルネットのデータ放送で視聴	1	2	3
③スマートフォンのアプリ「マチイロ」で閲覧	1	2	3
④公共施設等(市役所、図書館、コミュニティセンターなど)に設置	1	2	3



問 52 あなたは、市の情報(お知らせ)は主にどのような方法で取得していますか。《○3つまで》

1. 広報ひがしおうみ	2. 新聞
3. 自治会回覧	4. 公共施設に設置してあるチラシ
5. 市ホームページ	6. ケーブルテレビ(東近江スマイルネット)
7. 音声告知端末	8. ラジオ(FMひがしおうみ)
9. その他( )	

問 53 あなたは「東近江市議会だより」を読んでいますか。《○1つ》

1. 毎号読んでいる	2. たまに読んでいる
3. 読んでいない	4. 「東近江市議会だより」を知らない

**10 市役所のサービスに関しておたずねします。**

問 54 この1年間に、市役所(支所・出張所を含む)の窓口利用や電話でのお問い合わせ、又は市役所外で職員に接した際の市役所職員の対応の印象はいかがでしたか。《○1つ》

1. 良かった	2. どちらかといえば良かった
3. どちらともいえない	4. どちらかといえば悪かった
5. 悪かった	6. 利用や問い合わせをしていない又は職員と接していない

**11 まちづくりに対する御意見等についておたずねします。**

問 55 東近江市のまちづくりについて、御意見や御提案等がありましたらご記入ください。

-----
-----
-----
-----
-----

調査に御協力いただき、ありがとうございました。  
調査票を返信用封筒に入れ、9月4日(月)までにポストに御投函ください。

# 平成29年度 市民意識調査結果報告書

発行年月 平成30年1月

発行 東近江市 企画部 企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

IP電話:050-5801-5610 電話:0748-24-5610